

基本計画書

基本計画							
事項	記入欄						備考
計画の区分	学部の設置						
フリガナ設置者	カクコホクシン ハンナダガク 学校法人 阪南大学						
フリガナ大学の名称	ハンナダガク 阪南大学 (The Hannan University)						
大学本部の位置	大阪府松原市天美東5丁目4番33号						
大学の目的	阪南大学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところに従い、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、意欲と自主性に満ち、総合的な分析・判断能力をもって、国際化・情報化時代に活躍できる人間性豊かな人材を育成することを目的とする。						
新設学部等の目的	コミュニケーション力と幅広い教養を身につけ、文化の多様性を理解することで、国際社会で実践的に活躍できる人材を養成することを目的とする。						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際学部 (Faculty of International Studies)	年	人	年次人	人		
	国際コミュニケーション学科 (Department of International Communication)	4	155	3年次2名	620	学士 (国際コミュニケーション) (Bachelor of International)	令和6年4月第1年次 大阪府松原市天美東5丁目4番33号
	国際観光学科 (Department of International Tourism)	4	144	3年次2名	576	学士 (国際観光) (Bachelor of International)	令和6年4月第1年次 大阪府松原市天美東5丁目4番33号
	計	4	299	3年次4名	1,204		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>流通学部（廃止） 流通学科 (△230) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>経営学部経営学科 (290) (令和5年6月届出)</p> <p>経営情報学部（廃止） 経営情報学科 (△220) ※令和6年4月学生募集停止</p> <p>総合情報学部総合情報学科 (176) (令和5年6月届出)</p> <p>国際コミュニケーション学部（廃止） 国際コミュニケーション学科 (△170) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>国際観光学部（廃止） 国際観光学科 (△155) (3年次編入学定員) (△2) ※令和6年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>経済学部 経済学科 [定員増] (10) (令和6年4月)</p>						

教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数						
			講義	演習	実験・実習	計							
	国際学部国際コミュニケーション学科		300科目	12科目	4科目	316科目	124単位						
	国際学部国際観光学科		308科目	13科目	4科目	325科目	124単位						
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等				
				教授	准教授	講師	助教	計			助手		
	新設	経営学部経営学科		16人 (19)	12人 (10)	0人 (2)	0人 (0)	28人 (31)	0人 (0)		123人 (121)	令和5年6月届出	
		総合情報学部総合情報学科		13 (14)	7 (5)	0 (2)	0 (0)	20 (21)	0 (0)		128 (127)		
		分	国際学部国際コミュニケーション学科		14 (14)	3 (3)	0 (0)	0 (1)	17 (18)		0 (0)	123 (123)	令和5年6月届出
			国際観光学科		10 (11)	6 (5)	0 (0)	0 (0)	16 (16)		0 (0)	124 (123)	令和5年6月届出
		計		53 (58)	28 (23)	0 (4)	0 (1)	81 (86)	0 (0)		— (—)		
	既設	経済学部経済学科		17 (17)	13 (12)	0 (1)	0 (0)	30 (30)	0 (0)		124 (124)		
		計		17 (17)	13 (12)	0 (1)	0 (0)	30 (30)	0 (0)		— (—)		
	合計		70 (75)	41 (35)	0 (5)	0 (1)	111 (116)	0 (0)	— (—)				
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計						
	事務職員		71人 (67)		43人 (39)		114人 (106)						
	技術職員		2 (2)		0 (0)		2 (2)						
	図書館専門職員		3 (3)		3 (3)		6 (6)						
	その他の職員		0 (0)		0 (0)		0 (0)						
計		76 (72)		46 (42)		122 (114)							
校地等	区 分		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計		共用する学校の名称 阪南大学高等学校 収容定員1,920名 法令上の必要面積 8,400㎡				
	校舎敷地		32,589.16㎡	0㎡	0㎡		32,589.16㎡						
	運動場用地		19,086.00㎡	49,535.00㎡	0㎡		68,621.00㎡						
	小 計		51,675.16㎡	49,535.00㎡	0㎡		101,210.16㎡						
	そ の 他		25,111.44㎡	0㎡	0㎡		25,111.44㎡						
合 計		76,786.60㎡	49,535.00㎡	0㎡		126,321.60㎡							
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用		計							
		41,961.17㎡ (41,961.17㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)		41,961.17㎡ (41,961.17㎡)							
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体					
	37室		10室	0室	16室 (補助職員 0人)	42室 (補助職員 0人)							
専任教員研究室			新設学部等の名称		室 数								
			国際学部国際コミュニケーション学科		18 室								
			国際学部国際観光学科		16 室								
図書・設備	新設学部等の名称		図書		電子ジャーナル	視聴覚資料	機械・器具	標本	学部単位での特定不能のため、大学全体の数				
	国際学部		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	点	点	点					
	計		580,000 [91,000] (570,000[90,000])	26,200 [23,600] (26,000[23,500])	24,000 [23,000] (23,800[23,000])	9,500 (9,000)	22,000 (21,000)	0 (0)					
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体					
		5,042 ㎡		744		550,000							
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要									
		6,754㎡		人工芝グラウンド 2面		野球グラウンド 1面							

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。	
		教員1人当り研究費等		630千円	630千円	630千円	630千円	－千円		－千円
		共同研究費等		4,000千円	4,000千円	4,000千円	4,000千円	－千円		－千円
		図書購入費	11,000千円	2,500千円	5,000千円	7,500千円	10,000千円	－千円		－千円
		設備購入費	75,000千円	2,000千円	4,000千円	6,000千円	8,500千円	－千円		－千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,290千円	1,080千円	1,080千円	1,080千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			入学検定料、私立大学等経常費補助金、資産運用収入等							
既設大学等の状況	大学の名称		阪南大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	経済学部 経済学科	4年	280人	－	1,120人	学士 (経済学)	1.10倍	昭和47年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	
	流通学部 流通学科	4	230	－	920	学士 (流通学)	1.07	平成8年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止（流通学部流通学科）
	経営情報学部 経営情報学科	4	220	－	880	学士 (経営情報学)	1.08	平成8年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止（経営情報学部経営情報学科）
	国際コミュニケーション学部 国際コミュニケーション学科	4	170	3年次 2	684	学士 (国際コミュニケーション学)	1.00	平成9年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止（国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科）
	国際観光学部 国際観光学科	4	155	3年次 2	624	学士 (国際観光学)	0.91	平成22年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号	※令和6年度より学生募集停止（国際観光学部国際観光学科）
企業情報研究科	2	15	－	30	修士 (企業情報学)	0.90	平成12年度	大阪府松原市天美東5丁目4番33号		
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
語 学 群	スペイン語1	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	スペイン語2	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	スペイン語3	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	スペイン語4	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	ドイツ語1	1・2・3・4前		1		○									兼3	
	ドイツ語2	1・2・3・4後		1		○									兼3	
	ドイツ語3	1・2・3・4前		1		○									兼2	
	ドイツ語4	1・2・3・4後		1		○									兼2	
	ドイツ語5	2・3・4前		1		○									兼1	
	ドイツ語6	2・3・4後		1		○									兼1	
	フランス語1	1・2・3・4前		1		○									兼3	
	フランス語2	1・2・3・4後		1		○									兼3	
	フランス語3	1・2・3・4前		1		○									兼3	
	フランス語4	1・2・3・4後		1		○									兼3	
	フランス語5	2・3・4前		1		○									兼1	
	フランス語6	2・3・4後		1		○									兼1	
	小計 (16科目)	-		0	16	0	-			0	0	0	0	0	0	兼8
一 般 教 育 科 目	言 語 圏 研 究 群	コリア語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		コリア語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		スペイン語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		スペイン語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		ドイツ語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		ドイツ語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		フランス語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		フランス語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		英語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼5	
		英語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼5	
		現代日本事情a	1・2・3・4前		2		○								兼9	オムニバス
		現代日本事情b	1・2・3・4後		2		○								兼10	オムニバス
		中国語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		中国語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
小計 (14科目)	-		0	28	0	-			0	0	0	0	0	0	兼24	-
人 間 ・ 文 化 研 究 群	外国文学a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	外国文学b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	教育学a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	教育学b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	心理学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	心理学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地理学a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	地理学b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	哲学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	哲学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本文学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	文化人類学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	倫理学b	1・2・3・4後		2		○									兼2	

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
文化・人間研究群	論理学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	論理学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	小計 (18科目)	-	0	36	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼12	-
歴史・社会研究群	経済学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	経済学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	現代史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	社会学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	社会学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	人権問題論a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	人権問題論b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	政治学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	西洋史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	西洋史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	東洋史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	東洋史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本史a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	日本史b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
法学a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
法学b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
小計 (19科目)	-	0	38	0	-	-	0	0	0	0	0	0	兼11	-	
自然・環境研究群	化学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	化学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	自然科学史a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	自然科学史b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	数学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	数学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	生命科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	生命科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	地球環境科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	地球環境科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	統計学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	統計学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	物理学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	物理学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
小計 (14科目)	-		28		-	-	0	0	0	0	0	0	兼7	-	
健康・スポーツ研究群	スポーツ・トレーニングa	1・2・3・4前		2		○								兼5	
	スポーツ・トレーニングb	1・2・3・4後		2		○								兼5	
	スポーツ科学論a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツ科学論b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スポーツ技術a	1・2・3・4前		2		○								兼7	
	スポーツ技術b	1・2・3・4後		2		○								兼7	
	スポーツ文化論a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツ文化論b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	健康科学論a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	健康科学論b	1・2・3・4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
一般教育科目	健康・福祉研究群 人間科学a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	人間科学b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	小計 (12 科目)	-	0	24	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	兼13	-	
	情報とAI・データサイエンス研究群	AI・データサイエンス入門 1	2・3・4前		2		○									兼1	
		AI・データサイエンス入門 2	2・3・4後		2		○									兼1	
		AIデータサイエンス総論	1・2・3・4前	2			○									兼1	
		コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		マスメディア論a	1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
		マスメディア論b	1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
		情報科学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
		情報科学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		情報処理応用	1・2・3・4後		2		○									兼1	
		情報処理入門	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	小計 (10 科目)	-	2	18	0	-	-	1	0	0	0	0	0	0	兼5	-	
	基盤教育科目群	スタディスキルズa	1前		2		○									兼1	
		スタディスキルズb	1後		2		○									兼1	
		小計 (2 科目)	-	0	4	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	兼1	-
	後期教養教育科目群	教養数学	3・4前		2		○									兼1	
		教養政治学	3・4後		2		○			1							
教養西洋史		3・4前		2		○									兼1		
教養哲学		3・4後		2		○									兼1		
教養東洋史		3・4前		2		○			1								
教養統計学		3・4後		2		○									兼1		
教養日本史		3・4前		2		○									兼1		
教養倫理学		3・4後		2		○									兼1		
社会人としての教養講座a		2・3・4前		2		○			1	1					兼3	オムニバス	
社会人としての教養講座b		2・3・4後		2		○									兼4	オムニバス	
正解のない問いの答えを考える		3・4前		2		○									兼1		
小計 (11 科目)	-	0	22	0	-	-	3	1	0	0	0	0	0	兼9	-		
自由選択科目群	ボランティア実践 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	ボランティア実践 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	教育社会学	2・3・4前		2		○									兼1		
	教職入門	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	教養演習1a	1・2・3・4前		2			○								兼2		
	教養演習1b	1・2・3・4後		2			○								兼2		
	教養演習2a	1・2・3・4前		2			○								兼1		
	教養演習2b	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	生涯学習概論	2・3・4後		2		○									兼1		
	未来と社会を学ぶ 1	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	未来と社会を学ぶ 2	1・2・3・4後		2		○									兼1		
小計 (11 科目)	-	0	22	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	兼8	-		
キャリア教育科目	インターンシップ講座	2・3・4前・後		2		○									兼3	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム 1	1・2・3・4前		2		○			1							※演習	
	キャビンアテンダントプログラム 2	1・2・3・4後		2		○			1							※演習	
	キャビンアテンダントプログラム 3	1・2・3・4前		2		○			1							※演習	
	キャビンアテンダントプログラム 4	1・2・3・4後		2		○			1							※演習	
	キャビンアテンダントプログラム 5	1・2・3・4前		2		○			1							※演習	
	ビジネス文書マナーa	2・3・4前		2		○									兼1	※演習	
	ビジネス文書マナーb	2・3・4後		2		○									兼1	※演習	

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
キャリア教育科目	営業活動実務	2・3・4後		2		○								兼1	※演習
	応用キャリアデザイン	3後		2		○								兼3	※演習
	基礎キャリアデザインa	1前		2		○								兼3	※演習
	基礎キャリアデザインb	1後		2		○								兼3	※演習
	発展キャリアデザイン	2前		2		○								兼3	※演習
	貿易実務実践	2・3・4後		2		○								兼1	※演習
	貿易実務入門	2・3・4前		2		○								兼1	※演習
	小計 (15 科目)	-	0	30	0	-	-	-	1	0	0	0	0	0	兼8
科導学 目入部	国際学への招待	1前		2		○			6	1				兼7	オムニバス
	小計 (1 科目)	-	0	2	0	-	-	6	1	0	0	0	0	兼7	-
科導学 目入科	グローバル・ディスカバリー	1・2・3・4前	2			○			7	2	0				オムニバス
	小計 (1 科目)	-	2	0	0	-	-	7	2	0	0	0	0	0	-
演習科目	基礎演習	2後	2			○			14	3					
	専門演習1a	3前	2			○			14	3					
	専門演習1b	3後	2			○			14	3					
	専門演習2a	4前	2			○			14	3					
	専門演習2b	4後	2			○			14	3					
	専門演習アプローチ	2前	2			○			14	3					オムニバス
	大学入門ゼミa	1前	2			○			14	3					
	大学入門ゼミb	1後	2			○			14	3					
小計 (8 科目)	-	10	6	0	-	-	-	14	3	0	0	0	0	0	-
学 科 科 目 学 科 語 学 (英 語)	Academic Reading 1	2・3・4前		1		○			1						
	Academic Reading 2	2・3・4後		1		○			1						
	Advanced English Reading 1	1・2・3・4前		1		○			1					兼1	
	Advanced English Reading 2	1・2・3・4後		1		○			1					兼1	
	Advanced English Reading 3	2・3・4前		1		○			1						
	Advanced English Reading 4	2・3・4後		1		○			1						
	Advanced English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1						
	Advanced English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1						
	Advanced Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○			1						
	Advanced Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○			1						
	Basic English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1						
	Basic English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1						
	Basic English Reading 1	1・2・3・4前		1		○			1					兼1	
	Basic English Reading 2	1・2・3・4後		1		○			1					兼1	
	Basic Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○			1						
	Basic Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○			1						
	Business English	2・3・4後		1		○								兼1	
	Debate and Discussion	2・3・4前		1		○			1						
	Intermediate English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1						
	Intermediate English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1						
	Intermediate English Reading 1	1・2・3・4前		1		○								兼2	
	Intermediate English Reading 2	1・2・3・4後		1		○								兼2	
	Intermediate Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○								兼2	
	Intermediate Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○								兼2	
	Presenting in English 1	2・3・4前		1		○								兼1	
	Presenting in English 2	2・3・4後		1		○								兼1	
Topic Studies	2・3・4後		1		○			1							
Writing in English1	2・3・4前		1		○			1							

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学科語学 (英語)	Writing in English2	2・3・4後		1		○			1								
	ドラマで学ぶ英語	2・3・4前		1		○										兼1	
	ホスピタリティ英語 1	2・3・4前		1		○										兼2	
	ホスピタリティ英語 2	2・3・4後		1		○										兼2	
	英語音声学概論	2・3・4前		2		○			1								
	英語学概論	2・3・4後		2		○			1								
	英語圏留学入門	1・2前		1		○			1							兼1	
	英語発音クリニック	2・3・4後		2		○			1								
	資格ビジネス英語 1	1・2・3・4前		1		○			1								
	資格ビジネス英語 2	1・2・3・4後		1		○			1								
	資格ビジネス英語 3	1・2・3・4前		1		○										兼1	
	資格ビジネス英語 4	1・2・3・4後		1		○										兼1	
	第二言語修得概論	2・3・4後		2		○			1								
	通訳入門	2・3・4前		1		○										兼1	
	翻訳入門	2・3・4後		1		○										兼1	
小計 (43 科目)	-		0	53	0				5	0	0	0	0	0	0	兼6	-
学科語学 (中国語)	ネットビジネス中国語	1・2・3・4後		1		○			1							兼1	
	ポスト留学中国語	2・3・4後		1		○			1								
	接客のための中国語	2・3・4前		1		○										兼1	
	台湾華語	1・2・3・4前		1		○			1							兼1	
	中国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○			2							兼4	
	中国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○			2							兼1	
	中国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○										兼1	
	中国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○										兼1	
	中国語で日本案内	2・3・4後		1		○			1								
	中国語検定講座a	1・2・3・4前		1		○										兼2	
中国語検定講座b	1・2・3・4後		1		○										兼2		
小計 (11 科目)	-		0	15	0				2	0	0	0	0	0	0	兼6	-
学科語学 (韓国語)	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	1・2・3・4前・後		1		○										兼2	
	トラベル韓国語	1・2・3・4後		1		○										兼2	
	ポスト留学韓国語	2・3・4後		1		○			1								
	韓国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○										兼6	
	韓国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○										兼6	
	韓国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○										兼2	
	韓国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○										兼1	
	韓国語で日本案内	2・3・4前		1		○										兼2	
	韓国語ビジネス1	2・3・4前		2		○										兼1	
	韓国語ビジネス2	2・3・4後		2		○										兼1	
	韓国語検定講座a	1・2・3・4前		1		○										兼2	
	韓国語検定講座b	1・2・3・4後		1		○										兼2	
	韓国語実用会話1	1・2・3・4前		1		○										兼2	
	韓国語実用会話2	1・2・3・4後		1		○										兼2	
小計 (14 科目)	-		0	20	0				1	0	0	0	0	0	0	兼8	-
学科語学 (日本)	ビジネス日本語 1a	2・3・4前		1		○										兼1	
	ビジネス日本語 1b	2・3・4後		1		○										兼1	
	ビジネス日本語 2a	3・4前		1		○										兼1	
	ビジネス日本語 2b	3・4後		1		○										兼1	
	ビジネス日本語基礎a	3・4前		1		○										兼1	
ビジネス日本語基礎b	3・4後		1		○										兼1		

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科語学 (日本語)	総合日本語a	2・3・4前		1		○									兼1	
	総合日本語b	2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語レポート1a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語レポート1b	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語レポート2a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語レポート2b	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語レポート3a	2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語レポート3b	2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語演習a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本語演習b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本語聴解発話1a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語聴解発話1b	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語聴解発話2a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語聴解発話2b	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語読解1a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
	日本語読解1b	1・2・3・4後		1		○									兼1	
	日本語読解2a	1・2・3・4前		1		○									兼1	
日本語読解2b	1・2・3・4後		1		○									兼1		
小計 (24科目)	-		0	26	0	-			0	0	0	0	0	0	兼3	-
学教科目 文化科目群	アジアの美術	2・3・4後		2		○									兼1	
	ヨーロッパ芸術論	2・3・4後		2		○									兼1	
	英文学概論	1・2・3・4前		2		○			1							
	現代アメリカ文化論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	多様性の文化論	2・3・4後		2		○			1							
	都市文化論1	2・3・4後		2		○			1							
	都市文化論2	2・3・4後		2		○									兼1	
	都市文化論3	2・3・4後		2		○			1							
	日本風俗研究	2・3・4前		2		○			1							
	文化と言語化論	2・3・4前		2		○			1							
	文化交流史1	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	文化交流史2	1・2・3・4前		2		○				1						
	文化交流史3	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	文学と宗教文化	3・4後		2		○			1							
	米文学概論	1・2・3・4後		2		○			1							
歴史と文化入門	1・2・3・4前		2		○			1								
小計 (16科目)	-		0	32	0	-			4	1	0	0	0	0	兼4	-
国際関係 科目群	アジア国際関係史	2・3・4前		2		○			1							
	グローバル・ガバナンス論	2・3・4前		2		○			1							
	現代社会論	2・3・4前		2		○				1						
	国際関係学	2・3・4前		2		○			1							
	国際関係入門	1・2・3・4前		2		○			1							
	国際協力論	2・3・4後		2		○									兼1	
	国際政治経済論	2・3・4後		2		○			1							
	国際平和論	2・3・4前		2		○									兼1	
	宗教と社会	2・3・4後		2		○				1						
	多文化社会論	1・2・3・4後		2		○				1						
	日本の政治と外交	1・2・3・4後		2		○			1							
比較政治学	2・3・4後		2		○			1								

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
学 科 目	国際関係 比較政治文化論	1・2・3・4前		2		○			1								
	民間協力 (NGO/NPO) 論	2・3・4後		2		○									兼1		
	小計 (14 科目)	-	0	28	0	-	-	-	3	1	0	0	0	0	兼1	-	
	メディア 科目 群	キャラクター論	3・4後		2		○			1							
		グローバル・イシュー	1・2・3・4前		2		○			1							
		マスコミュニケーション論	1・2・3・4後		2		○			1							
		メディア・情報文化史	1・2・3・4後		2		○			1							
		メディア表現論	2・3・4後		2		○			1							
		音楽産業論	2・3・4前		2		○			1							
		広告文化論	2・3・4前		2		○			1							
		情報メディア入門	1・2・3・4前		2		○			1							
		放送文化論	2・3・4後		2		○			1							
	小計 (9 科目)	-	0	18	0	-	-	-	3	0	0	0	0	0	0	-	
	心理 学 科 目	コミュニケーションスキル実習	2・3・4後		2		○			1							
		異文化コミュニケーション論	2・3・4前		2		○			1							
		観光とホスピタリティの心理学	2・3・4前		2		○				1						
産業・組織心理学		2・3・4後		2		○				1							
自己理解心理学入門		1・2・3・4前		2		○				1							
社会心理学		2・3・4後		2		○				1							
消費者の心理		2・3・4前		2		○				1							
心理学研究法		1・2・3・4前		2		○			1								
心理統計学1		1・2・3・4後		2		○				1							
心理統計学2		3・4前		2		○				1							
対人コミュニケーション心理学		1・2・3・4前		2		○				1							
知覚・認知心理学		2・3・4前		2		○				1							
発達心理学		2・3・4前		2		○									兼1		
被服・化粧心理学		2・3・4後		2		○									兼1		
福祉心理学	2・3・4後		2		○				1								
文化心理学	2・3・4後		2		○			1									
小計 (16 科目)	-	0	32	0	-	-	-	1	2	0	0	0	0	兼1	-		
実 践 科 目	プロジェクト型国際実習a	2・3・4前		2				○							兼1		
	プロジェクト型国際実習b	2・3・4後		2				○							兼1		
	プロジェクト型国内実習a	2・3・4前		2				○							兼1		
	プロジェクト型国内実習b	2・3・4後		2				○							兼1		
	小計 (4 科目)	-	0	8	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼2	-	
自 由 選 択 科 目	アメリカビジネス論	3・4前		2		○									兼1		
	ホスピタリティ産業論	2・3・4後		2		○									兼1		
	異文化経営論	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	観光企業論	2・3・4後		2		○									兼1		
	観光交通論	2・3・4後		2		○									兼1		
	航空産業論	2・3・4前		2		○									兼1		
	国際ビジネス論	2・3・4前		2		○									兼1		
	集客産業施設運営論	2・3・4前		2		○									兼1		
	宿泊産業論	2・3・4前		2		○									兼1		
	中国・アジアビジネス論	3・4前		2		○									兼1		
	特殊講義1	2・3・4前		2		○			1								
	特殊講義2	2・3・4後		2		○				1							
	旅行ビジネス論	2・3・4前		2		○									兼1		
	小計 (13 科目)	-	0	26	0	-	-	-	1	1	0	0	0	0	兼8	-	
合計 (316 科目)	-		14	532	0	-	-	-	14	3	0	0	0	0	兼123	-	

教育課程等の概要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士 (国際コミュニケーション)	学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得すること。 一般教育科目のうち、「言語圏研究」群から4単位以上、「人間・文化研究」群から6単位以上、「歴史・社会研究」群から6単位以上、「自然・環境研究」群から4単位以上、「健康・スポーツ研究」群から4単位以上、「情報とAI・データサイエンス」群から6単位以上を修得し、「語学」群、「基盤教育科目」群、「後期教養教育科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計30単位以上を修得すること。 学科科目のうち、学科必修科目である「グローバル・ディスカバリー」2単位、演習科目群より「基礎演習」「専門演習1a」「専門演習1b」「専門演習2a」「専門演習2b」各2単位、合計10単位、学科語学科目においては「英語科目」群から8単位以上を含む合計18単位以上、学科専門科目においては「文化科目群」4単位以上、「国際関係科目群」4単位以上、「メディア科目群」4単位以上、「心理学科目群」4単位以上を修得し、学部導入科目、自由選択科目を合わせて、合計72単位以上修得すること。 なお、履修制限単位数は以下のとおりである。 1年次44単位、2年次46単位、3年次48単位、4年次48単位</p>						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
語学群	スペイン語1	1・2・3・4前		1		○								兼1	
	スペイン語2	1・2・3・4後		1		○								兼1	
	スペイン語3	1・2・3・4前		1		○								兼1	
	スペイン語4	1・2・3・4後		1		○								兼1	
	ドイツ語1	1・2・3・4前		1		○								兼3	
	ドイツ語2	1・2・3・4後		1		○								兼3	
	ドイツ語3	1・2・3・4前		1		○								兼2	
	ドイツ語4	1・2・3・4後		1		○								兼2	
	ドイツ語5	2・3・4前		1		○								兼1	
	ドイツ語6	2・3・4後		1		○								兼1	
	フランス語1	1・2・3・4前		1		○								兼3	
	フランス語2	1・2・3・4後		1		○								兼3	
	フランス語3	1・2・3・4前		1		○								兼3	
	フランス語4	1・2・3・4後		1		○								兼3	
	フランス語5	2・3・4前		1		○								兼1	
	フランス語6	2・3・4後		1		○								兼1	
	小計 (16科目)		-	0	16	0	-	-	-	0	0	0	0	0	兼8
一般教育科目	コリア語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	コリア語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スペイン語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スペイン語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ドイツ語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	ドイツ語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	フランス語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	フランス語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	英語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼5	
	英語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼5	
	現代日本事情a	1・2・3・4前		2		○			3	2				兼4	オムニバス
	現代日本事情b	1・2・3・4後		2		○			2	1				兼7	オムニバス
	中国語圏研究a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	中国語圏研究b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
小計 (14科目)		-	0	28	0	-	-	3	2	0	0	0	0	兼19	-
人間・文化研究群	外国文学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	外国文学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	教育学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	教育学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	心理学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	心理学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	地理学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	地理学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	哲学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	哲学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	日本文学a	1・2・3・4前		2		○			1						
	日本文学b	1・2・3・4後		2		○			1						
	文化人類学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	文化人類学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	倫理学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	倫理学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	論理学a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	論理学b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
小計 (18科目)		-	0	36	0	-	-	1	0	0	0	0	0	兼11	-

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
歴史・社会研究群	経済学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	現代史a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	現代史b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	社会学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	社会学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	人権問題論a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人権問題論b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	政治学b	1・2・3・4後		2		○							1		兼1	
	西洋史a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	東洋史a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本史a	1・2・3・4前		2		○							1		兼1	
	日本史b	1・2・3・4後		2		○							1		兼1	
	法学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (19科目)	-		0	38	0	-	-	-	0	1	0	0	0	0	兼10	-
一般教育科目 自然・環境研究群	化学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	化学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自然科学史a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	自然科学史b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	数学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	数学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生命科学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生命科学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地球環境科学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境科学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	統計学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	物理学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	物理学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (14科目)	-		0	28	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼6	-
健康・スポーツ研究群	スポーツ・トレーニングa	1・2・3・4前		2		○									兼5	
	スポーツ・トレーニングb	1・2・3・4後		2		○									兼5	
	スポーツ科学論a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツ科学論b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ技術a	1・2・3・4前		2		○									兼7	
	スポーツ技術b	1・2・3・4後		2		○									兼7	
	スポーツ文化論a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツ文化論b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	健康科学論a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学論b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	人間科学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
人間科学b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
小計 (12科目)	-		0	24	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼13	-
情報とAI・データサイエンス研究群	AI・データサイエンス入門1	2・3・4前		2		○									兼1	
	AI・データサイエンス入門2	2・3・4後		2		○									兼1	
	AIデータサイエンス総論	1・2・3・4前	2			○									兼1	
	コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	マスメディア論a	1・2・3・4前		2		○									兼2	

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
一般教育科目	情報とエン・デ研究群 タサイエンス・研究I	マスメディア論b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
		情報科学a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		情報科学b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		情報処理応用	1・2・3・4後		2		○								兼1	
		情報処理入門	1・2・3・4前		2		○								兼1	
		小計 (10 科目)	-	2	18	0				0	0	0	0	0	0	兼6
	基盤教育 科目群	スタディスキルズa	1前		2		○								兼1	
		スタディスキルズb	1後		2		○								兼1	
		小計 (2 科目)	-	0	4	0				0	0	0	0	0	兼1	-
	後期教養教育科目群	教養数学	3・4前		2		○								兼1	
		教養政治学	3・4後		2		○								兼1	
		教養西洋史	3・4前		2		○								兼1	
		教養哲学	3・4後		2		○								兼1	
		教養東洋史	3・4前		2		○								兼1	
		教養統計学	3・4後		2		○								兼1	
教養日本史		3・4前		2		○								兼1		
教養倫理学		3・4後		2		○								兼1		
社会人としての教養講座a		2・3・4前		2		○								兼5	オムニバス	
社会人としての教養講座b		2・3・4後		2		○			1	1				兼2	オムニバス	
正解のない問いの答えを考える	3・4前		2		○								兼1			
小計 (11 科目)	-	0	22	0				1	1	0	0	0	兼11	-		
自由選択科目群	ボランティア実践 a	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	ボランティア実践 b	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	教育社会学	2・3・4前		2		○								兼1		
	教職入門	1・2・3・4後		2		○								兼1		
	教養演習1a	1・2・3・4前		2			○							兼2		
	教養演習1b	1・2・3・4後		2			○							兼2		
	教養演習2a	1・2・3・4前		2			○							兼1		
	教養演習2b	1・2・3・4後		2			○							兼1		
	生涯学習概論	2・3・4後		2		○								兼1		
	未来と社会を学ぶ1	1・2・3・4前		2		○								兼1		
	未来と社会を学ぶ2	1・2・3・4後		2		○				1				兼1		
	小計 (11 科目)	-	0	22	0				0	1	0	0	0	兼7	-	
キャリア教育科目	インターンシップ講座	2・3・4前・後		2		○			1					兼2	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム1	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム2	1・2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム3	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム4	1・2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	キャビンアテンダントプログラム5	1・2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
	ビジネス文書マナーa	2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
	ビジネス文書マナーb	2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	営業活動実務	2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	応用キャリアデザイン	3後		2		○								兼3	※演習	
	基礎キャリアデザインa	1前		2		○								兼3	※演習	
	基礎キャリアデザインb	1後		2		○								兼3	※演習	
	発展キャリアデザイン	2前		2		○								兼3	※演習	
	貿易実務実践	2・3・4後		2		○								兼1	※演習	
	貿易実務入門	2・3・4前		2		○								兼1	※演習	
小計 (15 科目)	-	0	30	0				1	0	0	0	0	兼8	-		
入学科目部 科目目導	国際学への招待	1前		2		○			4	3				兼7	オムニバス	
	小計 (1 科目)	-	0	2	0				4	3	0	0	0	兼7	-	

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
入学 科目 目導	大阪観光学	1後		2		○			7	6					オムニバス
	小計 (1科目)	-	0	2	0	-			7	6	0	0	0	0	-
門学 科目 目入	異文化理解入門	1・2・3・4後	2			○				1					
	国際観光学入門	1・2・3・4前	2			○				1					
	小計 (2科目)	-	4	0	0	-			0	2	0	0	0	0	-
専門 基礎 科目	観光経営学	1・2・3・4後		2		○			1						
	観光経済学	1・2・3・4前		2		○			1						
	観光地理学	1・2・3・4後		2		○			1						
	観光歴史学	1・2・3・4前		2		○				1					
	小計 (4科目)	-	0	8	0	-			3	1	0	0	0	0	-
演習 科目	演習導入	2前		2			○		9	5					オムニバス
	基礎演習	2後	2				○		9	5					
	専門演習1a	3前	2				○		9	5					
	専門演習1b	3後	2				○		9	5					
	専門演習2a	4前	2				○		9	5					
	専門演習2b	4後	2				○		9	5					
	卒業研究	4通	4				○		9	5					
	大学入門ゼミa	1前		2			○		10	5					
	大学入門ゼミb	1後		2			○		10	5					
	小計 (9科目)	-	14	6	0	-			10	4	1	0	0	0	-
専門 基幹 科目	観光マーケティング論	2・3・4前		2		○				1					
	観光開発論	2・3・4前		2		○			1						
	観光計画論	2・3・4前		2		○			1						
	観光資源論	2・3・4後		2		○			1		1				
	観光事業論	2・3・4後		2		○			1						
	観光人類学	2・3・4後		2		○			1						
	観光政策論	2・3・4前		2		○				1					
	比較文化論	2・3・4前		2		○				1					
	旅の文化史	2・3・4前		2		○			1						
小計 (9科目)	-	0	18	0	-			4	4	0	0	0	兼0	-	
専門 発展 科目	アーバンツーリズム論	2・3・4後		2		○				1					
	アジアの地域と観光	2・3・4前		2		○				1					
	アフリカの地域と観光	2・3・4前		2		○								兼1	
	アメリカの地域と観光	2・3・4後		2		○								兼1	
	エコツーリズム論	2・3・4前		2		○			1						
	オセアニアの地域と観光	2・3・4後		2		○								兼1	
	グローバル・イシュー	2・3・4前		2		○								兼1	
	グローバル・ガバナンス論	2・3・4前		2		○								兼1	
	コミュニティツーリズム論	2・3・4前		2		○			1						
	プロジェクト型国際実習a	2・3・4前		2				○	1						
	プロジェクト型国際実習b	2・3・4後		2				○	1						
	プロジェクト型国内実習a	2・3・4前		2				○	1						
	プロジェクト型国内実習b	2・3・4後		2				○	1						
	ホスピタリティ産業論	2・3・4後		2		○			1						
	ヨーロッパの地域と観光	2・3・4前		2		○			1						
	レジャー文化論	2・3・4前		2		○								兼1	
	移動の社会学	2・3・4後		2		○								兼1	※演習
観光とホスピタリティの心理学	2・3・4前		2		○								兼1		
観光と芸術	2・3・4前		2		○				1						
観光と宗教	2・3・4前		2		○			1							
観光会計論	2・3・4後		2		○			1							
観光企業論	2・3・4後		2		○			1							

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 発展 科目	観光交通論	2・3・4後		2		○			1							兼1
	観光資源解説方法論	2・3・4前		2		○										兼1
	観光情報論	2・3・4後		2		○				1						
	観光調査法	1・2・3・4前		2		○				1						
	観光民俗学	2・3・4前		2		○			1							兼1
	現代アメリカ文化論	2・3・4前		2		○										兼1
	航空産業論	2・3・4前		2		○				1						兼1
	国際観光学特別講義 1	2・3・4前		2		○										兼1
	国際観光学特別講義 2	2・3・4後		2		○										兼1
	国際観光学特別講義 3	2・3・4前		2		○			1							
	国際協力論	2・3・4後		2		○			1							
	国際平和論	2・3・4前		2		○			1							
	集客産業施設運営論	2・3・4前		2		○			1							
	宿泊産業論	2・3・4前		2		○			1							
	食文化論	2・3・4後		2		○			1							
	世界遺産論	2・3・4前		2		○										兼1
	多文化社会論	2・3・4後		2		○										兼1
	地域データ分析	2・3・4後		2		○				1						
	文化財論	2・3・4後		2		○			1							
	民間協力 (NGO/NPO) 論	2・3・4後		2		○			1							
旅行ビジネス論	2・3・4前・後		2		○			1								
小計 (43 科目)	-		0	86	0	-	-	-	9	5	0	0	0	0	兼12	-
学 科 目	アジアの美術	2・3・4後		2		○										兼1
	マクロ経済学	2・3・4前		4		○										兼1
	ミクロ経済学	2・3・4前		4		○										兼1
	ヨーロッパ芸術論	2・3・4後		2		○										兼1
	音楽産業論	2・3・4前		2		○										兼1
	現代企業事情	2・3・4前		2		○			1							
	現代地理学a	1・2・3・4前		2		○										兼1
	現代地理学b	1・2・3・4後		2		○										兼1
	国際経済学	2・3・4前		4		○										兼1
	国際社会と人間	2・3・4後		2		○										兼1
	国際政治経済論	2・3・4後		2		○										兼1
	宗教と社会	2・3・4後		2		○										兼1
	消費者の心理	2・3・4前		2		○										兼1
	世界地誌学 a	2・3・4前		2		○			1							
	世界地誌学 b	2・3・4後		2		○			1							
	西洋史概論a	1・2・3・4前		2		○										兼1
	西洋史概論b	1・2・3・4後		2		○										兼1
	対人コミュニケーション心理学	2・3・4前		2		○										兼1
	哲学概論a	2・3・4前		2		○										兼1
	哲学概論b	2・3・4後		2		○										兼1
	東洋史概論	1・2・3・4後		2		○										兼1
	日本経済論 1	2・3・4前		2		○										兼1
	日本経済論 2	2・3・4後		2		○										兼1
	日本史概論 1	1・2・3・4後		2		○										兼1
	日本史概論 2 a	1・2・3・4前		2		○				1						
	日本史概論 2 b	1・2・3・4後		2		○				1						
	日本地誌学 a	1・2・3・4前		2		○										兼1
	日本地誌学 b	1・2・3・4後		2		○										兼1
日本文化史 a	2・3・4前		2		○										兼1	
日本文化史 b	2・3・4後		2		○										兼1	
博物館概論	1・2・3・4前		2		○			1								

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際教養科目	文化交流史1	2・3・4後		2		○				1					兼1	
	文化交流史2	2・3・4前		2		○									兼1	
	文化交流史3	2・3・4後		2		○									兼1	
	文化地理学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化地理学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	法学概論1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学概論2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学概論a	2・3・4前		2		○									兼1	
	倫理学概論b	2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (40科目)	-		0	86	0	-			3	1	0	0	0	0	兼19
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Advanced English Reading 3	2・3・4前		1		○									兼1	
	Advanced English Reading 4	2・3・4後		1		○									兼1	
	Business English	2・3・4後		1		○									兼1	
	Debate and Discussion	2・3・4後		1		○									兼1	
	Presenting in English 1	2・3・4前		1		○				1						
	Presenting in English 2	2・3・4後		1		○				1						
	Topic Studies	2・3・4前		1		○									兼1	
	ドラマで学ぶ英語	2・3・4前		1		○									兼1	
	ホスピタリティ英語 1	2・3・4前		1		○				1					兼1	
	ホスピタリティ英語 2	2・3・4後		1		○				1					兼1	
	メディア・イングリッシュ1	1・2・3・4 前・後		1		○				1					兼4	
	メディア・イングリッシュ2	1・2・3・4 前・後		1		○				1					兼4	
	メディア・イングリッシュ3	2・3・4前・後		1		○				1					兼4	
	メディア・イングリッシュ4	2・3・4前・後		1		○				1					兼4	
	英語アドバンスト・コミュニケーション1	1・2・3・4 前・後		2		○				1						
	英語アドバンスト・コミュニケーション2	1・2・3・4 前・後		2		○				1						
	英語コミュニケーション1	1・2・3・4 前・後		2		○				1						
	英語コミュニケーション2	1・2・3・4 前・後		2		○				1						
	英語圏留学入門	1・2前		1		○									兼2	
	資格ビジネス英語1	1・2・3・4前		1		○									兼1	
資格ビジネス英語2	1・2・3・4後		1		○									兼1		
資格ビジネス英語3	1・2・3・4前		1		○									兼1		
資格ビジネス英語4	1・2・3・4後		1		○									兼1		
通訳入門	2・3・4前		1		○									兼1		
翻訳入門	2・3・4後		1		○									兼1		
小計 (25科目)	-		0	29	0	-			0	1	0	0	0	0	兼10	-
観光コミュニケーション科目 (中国語)	ネットビジネス中国語	1・2・3・4後		1		○									兼2	
	ポスト留学中国語	2・3・4後		1		○									兼1	
	接客のための中国語	2・3・4前		1		○									兼1	
	台湾華語	1・2・3・4前		1		○									兼2	
	中国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	中国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	中国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○									兼1	
	中国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○									兼1	
	中国語で日本案内	2・3・4前		1		○									兼1	
	中国語検定講座a	1・2・3・4前		1		○									兼2	
	中国語検定講座b	1・2・3・4後		1		○									兼2	
小計 (11科目)	-		0	15	0	-			0	0	0	0	0	0	兼8	-

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
観光コミュニケーション科目 (韓国語)	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	1・2・3・4 前・後		1		○									兼2		
	トラベル韓国語	1・2・3・4後		1		○									兼2		
	ポスト留学韓国語	1・2・3・4後		1		○									兼1		
	韓国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○									兼3		
	韓国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○									兼3		
	韓国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○									兼2		
	韓国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○									兼1		
	韓国語で日本案内	2・3・4前		1		○									兼2		
	韓国語ビジネス1	2・3・4前		2		○									兼1		
	韓国語ビジネス2	2・3・4後		2		○									兼1		
	韓国語検定講座a	1・2・3・4前		1		○									兼2		
	韓国語検定講座b	1・2・3・4後		1		○									兼2		
	韓国語実用会話1	1・2・3・4前		1		○									兼2		
	韓国語実用会話2	1・2・3・4後		1		○									兼2		
	小計 (14科目)		-	0	20	0	-			0	0	0	0	0	0	兼9	-
	観光コミュニケーション科目 (日本語)	ビジネス日本語1a	2・3・4前		1		○			1							
		ビジネス日本語1b	2・3・4後		1		○			1							
		ビジネス日本語2a	3・4前		1		○			1							
		ビジネス日本語2b	3・4後		1		○			1							
		ビジネス日本語基礎a	3・4前		1		○									兼1	
		ビジネス日本語基礎b	3・4後		1		○									兼1	
		総合日本語a	2・3・4前		1		○									兼1	
		総合日本語b	2・3・4後		1		○									兼1	
		日本語レポート1a	1・2・3・4前		1		○			1							
日本語レポート1b		1・2・3・4後		1		○			1								
日本語レポート2a		1・2・3・4前		1		○									兼1		
日本語レポート2b		1・2・3・4後		1		○									兼1		
日本語レポート3a		2・3・4前		1		○									兼1		
日本語レポート3b		2・3・4後		1		○									兼1		
日本語演習a		1・2・3・4前		2		○			1								
日本語演習b		1・2・3・4後		2		○			1								
日本語聴解発話1a		1・2・3・4前		1		○									兼1		
日本語聴解発話1b		1・2・3・4後		1		○									兼1		
日本語聴解発話2a		1・2・3・4前		1		○			1								
日本語聴解発話2b		1・2・3・4後		1		○			1								
日本語読解1a		1・2・3・4前		1		○									兼1		
日本語読解1b		1・2・3・4後		1		○									兼1		
日本語読解2a		1・2・3・4前		1		○									兼1		
日本語読解2b		1・2・3・4後		1		○									兼1		
小計 (24科目)		-	0	26	0	-			1	0	0	0	0	0	兼2	-	
合計 (325科目)			-	20	564	0	-		10	6	0	0	0	0	兼124	-	

教育課程等の概要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士 (国際観光学)		学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
<p>一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得すること。 一般教育科目のうち、「言語圏研究」群から4単位以上、「人間・文化研究」群から6単位以上、「歴史・社会研究」群から6単位以上、「自然・環境研究」群から4単位以上、「健康・スポーツ研究」群から4単位以上、「情報とAI・データサイエンス」群から6単位以上を修得し、「語学」群、「基盤教育科目」群、「後期教養教育科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計30単位以上を修得すること。 学科科目のうち、学科入門科目から4単位、専門基礎科目から4単位以上、演習科目から14単位、専門基幹科目から12単位以上、専門発展科目から16単位以上、観光コミュニケーション科目から12単位以上を修得し、国際教養科目を合わせて合計72単位以上を修得すること。 なお、履修制限単位数は以下のとおりである。 1年次44単位、2年次46単位、3年次48単位、4年次48単位</p>						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
情報とメディア群	情報処理入門	1前		2		○									兼1	
	情報処理応用	1後		2		○									兼1	
	情報科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	情報科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	マスメディア論 a	1・2・3・4前		2		○				1					兼1	
	マスメディア論 b	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
	コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	AIデータサイエンス総論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	AI・データサイエンス入門 1	2・3・4前		2		○									兼1	
	AI・データサイエンス入門 2	2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (10科目)	—	0	20	0	—				0	1	0	0	0	兼4	—	
言語と文化群	フランス語 1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	フランス語 2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	ドイツ語 1	1・2・3・4通		2		○									兼3	
	ドイツ語 2	1・2・3・4通		2		○									兼2	
	フランス語 3	2・3・4通		2		○									兼1	
	フランス語 4	2・3・4通		2		○									兼1	
	ドイツ語 3	2・3・4通		2		○									兼1	
	ドイツ語 4	2・3・4通		2		○									兼1	
	スペイン語 1	2・3・4前		2		○									兼1	
	スペイン語 2	2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (10科目)	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	兼9	—	
一般教育科目 人間と文化群	哲学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	哲学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	倫理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	倫理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	論理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	論理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	心理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	心理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	教育学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	教育学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	日本文学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	外国文学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	外国文学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	地理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	地理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	文化人類学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	観光文化論	1・2・3・4前・後		2		○									兼1	
	現代日本事情 a	1・2・3・4前		2		○									兼9	オムニバス
	現代日本事情 b	1・2・3・4後		2		○									兼9	オムニバス
小計 (21科目)	—	0	42	0	—				0	0	0	0	0	兼27	—	
歴史と社会群	日本史 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	日本史 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	東洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	西洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	現代史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	現代史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	法学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学 a	1・2・3・4前		2		○					1				兼1	
	政治学 b	1・2・3・4後		2		○				1					兼1	
	社会学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	社会学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経済学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経営学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
社会史と歴史群	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人権問題論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人権問題論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	小計 (21科目)	—	0	42	0	—			1	0	0	0	0	0	兼12	—
自然と環境群	数学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	数学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	統計学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	物理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	物理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	化学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	化学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生命科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生命科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自然科学史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	自然科学史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地球環境科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—	
健康とスポーツ群	人間科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人間科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	健康科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	健康科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生涯スポーツ論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生涯スポーツ論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツ科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ文化論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	スポーツ文化論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	スポーツ技術 a	1・2・3・4前		2		○									兼7	
	スポーツ技術 b	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	スポーツ・トレーニング a	1・2・3・4前		2		○									兼5	
	スポーツ・トレーニング b	1・2・3・4後		2		○									兼5	
小計 (14科目)	—	0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—	
基礎教育科目	スタディスキルズ 1	1前		2		○									兼1	
	スタディスキルズ 2	1後		2		○									兼1	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	—
自由選択科目	ボランティア実践	1・2・3・4通		4		○									兼1	
	教養総合講座 a	1・2・3・4前		2		○			2	1					兼6	
	教養総合講座 b	1・2・3・4後		2		○									兼8	
	教養演習 1 a	1・2・3・4前		2		○		○							兼3	
	教養演習 1 b	1・2・3・4後		2		○		○							兼2	
	教養演習 2 a	1・2・3・4前		2		○		○							兼2	
	教養演習 2 b	1・2・3・4後		2		○		○							兼2	
	教職入門	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	博物館概論	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	短期留学 1	1・2・3・4通		4		○				1						
	短期留学 2	1・2・3・4通		4		○				1						
	短期留学 3	1・2・3・4通		4		○				1						
	短期留学 4	1・2・3・4通		4		○				1						
	教育社会学	2・3・4前		2		○									兼1	
生涯学習概論	2・3・4前		2		○									兼1		
小計 (15科目)	—	0	40	0	—			3	1	0	0	0	0	兼19	—	
キャリア教育科目	キャリアデザイン a	1前		2		○									兼3	
	キャリアデザイン b	1後		2		○									兼3	
	キャリア演習 1 a	1前		2		○		○		1						
	キャリア演習 1 b	1後		2		○		○		1						
	インターンシップ準備講座	2・3・4通		4		○									兼2	
	国際インターンシップ準備講座	2・3・4通		4		○									兼1	
	起業塾 1	2・3・4通		4		○									兼1	
	起業塾 2	2・3・4通		4		○									兼1	
	キャリア演習 2 a	2・3・4前		2		○		○		1						
	キャリア演習 2 b	2・3・4前		2		○		○		1						
小計 (10科目)	—	0	28	0	—			1	0	0	0	0	0	兼8	—	

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	国際関係入門	1・2・3・4前	2			○			1						
	国際文化入門	1・2・3・4前	2			○			1						
	国際コミュニケーション入門	1・2・3・4前	2			○			4	1					オムニバス
	小計 (3科目)	—	6	0	0	—	—	—	6	1	0	0	0	0	—
専門演習科目	専門演習1	3通	4			○			11	1					
	専門演習2	4通	4			○			13	1					
	卒業研究	4通	2			○			13	1					
	小計 (3科目)	—	10	0	0	—	—	—	13	1	0	0	0	0	—
パーソナル科目群	計量分析入門	1・2・3・4前		2		○			1						
	自分のこころの心理学	1・2・3・4前		2		○				1					
	キャリア心理学	1・2・3・4前		2		○			1						
	恋愛心理学	1・2・3・4後		2		○				1					
	ファッションと化粧の心理学	1・2・3・4後		2		○				1					
	対人コミュニケーション心理学	2・3・4前		2		○				1					
	コミュニケーションスキル実習	2・3・4後		2		○			1						
	働く人と組織の心理学	2・3・4後		2		○			1						
	観光とホスピタリティの心理学	2・3・4前		2		○				1					
	消費者行動の心理学	2・3・4前		2		○			1						
	異文化心理実習	3・4前		2		○			1						
	心理統計実習	3・4後		2		○			1						
小計 (12科目)	—	0	24	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	—	
ローカル科目群	日本の政治と外交	1・2・3・4後		2		○			1						
	現代アメリカ文化論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	関西学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	地域研究1	1・2・3・4後		2		○			1						
	地域研究2	1・2・3・4前		2		○			1						
	情報メディアと社会制度	1・2・3・4前		2		○			1						
	メディア・情報文化史	1・2・3・4後		2		○			1						
	現代社会論	2・3・4前		2		○					1				
	都市文化論 (日本)	1・2・3・4後		2		○			1						
	都市文化論 (アジア)	1・2・3・4後		2		○			1						
	都市文化論 (ヨーロッパ)	1・2・3・4後		2		○			1						
	日本風俗研究	2・3・4前		2		○			1						
	広告文化論	2・3・4前		2		○			1						
	放送文化論	2・3・4後		2		○			1						
	メディア表現論	2・3・4後		2		○				1					
	キャラクター論	2・3・4後		2		○			1						
	音楽産業論	2・3・4前		2		○			1						
	比較政治学	2・3・4前		2		○			1						
小計 (18科目)	—	0	36	0	—	—	—	7	1	1	0	0	兼2	—	
グローバル科目群	海外生活の心理学	1・2・3・4後		2		○			1						
	マスコミュニケーション論	1・2・3・4前		2		○				1					
	異文化コミュニケーション論	1・2・3・4前		2		○			1						
	グローバル・イシュー	1・2・3・4後		2		○				1					
	文化交流史 (アジア)	1・2・3・4前		2		○									兼1
	文化交流史 (アメリカ)	1・2・3・4後		2		○			1						
	文化交流史 (ヨーロッパ)	1・2・3・4前		2		○			1						
	グローバル・ガバナンス論	2・3・4前		2		○			1						
	国際協力論	2・3・4後		2		○									兼1
	平和と宗教	2・3・4後		2		○					1				
	国際関係史	2・3・4前		2		○			1						
	多文化社会論	2・3・4後		2		○					1				
	多様性の文化論	2・3・4後		2		○			1						
	国際政治経済論	2・3・4後		2		○			1						
国際平和論	2・3・4前		2		○									兼1	
国際フィールドワーク	3・4前		2		○			1							
小計 (16科目)	—	0	32	0	—	—	—	5	1	1	0	0	兼2	—	

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 目	英語圏留学入門	1・2・3・4前		1		○			1							
	Basic Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○			1				1			
	Basic Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○			1				1			
	Intermediate Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○										兼2
	Intermediate Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○										兼2
	Basic Practical English 1	1・2・3・4前		1		○								1		
	Basic Practical English 2	1・2・3・4後		1		○								1		
	Intermediate Practical English 1	1・2・3・4前		1		○										兼2
	Intermediate Practical English 2	1・2・3・4後		1		○										兼2
	Basic English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1							
	Basic English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1							
	Intermediate English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1							
	Intermediate English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1							
	資格ビジネス英語 1	1・2・3・4前		1		○			1							
	資格ビジネス英語 2	1・2・3・4後		1		○			1							
	Advanced English Grammar1	1・2・3・4前		2		○			1							
	Advanced English Grammar2	1・2・3・4後		2		○			1							
	Advanced Oral Communication 1	1・2・3・4前		1		○			1				1			
	Advanced Oral Communication 2	1・2・3・4後		1		○			1				1			
	Advanced English Reading 1	1・2・3・4前		1		○			1							兼2
	Advanced English Reading 2	1・2・3・4後		1		○			2							兼2
	Advanced English Reading 3	2・3・4前		1		○			1							
	Advanced English Reading 4	2・3・4後		1		○			1							
	Topic Studies	2・3・4後		1		○			1							
	Grammar Focused Writing 1	2・3・4前		1		○			1							
	Grammar Focused Writing 2	2・3・4後		1		○			1							
	Essay Writing 1	2・3・4前		1		○			1							
	Essay Writing 2	2・3・4後		1		○			1							
	Business English	2・3・4後		1		○										兼1
	Debate and Presentation	2・3・4前		1		○			1							
	ドラマで学ぶ英語	2・3・4前		1		○			1							
	Academic Reading 1	2・3・4前		1		○			1							
	Academic Reading 2	2・3・4後		1		○			1							
	英語教育演習	2・3・4後		2		○			1							
	資格ビジネス英語 3	1・2・3・4前		1		○			1							
	資格ビジネス英語 4	1・2・3・4後		1		○			1							
	通訳入門	1・2・3・4前		1		○			1							
	翻訳入門	1・2・3・4後		1		○			1							
	ホスピタリティ英語 1	1・2・3・4前		1		○			1							
	ホスピタリティ英語 2	1・2・3・4後		1		○										兼1
	米文学概論	1・2・3・4後		2		○			1							
	英文学概論	1・2・3・4後		2		○			1							
	英語発音クリニック	2・3・4後		2		○			1							
	英語音声学概論	2・3・4前		2		○			1							
	第二言語修得概論	2・3・4前		2		○			1							
	英語学概論	2・3・4後		2		○			1							
小計 (46科目)		—	0	59	0	—		5	0	0	1			兼6	—	
入門中国語 1	1・2・3・4通			2		○			1						兼3	
入門中国語 2	1・2・3・4通			2		○									兼2	
台湾華語	1・2・3・4前			1		○									兼3	
中国語検定講座a	1・2・3・4前			1		○									兼2	
中国語検定講座b	1・2・3・4後			1		○									兼2	
ネットビジネス中国語	1・2・3・4後			1		○									兼2	
実用中国語 1a	2・3・4前			1		○									兼1	
実用中国語 1b	2・3・4後			1		○									兼1	
中国語で日本案内	2・3・4前			1		○		1								
映像中国語	2・3・4前			1		○									兼1	
接客のための中国語	2・3・4後			1		○									兼1	
ポスト留学中国語	1・2・3・4後			1		○		1								
実用中国語 2a	2・3・4前			1		○									兼1	
実用中国語 2b	2・3・4後			1		○									兼1	
小計 (14科目)		—	0	16	0	—		1	0	0	0	0	0	兼8	—	

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学 科 目	入門韓国語 1	1・2・3・4前		2		○										兼4
	入門韓国語 2	1・2・3・4後		2		○										兼2
	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	1・2・3・4前・後		1		○										兼4
	トラベル韓国語	1・2・3・4後		1		○										兼3
	実用韓国語 1a	2・3・4前		1		○										兼2
	実用韓国語 1b	2・3・4後		1		○										兼2
	ポスト留学韓国語	1・2・3・4後		1		○			1							
	実用韓国語 2a	2・3・4前		1		○										兼2
	実用韓国語 2b	2・3・4後		1		○										兼2
	韓国語で日本案内	2・3・4後		1		○										兼1
	小計 (10科目)	—	0	12	0	—			1	0	0	0	0	0	0	兼6
	語学特殊講座 A	2・3・4前		1		○							1			
	語学特殊講座 B	2・3・4後		1		○							1			
	語学特殊講座 C	2・3・4前		1		○			1							
	語学特殊講座 D	2・3・4後		1		○			1							
	語学特殊講座 E	2・3・4前		1		○			1							
	語学特殊講座 F	2・3・4後		1		○			1							
	語学特殊講座 G	2・3・4前		1		○										兼2
	語学特殊講座 H	2・3・4後		1		○										兼1
	小計 (8科目)	—	0	8	0	—			1	0	0	1				兼2
	基礎日本語読解	1・2・3・4通		2		○										兼1
	基礎日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○										兼1
	基礎日本語レポート	1・2・3・4通		2		○										兼1
	実力日本語読解	1・2・3・4通		2		○										兼1
	実力日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○										兼1
	実力日本語レポート	1・2・3・4通		2		○										兼1
	大学日本語読解	1・2・3・4通		2		○										兼1
大学日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○										兼1	
大学日本語レポート	1・2・3・4通		2		○										兼1	
総合日本語	2・3・4通		2		○										兼1	
実用日本語	3・4通		2		○										兼1	
ビジネス日本語 1	2・3・4通		2		○										兼1	
ビジネス日本語 2	3・4通		2		○										兼1	
小計 (13科目)	—	0	26	0	—			0	0	0	0	0	0	0	兼3	
導入演習関連科目	大学入門ゼミ a	1前		2				○			11	2	1			
	大学入門ゼミ b	1後		2				○			11	2	1			
	専門演習アプローチ	2前		2				○			7	2	1			オムニバス
	基礎演習	2後		2				○			7	2	1			
小計 (4科目)	—	0	8	0	—			13	2	1	0	0	0	0	0	
自由科目	キャリア支援科目 1	2・3・4前		2		○										兼1
	キャリア支援科目 2	2・3・4後		2		○										兼1
	キャビンアテンダントプログラム 1	2・3・4前		2		○			1							
	キャビンアテンダントプログラム 2	2・3・4後		2		○			1							
	キャビンアテンダントプログラム 3	2・3・4前		2		○			1							
	キャビンアテンダントプログラム 4	2・3・4後		2		○			1							
	特殊講義 1	2・3・4前		2		○										兼1
	特殊講義 2	2・3・4後		2		○										兼1
	特殊講義 3	2・3・4後		2		○			1							
	特殊講義 4	2・3・4後		2		○					1					
	特殊講義 5	2・3・4前		2		○					1					
	特殊講義 6	2・3・4後		2		○			1							
	特殊講義 7	2・3・4前		2		○			1							
	特殊講義 8	2・3・4後		2		○			1							
小計 (14科目)	—	0	28	0	—			3	0	1	0	0	0	0	兼2	
合計 (278科目)	—	16	501	0	—			14	2	1	1	0	0	0	兼104	

教育課程等の概要

(国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士 (国際コミュニケーション学)	学位又は学科の分野			文学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて124単位以上修得すること。 一般教育科目のうち、「情報とメディア」群から2単位以上、「人間と文化」群から8単位以上、「歴史と社会」群から8単位以上、「自然と環境」群から4単位以上、「健康とスポーツ」群から4単位以上を修得し、「言語と文化」群、基盤教育科目および自由選択科目を合わせて合計30単位以上を修得すること。 学科科目のうち、基礎科目から6単位、専門演習科目から10単位、パーソナル科目群から6単位以上、ローカル科目群から8単位以上、グローバル科目群から8単位以上、学科語学科目から8単位以上を修得し、自由選択科目と導入演習関連科目を合わせて合計72単位以上を修得すること。 なお、履修制限単位数は以下のとおりとする。 1年次44単位、2年次46単位、3年次48単位、4年次48単位						1学年の学期区分			2期					
						1学期の授業期間			15週					
						1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要															
(国際観光学部国際観光学科)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
情報とメディア群	情報処理入門	1・前		2		○								兼1	
	情報処理応用	1・後		2		○								兼1	
	情報科学 a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	情報科学 b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	情報化社会論	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	マスメディア論 a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	マスメディア論 b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	コンピュータと法	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	AIデータサイエンス総論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	AI・データサイエンス入門1	2・3・4前		2		○								兼1	
	AI・データサイエンス入門2	2・3・4後		2		○								兼1	
小計(11科目)	—		0	22	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—
一般教育科目 言語と文化群	中国語1	1・2・3・4通		2		○								兼2	
	中国語2	1・2・3・4通		2		○								兼2	
	フランス語1	1・2・3・4前		2		○								兼3	
	フランス語2	1・2・3・4後		2		○								兼3	
	ドイツ語1	1・2・3・4通		2		○								兼3	
	ドイツ語2	1・2・3・4通		2		○								兼2	
	中国語3	2・3・4通		2		○								兼1	
	中国語4	2・3・4通		2		○								兼1	
	フランス語3	2・3・4通		2		○								兼1	
	フランス語4	2・3・4通		2		○								兼1	
	ドイツ語3	2・3・4通		2		○								兼1	
	ドイツ語4	2・3・4通		2		○								兼1	
	韓国語1	2・3・4前		2		○								兼1	
	韓国語2	2・3・4後		2		○								兼1	
スペイン語1	2・3・4前		2		○								兼1		
スペイン語2	2・3・4後		2		○								兼1		
小計(14科目)	—		0	32	0	—			0	0	0	0	0	兼16	—
人間と文化群	哲学 a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	哲学 b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	倫理学 a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	倫理学 b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	論理学 a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	論理学 b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	心理学 a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	心理学 b	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	教育学 a	1・2・3・4前		2		○								兼2	
	教育学 b	1・2・3・4後		2		○								兼2	
	日本文学 a	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	日本文学 b	1・2・3・4後		2		○								兼1	

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
人間と文化群	外国文学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	外国文学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	地理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	地理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	文化人類学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	文化人類学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	現代日本事情 a	1・2・3・4前		2		○			5	2					兼2	オムニバス
	現代日本事情 b	1・2・3・4後		2		○			3	1					兼5	オムニバス
	小計 (20科目)	—		0	40	0	—			5	2	0	0	0	兼19	—
歴史と社会群	日本史 a	1・2・3・4前		2		○			1						兼1	
	日本史 b	1・2・3・4後		2		○			1						兼1	
	東洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	東洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	西洋史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	西洋史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	現代史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	現代史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	政治学 a	1・2・3・4前		2		○									兼2	
	政治学 b	1・2・3・4後		2		○									兼2	
	社会学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	社会学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経済学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経済学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	経営学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	経営学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
日本国憲法	1・2・3・4前		2		○									兼1		
人権問題論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
人権問題論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
小計 (21科目)	—		0	38	0	—			1	0	0	0	0	兼10	—	
自然と環境群	数学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	数学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	統計学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	統計学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	物理学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	物理学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	化学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	化学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	生命科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	生命科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	自然科学史 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	自然科学史 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	地球環境科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	地球環境科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
小計 (14科目)	—		0	28	0	—			0	0	0	0	0	兼6	—	
スポーツ健康と人間科学群	人間科学 a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	人間科学 b	1・2・3・4後		2		○									兼1	

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
健康とスポーツ群	健康科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	健康科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	生涯スポーツ論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	生涯スポーツ論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	スポーツ科学論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	スポーツ科学論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	スポーツ文化論 a	1・2・3・4前		2		○									兼1		
	スポーツ文化論 b	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	スポーツ技術 a	1・2・3・4前		2		○									兼7		
	スポーツ技術 b	1・2・3・4後		2		○									兼8		
	スポーツ・トレーニング a	1・2・3・4前		2		○									兼5		
	スポーツ・トレーニング b	1・2・3・4後		2		○									兼5		
	小計 (14科目)	—		0	28	0	—			0	0	0	0	0	0	兼14	—
	一般教育科目 基盤教育	スタディスキルズ 1	1前		2		○									兼1	
スタディスキルズ 2		1後		2		○									兼1		
小計 (2科目)		—		0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼1	—	
自由選択科目	ボランティア実践	1・2・3・4通		2		○									兼1		
	教養総合講座 a	1・2・3・4前		2		○									兼9		
	教養総合講座 b	1・2・3・4後		2		○			1	1					兼6		
	教養演習 1 a	1・2・3・4前		2			○								兼3		
	教養演習 1 b	1・2・3・4後		2			○								兼2		
	教養演習 2 a	1・2・3・4前		2			○								兼2		
	教養演習 2 b	1・2・3・4後		2			○								兼1		
	教職入門	1・2・3・4後		2		○									兼1		
	短期留学 1	1・2・3・4通		2		○									兼1		
	短期留学 2	1・2・3・4通		2		○									兼1		
	短期留学 3	1・2・3・4通		2		○									兼1		
	短期留学 4	1・2・3・4通		2		○									兼1		
	教育社会学	2・3・4前		2		○									兼1		
	生涯学習概論	2・3・4前		2		○									兼1		
小計 (14科目)	—		0	38	0	—			1	1	0	0	0	0	兼20	—	
キャリア教育科目	キャリアデザイン a	1前		2		○									兼3		
	キャリアデザイン b	1後		2		○									兼3		
	キャリア演習 1 a	1前		2			○								兼1		
	キャリア演習 1 b	1後		2			○								兼1		
	インターンシップ準備講座	2・3・4通		2		○									兼1		
	国際インターンシップ準備講座	2・3・4通		2		○									兼1		
	起業塾 1	2・3・4通		2		○									兼1		
	起業塾 2	2・3・4通		2		○									兼1		
	キャリア演習 2 a	2・3・4前		2			○								兼1		
	キャリア演習 2 b	2・3・4後		2			○								兼1		
小計 (10科目)	—		0	20	0	—			1	0	0	0	0	0	兼9	—	
学科科目 入門科目	国際観光学入門	1・2・3・4前		2		○				1							
	異文化理解入門	1・2・3・4後		2		○				1							
	小計 (2科目)	—		4	0	0	—		0	2	0	0	0	0	0	—	

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目	観光歴史学	1・2・3・4前		2		○			1						
	観光地理学	1・2・3・4後		2		○			1						
	観光経済学	1・2・3・4前		2		○			1						
	観光経営学	1・2・3・4後		2		○			1						
	小計 (4科目)	—		8		—			4	0	0	0	0	0	—
専門演習科目	基礎演習	2・3・4後	2				○		11	3					
	専門演習 1	3・4通	4				○		11	3					
	専門演習 2	4通	4				○		12	3					
	卒業研究	4通	4				○		12	3					
	小計 (4科目)	—	14	0	0	—			12	3	0	0	0	0	—
専門基幹科目	比較文化論	2・3・4後		2		○				1					
	観光人類学	2・3・4前		2		○			1						
	旅の文化史	2・3・4後		2		○			1						
	観光計画論	2・3・4前		2		○			1						
	観光社会学	2・3・4後		2		○			1						
	観光政策論	2・3・4前		2		○				1					
	観光資源論	2・3・4後		2		○			1						
	観光事業論	2・3・4後		2		○			1						
	観光マーケティング論	2・3・4前		2		○				1					
観光開発論	2・3・4前		2		○			1							
	小計 (10科目)	—	0	20	0	—			5	3	0	0	0	0	—
全 科 員 履 修 目 的	大学入門ゼミa	1前		2			○		12	3					
	大学入門ゼミb	1後		2			○		12	3					
	演習導入	2前		2			○		11	3					
	小計 (3科目)	—	0	6	0	—			13	3	0	0	0	0	—
専門 発 展 科 目	観光民俗学	2・3・4前		2		○			1						
	レジャー文化論	2・3・4前		2		○									兼1
	食文化論	2・3・4後		2		○			1						
	観光とホスピタリティの心理学	2・3・4前		2		○									兼1
	観光と芸術	2・3・4前		2		○				1					
	観光と宗教	2・3・4前		2		○			1						
	観光資源解説方法論	2・3・4前		2		○			1						
	世界遺産論	2・3・4前		2		○			1						兼1 オムニバス
	文化財論	2・3・4後		2		○			1						
	観光まちづくり論	2・3・4前		2		○			1						
	エコツーリズム論	2・3・4前		2		○			1						
	コミュニティツーリズム論	2・3・4前		2		○			1						
	アーバンツーリズム論	2・3・4後		2		○				1					
	環境計画論	2・3・4後		2		○			1						
	旅行ビジネス論	234前・後		2		○			1						
	観光交通論	2・3・4後		2		○			1						
	航空産業論	2・3・4前		2		○									兼1
	宿泊産業論	2・3・4前		2		○			1						
	観光企業論	2・3・4後		2		○			1						
	ホスピタリティ産業論	2・3・4後		2		○			1						
集客産業施設運営論	2・3・4前		2		○			1							
観光情報論	2・3・4後		2		○				1						
観光会計論	2・3・4後		2		○			1							

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門 発展 科目	アジアの地域と観光	2・3・4前		2		○									兼1	オムニバス
	アメリカの地域と観光	2・3・4後		2		○									兼1	
	ヨーロッパの地域と観光	2・3・4前		2		○			1							
	オセアニアの地域と観光	2・3・4後		2		○									兼1	
	アフリカの地域と観光	2・3・4前		2		○									兼1	
	民間協力 (NPO/NGO) 論	2・3・4後		2		○			1							
	国際平和論	2・3・4前		2		○			1							
	国際協力論	2・3・4後		2		○			1							
	国際観光学特講 1	2・3・4前		2		○			1							
	国際観光学特講 2	2・3・4前		2		○			1							
	国際観光学特講 3	2・3・4前		2		○			1							
	国際観光学特講 4	2・3・4後		2		○			1							
	国際観光学特講 5	2・3・4後		2		○			9	4						
	国際観光学特講 6	2・3・4前		2		○			1							
	国際観光学特講 7	2・3・4後		2		○				1						
	国際観光学特講 8	2・3・4後		2		○									兼1	
	国際観光学特別演習 1	2・3・4前		2			○		1							
	国際観光学特別演習 2	2・3・4前		2			○		1							
	国際観光学特別演習 3	2・3・4前		2			○		1							
	国際観光学特別演習 4	2・3・4前		2			○		1							
	英語観光研究	3・4前		2		○			1							
	韓国語観光研究	3・4前		2		○			1							
	中国語観光研究	3・4前		2		○			1							
	観光調査法	1・2・3・4前		2				○		1						
	観光実習 1 (国内)	2・3・4通		4				○	1							
	観光実習 2 (海外)	2・3・4通		4				○	1							
観光実習 3 (国内)	2・3・4通		4				○	1								
観光実習 4 (海外)	2・3・4通年		4				○	1								
小計 (51科目)		—	0	110	0	—		12	4	0	0	0	0	兼7	—	
学部 自由 選択 科目	ミュージアム論	1・2・3・4前		2		○			1							
	アジアの美術	2・3・4後		2		○									兼1	
	文化地理学	1・2・3・4通		4		○									兼1	
	現代地理学	1・2・3・4通		4		○									兼1	
	日本地誌学a	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	日本地誌学b	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	世界地誌学a	2・3・4前		2		○			1							
	世界地誌学b	2・3・4後		2		○			1							
	日本文化史a	2・3・4前		2		○									兼1	
	日本文化史b	2・3・4後		2		○									兼1	
	日本史概論 1	1・2・3・4後		2		○			1							
	日本史概論 2	1・2・3・4通		4		○									兼1	
	西洋史概論	1・2・3・4通		4		○									兼1	
	東洋史概論	1・2・3・4後		2		○			1							
	法学概論 1	1・2・3・4前		2		○									兼1	
	法学概論 2	1・2・3・4後		2		○									兼1	
	ミクロ経済学	2・3・4前		4		○									兼1	
マクロ経済学	2・3・4前		4		○									兼1		
日本経済論 1	2・3・4前		2		○									兼1		
日本経済論 2	2・3・4後		2		○									兼1		

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部自由選択科目	国際経済学	2・3・4前		4		○									兼1	
	哲学概論	2・3・4通		4		○									兼1	
	倫理学概論	2・3・4通		4		○									兼1	
	対人コミュニケーション心理学	2・3・4前		2		○									兼1	
	環境倫理学	2・3・4前		2		○			1							
	国際社会と人間	2・3・4後		2		○									兼1	
	小計(26科目)	—	0	70	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	兼14	—
学科科目 観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1	1・2・3・4前・後		2		○				1						
	英語コミュニケーション2	1・2・3・4前・後		2		○				1						
	英語アドバンスト・コミュニケーション1	1・2・3・4前・後		2		○				1						
	英語アドバンスト・コミュニケーション2	1・2・3・4前・後		2		○				1						
	メディア・イングリッシュ1	1・2・3・4前・後		1		○				1					兼4	
	メディア・イングリッシュ2	1・2・3・4前・後		1		○				1					兼4	
	プレ留学英語	1・2・3・4前		2		○				1						
	英語プレゼンテーションa	2・3・4前		1		○				1						
	英語プレゼンテーションb	2・3・4後		1		○				1						
	英語ビジネスa	2・3・4前		1		○				1						
	英語ビジネスb	2・3・4後		1		○				1						
	英語プロフェッショナル・トレーニングa	2・3・4前		1		○				1						
	英語プロフェッショナル・トレーニングb	2・3・4後		1		○				1						
	メディア・イングリッシュ3	2・3・4前後		1		○									兼4	
	メディア・イングリッシュ4	2・3・4後		1		○									兼4	
	メディア・イングリッシュ5	3・4前		1		○									兼1	
	メディア・イングリッシュ6	3・4後		1		○									兼1	
	ポスト留学英語	3・4後		2		○				1						
	韓国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○									兼3	
	韓国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○									兼3	
	韓国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○									兼1	
	韓国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○									兼1	
	韓国語ビジネス1	2・3・4前		2		○									兼1	
	韓国語ビジネス2	2・3・4後		2		○									兼1	
	中国語コミュニケーション1	1・2・3・4前		2		○									兼4	
	中国語コミュニケーション2	1・2・3・4後		2		○									兼4	
	中国語コミュニケーション3	2・3・4前		2		○									兼1	
	中国語コミュニケーション4	2・3・4後		2		○									兼1	
	中国語ビジネス1	2・3・4前		2		○									兼1	
	中国語ビジネス2	2・3・4後		2		○									兼1	
	基礎日本語読解	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	基礎日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○									兼1	
	基礎日本語レポート	1・2・3・4通		2		○				1						
実力日本語読解	1・2・3・4通		2		○									兼1		
実力日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○				1							
実力日本語レポート	1・2・3・4通		2		○									兼1		
大学日本語読解	1・2・3・4通		2		○				1							
大学日本語聴解発話	1・2・3・4通		2		○									兼1		
大学日本語レポート	1・2・3・4通		2		○									兼1		
総合日本語	2・3・4通		2		○									兼1		
実用日本語	3・4通		2		○									兼1		
ビジネス日本語1	2・3・4通		2		○				1							
ビジネス日本語2	3・4通		2		○				1							
小計(43科目)	—	0	74	0	—	—	—	1	1	0	0	0	0	兼13	—	

教育課程等の概要

(国際観光学部国際観光学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
合計 (263科目)		—	18	538	0	—			13	4	0	0	0	兼126	—
学位又は称号		学士 (国際観光学)		学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
一般教育科目30単位以上、学科科目72単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計124単位以上修得すること。 一般教育科目のうち、「情報とメディア」群から2単位以上、「人間と文化」群から8単位以上、「歴史と社会」群から8単位以上、「自然と環境」群から4単位以上、「健康とスポーツ」群から4単位以上を修得し、「言語と文化」群、基盤教育科目および自由選択科目を合わせて合計30単位以上を修得すること。 学科科目のうち、入門科目から4単位、専門基礎科目から4単位以上、専門演習科目から14単位、専門基幹科目から12単位以上、全員が履修しなければならない全員履修科目と専門発展科目から16単位以上、観光コミュニケーション科目から12単位以上を修得し、自由選択科目を合わせて合計72単位以上を修得すること。 なお、履修制限単位数は以下のとおりとする。 1年次48単位、2年次48単位、3年次48単位、4年次48単位							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群 スペイン語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、通用範囲の広い言語であることをふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして講義を行う。「スペイン語1」ではスペインを取り上げ、現地の人々と関わり、安全かつ自由に旅ができる語学力を修得する。まず、文字と音の関係を知り、正しく発音できるようになり、基本的な日常会話としての挨拶やお礼、お願い等の表現を学ぶ。さらに、様々なシチュエーションを設定することによって、個々の場面で行われる会話と表現の仕組み(文法)を知ること、スペイン語の本質を理解する。具体的には、挨拶、数詞、名詞の性と数、名詞句の作り方、数量表現、数量表現を伴った名詞句の作り方を学ぶ。	
一般教育科目	語学群 スペイン語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」での成果をふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして物事を簡単にスペイン語で説明できることや、スペインの地理や見どころをスペイン語で理解する語学力修得のための講義を行う。具体的には、動詞serを用いて持ち物の所有者を伝えるスペイン語作文、動詞ser・estar・hayと疑問詞、行為を表す動詞とスペイン語作文、「助動詞+原形」で希望や予定を伝える、希望・依頼・予定についてのやりとり等について修得する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」での成果をふまえ、中南米(特にペルー)を取り上げ、安全で充実した旅行をクリエイトするための基本的な会話力を修得するための講義を行う。特に、人称代名詞を駆使してよりの確かなスペイン語表現を作り、辞書を用いて簡単な文章の読解力を体得する。具体的には、単人称文、気象表現、比較構文、目的格人称代名詞、目的格人称代名詞の併用、再帰表現、人称代名詞と動詞の関係、スペインのスペイン語とアメリカ地域のスペイン語の違いを講義する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」「スペイン語3」での成果をふまえ、日本国内を取り上げ、スペイン語圏から日本を訪れている旅行者への旅のサポートができるスペイン語力を修得するための講義を行う。特に、日本とスペイン・中南米の歴史に共通する「道(熊野古道・サンティアゴ巡礼路・インカ道)」について学ぶことで、その本質を理解しスペイン語での説明できるスキルを修得する。講義では、旅の場面を想定した会話構文について学ぶと共に、命令形、進行形と完了形、点過去、線過去、未来形、過去未来形、接続法現在について解説する。	
一般教育科目	語学群 ドイツ語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語の言語的な背景をはじめとして、初修ドイツ語としてドイツ語の基礎となる動詞および冠詞の変化をマスターすることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。そのために、基礎的な文法知識および(受講生にとって身近な物事を表す)基礎単語を修得する。具体的には、アルファベットと発音、sein、決まった変化をする動詞、変わった変化をする動詞、haben・werden・wissen、定冠詞、定冠詞類について学ぶ。	
一般教育科目	語学群 ドイツ語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」での成果をふまえ、初修ドイツ語として前置詞や助動詞などを学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。具体的には、不定冠詞、不定冠詞類、人称代名詞、前置詞、助動詞を学ぶ。最後にここまでの学びを通して習得したドイツ語を使って会話練習を実施する。	
一般教育科目	語学群 ドイツ語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、受講生がドイツを旅行する設定で使用するであろう様々な状況を想定し会話を行う。会話でよく使われるフレーズのうち、とくに旅行中に使用する頻度が高いと思われるものを紹介し、それらのフレーズを文法的に解説する。受講生は、これらのフレーズを含む会話文をくりかえし声に出して読むことで、発音をマスターすると共にフレーズを暗記していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 語学群	ドイツ語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語 1」「ドイツ語 2」「ドイツ語 3」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、様々なシチュエーションを設定することで、会話文を修得する。具体的には、買い物、切符の購入、服の購入、ホテルでの宿泊、別れのあいさつ等の場面における会話をマスターする。	
一般教育科目 語学群	ドイツ語 5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語 1」「ドイツ語 2」「ドイツ語 3」「ドイツ語 4」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験 4 級程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。これまで学んだドイツ語の初級文法の知識について復習しながらドイツ語力を高めていく。具体的には、発音・アクセント、動詞の人称変化、名詞・代名詞の変化、語順、前置詞と疑問詞、応答、図表の読解、会話文の読解、会話文の聞き取り、文章の聞き取り等を講義する。	
一般教育科目 語学群	ドイツ語 6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語 1」「ドイツ語 2」「ドイツ語 3」「ドイツ語 4」「ドイツ語 5」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験 3 級を目指せる程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。具体的には、語彙、動詞・冠詞についての文法の基礎についての復習を行い、動詞の 3 基本形、分離動詞と再帰動詞、受動態、接続法、zu 不定詞句、形容詞、関係詞代名詞と接続詞、手紙および会話文の読解、長文読解等を講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス語の言語的な背景をはじめとして、初修フランス語として基礎的な発音や文法構造の修得を目標に簡単な短文の読解も含め講義する。アルファベから始まってフランス語の文法の基本的な事項についてまんべんなく、複合過去までを講義する。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、フランス語のつづり字と発音、名詞の性と数、数詞、不定冠詞、定冠詞、形容詞の性・数の一致、第一群規則動詞、所有形容詞、疑問文、形容詞の位置、形容詞の女性形と名詞の複数形、否定文、指示形容詞、定冠詞の縮約、近い過去・近い未来、疑問代名詞、疑問副詞、中性代名詞について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」での成果をふまえて、初修フランスとして必須となる発音発音や文法構造の修得へ向けた講義を行う。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、部分冠詞、数量表現、中性代名詞en、非人称構文、命令形、疑問形容詞、比較級、最上級、指示代名詞、数詞2、補語人称代名詞、代名動詞、複合過去形について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、主語人称代名詞、etreの直説法現在、国籍・身分・職業、不定冠詞、名詞の性と数、形容詞の性と数、avoirの直説法現在、定冠詞、-er 型動詞の直説法現在、否定文、指示形容詞、faire/descendreの直説法現在、疑問文、aller/venir の直説法現在、前置詞と定冠詞の縮約、命令形、所有形容詞、強勢形人称代名詞、疑問形容詞について講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、部分冠詞、-ir型動詞の直説法現在、vouloirの直説法現在、非人称構文、直接目的語の人称代名詞、pouvoir の直説法現在、prendre の直説法現在、間接目的語の人称代名詞、近接未来、近接過去、中性代名詞、比較級、最上級過去分詞、直説法複合過去 (1) (2) について講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	フランス語 5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」「フランス語 4」で講義した内容をふまえ、フランス語の文法事項の確実な定着と発展的な内容を学ぶ。さらに中級程度の会話文の総合的、実践的な運用力の獲得をめざし、まとまった文章に慣れ親しみ、その読解と表現を学ぶことによって、フランス語の言語学的な構造や特徴を理解する。併せて、言語のみならずフランスやフランス語圏の風土、生活習慣、発想、社会や地域の特徴や最新事情への等についての知識の体得と共に理解を深める。	
一般教育科目	語学群	フランス語 6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語 1」「フランス語 2」「フランス語 3」「フランス語 4」「フランス語 5」で講義した内容をふまえ、実践的なフランス語の知識と運用能力を高めるために、新聞記事、シャンソン、シナリオ、民話など幅広いジャンルについて、修得したフランス語を使って学ぶ。加えて、手紙や日記など簡単なフランス語で表現することも学ぶ。具体的には、新聞記事のコラムを読む、シャンソンのフランス語、映画シナリオのフランス語、民話を読む、フランス語で手紙や日記を書く、長文読解について講義する。	
一般教育科目	言語圏研究	コリア語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国の歴史と文化の理解を図ると同時に、近年注目されている韓流について講義する。特に、韓国の概要、歴史、社会、文化を中心に日本のそれと比較しながら、韓国の「現在」を学ぶ。さらに、韓国の若者の文化や事情について学ぶことで、日本の現在の若者の動向について理解を深める。具体的には、韓国の生活様式（食文化・住居文化・服飾文化）の観点から講義し、さらに、韓流考察としてドラマ、映画、K-POPを通して、現代韓国の世界的な戦略を学ぶ。それらを通して、文化的な交流や半島の歴史を概観し、将来的な日韓関係について理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究	コリア語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界のコリアン」に注目しながら、「在日コリアン」に注目し韓国社会について講義する。併せて、断片でしか知ることのない「北朝鮮」の素顔について紹介すると共に韓国人による北朝鮮観について講義する。これらをふまえて、世界で活躍するコリアンの現状や課題などについても学ぶ。具体的に本授業では、在日コリアン、在外コリアン、韓国の政治・経済・若者事情について学ぶ。さらに、韓流の映画やドラマの社会的社会的背景をふまえた鑑賞方法や、作品を通して見えてくる韓国社会の縮図について講義する。加えて、日本では認知度の低い韓国の宗教や伝統芸能についても講義する。	
一般教育科目	言語圏研究	スペイン語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、スペイン語圏研究としてスペイン本国について講義する。スペインは、公用語であるスペイン語のほか、バスク語・カタルーニャ語・ガリシア語等の複数の言葉が話され、宗教もキリスト教に加え、ユダヤ教・イスラム教、それに連動するそれぞれの信仰を基盤とした文化形成と共に、ギリシャ・ローマ・カルタゴに代表される古代都市文化が形成された国である。多様な地域や時代の文化が流入することで、スペインは、独特の文化が形成されていることを学ぶ。具体的には、政治・経済・民族・宗教・文化（世界遺産・建築・文学）等の観点からスペインを学び、理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究	スペイン語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、かつてスペインの植民地であった中南米について講義する。カステールリャスペイン語から現在の中南米式スペイン語になった経緯を学ぶことで、スペイン語圏である中南米諸国についての理解を深めるにあたっては、政治・経済・移民・宗教・スポーツ・音楽・芸術等の観点から講義する。併せて、中南米に形成された文化と世界遺産を取り上げることで、ラテンアメリカについての文化的な理解を深め、グローバルゼーションの中で中南米世界の人々と、どのような関係を創り上げる必要があるのかを学ぶ。	
一般教育科目	言語圏研究	ドイツ語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語圏の文化を、おもに歴史的な観点から概観し、その源流を知ることで現代ドイツ文化への理解を深める。とりわけ、日本では「ドイツ」というと、ナチスや環境問題、サッカーなど、特定のテーマでのみ取り上げられることが多く、その文化に対する偏見を助長していると思われるため、この授業では、メディアにあまり取り上げられないテーマにも力点を置く。また、各授業の軸としては歴史的な事柄を扱うが、適宜、受講生が旅行や留学を通じて実際に触れることのできる「現代ドイツ」の姿も紹介する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 言語圏研究	ドイツ語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生にとって身近なマンガ文化を通じて、ドイツ語圏における大衆文化やドイツ人のメンタリティを理解する。日本とは対照的に、ドイツ語圏においては独自のコミック文化が発展しておらず、国外からの輸入コミックによって市場が成り立ってきた。そして、1990年代末以降におきた「マンガ・ブーム」によって、日本のマンガ文化がドイツ語圏に定着した。この授業では、日本の一文化がドイツ語圏に根付いたこの一例を考察することで、ドイツ語圏における文化形成の過程や日独の文化の相違を明らかにすることを目標とする。	
一般教育科目 言語圏研究	フランス語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国をとりあげ、起伏に富む風土と多様な地域性、複雑な民族的起源から解き明かし、多面的な魅力をもつフランスについて歴史、政治、宗教、日常生活、ワインに代表される食文化や芸術文化、モードやファッション産業の隆盛、フランスでの日本のマンガ・アニメブームに代表されるクールジャパンや日仏の文化交流にいたるまで、フランスの社会と文化の諸相について概説する。その学びの中で、グローバル化によって変動する今日のフランス社会における移民・難民・外国人問題・少子化対策や家族観などについても理解を深める。	
一般教育科目 言語圏研究	フランス語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国以外の世界のフランス語圏の国と地域について、近年の世界状況にも注目しながら、各々の社会や文化の特徴と諸問題について解説し理解を深める。まずカナダの仏語圏について、多民族の共存と多文化主義、先住民問題などについて詳しく学ぶ。特に、フランス系住民を擁し、独自の社会と文化を開花させたケベック州については詳しく解説する。その他、カナダのアカディアと呼ばれていた地域やルイジアナなど北米のフランス語圏、欧州における仏語圏であるスイスやベルギーの国の成り立ちと社会の特徴について概説する。さらにカリブ海地域やアフリカの仏語圏についての理解と、「クレオール」についての文化研究の導入も行う。	
一般教育科目 言語圏研究	英語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義を傾聴してグループ・ディスカッションを行い意見を提出してもらう。 自分自身の中の文化とは何かをイントロダクションとし、英語圏における様々なジャンルの文化を学んで、知識と視野を広げ、思考力を深める。具体的には、英語圏における音楽・芸術・宗教・食・文学・歴史・哲学・スポーツ・演劇・テレビ等をテーマに講義を行った上で、グループ・ディスカッションをふまえて、最後に各グループの意見を提出させることで、自主性と発信力を強化する。また、任意参加で口頭発表もしくは文書でのプレゼンテーションを行ってもらう。	
一般教育科目 言語圏研究	英語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、講義を傾聴してグループ・ディスカッションを行い意見を提出してもらう。 英語圏における様々なジャンルの文化を学ぶことで、知識と視野を広げ、思考力を深める。具体的には、前半は、音楽・文学・映画・ミュージカル・ダンス・旅行について学ぶ。後半は、アメリカ文化・イギリス文化・カナダ文化・オーストラリア文化・マンガとアニメ・YouTubeについて学ぶ。それぞれジャンルごとの文化を学び、テーマについてのディスカッションを重ね、意見を言語化させる。また、任意参加で口頭発表もしくは文書でのプレゼンテーションを行うことで、自主性と発信力を強化する。	
一般教育科目 言語圏研究	現代日本事情a	本科目は、講義科目兼実習科目(リレー形式)である。 本科目では、留学生が単に日本の社会や文化等の理解を得るためだけでなく、日本滞在中の生活を充実したものにするために体験実習を取り入れている。本科目を一つの手がかりに専門的な学びや日本社会につながることを期待する。具体的には、以下の内容である。 (オムニバス方式/全15回) (32 中山恵利子/6回) はじめに(ガイダンス)・春の行事/食文化/就職/夏の行事・おわりに (64 渡辺 和之/2回) 農業①座学/農業②田植え【フィールド体験】 (44 村上 雅俊/1回) データから日本を見る (37 堀内 史郎/1回) 野生動物【フィールド体験】 (53 大谷新太郎/1回) 冠婚葬祭 (52 池田 雄二/1回) 日本国憲法 (24 来村多加史/1回) 神社—お参り【フィールド体験】 (28 清水苗穂子/1回) 世界遺産 (20 和泉 大樹/1回) 博物館	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 言語圏研究	現代日本事情b	<p>本科目は、講義科目（リレー）である。 本科目では、留学生が日本の社会や文化等について総合的な理解を得るための講義を行う。本科目を一つの手がかりとして、専門的な学びへの視点を考察する。具体的には、以下の内容を講義する。 (オムニバス方式/全15回) (32 中山恵利子/6回) はじめに ガイダンス・秋の行事／着物【フィールド体験】／武道【フィールド体験】／おわりに (64 渡辺 和之/1回) 農業 稲刈り【フィールド体験】／農業 収穫祭【フィールド体験】 (24 来村多加史/1回) お寺【フィールド体験】 (28 清水苗穂子/1回) ホスピタリティ (47 山内 孝幸/1回) テーマパーク (43 三好 哲也/1回) AI（人工知能） (33 西 洋/1回) 経済 (56 新谷 雅美/1回) アニメ (59 細川 裕史/1回) 将棋【フィールド体験】 (30 高橋 慎二/1回) ものづくり【フィールド体験】</p>	オムニバス方式
一般教育科目 言語圏研究	中国語圏研究a	<p>本科目は、講義科目である。 本科目では、アジア世界および日本との関係を理解するために、それぞれの歴史や時事問題、文化など多方面から考察する。具体的には、歴史的視点から美的感覚や服飾文化、生活様式等の変遷をもとに、現代にまで継承される固定観念と社会背景を学ぶ。併せて中国での大きな変革となった文化大革命や天安門事件における検証や、現代中国が抱える香港・台湾問題の本質を理解する。さらに、「文化の架け橋」としての遣唐使、アニメや漫画等についてそれらがどのように中国と日本をつないでたのかを講義する。</p>	
一般教育科目 言語圏研究	中国語圏研究b	<p>本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語圏を中心として、多民族・多文化社会における共生・共創のために、様々な視点をもとに、日本との対比のみならず、世界全体から問題を俯瞰する視野を養う。それによって、「自分だけの意見」を探る。具体的には、歴史的視点から食文化、音楽、伝統楽器、漢字について学ぶと共に、チャイナタウン、華僑・華人社会、現代中国の民族問題として、チベット・新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区と国際社会との関係や、中国・日本・世界全体の少数民族・人口問題への理解を深める。</p>	
一般教育科目 人間・文化研究群	外国文学a	<p>本科目は、講義科目である。 本科目では、ウィリアム・シェイクスピアの2つの劇作品『ロミオとジュリエット』と『夏の世の夢』を中心に講義する。併せて、複数の映画や舞台などの映像を参考にしながら、シェイクスピア作品を詳しく読み解き、彼の詩の魅力、劇作術、時代背景を学ぶ。またシェイクスピアの作品が、世界中の映画や舞台で繰り返し演じ続けられていることをふまえ、それらを通して現代という時代をも考察する。特に、受講生はストーリーを追うだけでなく、行間を丁寧に読むことで、そこに潜む文化的背景や豊かな言葉の表現力を理解する読解力を修得する。授業を通して、シェイクスピアの魅力、イギリス文化、さらには我々自身の文化への理解を深める。</p>	
一般教育科目 人間・文化研究群	外国文学b	<p>本科目は、講義科目である。 本科目では、1564年から1616年まで生きたウィリアム・シェイクスピアが捉えた時代や文化について講義する。講義では、理解しづらくなったシェイクスピア作品の文化的背景の一端を理解することと、シェイクスピアを通して自分自身の文化的背景への再認識を行う。シェイクスピアの最大の魅力である「ことば」について、その魅力の一端を理解できるような原文も参照しながら講義する。具体的には、『ヴェニス商人』、『マクベス』及びクリストファー・マーロー著『タンバレイン大王』、『マルタ島のユダヤ人』等を通して、マーローとシェイクスピアのことばについて探求する。併せて、時の歴史的背景や文化史を学び、日本文化との関わりにも目を向け、シェイクスピア時代の劇場（グローブ座）と、日本の伝統的舞臺である能舞臺とを比較し、さらに日本におけるシェイクスピア劇の演出について学ぶ。</p>	
一般教育科目 人間・文化研究群	教育学a	<p>本科目は、講義科目である。 本科目では、教育学についての論理と思想を、「教育とは何か」「教育の理論と法則」「教育の歴史と思想」の3つの視点から教育学の論理と思想に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、教育とEducation、教師という職業、教育と再生産、異文化理解教育、教育思想、教育と国家等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえ、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の論理と思想に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	教育学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育学についての方法と現代的課題を、「人権としての教育」「教育方法」「現代の教育問題」の3つの視点から教育学の方法と現代的課題に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、人権と教育、教育とジェンダー、道徳教育、多文化教育、いじめ、教育の「機会均等」と「結果の平等」等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえ、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の方法と現代的課題に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①データをもとに、自分自身の「心」に迫る。 ②「書く」ことにより、自分自身の「心」の状態を表現する。 ③本授業で扱った用語およびその意味を理解する。 <p>講義では、(1)自分自身の「心」に迫るために必要なことと代表値(統計)に関する内容(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)と、(2)自分自身の「心」に関する内容の理解および内容に関連した課題演習(パーソナリティ・自身の対人関係のあり方)について学び、自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①データをもとに、青年期に位置する自分自身の「心」に迫る。 ②「書く」ことにより、青年期に位置する自分自身の「心」の状態を表現する。 ③本授業で扱った用語およびその意味を理解する。 <p>講義では、(1)青年期に位置する自分自身を理解するための手がかり(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)及び生涯発達の中における「青年期」の理解と、(2)生涯発達における「青年期」に位置する自分自身について理解(心の健康に関する内容を含む)し、アイデンティティ(自我同一性)や自己効力感、ストレス等について学び、青年期にある自分自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学の観点から講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。 ②最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。 ③基本的な地理学用語を学ぶ。 <p>各種の統計データを読み取ることにより、現在の世界・日本の経済状況を把握する。具体的には、以下のトピックを扱って講義を行う。人口、スポーツの地理学(プロ野球とJリーグ・WBC・FIFAワールドカップ・オリンピック)、世界の農牧業地域、日本の農牧業と林業、世界と日本の水産業、世界のエネルギー・鉱産資源、工業立地と世界の工業、日本の工業地域、日本の第三次産業、国際機構と地域の結びつき、貿易(各国の結びつき・日本と他国の結びつき)を講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学に歴史地理学の視点を付け加えた講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。 ②最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。 ③基本的な地理学用語を学ぶ。 <p>本講義では、日本をテキストとして、地理学的考察を通して具体的に講義は、以下のトピックを扱って行う。地形図とは、地形図の読み方、自然環境を読む、古代の都(奈良)と門前町(伊勢)、港町(堺)と寺内町(富田林)、城下町(大和郡山)と宿場町(草津)、近世大坂の土地開発、田園都市(甲子園)、ニュータウン(千里)、観光・リゾート開発、地形図にみる環境問題について講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	哲学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、哲学の根本問題の一つである「自分・自己」について、哲学者や作家、詩人の考え方などを参考にしながら、多面的に講義する。それによって、受講者が「哲学とはどのような学問なのか」「哲学を学ぶことによって何が得られるのか」「哲学を学ぶ意味がどこにあるのか」といったテーマを理解し、哲学を学ぶ楽しさや魅力に気づき、哲学が身近なものであることを学ぶ。本講義を通して自分について考え分析し、自分の望み等について哲学的に自己省察するための学びを修得することで、大学生として何をすべきか、どのように生きるべきかということと「自己の問題」と関連させながら自己理解を深める。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	哲学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、受講者が、「哲学とはどのような学問なのか」「哲学を学ぶ意味とは何か」といった問題について理解を深め、哲学に興味をもって考えられるようになるための講義を行う。具体的には、人間が、生きることに於いて、生きつつ同時に生きるということについて考えて生き、生の意味を問う意識的、言語的存在であるという点において、他の動物とは異なる特色を持つことを理解する。これゆえに、人間の生はしばしば容易には理解しがたい側面や、不可思議な姿を示すことになる。人間が生きて、考えることが一体どのような意味を持つものかを原理的に考え直すことを学ぶ。特に、自己と他者、生と死といった諸問題を哲学の観点から考察することを通じて、人間が生きて、考えることの意味を講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	日本文学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本文学の作品を読む楽しさを知るための講義を行う。「読む」とは作者が紡いだ「ことば」の意味を读者が理解できるようになることである。読むことで作品における無数の情報を統合し、理解を深める読書法を修得する。講義では、近代文学における子供や学生を主人公したり、学校を舞台とした短編小説を扱う。書かれた時代の社会や文化を踏まえ、しっかりと問題点を整理する読者となることで、作者すら思いも寄らなかった魅力を引き出せるスキルを修得する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	日本文学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、近代文学の作品を通して、時代背景と絡ませながら、分析的に読み、その作家や作品が時代に何を訴えかけていたかについてを中心に講義する。特に日本の近代文学史の変容と文化的な背景を把握する。その上で、作品における問題点の所在を確認し、同時代状況との照合を試みる。様々な社会的文脈から解釈の可能性を探り、読んだ作品から、今日に連なる近代という時代の社会や文化を理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	文化人類学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、フィールドワークで自己を開くことをテーマに、異文化への対応のあり方としてのフィールドワークの多様性と時代的な変遷を解説し、そうしたフィールドワークの調査、記述方法を、具体例をあげながら紹介する。それと併行して、そうした調査、記述方法を用いて授業の参加者自身が課題をこなしつつ「自己(自分の身の回り)をフィールドワークする」機会を設ける。身近な生活文化を見直し、アクティブ・ラーニング的な課題のアウトプットを通して、受講者の自己を開き、共生のための実践力を涵養する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	文化人類学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、人類の根源を考えることをテーマとして、人類にとっての文化や意味の世界のあり方を理解し、意味と結びつく自己のあり方について講義する。文化人類学が、異文化(他者)の「訳のわからなさ」の理解と、自文化(自己)のあり方を問い直してきた学問であることをふまえ、授業では、今の私たちから見て訳のわからない伝統文化や異文化の慣習を取り上げ、それらの社会における意味や自己のあり方を考え、私たちが異なるかたちで似たようなことをしていないかについての理解を深める。	
一般教育科目	人間・文化研究群	倫理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「人間の生き方」や「社会のあり方」について、幸福・義務・徳・道徳といったといった倫理学の観点から、キーワードごとに講義する。具体的には、倫理学の歴史の概観(前近代・近代以降)、幸福論、義務、徳、道徳判断、道徳等の観点から、これらの話題に対して、様々な哲学者・倫理学者の考えをもとに学ぶ。さらに彼らがどのような時代に、どのように考えたかを正しく把握し、自分なりに考えをまとめるスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	倫理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会のあり方」について、市民社会、医療、環境、ビジネスなどの視点から講義する。そこでは、いわゆる生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理といわれる分野を扱う。そして、それを「人間の尊厳」「自由」「動物の尊厳」等の倫理学の概念によって把握する。具体的には、応用倫理学の諸問題、自己と他者、個人と社会、正義・自由・平等、医療現場での生命倫理、環境倫理について講義を行う。個々のテーマにおいて、何が問題となっていて、倫理学はそれをどのように考えるのかを正しく知り、受講生は自分の考えをまとめられる思考のスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群	論理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の思考の原理、思考の規則をテーマとする。私たちは物事を考えるときに、ある一定の規則にしたがっている。規則や、それに従った思考の方法について学ぶのが論理学である。論理的な思考を身につけ、正しい思考と誤った思考を見分けることができるようになることで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。本講義では、伝統的論理学の基礎を扱う。具体的には、概念、定義、命題の区分、そして、推理のさまざまな形である。これらを学ぶことによって論理的思考を身につける。論理学では、当たり前のように使用している言葉や文章について、それぞれの形の違いを厳密にとらえるスキルを修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	論理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、論理的思考力の育成をテーマとする。特に、公務員試験やSPIにも出題される論理学（判断推理の論理に関する部分）の問題を導入として、論理的思考について講義する。命題・集合など論理学についての問題を中心に扱うと共に、対応関係・順序関係・ウソつき問題・パズル問題を実践的に解いてみることで、論理的な思考力を身に付ける。なお、論理学を学ぶことで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	経済学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済学の基本的な考え方について、過去の経済学者たちの学説の検討を通じて学び、現代の経済において最も基本的な経済的制度である分業と市場について講義する。生産と消費を分離することで豊かさを高めている現代経済の基礎的部分を理解し、経済の成長メカニズム、経済諸主体の間での所得の分配ルールを把握する。さらには、一国の豊かさを決める要因や市場と国家との関係の問題等について修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	経済学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代資本主義における制度的特徴、およびそれが生まれてきた制度変化のプロセスについて講義する。具体的には、産業構造の変化やそれにもなう経営形態の変化、そしてさらには市場の形態の変化や、利潤の源泉の変化などがその事例となる。そのような変化の中で、市場のメカニズムのあり方や会社と経営者、株主、労働者との関係なども大きく変化する。また、人々の自由な経済活動に政府が介入するべきか否か、といった問題も議論されるようになる。受講者は、過去の経済システムの変遷とそれの分析を試みた経済学の発展過程との関連を理解し、我々が生きている現代の資本主義経済がどのようなシステムであるか把握する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	現代史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、天皇・議会政治・憲法・政党・軍部をキーワードとして、現代に直接つながる近代日本の歴史、特に、明治から昭和戦前の時代を中心に講義する。具体的には、開国から太平洋戦争の敗戦に至るまでの日本の近代史がたどった正（近代国家の早期建設と普通選挙による一定のデモクラシーの実現）と負（対外侵略や排外主義の横行、女性の政治からの排除）の両側面を示し、なぜそうなったのか写真や映像資料を交えた講義を行う。受講者は、授業で提示する情報をふまえて、自らが個々の事象についての判断ができる教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	現代史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法・冷戦体制・高度経済成長・55年体制・バブル経済・グローバリゼーションをキーワードとして、戦後を中心に太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の現代史がたどった、正（日本国憲法／日米安保体制による平和の実現、敗戦からの素早い立ち直り、高度成長に伴う国民生活の改善と国際的地位の向上）と、負（戦後処理問題の残存、急激な発展に伴う環境破壊、少子高齢化とここ30年間の経済及び社会の停滞）の両側面について講義する。講義を通して、敗戦直後から現代に至るまでの日本社会を中心とする歴史の概要を正確に理解し、その知識を用いて説明できる教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	社会学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会的行為と集団」をテーマとする。社会学とは何か、社会学のはじまりと社会学的思考、社会科学としての社会学等の理解をふまえて、社会学へのアプローチを行う。具体的には、社会学の各領域と関連諸科目、社会的動物としての人間・社会化、人間と社会的行為、T. パーソンズとM. ヴェーバーの社会的行為、社会的行為と規範・文化、社会集団の要件、二人集団と三人集団、ゲームシヤフトとゲゼルシヤフト、社会集団と倫理、社会のゆらぎと社会変動、社会変動の原因と結果について講義する。社会学の基本的概念を学ぶことで、社会化・社会的行為・規範・集団・社会変動などの基本的概念について修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	社会学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会的制度や構造（家族・都市・職業・階層・宗教・政治・マス・コミ・福祉等）について講義する。受講者は、家族と結婚（家族とは・家族の機能・配偶者選択と家族の構造）、職業の概念と職業選択、都市と都市病理（都市の特性・都市の内部構造と都市計画）、社会階層と社会移動（階層・学歴主義・教育格差・社会的格差）、政治権力と民主主義（権威主義と民衆の行動・状況の圧力・正当性の概念・既成事実化）、宗教と社会（日本の宗教構造・若者の宗教行動と新新宗教）、マス・コミと擬似環境、高齢社会と福祉の観点から社会学という研究と学びへの理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	人権問題論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、各自が当事者である<性>の問題を入口にして、相互に異なる生き方を承認しあえる関係を取り結ぶ方法と課題について、女性、男性、間性をはじめとする性的少数者の人権と共生の在り方を探りながら、多面的に講義する。社会構造および人間関係の急速な変化によって、人々の個人化、価値観の多様化が指摘される。そうした中で誰もが当事者である(独自の関わり方を日々生きている)性の問題を、他者の生き方・価値観の尊重＝共生という視点から問題とする「性と人権」について学ぶと共に、理解を深める。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	人権問題論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、部落問題を語るときに屢々用いられてきた「いわれなき差別」という表現で暗示されている事柄と、そこから開示展開されるべき問題、人権についての認識を豊かにすること目的として講義する。具体的には、生物学者である柴谷篤弘氏の反差別論-人権論の一端を紹介し、それとの関連で障害者問題と部落問題とを取り上げる。さらに、日本文化論としての「生産-労働の歴史」の視点をもふまえ、キョメーケガレ幻想への理解を深め、サベツにかかわる「恣意性」「根拠」「利益」などの問題や、格差社会が進行する現代日本の問題を考え直す知識を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	政治学a	本講義は、講義科目である。 本講義では、メディアやネットを通じて私たちが触れるさまざまな政治現象について講義する。具体的には、政治と権力(権力の諸類型)、国家(近代国民国家の生成と構造)、政治システム、立法府、集権と分権、選挙、マス・メディアと世論、政党と政党システム、多元主義とネオ・コーポラティズム等の観点から講義を行う。政治について知り、何かを考える能力を持つことは、将来社会人として生きていく上で多くのメリットがあるため、受講生は、常識的な政治についての知識を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	政治学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の締結を政治学的に様々な角度から見て、それを日本政府がなぜ締結したのかについて講義する。TPPを政府が選択した政治的理由があるはずである。ただ、TPPは経済政策である以上、その背後には経済的理由もある。またTPPは国際協定であり、日本政府だけでなく他国の政府との関係にもとづく国際的な理由もある。これらを考えるために、授業では政治文化や思想、政治制度、国際政治経済の観点から講義する。受講生は、具体的な政策を見ることで、ひとつの政策を政治学においてどのように考察するのか。具体的な政治の見方と考察方法を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	西洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界遺産」にまつわる歴史を中心に、西洋文明の成り立ち、影響についての基礎的な知識について講義する。古代ギリシアやローマのほか、キリスト教に関連する歴史的建造物など、西洋文明を深く理解するために有益な世界遺産を扱うほか、エジプトや、アメリカ大陸先住民の遺跡なども関連するものとして取り上げる。講義で着目する西洋の歴史的な成り立ちを把握することによって、現代世界を理解するスキルと教養として歴史的知識を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	西洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、キリスト教と西洋の歴史・文化がいかに深く関わっているかを確認しながら、ハロウィンやクリスマスなどの祭典、聖人・聖女や悪魔・魔女などのイメージ表現、「ノアの洪水」といった伝承を取り上げ、その歴史的背景、現代への影響などをたどって、西洋文明の深層について講義する。特に着目するのが、キリスト教の祭典や思想の、背景と意味そして影響についての歴史である。受講生は、西洋において長年かけて培われ、社会に根を下ろしている様々な象徴表現や慣習について歴史的に学び、異文化についての表層的ではない教養を修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	東洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史的展開について日本との関係を政治・社会・文化の諸方面から、現代の我々と関係の深い事象を取り上げ、それがどのように成り立って展開したのかについて講義する。講義を通して受講生は、日本が古来、地理的に近い中国や朝鮮などを中心に交流が進められてきたことを理解する。こうした交流は、日本文化の形成にも密接に関係しており、日本の歴史を知るうえで東アジア世界の国際関係の歴史を理解することで、前近代における東アジア史を比較史的に理解し、日本と中国との国際交流についての知見を広げる。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	東洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史の展開について、テーマ別に講義する。具体的には、食文化（中華料理の原型・食文化の変遷・日本の食文化）、服飾文化（服飾文化の変遷・日本の服飾文化）、東アジアの都市プラン、日本と中国の都市プラン、国際関係史（中国からみた日本・日中間の交流史・琉球からみた東アジア）、中国の妖怪、中国におけるスポーツの歴史等の観点から、東アジア全体を概観する講義を行う。受講生は、講義を通して前近代の東アジア世界の国際関係・文化形成ががどのよう展開していったのかを理解する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本国憲法	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法とはいかなる法であるか、その役割や内容について講義する。受講者は、憲法が国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる法であることを理解する。憲法には、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。授業では憲法の役割について、基本的人権や統治機構の解説を通して詳解する。憲法を題材とした授業を通じて、社会の様々な問題に対応していくために必要な論理的思考力や平衡感覚を養成する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、日本史の流れを習熟させることに重点を置き、歴史人物や歴史の舞台をクローズアップして講義を行う。特に、土地に密着した歴史を解説し、今日の風景の中に過去の出来事を再現できるような体感型の学習を通して学びを深める。具体的には、前期は旧石器時代から奈良時代までの歴史を解説する。主な内容としては、旧石器時代の年代決定法、打製石器の製作技法、縄文時代の生活様式、縄文土器の変遷、縄文人と弥生人の形質比較、弥生時代の拠点集落、邪馬台国の所在地、ヤマト政権と古墳群、飛鳥時代の宮殿・陵墓・寺院、藤原京の設計、平城京遷都、奈良時代の政治史、奈良の大寺などを講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生が講義内容に興味をいだき、自ら各地の遺跡や史跡を案内し、当地の歴史を語れるほどの水準となる講義を行う。具体的には「日本史a」での成果をふまえ、さらに深い知識を習得する。特に、地域に密着した歴史を学んでいただく目的をもって 弥生時代から飛鳥時代までは奈良盆地中南部、奈良時代は奈良盆地北部、平安時代から織豊時代までは京都市・鎌倉市、江戸時代は東京都・大阪市、明治時代以降は神戸市の歴史地理学的な知識と合せながら講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会構造を探究することを通して、「法とは何か」について講義する。法は正義を目指すものであると答えることができるかもしれないが、現実的には正義の尺度も様々であり、法の制定、実現過程においては法以外の諸力と無関係ではありえない。講義ではそのような現状について紹介する。受講生は、実際に法に触れることで、これを身近に感じ社会現象を法的に理解でき、または法的に理解しようとするときに本講義での知識を手掛かりに、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「なぜ人を殺してはいけないのか」という命題を出発点として、法構造の理解を中心としつつも広く社会構造を探究し、法とは何かを追究して講義を行う。なぜ人を殺してはいけないのか？それは、「正義に反するから」と答えることができるかもしれない。では何が正義か？それは法であると答えることもできる。ではなぜ、法は人を殺してはいけないと定めているのか？こうなってくると法だけでは説明できない。このようになぜ人を殺してはいけないのか、という命題を探究するためには法だけでなく、法制度を支える様々な正義の尺度を知る必要がある。受講生は、法と社会構造を理解し、その知識と教養によって、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	化学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、エネルギー問題・人口問題・食糧問題をテーマとして講義する。今世紀半ばの人口100億を支えるには、経済発展、資源・エネルギー・食料の大量消費、環境保全の3要因を遂行しなければならない。既に差し迫っているこれらの要因は互いに矛盾し、3者が併存出来る可能性は非常に低い。受講生は、このトリレンマ状況について学び、それに関わる「化学」の役割について理解を深めることで、良識あるアプローチを語れる知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自然・環境研究群	化学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、地球温暖化・オゾン層破壊・環境ホルモン問題をテーマとして講義する。今、最も重大なこの3つの環境問題のいずれにも化学が大きく関わっている。その他、従来からの酸性雨、大気汚染、有害廃棄物問題が加わる。これらの環境汚染は、自然災害でなく、人間の社会・経済活動の結果でもある。これらの諸問題について学び、これらを化学の立場から理解を深めることで、どのようにして対処しようとしているのか、良識を持って評論できる知識を習得する。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	自然科学史a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、火山学・地震学・津波等の防災に関わる今日的課題に繋がる事柄について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。本科目の位置付けとしては、物理・化学・生物・地学・数学の基本的な学びを概観する科目であり、自然科学全体の入門科目でもある。授業では、文明の発祥から産業革命期までを主として扱う。併せて、西洋中心主義を排し中国・インド・アラビア・日本等アジアにおける科学の発達史についても学ぶ。受講生は、ガリレオ・ニュートン・ダーウィン等の著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	自然科学史b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、原子力と原発問題等、今日的な課題につながる科学・技術の歴史について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。授業では、産業革命期以降の科学・技術を中心として扱う。受講生は、アインシュタインを始めとする著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	数学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、数学の難解な問題を解くための技法を身につけることではなく、様々な分野で活用されている数学的概念を理解するために必要となる数の扱い方や考え方や様々な数の基本的な計算技法について講義する。授業では、数の種類とそれらの四則演算の方法について理解し、その応用として文字式を用いた計算方法について修得とする。具体的には、自然数から実数・複素数、倍数や約数、素因数分解などを扱う。その上で、文字式を扱う方法や式の展開や因数分解、方程式の計算を理解する。さらに、関数とグラフ、連立方程式や不等式の計算方法、命題と集合の概念を修得する。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	数学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、微分積分と線形代数に関連する計算技法とよく利用される記号の扱い方をテーマとして、数の扱い方や基本的な計算法則の理解とそのために数学で使用する記号の理解について講義する。授業では、微分積分・線形代数の修得を目標とする。が、三角形や図形、座標上で図形を扱えるようになることを目標とする。さらに、数列、指数の計算、関数を中心にグラフの概形や増減について調べる方法を理解する。その上で微分法を修得する。その過程で、極限や級数の概念について学習し、積分法の解説をふまえて、微分積分の基本的な計算技法を学び、最終的に線形代数への理解を深め、IoT分野における積分計算の利用方法を修得する。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	生命科学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「愛の進化」をテーマとしてさまざまな動物の行動について講義する。私たちは、ヒトの男女の出会い、異性への関心や結婚を特別なことと考えがちである。しかし、動物や昆虫にも雌雄があり、出会い繁殖する。動物界では、一般的に雄が求愛し、雌が真剣に雄を選択している。私たちの永遠のテーマである男女の愛、すなわち恋愛、性的結びつき、結婚と離婚という問題について、これらの動物行動から考察する。受講生は地球上の様々な生物がもとは古代地球に発生した生物から派生したものであることを学ぶと共に、多種多様な生物の行動からヒトの存在や行動について理解を深める。</p>	
一般教育科目	自然・環境研究群	生命科学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「遺伝の仕組み」をテーマとして、遺伝についての基本的な講義をする。地球上には推定1000万種の生物が存在するといわれる。これらの生物は、全てDNAと呼ばれる遺伝子を持つ。遺伝子は生命を作り上げる設計図であり、その情報にしたがって生物は作られている。このDNAの仕組みを考えると、生物の形は不変ということになるが、突然変異が起り生命体は進化を遂げてきた。受講生は、授業を通して、遺伝のメカニズムへの理解を深めると共に、遺伝子治療や遺伝子検査といった技術革新についての知識を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①地球の特異性 ②気候変動と気候変化 ③環境問題と自然災害)から講義する。受講生は、地球環境の生い立ちとその特徴を地球誕生に遡及して学び、次に地球の大気にフォーカスして現在の大気の特徴と気候変動のシステムについて理解する。最後に、地球表面に生じる自然災害の特性とリスク、防災減災の基礎について理解を深める。人びとの暮らしを支える水と大気と大地は、生きとし生けるものにとって絶対に必要な自然環境である。人類は、地球温暖化・環境汚染・自然災害・資源の枯渇等、地球環境に負荷をかけてきた。現代社会では、持続可能な社会を構築し地球の自然を未来に引き継ぐ努力が求められている。そのために必要な基礎知識と、解決すべき事柄について学ぶと共に理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①固体地球ができるまで ②火成活動による地球ダイナミクス ③地震活動と地殻変動による地球ダイナミクス)から講義する。受講生は、固体地球の形成過程とその自然環境を理解し、地震災害・火山災害・津波災害および地形災害について理解を深める。講義では、まず固体地球の生い立ちとその特徴を学び、次に火成活動をフォーカスし、プレートの動きやプレート同士が集まる日本列島やハワイ島の様に太平洋の真ん中になぜ火山が形成されるのかを理解する。併せて、火山噴火について学ぶ。最後に、地震のメカニズムとその揺れの性質や地震を起こす活断層やプレート境界について理解を深める。生活の足元に存在する活断層と対策の必要性を学ぶことで防災と危機管理のスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日常生活と統計の関係を理解した上で、科学的にデータを収集する方法とデータの整理の仕方、集団の特性を表す数値の計算方法について講義する。具体的には、統計と迷信、統計学と数学の違い、データの収集・整理・集計、統計表の作成と注意、統計グラフの作成と留意すべき点、集団の代表値について、代表値としての平均の求め方と意味、平均値の限界、集団のちらばりの尺度、算術平均と標準偏差、関係と関連の違い、相関関係と相関係数の求め方、相関関係と因果関係について、相関関係による予測と推定等をトピックとして講義を行う。受講生は、個々のトピックをふまえて、日常生活においてどのようなデータが必要であるかを理解する。併せて、調査、測定および観察などから得たデータの整理・集計を通して、分析が行えるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、標本と母集団の関係について講義する。具体的には、推定と検定の必要性、標本と母集団の関係、標本抽出、母集団および標本の数値の違い、統計数学の求め方とその意味、標本値による母集団の特性値の推定、母平均と母比率の推定、大標本と小標本の違いによる推定・推定誤差の違い、標本値による母集団の特性値の検定、母平均および母比率の検定、大標本と小標本の違いによる検定。二つの母集団の差の検定(母平均・母比率)、分散分析等の観点から講義を行う。受講生は、サンプル(標本を抽出して)から母集団の特性を推定および推測できるスキルを修得する。また、表示、主張、報告の内容などをそのまま受け入れることなく、標本から統計分析をして確かめることの重要性への理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	物理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、運転免許の学科試験に必要な物理の知識やスポーツの物理をはじめとして、乗物・ファッション・音楽・地震・津波等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。	
一般教育科目	自然・環境研究群	物理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、スポーツ・ファッションをはじめとして、宇宙や放射能等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。加えて、相対性理論や宇宙物理学・量子力学との現代物理学についても詳解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ・トレーニング a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス（含フィットネスダンス）の基礎的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶことで、実践を通してプログラムの基本構成を修得し、自分自身の身体と感性と自己表現能力の向上への理解を深める。なお、「スポーツ・トレーニング a」では、ダンスの他、フットサル・ウエイト・ゴルフ・トランポリン・スポーツトレーニング論が設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ・トレーニング b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス（含フィットネスダンス）の発展的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶにあたって、基礎練習（w-up、アイソレーション、筋力トレーニング等）を行う。さらに、エアロビクスの理論と実践、創作ダンスの理論と実践を修得する。「スポーツ・トレーニング a」では、ダンスの他、フットサル・ウエイト・ゴルフ・トランポリンが設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ科学論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例について、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえ、＜課題設定・情報収集・独自の視点の整理＞という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。個々にスポーツに関する情報を収集し、かつ現状を理解し、自身の経験を分析することで、独自のスポーツ科学論を構築するスキルを修得する。これによって、本学のディプロマ・ポリシーにある「汎用的技能」を修得する。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ科学論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例を交えて、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえ、＜課題設定・情報収集・独自の視点の整理＞という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。講義では、員とリダクションとして体育授業やスポーツ活動における友達づくりとそれに対する様々な考えを学ぶ。その上で、運動用具の開発現場、スポーツ界のICT（情報通信技術）活用、スポーツ指導現場における新スポーツ論、世界から評価される日本人アスリート、女性のスポーツ界経営への進出、体力向上の取り組み、アスリートを支える人たち、アスリートのケガ（病気）と競技復帰について、理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ技術a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、生涯を通して卓球に親しみ、楽しむことが出来る基礎的なスキルを修得する。特にこの授業では、実技と共に卓球のルールと基礎技術を学ぶ。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなど基本技術の習得</p> <p>②卓球で必要な基本的用語・ルール・マナーの理解</p> <p>③セルフジャッジでの試合の実施</p> <p>これらを通して、仲間と協力して目標を達成することでコミュニケーションの重要性についても理解を深める。なお、「スポーツ技術 a」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ技術b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、ラケットの握り方によってボールの回転に変化が生ずることをふまえて、コミュニケーションツールとしての卓球のスキルを修得する。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなどの発展技術の習得</p> <p>②卓球で必要な基本的用語・ルール・マナーの理解</p> <p>③セルフジャッジでの試合の実施</p> <p>これらを通して、具体的にはラリーのスキルとシングルス・ダブルスのルールを学び実技を通して卓球への理解を深める。なお、「スポーツ技術 b」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ文化論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代のスポーツが、政治・経済・教育を含む社会生活の様々な側面と関連し一つの文化現象となっていることについて講義する。受講生は、スポーツを取り巻く様々な社会的課題やスポーツ科学が社会にもたらす多様な可能性について学ぶ。講義では、現代社会におけるスポーツの意義をイントロダクションとして、スポーツの現状とその課題について、文化・社会学的視点から捉えスポーツに関わる社会的問題を把握し分析し、現代社会に望ましいスポーツ文化並びにスポーツ推進施策のあり方についての理解を深める。	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 スポーツ文化論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、スポーツの現状とその課題について文化・社会学的視点から捉え、スポーツに関わる社会的問題について講義する。受講生は、メディアとスポーツ、消費されるスポーツ、スポーツとパワー、スポーツとジェンダー、スポーツする身体、生活から生まれたスポーツ、スポーツと教育、スポーツと人間形成、スポーツと地域社会、職業としてのスポーツ、スポーツファンの文化、日本のスポーツ文化、スポーツと芸術、スポーツをめぐる社会問題等のトピックを学ぶことで、現代社会に望ましいスポーツ文化とスポーツ推進施策のあり方について理解を深める。	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 健康科学論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日常生活の中で健康を守るために必要な運動や、生きがいを通してバランスのとれた知識について講義する。特に、日常生活を健康的に過ごしその姿勢を生涯継続していくために必要な事項について学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。 ①健康についての基礎的知識を学ぶ。 ②生活習慣が健康に及ぼす影響などを知り、健康管理能力を向上させ、健康的な生活を送る為の工夫と実践ができる能力を身につける。 ③生涯の健康を考え、心身の健康の重要性を理解し、社会において健康な生活を送る知識を養う。 最終的に、現代における健康が、各自のライフスタイルの結果として作られるものであることへの理解を深める。	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 健康科学論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、多様化する健康の概念と現在の健康問題、及び運動や身体活動と健康の関係性について講義する。特に、健康な生活を送るために必要となる適切な「運動・栄養・休養」を日常生活に取り入れる方法を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。 ①健康に関する用語や身体の仕組み、健康に対する取り組みを学び、基礎的知識を理解する。 ②健康の概念を理解した上で、自身の健康観を持つ。 ③自身の生活習慣の改善すべき点を見つけ、実践する。 最終的に、生涯にわたる健康づくりへの理解を深め、そこに繋がる知識を修得する。	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 人間科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。 この授業では、文科系のみならず理系も含む広い領域にまたがり、自然と人間の関わりや、歴史的な背景、現状把握、今後解決すべき問題も俯瞰して、総合的にとらえることの重要性を学ぶ。 新たな時代を見据えて、社会の諸問題を解決する能力を養い、幅広い知識を実践につなげられる人材となることをめざす。	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 人間科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。 この授業で環境問題の多様な側面を知り、社会人一人ひとりの課題としてとらえ、行動することの重要性を学ぶ。さらに、そのための普及・啓発の手法や施策の意義も学び、「持続可能な社会」をめざして実践することの重要性を理解し、社会の諸問題を解決しうる人材となることをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	AI・データサイエンス入門1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会において多種多様な分野で利活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。受講生は、AIを理解し、それを活用する事で個々の専門分野において抽出される問題解決に対して、検討・企画・立案できる人材の基礎を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <p>①機械学習AIサービスを使用したアクティブラーニングでAIの概要を理解する。 ②各種AIサービスへ様々なタイプのデータの入力とその結果を分析し、特性を把握する。 ③AIサービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AIサービスの活用手法を理解する。</p> <p>これに必要なPython言語の基礎的なプログラミング手法を実習する共に、自身の専門分野で役立つAIを活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>	
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	AI・データサイエンス入門2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「AI・データサイエンス入門1」での成果をふまえ、現代社会において多種多様な分野で利活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。受講生は、以下の4項目について学ぶ。</p> <p>①プログラミング実習：基礎統計の計算・可視化（ヒストグラム）・回帰分析（散布図・回帰曲線） ②AI音声認識：音声の文字起こしのシステムプログラミング体験・システムの企画立案（グループワーク） ③AI手書き文字認識：手書き文字認識の体験・プログラミング体験・企画立案（グループワーク） ④AI画像認識：画像の内容認識システムのプログラミング体験・学習データのスクレイピング体験・評価・企画立案（グループワーク）・企画のプレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>最後に、ゲームでのAI活用例の紹介を講義する。</p>	
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	AIデータサイエンス総論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、AI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面について講義する。AI(Artificial Intelligence [人工知能])やロボットの技術向上により、20年後には、日本では労働人口の約半数が、AIやロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に向かって、受講生は、どのような力を身につけ、キャリアを築いていけば良いのかについて理解を深める。さらに、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策へ向けて考える力を修得する。</p>	
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	コンピュータと法	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、コンピュータやインターネット等に関連する法律について以下の5点の観点から講義する。</p> <p>①人権………ホームページやブログ等で他者に関する記載を行った場合等に生じる法的問題 ②知的財産権……他者の出版物やホームページ等における記載を自己のそれに転用した場合に生じる法律問題 ③電子商取引……電子商取引の特徴や問題点及び消費者保護等 ④犯罪………コンピュータ関連の刑法犯と不正アクセス禁止法 ⑤法的救済手段……国外も視野に入れた紛争解決手段の概要と問題点</p> <p>受講生は、一個人及び将来の企業人として、コンピュータ社会において要求される基礎的な法的知識を学び、法的思考方法を修得する。</p>	
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	マスメディア論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ドキュメンタリーやNEWSの視聴と解説を通して、①メディアがどのような問題意識と覚悟で社会に向き合おうとしているのか、②改善に向けてどこまで影響力を及ぼし事ができるのか、③制作者は何に悩みもがいているのかを知りメディアの役割とは何かについて講義する。メディアは社会をつなぐのか、分断を加速させるのか。担うべき公共とは何か等について、新聞記事やテレビ番組を教材に、ディスカッションとレポート作成を通して、マスメディアとの向き合い方を考える。受講生は、これらの学びと共に、ヘイトスピーチやインターネットで自己の利益のために他者を誹謗中傷する言説について考察する力を修得する。</p>	
一般教育科目 情報とAI・データサイエンス 研究群	マスメディア論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、TVやラジオ番組や映画、出版物を紹介し制作者の視点から講義する。マスメディアという公の言論空間では取材に応じてくれた人々の人生を守るために「伝えられること」は多くはない。権力監視のための取材では、訴えられるリスクと背中合わせでもある。受講生は、時代の変化に関わらず読み継がれる書物や、社会の歪と格闘し、傷つき、悩み、もがきながらも前を向こうとする人間に迫るドキュメンタリーを通して、自己への問いかけ方法を学ぶ。それをふまえて、制作者や取材を受けた人々と自分自身を重ねることで、自己と向き合い、社会との向き合い方への理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報科学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「社会を支える情報技術の基礎を学ぶ」ことをテーマとして、コンピュータやインターネットの仕組みである情報技術の基礎と、情報技術が社会での活用方法について、具体的な事例をふまえて講義する。講義で学んだ知識をもとに受講生は、生活や企業の諸課題を自ら調査し、その解決する方法について考察する。これによって、情報技術の基礎知識への理解を深め、社会で必要なスキルを修得する。</p>	
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報科学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「近年注目されている新しい情報技術を幅広く学ぶ」ことをテーマとして、AIやIoT、5G、AR・VRといった最先端の技術の特徴と、それらの技術がどのように社会で活用されているのかについて講義する。受講生は、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①日々進化する情報技術に興味を持ち、その動向を追うこと。 ②最先端の技術が、社会でどのように役立てられているのか説明できるようになること。 ③興味のある業界で注目されている技術を把握し、今すべきことを考えられること。</p> <p>これらの学びをふまえ、興味のある業界で注目されている技術を調査・分析し、社会で注目されている技術に関する知識とそれを応用する方法を修得する。</p>	
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報処理応用	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「情報処理入門」で修得した成果をふまえ、Word・PowerPoint・Excelの応用的な操作方法・活用方法、プレゼンテーションによる情報発信について講義する。Office連携、Excelでのデータ活用を含め、発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術を活用できるスキルを修得し、より高度なパソコン機能と実践的な操作方法を学ぶ。併せて、インターネットを安全に利用するために現代社会で必須となる知識を学ぶ。</p>	
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報処理入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、WordやExcel、PowerPointの一般的な利用方法を含め、大学での発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術について講義する。受講生は、大学での学習と実社会での活動においてパソコンを活用するための基本的技能・知識を修得する。具体的には、Windows・Word・Excel・PowerPointの基本的機能とその操作方法、HInTシステムの使い方、メールの送受信、インターネットを使った情報収集、ネット利用における倫理上の常識・エチケットについて学ぶ。</p>	
一般教育科目	基礎教育科目群	スタディスキルズa	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、学生生活を充実させるために、学びの土台を構築し、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力の向上のための講義を行う。受講生は、上記を学ぶと共にレポート作成にあたってのスタンダードを学び、書く技術の修得をする。併せて、読解力・語彙力を修得するために、資料の読み方を学ぶ。修得した知識を使える技術にするために、実践的なテーマを設け演習を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についてのスキルを修得する。</p>	
一般教育科目	基礎教育科目群	スタディスキルズb	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、前期で修得した学びの土台を、より堅固なものにすることを目標とし、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力のさらなる向上のための講義を行う。受講生は、前期に修得したレポート作成スタンダードのさらなる養成と、読解力・語彙力を修得するために、長文の資料の読み方を学ぶ。レポート作成能力の育成については、論理力と根拠資料に基づいたレポートの作成を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についての実践を重ねることで、各学部設置される専門演習に対応する論理的思考や表現についてのスキルを修得する。</p>	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養数学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、過去から現在までの数学上の重要な発見について身近な例を用いながら紹介し、数学を構成する代数学・解析学・幾何学の3分野についてそれらがどのように発展してきたかということについて紹介する。</p> <p>数学は古代から続く学問であり、現代ではAIやIoTなど様々な分野において中心的な役割を担う存在であり続けている。しかしながら、社会の役に立ちそうなものとして認識されているものは数学の分野ではほんの一部である。特に、代数学・解析学・幾何学の分野を学ぶために、どういった点に着目して理解していくことが重要であるかということについて解説し、抽象的な概念を理解するために必要な視点の持ち方についても解説する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養政治学	本科目は講義科目である。 本科目では、民主制社会の市民として正しく政治的な問題を理解し、さまざまな選択肢を比較検討し、積極的に政治に参加できるような教養を身につけることを目的とする。そのため、さまざまな政治的課題が、どのように課題として政府に認識され、社会のさまざまな要求が集約され、政策として提案され、審議され、決定されるのか、その政治過程について詳しく講義する。受講生は、その過程を詳しく知り、具体的な政治課題がどのように解決されているのか分析する手法を学び、政治について自ら主体的に考えて行動する方法について理解を深める。また、自らの身近な問題がどのように政治を通じて解決されているのか知ることで、政治が自らの生活にどのように影響しているのかを知り、政治に積極的に参加する市民としての態度を身につけることができる。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養西洋史	本科目は、講義科目である。 本科目では、身近な「ファッション」を入り口として、近代の西洋の歴史を学修する。 本科目では、「現在の私たちにあって既に当たり前のもとなったファッションのシステムはいつ頃どのようにして確立されたか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、18世紀から20世紀初頭の西洋で起こった産業、都市、生活そして文化の変容について理解を深めていく。対象地域としては、「ファッション都市・パリの成立」を一つの軸とし、パリとの比較でフィレンツェ、ミラノ、ロンドン、ニューヨークなどを適宜取り上げることとする。なお、最終消費財である服ばかりでなく中間財である布にも注目するところは本科目の特色の一つであり、「そもそも服はどのようなプロセスで作られ、流行たりうるのか」という問いを投げかけることで、受講者のより深い理解と考察を促す。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養哲学	本科目は講義科目である。 本科目では、言語論、認識論、存在論といった分野を中心に講義する。存在をあらわす言葉である「いる」と「ある」を区別しない言語もあるが、日本では「いる」と「ある」を区別する。また、「ない」についても「かばんの中に財布がない」と「丸い三角形はない」とは同じ「ない」ではない。このように普段使っている言葉を手がかりにして、私たちの認識のあり方や、ものの存在のあり方、日本の文化の構造へと考察を深める講義をおこなう。それによって、受講者は自らの使う言葉を様々な角度から考察することができる。さらに、性（男性/女性など）によって異なる言葉の使い分けが示す権力関係や、言葉のもつジェンダーバイアスなど、社会的な問題についても扱う。それによって、受講生は自らの使う言語について「当たり前」とされていることを問い直し、差別や権力についての意識を高めることができる。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養東洋史	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際関係史・文化交流史を考える際、とかく相互の相違点に目が行きがちであるが、東アジア世界（中国・朝鮮半島・日本・台湾・ベトナム・モンゴルを中心とした）における歴史的共通性、とくに「漢字」に着目することで当該地域史の歴史的理解を深める。 具体的には、漢字が中国で生まれ、東アジア世界に伝播していった過程と相互の交流の中で生み出されていった各地域独自の文化的変遷を理解する。 受講者は、日本語はもとより朝鮮語、ベトナム語にもいままなお色濃く残る「漢字」の痕跡を手がかりとして、現代東アジア世界を洞察する力を養う。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養統計学	本科目は講義科目である。 本科目では、一般教養科目の統計学aや統計学bにおいて修得した知識やスキルを前提として講義・演習を行う。我々の身の回りにはたくさんのデータがあるが、統計データに関わるトピックを適宜取り上げ、実際の処理方法や処理方法に関連する理論について説明する。処理方法と処理方法に関連する理論について理解した後、受講生には実際にデータ処理を行ってもらい、その結果の読み取り方について議論する。これらを通じて、身の回りにあるデータを適切に処理し、その結果を適切に読み取ることのできる力を養っていく。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養日本史	本科目は、講義科目である。 本科目では、身近な「洋服」を入り口として、近現代の日本の歴史を学修する。 「もともとは和服で生活していた日本人の大半が洋服を着るようになるまでのプロセスはどのようなものであったか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、明治維新以降から戦後に至る日本で起こった産業、消費、生活そして文化の変容について理解を深めていく。最終的には、ファッションデザイナーの活躍やファッションブランドの乱立に触れるが、それ以前に、「デザイナーとは、ブランドとは、そもそもどのようなもので、それらの概念は日本においていつ頃当たり前になったか」という問いを投げかけることで、受講生のより深い理解と考察を促す。	
一般教育科目 後期教養教育科目群	教養倫理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、生命倫理、環境倫理など応用倫理と言われる分野を中心に講義する。生命倫理に関して言えば、医療技術の進歩と社会の多様化により、生、死、性、生殖などについて既存の法律や価値観とは合わない、あるいはこれまで想定されていなかった事態が生じている。また、環境倫理に関しては、環境保護という点では考えが一致するものの、原子力発電への賛否や、温暖化対策における先進国と開発途上国の対立などがあり、簡単に解決できるものではない問題がある。本科目では、まず問題の背景と現状、論点についての講義を教員が行う。それによって受講生は問題を適切に把握できるようになる。さらに、受講生自身が問題を分析し、他の受講生の意見を聴き、自らの考えを述べるようになることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 後期教養教育科目群	社会人としての教養講座 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、グローバル化、高度情報化社会の加速度的進捗によって知識や技能の優位性の不確実な社会において、学際的な「教養」の修得を目的とする。リレー型授業によって、幅広い知識と、それを相互に関連づける思考力を体得する。それによって、様々な課題に対して適切な解決を見出す能力を開発する。特に、大学後期で文理融合した「教養」を学ぶことの意義を理解するために、</p> <p>①社会人になるために知っておくべき知識と教養 ②人文科学および自然科学の境界を越えた専門知の相互連環性 ③阪南大学型「リベラルアーツ」の修得 ④各専門領域におけるAIの課題とそれに対応する教養と実社会の課題</p> <p>について、毎回の授業を通して思考を深める。受講者は、多様な知見と観点からの思考法と阪南大学型リベラルアーツとしての教養を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 坪井兵輔/6回) 自由になるための教養 (39 前田利之/3回) 社会人の素養としてのAI (44 村上雅俊/2回) 数字から見る日本経済の現状 (34 花川典子/2回) インターネット・世界のビッグテックと日本産業 (2 大野 茂/2回) 映像を読み解く</p>	オムニバス方式
一般教育科目 後期教養教育科目群	社会人としての教養講座 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、社会人としての基礎教養の観点から以下の講義を行う。受講生は長く役立つ教養を修得すると共に、その理解を深める。特に、自然科学と人文・社会科学の知識と理解によって、社会における事象について多様な知見と社会での課題の解決に向けた思考法を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(45 森芳周/7回) 授業概要・生命の倫理学・中間テスト・振り返り (64 渡辺和之/2回) 多文化共生 (41 松村嘉久/3回) 大阪の課題と可能性 (40 松田健 /3回) 自然科学</p>	オムニバス方式
一般教育科目 後期教養教育科目群	正解のない問いの答えを考える	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、「答えの出ない問題」をテーマとして、現代社会の諸相を的確にとらえ課題発見・課題解決のための思考方法について講義する。実社会において、全ての答えがインターネットの中にあるわけではない。具体的には、遺伝子操作と人間をデザインは許されるか、人工的な気象コントロールは許されるか、成人年齢は引き下げるべきか、絶対に人を殺してはいけないか、芸術作品の売買は商行為として正しいか、戦争はなくなるか、国家は本当に必要か等をトピックとして講義運用する。様々なデータをふまえ、受講生は、自分の考えをもって発表できるだけの教養とコミュニケーション技法を使って、討議力と意見集約力を修得する。</p>	
一般教育科目 自由選択科目群	ボランティア実践 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育現場でボランティア活動をすることで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	
一般教育科目 自由選択科目群	ボランティア実践 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ボランティア実践aでの学びを前提として教育現場でボランティア活動をすることで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	
一般教育科目 自由選択科目群	教育社会学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代の学校教育に関わる社会的課題に対して、近代化に伴う日常生活次元の変容について、食・家族関係・遊び・交通環境・雇用形態等の日常生活から講義する。具体的には近代以降の子どもの心身の変化とそれに規定される教育政策(中教審第1次答申「生きる力」論や「食育基本法」「がん教育」等)や問題に焦点を置き、社会学・教育論から詳解する。受講生は、以下の4点の観点から学び、理解を深める。</p> <p>①現代における社会・生活状況及び子どもたちの状況と問題の抽出 ②近代以降の変化を特徴的な出来事・社会変容等の理解 ③子どもの変容に対して学校での問題の発生とそれに対する教育政策動向の把握 ④世界に目を向けることで子どもたちが置かれている状況及び環境への理解</p> <p>これらの教育と社会の関係について、現代的課題(地域社会との連携・学校の安全)として理解する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自由選択科目群 教職入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教職の意義や教師の使命、資質及び求められる現代の教師像について講義する。具体的には、教育の成立条件（個人と社会との相互作用）、教師の使命（歴史的視点を含む）、教師の職務（服務上・身分上の義務を中心として）、教師の資質能力と性格との関係、教師の指導性研究Ⅰ（特性論）、教師の指導性研究Ⅱ（状況論と行動論）、生徒指導の内容、教育相談の内容、事例研究Ⅰ（薬物逃避・いじめと自殺・無気力と子どもたち）、学校と他の専門家との連携及び組織対応、問題行動への対応、教育の方向性について詳解する。受講生は、以下の3点を学ぶ。</p> <p>①教職の意義および教師の使命の考察 ②教師の資質能力とは何かの考察 ③生徒の問題行動に対する対応方法と事例研究による考察</p> <p>これらを考察し、理解を深めると共に教育現場での対応力を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 教養演習1a	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、六法全書を読みながら、法的な思考と法律学に関連する作業に実際に触れる講義を実施する。まずは、いろいろな法律の条文に触れることで、法律学の初歩を学ぶ。具体的には、六法の引き方と条文の読み方、立法論と解釈論、法律学における基礎学修の3つの観点から、適切な法律と該当する条文に到達するための手法を学ぶ。その際、ブレインストーミング方式を利用した問題の法的分析の訓練を行うことで、条文の解釈方法を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 教養演習1b	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点からの分析し、具体的な事案に対して、法的な観点から問題解決をするために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析をするための訓練を行う。その際、六法、テキスト、判例集や論文を読み込む。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。講義では、六法の引き方、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法1（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方、国家試験・検定試験での法律学分野の出題例とその解答等を学ぶ。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 教養演習2a	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点から分析し、様々な具体的な事案に対して法的な観点から問題解決をするために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」「教養演習1b」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析する力を修得する。講義では、六法・テキスト・判例集や論文を読み込んだ上で質疑応答を行う。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 教養演習2b	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、「法的思考力」をテーマとして、六法の引き方をはじめとして、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方等を実践的に講義を行う。本科目の受講生は、「教養演習1a」「教養演習1b」「教養演習2a」を受講した学生を対象とし、具体的な事案に対して、法的な観点から分析する力を修得する。基本的には座学の成果をフィールドスタディーで確認する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 生涯学習概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、併せて社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について講義する。受講者は、本科目が図書館司書・博物館学芸員両課程の共通必修科目であることから、図書館や博物館が、生涯学習及び社会教育の本質と意義を具現化する社会教育施設であることを理解する。併せて、生涯学習振興、社会教育行政をめぐる経過を学ぶと共に、今日的課題について自発的に考える。最終的に、生涯にわたる個人の学びを支援する「権利としての社会教育」へ意義の深淵について理解する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群 未来と社会を学ぶ1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「地域活性化」をテーマとして、経済だけでは語れない独自性をもった取組が求められている。デザインや情報戦略など含めた様々なブランド化手法による地域活性化事例と、コロナ禍で大きく影響を受けた地域と各事業の最新の課題と解決に向けた展開事例の紹介などをふまえ、地域活性についての理解を深める。具体的には、①「地域活性化、地方創生」時代が求めるもの、②少子高齢化グローバル化時代の食ブランド化と地域活性化、③芸術文化と地域活性をブランド化事業、④守り育てる地域文化ブランド化・温泉や観光と世界遺産地域活性化、⑤情報発信による地域活性化、⑥博覧会と子ども未来ブランド化事業、⑦未来ものづくりとデザインブランド化による地域活性化、⑧これからの地域活性化の8点の観点から全体テーマを把握する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 自由選択科目群	未来と社会を学ぶ2	本科目は、講義科目である。 本科目では、地域を活性化するためのアプローチの1つとして、地域の歴史を取り上げる。大学の立地環境でもある大阪市内と南河内地域をつなぐ近鉄南大阪線沿線を動脈として、この地域史について、地域の文化財や歴史上の人物をトピックとして講義する。これによって、受講生は地域を活性化するために必要な基礎知識を修得する。特に、古代・中世初期を中心として、古代から近現代に至るこれらの地域の地域史を通史的に概観する。その際、日本国内、さらには、東アジア世界における時代背景・社会情勢を意識し、それらとの関わりの中に当該地域の地域史を位置づけて、地勢学的な理解を深める。	
キャリア教育科目	インターンシップ講座	本科目では、「基礎キャリア演習」「発展キャリア演習」「応用キャリア演習」と科目連動させながら、実際のインターンシップを実施するための座学を行う。具体的には、 ①「インターンシップ」によって、企業が将来的な人材確保に向けてどのような志向を持っているのか。 ②「インターンシップ」での有効的な学び方と働き方とは何か。 ③「インターンシップ」での到達目標の設計の方法とはどのようなものか。 この3点を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム1	本科目では、航空業界への興味を具体化し、情報や知識を得るための基盤形成のための講義を行う。講義ではタイムリーなエアライン情報や知識と共に、講義内容に応じて研究課題を提示する。受講者は、授業を通して獲得した情報を分析し展開する力を養い、プレゼンテーションの基礎的な力を養う。グループでの取り組みの中から、協働する姿勢を身につけ、自分への関心、周囲への関心を修得する。講義と自主研究を並行させながら、航空業界・サービスについて様々な角度から知識と視野を拡充するための講義を行う。グループでのディスカッション・まとめ・発表を繰り返すことで、情報整理力や表現力を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム2	本科目では、「キャビンアテンダントプログラム1」での修得内容を受けて、航空業界の基礎知識を実際の接客の目線や顧客の目線からスポット的に追及し、知識を修得する。特に、エアライン産業のサービスや取り組みについて理解し、そこから生み出される事柄についての理解を深める。実践的な演習から、責任感や問題意識を実感させると同時に、個々にパーソナルスキルを意識させ、将来の目標設計を行う。「キャビンアテンダントプログラム1」で学んだ基礎知識を応用させ、現場での仕事内容・おもてなしやマナーについて具体的に研究し、知識の拡充を行う。グループワークでは、協力し合う中でチームワーク力や責任感を高め、体験や実践から社会への意識や自分自身への意識が深められる学びを修得する	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム3	本科目では、航空業界についての概要及び流れを把握し、エアラインへの就職活動に向けての意識づけとプランニングへ向けて講義する。受講者は、航空会社の現状から社会を知り、立体的なものを見方を修得する。特に、機内保安と機内救命救急、航空用語と基礎知識、空港の機能と設備や地域とのつながり、空港サービスとホスピタリティを学んだ上で、空港見学を行う。それらの学びを通して、「航空会社の役割と社会貢献」について、グループ発表を実施する。本科目での授業内容を通して、エアライン受験における知識を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム4	本科目では、エアラインへの就職活動に向けて、自己の内面性や印象への意識を高め、多面的思考・発想力等についての学びのための講義を行う。特に、これまでの知識をもとに、アウトプットする機会を積極的に設け、伝える力を修得する。構成力・語彙力・表現力を向上させると共に、一方的に発するだけでなく、受ける側への印象にも意識を置き、アピール性のスキルとは何かを学ぶ。具体的には、キャビンアテンダントという職業に関わらず、社会人として求められる人物像とマナー、ビジネスマナー、立居振舞と面接マナー、第一印象の必要性について、基礎と演習を通して形だけでなく本質的に修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム5	本科目では、エアラインでのインターンシップ対策に焦点を置き、就職試験対策としてエントリーシートの準備に必要な基礎知識、言語化力、グループワークで必要となるパフォーマンス方法について講義する。講義では、実践からの学びを通して、エアライン受験対策から一般企業対策まで網羅する土台形成を行う。受講者は、具体的なイメージと目標、実践に即した社会人基礎力の基盤を構築し、応用力を修得する。併せて、就職活動のスタートに備え、知識やスキルの確認を行うことで、「伝えるスキル」のアップデートを行う。授業では、実践的な面接シミュレーションを重ね、面接力や表現力を高めていく。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーa	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法を講義する。具体的には、組織としての仕事の進め方と考え方、OODAループとPDCAサイクル、適切な敬語を用いた文章表現、電話および来客応対、ホウ・レン・ソウの重要性について講義する。これらを修得すると共に、授業内でのロールプレイによって活用できる実践力を修得する。企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術を学ぶことで、社会人に必須となるビジネス・コミュニケーションを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーb	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法について講義する。適切な敬語を用いた文章作成や、メール等を用いた取引先との連絡方法、イベント等の企画、ダイバーシティ、冠婚葬祭に関する一般常識について講義する。具体的には、ビジネス文書の基本とビジネス文書作成演習、ビジネス通信の基本、法的業務、設営の基本、慶弔と贈答、協働とコミュニケーション等を授業内での実践的ワークを通して学び、社会人としての業務マナーを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	営業活動実務	本科目では、本講義では「営業とは何か」を講義すると共に、これからの「営業に必要なチカラ」を講義する。「昭和モデル」では、正解の横展開で成長することができた。しかしながら今後の「正解のない世の中」では、発想するチカラや相手を納得させるチカラが必要になってきている。その社会状況に鑑み、基本的な営業についての知識に加え、「営業のチカラ」について講義を行う。受講者は、基本的なビジネスの基礎を理解しつつ、役立つチカラを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	応用キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」「発展キャリアデザイン」と積み上げてきたキャリアデザイン諸科目での修得内容を受けて、以下の項目をさらに修得する。 ①ESの表現力と自分自身の言語化 ②企業研究と分析 ③グループディスカッションでの会話力 ④面接での的確な自己表現とそのスキル ⑤インターンシップと一緒に働きたいと思わせる自己存在 以上の5点を中心にスキルアップと「更新力」を修得する。就職活動へ向けて、実践的なプログラムを行うことで、近未来の自分自身を作り上げるための課題を重ねていく。授業内では、受講生に発言を求めたり、質問を共有していくことで、自己発見につなげていく。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	基礎キャリアデザインa	本科目では、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の基盤を形成すると共に、ソサエティ5.0社会を生き抜くために、自分の市場価値をどのように高めていくかについての基礎を修得する。キャリア形成へ向けてのStep1となる本科目において学ぶ具体的な項目は、以下の通りとなる。 ①なぜ1年次段階から卒業後を意識して「キャリア」を考えるのか ②本学が推進する「創造力」「適応力」「予測力」「想像力」「洞察力」の5つの能力開発の実施と更新力の体得 ③近未来の社会における対応力の基盤形成 上記と併せて、1年次段階からインターンシップを意識できる学びを行う。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	基礎キャリアデザインb	本科目では、「基礎キャリアデザインa」で修得した内容を受けて、さらに自分の市場価値を高めることを目標に、キャリア形成へ向けてのStep2として、読解力・観察力・対応力・解決力といった社会で必要となるスキルを修得する。特に、ロジカルシンキングやクリティカルシンキングについて、具体的なテーマをもとに学んでいく。特に、ディスカッションを中心とし、受講者を主体とした授業を実施する。ここでは、集めた情報の共有・整理・活用力や、知識・情報のインプット・グループ内でのアウトプット等のスキルアップはかると共に、傾聴力と他者の意見の活かし方を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	発展キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」で修得した内容を受けて、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の体得と、ソサエティ5.0社会を生き抜くために必要な視点をふまえて講義を展開する。その一つとして、外資系や外国人経営者の日本企業など、採用候補者の人種・年代・言語・性格・文化的背景が多様化する中で、企業側の採用点である「内発的動機付け・問題解決能力・不確実性への耐性」の修得を行う。さらに受講後にはインターンシップへ向けての自己設計を行う。具体的には以下の項目について学ぶ。 ①自分自身を言語化するための表現力と言語化力のさらなるupdate ②言語化することで1年後に体得するスキルの目標設定とPDCAの修得 ③社会の動向を的確に把握し今後の学びへの計画設計 ④社会人スキルに加えて社会人として求められる教養の修得	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際コミュニケーション学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	貿易実務実践	本科目では、貿易実務の入門編として「なぜ貿易が必要か」「日本のグローバル化はどうあるべきか」について講義を行う。データベースから世界における日本の位置づけを読み解き、海外を知ることの楽しさについて理解を深める。具体的には、データで世界を見る、日本の強みと弱み、日本と海外の違い、世界で生きるチカラとは何か、異文化におけるコミュニケーションと英語力といった視点から講義する。受講者は、貿易についての実務を修得すると共に、貿易に必要なとなる語学スキルを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	貿易実務入門	本科目では、貿易実務の実践編として「基本的な貿易の流れ」と「貿易について最低限必要な知識」について講義を行う。特に、貿易取引のパターン、契約、モノ・カネ・情報の流れ、サプライチェーン、ロジスティクス、関税、コンプライアンスについて事前課題レポートを提出してもらい、それを授業内で分析しながら、貿易実務の基礎概要を講義する。受講者は、上記の2点を学び理解した上で、自ら説明できるスキルを修得する。	講義20時間 演習10時間
学科科目	学部導入科目 国際学への招待	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際学部での学びを始めるにあたり「国際学」の基礎的な知識を修得し、現代的諸問題の中から抽出されるテーマと知識を拡充するための講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (6 権瞳/2回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (3 岡本芳和/1回) 言語文化 (5 神尾登喜子/1回) 日本の文化理解 (55 Caldwell, Matthew/1回) 多文化理解 (32 中山恵利子/1回) 多文化理解 (1 井上裕司/1回) 国際政治と国際経済 (31 段家誠/1回) 国際秩序 (57 長谷川明彦/1回) 国際経済 (17 武藤麻美/1回) 各論 日本と欧米 (41 松村嘉久/1回) 各論 アジア (11 坪井兵輔/1回) 各論 ヨーロッパ (13 橋本英司/1回) 各論 ヨーロッパ (27 塩路有子/1回) 各論 ヨーロッパ (64 渡辺和之/1回) 各論 アジア	オムニバス方式
学科科目	学部導入科目 グローバル・ディスカバリー	本科目は講義科目である。本科目では、国際コミュニケーション学科での4年間の学びの起点として、グローバル社会に対する知的好奇心を広げるための講義を行う。学生たちの目を世界へと向けさせ、学生生活の中で留学などの体験を促すべく、多様な観点からさまざまな国際的事象を取り上げ、世界の国々の社会・文化への理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (7 マーク・シーハン/2回) 北米の社会・文化の理解と多文化主義 (2 大野茂/1回) 日本のサブカルチャーへの国際的関心について (15 柴田正義/2回) ユーラシア地域の社会・文化の理解 (16 杉本匡史/1回) 心理学からみる東西文化差について (8 杉村醇子/2回) イギリスの社会・文化の理解とイギリス文学の世界 (10 陳力/2回) 中国の社会・文化の理解と日中都市文化差 (9 曹美庚/2回) 韓国の社会・文化の理解と非言語コミュニケーションについて (14 藤野寛之/2回) 児童文学作品の誕生秘話に見る欧米の社会・文化の理解 (12 永田拓治/1回) 台湾の社会・文化の理解と漢字を通じた文化交流史	オムニバス方式
学科科目	演習科目 基礎演習	本科目は演習科目である。 本科目では、所属ゼミナールの担当者が提示したテーマに従い授業を展開する。「専門演習」へ向けて必要な知識やスキル等の修得を目標とする。データ収集や分析やディスカッションを通して「大学入門ゼミb」で体得した「社会人基礎力」の3能力を深化させていく。解の無い課題やグローバルな課題等の解決に取り組み、国際社会を意識しながらグローバル・ローカル・パーソナルな視点から分析力を向上させる。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の伸長を行い「専門演習1a」に繋げていく。	
学科科目	演習科目 専門演習1a	本科目は演習科目である。 本科目では、「専門演習アプローチ(ゼミナールパート)・基礎演習」と積み上げてきた知識やスキルを基盤として、そのさらなるスキルアップを行う。専門演習担当者が専門とする分野において蓄積した研究業績をふまえ、ゼミナール学生は担当者の下で専門知識の拡充と、さらなる深い理解へ向けて研究能力の基礎力を涵養するものである。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の向上を行い「専門演習1b」に繋げていく。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	演 習 科 目	専門演習 1b	本科目は演習科目である。 本科目では、前期科目「専門演習 1 a」で体得した課題へのアプローチに関する諸手法をふまえて、分析力・ディスカッション力・伝達力・質疑応答力・ピアレスポンス力等「専門演習 1 a・b」において必須とする各能力の育成と深化に向けて、具体的な課題及びテーマへ取り組む。受講生は、収集した情報を精緻に分析する能力と共に、その伝達手法や言語化力の向上を意識しながら学びのPDCAを展開する。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目のさらなる向上と共に「専門演習 2 a」に繋げていく。	
学 科 科 目	演 習 科 目	専門演習 2a	本科目は演習科目である。 本科目では、「専門演習 1 a・b」で体得した学修スキルを使いながら、国際コミュニケーション学科が求めるスキルアップを具体的な課題及びテーマに取り組む。特に3年次「専門演習 1 a・b」を通して、学生個々が決定したテーマに向けて情報収集及び分析を行い、演習時間においてプレゼンテーションを実施する。聴き手は、プレゼン内容に対してプレゼン実施者が、次への展開が出来る質問を行う。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目の向上を行い「専門演習 2 b」に繋げていく。	
学 科 科 目	演 習 科 目	専門演習 2b	本科目は演習科目である。 本科目では、個人・グループを問わず、本学科設置の各科目及び演習諸科目(「大学入門ゼミ a・b」「専門演習アプローチ」「基礎演習」「専門演習 1 a・b」「専門演習 2 a」)を通して蓄積した知識や、体得したスキルをもって「卒業研究」を作成する。本学部での4年間の学修成果として、学位を授与するに相応しい内容となるよう個別指導を実施する。したがって本科目は、本学部のディプロマ・ポリシーである「A知識・理解、B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」に明示する全項目を具現化する必修科目として位置づけている。	
学 科 科 目	演 習 科 目	専門演習アプローチ	本科目は演習科目である。 本科目では、全15回のうち第1回～6回は専門演習担当者が自ゼミでの学びや活動実績等を交代で講義する。(1回)第7回以降は担当者が専門演習への導入教育を実施する。(9回)本科目の演習パートでは学部のディプロマ・ポリシーをふまえ、「B汎用的技能、C態度・志向性、D総合的な学修経験と創造的思考力」の3項目を修得し、後期「基礎演習」に繋げていく。(オムニバス方式/全15回) (1 井上裕司/10回) 研究テーマ(国際政治経済)と演習内容の説明およびゼミの実施 (2 大野茂/10回) 研究テーマ(メディア)と演習内容の説明およびゼミの実施 (4 賀川真理/10回) 研究テーマ(アメリカ政治)と演習内容の説明およびゼミの実施 (5 神尾登喜子/10回) 研究テーマ(日本文化)と演習内容の説明およびゼミの実施 (6 権瞳/10回) 研究テーマ(多文化とマイノリティ論)と演習内容の説明およびゼミの実施 (7 マークシーハン/10回) 研究テーマ(英語模擬国連/レゴ®シリアスプレイ®)と演習内容の説明およびゼミの実施 (8 杉村醇子/10回) 研究テーマ(英米文学)と演習内容の説明およびゼミの実施 (10 陳力/10回) 研究テーマ(中国古代都市)と演習内容の説明およびゼミの実施 (9 曹美庚/10回) 研究テーマ(心理学)と演習内容の説明およびゼミの実施 (11 坪井兵輔/10回) 研究テーマ(ジャーナリズム)と演習内容の説明およびゼミの実施 (12 永田拓治/10回) 研究テーマ(中国の歴史叙述と日中関係)と演習内容の説明およびゼミの実施 (13 橋本英司/10回) 研究テーマ(第二言語論)と演習内容の説明およびゼミの実施 (14 藤野寛之/10回) 研究テーマ(出版文化論)と演習内容の説明およびゼミの実施 (17 武藤麻美/10回) 研究テーマ(社会心理学)と演習内容の説明およびゼミの実施 (15 柴田正義/10回) 研究テーマ(国際社会論)と演習内容の説明およびゼミの実施 (3 岡本芳和/10回) 研究テーマ(英語教育学)と演習内容の説明およびゼミの実施 (16 杉本匡史/10回) 研究テーマ(空間認知論)と演習内容の説明およびゼミの実施	オムニバス方式
学 科 科 目	演 習 科 目			

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	演習科目	大学入門ゼミ a	本科目は、演習科目である。 本科目では、少人数クラス編成を基本に、「大学での学修とは何か」という基本的事項を把握し、本学科における学修体系を理解する。併せて、学生生活の充実に必要な知識(大学施設・学内諸制度等)や、学修スキル(教養・各種課題への取り組み・情報収集能力・言語化能力等)を体得する。①何を学び、②何を身に付け、③何ができるようになるか。大学での学修の基本となるこの3点を意識しながら、主体的な学びとその経験値を積み上げていく。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性」の2項目の伸長を行い、「大学入門ゼミ b」に繋げていく。	
学科科目	演習科目	大学入門ゼミ b	本科目は演習科目である。 本科目では、「大学入門ゼミ a」で体得した大学生としての基礎的な学修スキルをふまえ、具体的なテーマや課題に取り組むと共にチームでの共同力や持続的思考力の能力開発を行う。併せて、調査力・情報共有力・ディスカッション力等のスキルを体得し、①自分の考えを人前で発表する上での基本的な方法及び手法を学び(INPUT)、②的確な言語化力(OUTPUT)を身に付ける。特に「学びのPDCA」を意識しながら、「修正力」の修得が出来るようにする。本科目は「B汎用的技能、C態度・志向性」の2項目のスキルアップを達成し「専門演習アプローチ」に繋げていく。	
学科科目	学科語学(英語)	Academic Reading 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、語彙・文法だけでなく、内容の点でも高度な英文の読解力を修得し、自身の考えを英文で、また口頭で表現できるようになることを目指す。また英語史に関する理解を深めることも目標とする。授業では、英国放送協会(BBC)のドキュメンタリー“The Story of English”を題材とした、英語史を一般読者用にわかりやすくまとめたテキスト等を使用する。英文に散見される、重要な語彙や文法事項を確認し、発信型のタスクに取り組むことで、英語表現力の向上も目指す。テキストには、シェイクスピアやジェイン・オースティンの原典からの抜粋が挿入されており、これらの作家達の文学史的な解説も試みる。同時に関連する映像資料を授業に導入し、英語という言語そのものに関する理解を深め、今や世界共通語となった英語の過去と現在、さらには未来についても学修する。	
学科科目	学科語学(英語)	Academic Reading 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、知的で高度な内容の英文を正確かつ迅速に読み進めることができるようになることと、修得した英語表現を用いて、自らの考えを、500語程度の英文、または5分間程度の英語スピーチで、示すことができるようになることを目指す。授業においては、英国放送協会(BBC)で放映された“The Story of English”を元にまとめたテキスト等を用いて、歴史的観点から英語という言語を考える。テキストにはイギリス英語独特の表現が散見され、この点を積極的に取り上げることで、英語と米語の相違に関する知識も深めたい。さらに発信型能力の向上も目指して、重要な構文や語法、語彙の確認を重点的に行い、これらを用いたライティング・スピーキング演習も行う。	
学科科目	学科語学(英語)	Advanced English Reading 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、多様な内容の英文読解に不可欠な基礎的な語彙や文法を修得し、英語で書かれた文章におけるパラグラフ構造について、理解できるようになることを目標とする。また新しく学んだ英語表現を正確な発音ともに修得し、それらを用いて、自身の見解を英語でまとめる、または口頭で発表できるようになることも目指す。理解が難しいと思われる英文については、その構造を重点的に説明する。新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。併せて、読了した英文を活用したディクテーションも行う。	
学科科目	学科語学(英語)	Advanced English Reading 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、自然科学や人文科学など、様々な話題を扱う英文の理解に必要な基礎的な語彙や文法知識を修得し、日本語で書かれた文章とは異なる英文パラグラフの仕組みを理解できるようになることを目指す。さらに新出の英語表現の発音や用法をマスターし、それらを活用して、自らの考えを英語で述べることも目標とする。授業においては、ある程度の長さがある英文を毎回の授業で通読し、重要な文構造やパラグラフ構成については時間を割いて説明する。新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。併せて、読み終えた英文を用いた音読も行う。	
学科科目	学科語学(英語)	Advanced English Reading 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、難易度の高い英文読解に不可欠な語彙や文法に関する知識を身に付け、その内容をすばやく正確に理解するだけでなく、文体の多様性をふまえ、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。また読み終えた英文に対して、自分なりの考えを英語でまとめる、あるいは口頭で述べる能力の修得も目指す。テキストの各ユニットには、やや長めの英文が収められているが、各回の授業ごとに読み切る。またスキミングやスキニング等のリーディングスキルを紹介し、新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。ディクテーションと音読活動を導入することにより、総合的な英語力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	学科語学(英語) Advanced English Reading 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、英文で書かれた内容を正確かつ迅速に理解するだけでなく、書き手の文体上の特色や、用語選択の意図を理解した、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。さらに、読み終えた英文に対して、300語程度の英文、または3分間程度の英語スピーチで、自身の見解を示す能力の伸張も目指す。毎回の授業では、英文を読み切るこ前提に、理解が難しいと思われる自然科学系や社会科学系の語彙、また複雑な倒置・省略表現などの説明を行う。併せて修得したリーディングスキルを用いて、英文の理解度を問う問題に取りくむ。またディクテーションや音読も行う。	
学科科目	学科語学(英語) Advanced English Grammar1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学上級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して修得する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では上級レベルのより基礎的な時制(過去・現在・未来)、相(完了・進行)、主語と動詞の一致、名詞、代名詞、冠詞、法助動詞、受動態について学修し理解を深める。	
学科科目	学科語学(英語) Advanced English Grammar2	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学上級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では上級レベルのより複雑な名詞節、形容詞節、動名詞、不定詞、接続詞、副詞節、副詞節の副詞句への変換、仮定法について学修し理解を深める。	
学科科目	学科語学(英語) Advanced Oral Communication 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、毎回の授業でのディスカッションに向けて行う事前学修によってリーディング力を向上させ、同時に、英語で行われる授業に参加することによりリスニング力と、プレゼンテーションやディスカッションへの参加によってスピーキング力を向上させることを目的とする。特に、次の3点に重点を置く。 ①英語の情報検索、精読、要約を行うことができる。 ②自分の意見をまとめて、発表することができる。 ③自分の主張を明確にし、他者の意見を批判的に傾聴し、論理的に自分の見解を示すことができる。	
学科科目	学科語学(英語) Advanced Oral Communication 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Advanced Oral Communication 1」で学修した能力をさらに高めることを目的とする。毎回の授業でのディスカッションに向けて行う事前学修によってリーディング力を向上させ、同時に、英語で行われる授業に参加することによりリスニング力を、さらにプレゼンテーションやディスカッションへの参加によってスピーキング力を向上させることを目的とする。特に、以下の3点に重点を置く。 ①英語の情報検索、精読、要約を行うことができる。 ②自分の意見をまとめて、発表することができる。 ③自分の主張を明確にし、他者の意見を批判的に傾聴し、論理的に自分の見解を示すことができる。	
学科科目	学科語学(英語) Basic English Grammar1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学初級レベルの文法知識を、リスニング・リーディング・ライティングを通して学ぶ。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われているのか、そしてどのような文脈で使用されているのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。具体的には、Be動詞、have、単純現在時制、現在進行、名詞・代名詞、可算・不可算名詞、過去時制について総合的に学ぶことにより理解を深める。	
学科科目	学科語学(英語) Basic English Grammar2	本科目は、講義科目である。 本科目では、Basic English Grammar1の学修内容を踏まえ、大学初級レベルの文法知識を、リスニング・リーディング・ライティングを通して学ぶ。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われているのか、そしてどのような文脈で使用されているのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。具体的には、過去時制、未来表現、法助動詞、名詞と修飾語、比較表現について総合的に学ぶことにより理解を深める。	
学科科目	学科語学(英語) Basic English Reading 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学初級レベルのリーディング能力の修得を目指して、テキストの各章に取められた英文の読解、およびその理解度を確認する問題に取り組む。円滑なリーディングを行う上で、語彙力は必要不可欠である。そのため、この授業でははじめに英和辞書・和英辞書の正しい使い方を修得したのちに特に語彙学修に力を注ぐ。頻繁に単語テストを実施することで、授業終了までに約300の新規単語を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 学科語学(英語)	Basic English Reading 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学初級レベルのリーディング能力の修得を目指して、テキストの各章に取められた英文の読解、およびその理解度を確認する問題に取り組む。円滑なリーディングを行う上で、語彙力は必要不可欠である。そのため、この授業では特に、語彙学修に力を注ぐ。Basic English Reading 1で培った語彙力を背景に、さらに派生語や同義語の修得も目指す。頻繁に単語テストを実施することで、授業終了までに約300の新規単語を修得する。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Basic Oral Communication 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、基本的な英語力を身につけながら、リスティングとスピーキングのスキルを向上させ身につける。以下の3点に重点を置き、大学初級レベルの英語のスピーキング力とリスニング力を養成し、口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。特に以下の3点に重点を置く。</p> <p>①大学初級レベルの英語で自分の考えを発表できる。</p> <p>②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。</p> <p>③自律的に学ぶ態度を修得する。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Basic Oral Communication 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「Basic Oral Communication 1」で修得した基礎的な英語力をさらに発展させる。基本的な英語力を身につけながら、大学初級レベルの英語のリスニング力とスピーキング力のスキルを向上させ、口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。特に以下の3点に重点を置く。</p> <p>①大学初級レベルの英語で自分の考えを発表できる。</p> <p>②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し様々な視点を知る。</p> <p>③自律的に学ぶ態度を修得する。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Business English	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ビジネスの世界で成功するために必要な必須の言語スキルを学ぶ。将来、遭遇するあらゆるビジネスシーンにおいてで使用される語彙、文法、および表現を学修することにより、以下の6つの能力を修得する。</p> <p>①オフィスでのメモ、指示、お知らせ、苦情の手紙、電子メールの送受信ができる。</p> <p>②英語を用いたで自己紹介やコミュニケーションをとることができる。</p> <p>③国際的な職場環境で求められるエチケットや礼儀作法に従うことができる。</p> <p>④海外出張で英語を使うことができる。</p> <p>⑤グループでのディスカッションや交渉の際に英語を用いることができる。</p> <p>⑥ビジネスシーンにおける面接場面等で英語を用いることができる。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Debate and Discussion	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会の様々な領域における日常的な話題(携帯電話、フリーター、結婚、飲酒喫煙、英語学修など)について、現象、背景、その問題・課題におけるメリットとデメリットを把握し、自分の意見を英語で明確に主張できるようになることを目的とする。</p> <p>以下の3点の内容において知識とスキルの修得を目指す。</p> <p>①英語を運用する上での表現を数多く修得する。</p> <p>②論理的思考力、批判的思考力を向上する。</p> <p>③統合的で、インタラクティブな英語活動を通し、英語コミュニケーション力を向上させる。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate English Grammar1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学中級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では中級レベルのより基礎的な時制(過去・現在・未来)、相(完了・進行)、疑問文、名詞・代名詞、法助動詞について学修し理解を深める。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate English Grammar2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、大学中級レベルの文法知識をリスニング、リーディング、ライティングを通して学修する。まず、使われている文法の意味を理解し、次にどのような形で使われるのか、そしてどのような文脈で使用されるのかを理解して、コミュニケーションに繋げる。この科目では中級レベルのより複雑な接続詞、形容詞・副詞の比較級・最上級、受動態、名詞の可算・不可算、形容詞節、動名詞、不定詞、名詞節について理解を深める。</p>	
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate English Reading 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、Basic English Reading1および2で学修した内容を踏まえ、大学中級レベルの読解力の修得へ向けて、テキストの各章に取められたやや長めの英文と、それに関連する問題に取り組む。授業では引き続き、語彙学修に力を注ぎ、頻繁に単語テストを実施するが、さらに修得した語彙や熟語などの表現を用いた英作文力と、読み終えた英文を活用したディクテーションを通して、リスニング力を養成する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate English Reading 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Intermediate English Reading1」で学修した内容を踏まえ、大学中級レベルの読解力の修得へ向けて、テキストの各章に収められた長めの英文と、それに関連する問題に取り組む。授業では引き続き、語彙学修に力を注ぎ、頻繁に単語テストを実施するが、さらに修得した語彙や熟語などの表現を用いた英作文力と、読み終えた英文を活用したディクテーションを通して、リスニング力を養成する。	
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate Oral Communication 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、大学中級レベルの英語のスピーキング力およびリスニング力を修得し、口頭および文章で概要を英語で述べるができるようになるための講義を行う。履修学生は、英語での発言力を向上させるために、語彙力を修得する。講義は、特に次の3点に重点を置く。 ①大学中級レベルの英語で自分の考えを発表できる。 ②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。 ③自律的に学ぶ態度を修得する。	
学科科目 学科語学(英語)	Intermediate Oral Communication 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Intermediate Oral Communication 1」で学修した大学中級レベルの英語のスピーキング力およびリスニング力をさらに向上させ、より高いレベルで口頭および文章で概要を英語で述べられるレベルを修得する。その達成に向けて次の3点に重点を置く。 ①大学中級レベルの英語で自分の考えを発表できる。 ②スピーキングとリスニングを通して異文化を理解し、様々な視点を知る。 ③自律的に学ぶ態度を修得する。	
学科科目 学科語学(英語)	Presenting in English 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、プレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法を講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現について学修する。さらに、プレゼンテーションの3つの要素、visual, vocal, & verbalスキルに焦点を当てたフレームワークを通して、プレゼンテーションの作り方を学ぶ。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。	
学科科目 学科語学(英語)	Presenting in English 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、高度な英語でのプレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法について講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現についても学修する。プレゼンテーションのトピックを調べることで、英語のボキャブラリーを増やし、英語の読解力を身につけます。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。	
学科科目 学科語学(英語)	Topic Studies	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界の様々な課題、問題についてのトピックに関する基本的な情報や知識を英文での読み・聞きから、理解できるようになることを目的とする。 特に、持続可能な開発目標について詳しく学び、その達成のための方法を議論する。この他、複雑な課題、問題について理解できるだけの語彙力、聴解力、読解力を身につけ、様々なトピックについて、自分の意見を英語で発信する力(ライティング力、プレゼンテーション力)を向上させる。	
学科科目 学科語学(英語)	Writing in English 1	本科目は、講義科目である。 本科目では次の①～④の内容においてその知識とスキルの修得を目指す。 ①パラグラフとは何か説明できる。 ②パラグラフの構成を理解し、適正なパラグラフを書くことができる。 ③目的によって様々なパターンのパラグラフを書くことができる。 ④複数のパラグラフから構成されるエッセイを書くことができる。 また、より効果的に文章を作成す上で、文章の構成方法を、「思考ツール」と呼ばれるソフトを用いて学修する。授業では、英検準一級レベルのライティング力を目指すことを目標とする。	
学科科目 学科語学(英語)	Writing in English 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「Writing in English 1」をふまえ、次の①～④の内容においてその知識とスキルの修得とさらなる向上を目指す。 ①パラグラフとは何か説明できる。 ②パラグラフの構成を理解し、適正なパラグラフを書くことができる。 ③目的によって様々なパターンのパラグラフを書くことができる。 ④複数のパラグラフから構成されるエッセイを書くことができる。 また、より効果的に文章を作成す上で、文章の構成方法を、「思考ツール」と呼ばれるソフトを用いて学修する。授業では、英検準一級レベルのライティング力を目指すことを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	ドラマで学ぶ英語	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語圏の映像化作品を教材として、主に次の2点の能力を伸ばさせることを目標とする。第一に、ナチュラルスピードで発話される英語のリスニング力を高める。速いスピードや発音の省略などにより、日常の英語会話の理解はしばしば困難となる。授業では、日本語を第一言語とする学修者がつまずきやすい連続音や同化について解説し、実際にディクテーションのタスクに取り組むことで、聴解力を高める。第二に、これまでの学修者用テキストにはあまり見られない、口語特有の英語表現、時には俗語等もとりあげ、理解を深める。作品によってはボリティカル・コレクトネスに配慮した表現も見られ、これらの学修を通して、日常英会話の語彙を増やすと同時に、英語圏における社会・メディアと言語の関係についても学ぶ。	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	ホスピタリティ英語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業（エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等）に関与するために必要な英語コミュニケーション・スキル、知識を修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら覚えていく。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて学修したトピックを、プロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめ発表する。	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	ホスピタリティ英語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業（エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等）に関与するために不可欠な英語コミュニケーション力を楽しみながら修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら覚えていく。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて、学修したトピックをプロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめた上で発表する。また、海外からのインバウンド客および海外での接遇に欠かせない、日本の伝統、催事、現代の社会などを英語で発信できるスキルを修得する。	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	英語音声学概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語の音声について概要を学ぶ。英語の母音の数は日本語より多く、耳で聞き分けることは、青年期を迎えたとかなり難しくなる。これを克服するために、発音記号を用いて視覚的に区別する。子音の発音は調音点と母音の調音点を講義した上で意識すれば発音ができるように指導する。発音記号については、やさしい単語や短い文をIPAでの表記、逆にIPAの表記を英語で表すことができるように指導する。イギリス英語(Received Pronunciation)とアメリカ英語(General American)の比較もするが、基本的にGAの習熟を目的とする。	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	英語学概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語という言語についての言語学のクラスとして、英語について総合的な知識を得ることを目的とする。以下の6つの点について基礎的な知識を得る。 ①他の言語との比較 ②形態論(語や句がどのように形成されるか) ③統語論(センテンスがどのように形成されるか) ④意味論(語の意味とは何か) ⑤語用論(実際に使用される時の語・句・センテンスの意味がどのように形成されるか) ⑥コミュニケーション(どのようにして意思を伝達するか)	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	英語圏留学入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、次の2点を重点項目として講義を行う。Ⅰ英語圏留学に関する基礎知識についての学修(文化・習慣・社会情勢:留学事情や留学する際の危機管理)。Ⅱ空港・機内・ホテル・観光地・ホームステイ先等でのコミュニケーションスキルの学修。具体的には、以下の3点を学ぶ。 ①出国から帰国するまでに遭遇する場面で必要とされるコミュニケーション力の修得。 ②出国から帰国までに求められるコミュニケーションスキルへの理解。 ③「わたしの留学」をテーマに自分がプランした留学のプレゼンテーション。	
学 科 科 目	学 科 語 学 (英 語)	英語発音クリニック	本科目は、講義科目である。 本科目では、まず個々の子母音を確実に発音できるようになるための講義を行う。特に日本語にない、/l/ と /r/ の区別や、/ə/、/ɛ/、/ɪ/ などの子音の発音、さらに、日本語母語話者には同じ音に聞こえる母音の区別、例えば同じ「ア」に聞こえる /ɑ/、/ʌ/、/æ/ の区別などを修得する。その上で、ナチュラル・スピードで話される英語で生じる音の連結(語の最後の子音と次の語の最初の母音の連結)、脱落(want to が wanna に変化する /nt/ の連続で生じる脱落)、同化(ten bikes の 歯茎音 /n/ が後続の両唇音 /b/ に影響されて、両唇音 /m/ に変化する)などの発音の変化を学ぶと共に、リスニング力を高めると同時に、自分で発音できるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	学科語学(英語) 資格ビジネス英語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、リスニング、リーディングを主として基本的な英語力を身につけながら、日常会話、およびビジネスシーンで使用する英語の語彙、表現を学び、TOEIC L&R 400点レベルの修得をする。TOEIC初心者を対象に、TOEIC問題の構成や内容について紹介する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、実際の試験問題を通して、必要なスキルを確認しながら、英語力を向上させていく。各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。	
学科科目	学科語学(英語) 資格ビジネス英語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、基礎的なリスニング・リーディング力を強化しつつ、グローバルなビジネスシーンで用いられる英語の語彙、表現を理解し、身につける能力を修得する。またビジネスに関する知識を学び、英語コミュニケーション能力を高めるとともに、TOEIC L&R 500点レベルの英語力を修得する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、英語力向上のためのPDCAを受講生各自が確認しながら、実際の試験問題に慣れると共に、早く解けるようになるための学びを蓄積していく。授業で一斉に学び、さらに各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。	
学科科目	学科語学(英語) 資格ビジネス英語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、これまで培った基礎英語力をベースに、日常会話を含め、グローバルなビジネスシーンで用いられる会話ストラテジーの理解を向上させ、リスニングスキルを磨く。また、TOEIC問題に対して、迅速かつ正確に解答できるよう、文法知識の定着を目指す。また、多くの英語のビジネス文書を読むことでビジネス文書の読解力を向上させる。TOEIC L&R 600点以上のレベルに到達するために、各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも取得する。	
学科科目	学科語学(英語) 資格ビジネス英語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバルなビジネスシーンで用いられる高度な英語力を駆使できるようになることを目指す。ビジネスに関する語彙量、表現についての知識を増やし、会話、オンライン等で行われるインタラクションに慣れ、英語コミュニケーション能力を総合的に向上する。また、多くの英語のビジネス文書等を迅速かつ正確に読み取る練習を行い、結果としてTOEICのスコアアップを目指す。TOEIC L&R 700点以上のレベルに到達するために、自律的・継続的な学びの態度とスキルも取得する。	
学科科目	学科語学(英語) 第二言語修得概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、第二言語修得に関する理論と実践を講義する。第二言語修得研究を概観し、言語修得理論(theory)と教育現場でどのようにその理論が実践(practice)されているのかを映像資料等を用いて学修する。さらに、理解を深めるため、また教育現場で十分な説明ができるように、「教室での言語修得」、「バイリンガリズム」、「学修者言語」、「学修者要因」などのトピックに関して、プレゼンテーションを行う。	
学科科目	学科語学(英語) 通訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語と日本語の論理構成の違いを意識しながら、日英に通訳する通訳スキルトレーニング(シャドーイング・サイトトランスレーション)を行う。トレーニングを繰り返すことで、英語と日本語を聴き取り、理解し、自分の言葉で発話し、発話内容を確認する力を磨く。通訳に必要なスキルを学ぶほか、英語で日本の案内をしたり、病院、役所といった施設で国際共通語としての英語によって日常生活をサポートするなど、様々なシーンにおいて活用できる通訳の基本について学ぶ。	
学科科目	学科語学(英語) 翻訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語から日本語への翻訳の基礎を学ぶ。幅広いテーマの練習問題を通して実践することで、基本的な英語の知識、語彙力、表現力を向上させるだけでなく、日本語の語彙力や表現の力を修得する。翻訳に必要な英語を正確に読む力、コンテキストの理解、辞書の使い方、インターネットを使ったリサーチスキルに加え、ビジネス文書、メールやSNS、コミュニティでの案内文、文芸作品、歌詞など、幅広いジャンルを学ぶ。	
学科科目	学科語学(中国語) ネットビジネス中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、簡単な中国語のビジネスメール・ファックスを読むこと及び日本語に訳すことを行う。具体的には、インターネット等を用い、中国各種企業のホームページを閲覧し、各地政府が開設する外資系企業向けのホームページの掲載内容から検索し読む能力を養成する。中国におけるのショッピングサイトなどを閲覧でき、販売実績の調査、商品の紹介、配送方法の確認などができるように演習を行う。中国大陸だけではなく、台湾などの華語圏の商業用語とそれと中国大陸との異同についても見識を広める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	学科語学(中国語) ポスト留学中国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中国語圏留学経験者がさらにその中国語力を高めることを目標とする。具体的には、以下の6点に重点を置く</p> <ol style="list-style-type: none"> ①語彙を生活用語から広げ、社会・経済・時事などの多分野の用語を身につける。 ②公式の場におけるスピーチ或いは通訳ができる。 ③簡単なプレゼンテーションができる。 ④複文・四字熟語等を駆使し、やや高度な中国語の文書を読み・書き・聴解ができる。 ⑤構文・読解・聴解力を修得する。 ⑥日常会話から初歩的ビジネスで活用可能な中国語力を修得する。 	
学科科目	学科語学(中国語) 接客のための中国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、接客に重点を置いてした中国語を学修する。</p> <p>具体的には、小売・飲食・宿泊施設・交通機関等の業種ごとに必要なフレーズを中心に構成する。教員からの一方通行ではなく、受講生相互にロールプレイを行い実践的な語学力を身につけることを目標とする。中国語圏の人々とコミュニケーションをとるために必要な地理的・文化的な知識もあわせて学修する。語学力とともに、コミュニケーションに必要な中国・台湾についての知識の獲得も目指す。</p>	
学科科目	学科語学(中国語) 台湾華語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、まず外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、繁体字に対する拒否感を持たせないためにも、日本の漢字との相違点・類似点、基本的な旁(つくり)の学修により、個々に繁体字を覚えるのではなく、体系的かつ効率的な繁体字修得を目指す。発音練習の際には、基礎の会話に必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の熟詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を台湾華語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。あわせて、台湾の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>	
学科科目	学科語学(中国語) 中国語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。発音練習の際には、単なるピンイン練習だけにとどまらず、基礎の中国語会話に必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の熟詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を中国語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。必要に応じて、簡単な疑問構文を用いて、会話形式で発音の練習を行うこともある。また、日本の漢字と異なる簡体字に対する拒否感を持たせないためにも、簡体字の成立過程の説明を行い、常用の漢字の日中での書き方の違いを明示して体系的かつ効率的な簡体字修得を目指す。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>	
学科科目	学科語学(中国語) 中国語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中国語コミュニケーション1に引き続き授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、中国語1で学修した内容を踏まえ、語彙を増やし、より複雑な言語表現能力の獲得を目指す。本科目での到達目標は、商品の説明、ガイドブックの観光案内、注意書き等における読解力、日本のことを伝えられるような会話力、簡単なメールのやり取りができる文書作成能力を身につける。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。</p>	
学科科目	学科語学(中国語) 中国語コミュニケーション3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初中級レベルの単語と文型(慣用形)を修得することを目標とする。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで実践的な語学運用能力を養う。具体的には、簡単な観光案内・簡単な打ち合わせの通訳ができ、日常生活でよく使われる商品の紹介などができる力を身につける。あわせて、中国語検定4級・HSK(漢語水平考)3・4級レベルに相当する中国語力を獲得することを目指す。</p>	
学科科目	学科語学(中国語) 中国語コミュニケーション4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、中・上級レベルの中国語を学修する授業である。中級レベルの中国語の学修を終えた学生は、この授業で中・上級レベルの単語と文型を学ぶ。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで会話を中心とした実践的な語学運用能力を養う。具体的には、観光案内、ビジネスシーンにおける打ち合わせの通訳などができる力を修得する。あわせて、中国語検定3級・HSK(漢語水平考)4・5級相当の語学力を獲得することを目指す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科学目 学科語学(中国語)	中国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的な観光用語を学修した上で、観光地の紹介ができる能力を養成する。発音の正確さは観光案内の基本であることをふまえ、授業では発音練習を実施する。併せて、観光実務での聴解力の重要性に鑑み、観光関係のヒアリング資料を活用し、聴解力を伸ばさせる。交通機関の乗換や、免税店の利用方法などを紹介する場合、説明文が欠かせないことも含め、構文や選択すべき表現方法について実践を意識してロールプレイングを行いながら修得する。	
学科学目 学科語学(中国語)	中国語検定講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、資格取得のために必要な単語・聴力・文法をバランスよく取り上げる。具体的には、HSK(漢語水平考試)3・4級、中国語検定試験3・4級検定の過去問題および模擬問題を用い、主要な文法ごとに分類し、実践的な練習・解説を行う。また、模擬テストを実施することで実践的な資格受験の準備を行う。過去問題および模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながら基礎文法力と語彙力を修得する。	
学科学目 学科語学(中国語)	中国語検定講座b	本科目は、講義科目である。 本科目では、HSK(漢語水平考試)4・5級、中国語検定3級の試験内容に沿って授業を展開する。具体的には、1500語～2500語前後の単語および生活・学修・仕事などの場面で基本的な文型を修得することで検定試験の合格を目指す。また模擬テストを実施し、実践的な資格受験の準備を行う。過去問題、模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながら基礎文法力と語彙力を修得する。	
学科学目 学科語学(韓国語)	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語の入門クラス「韓国語1」で、文字・発音・基礎文法を修得した初修学修者を受講生として、リスニングとシャドーイングをおこなう。日本語と韓国語では発声方法や喉、舌の使い方が違う為、微妙な発音の違いが表現できなかったり、聞きとれない事が多い。これを克服するために、日本でもよく知られているKpopのサビの部分を中心に、リスニングとシャドーイングをおこなう。併せて、歌詞に使われた簡単な文型も学修する。また、ドラマの一場面を通して、自己紹介や趣味など日常生活に関連する決まり文句を身につけることで、韓国の文化にもふれる。発音の基本と抑揚、発音の変化の決まりなどを知り、ネイティブに近い韓国語発音で会話ができるようになるための基盤を修得する。	
学科学目 学科語学(韓国語)	トラベル韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」を学修済で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書ができる、基礎的な文型が理解できる学生を受講生として、初歩的な旅行会話をおこなう。空港、ホテル、飲食店、ショップ、公演場、観光地などで多用する表現方法を身につけ、状況に応じた対応ができる実践力を養う。具体的には、毎回異なる場所とシチュエーションを設定し、依頼に応じ、問い合わせる、提案する、許可を求める等の表現を学ぶとともに、値段や時間の表現方法なども学修する。また、ペアワークとグループワークでの会話練習を通じて、旅行先で出会う韓国人とスムーズにコミュニケーションができることを目指す。	
学科学目 学科語学(韓国語)	ポスト留学韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語圏での短期・長期の語学留学を経た受講生を対象として、留学先で修得した韓国語能力(話す・聴く・読む・書くの4技能)のさらなる向上を図るための講義を行う。併せて、TOPIK3級以上の能力を修得する。中級レベルの語彙や表現を多用したテキストを読みながら、各トピックの内容を理解し、韓国語で議論・作文・プレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力を向上させる。また、韓国の言葉だけでなく、韓国文化や社会について熟知することで日本文化との比較方法を学び、異文化理解力を修得する。	
学科学目 学科語学(韓国語)	韓国語コミュニケーション1	本科目は、講義科目である。 本科目では、はじめて韓国語を学修する学生を対象とした初修学修者向けの入門クラスである。テキストを用い、以下を体得する。 ①韓国語の文字(ハングル)の仕組みを正確に理解する。 ②母音・子音・終音(パッチム)・発音の変化の学修を重ね読み書きができるようになる。 ③基礎的な文法「～ですか/です」「～ますか/ます」の表現や過去形表現を修得する。 ④基礎的な文法と文型を使い簡単な挨拶や自己紹介等の初歩的の日常会話を修得する。 ⑤ペアワーク・グループワークで学んだ表現を使ったコミュニケーション力を高める。 語彙レベルは、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級)、ハングル能力検定試験5級程度とする。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語コミュニケーション2	本科目は、講義科目である。 本科目では、初修学修者向けのクラスとして、入門クラスの「韓国語コミュニケーション1」で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書きができるようになっていることを前提として展開する。テキストに従い、各課における語彙の学修とともに、初歩的な日常会話ができる基礎的な文法と句型を中心に学ぶ。多数の例文を用いながら反復的に句型練習を行い、会話の中で学修した文法項目をしっかり使いこなせるように取り組む。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級・2級)、ハングル能力検定試験5級程度を修得する。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語コミュニケーション3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語コミュニケーション1」と「韓国語コミュニケーション2」で学修した基礎知識を基盤に表現力を定着させ、初級から中級への橋渡しをおこなう。テキストに沿って、各課における語彙の学修とともに、中級レベルの実用的な文法表現を学修する。多数の例文を用いながら反復的に句型練習を行い、学修した文法項目を活用できるようになるための講義を行う。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級1級、2級、ハングル能力検定5級、4級レベルの語彙力と表現力を修得する。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語コミュニケーション4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語コミュニケーション3」に引き続き、中級レベルから上級レベルへのステップアップを目標に、授業の中で文章の正確な読解力と表現力、会話運用力など実践で活かせる総合的な韓国語力を高めるための講義を行う。使用するテキストにおける各課の新出語彙、文法の理解と本文のダイアログをベースに、会話練習、語彙の置き換え練習、リスニング問題、作文問題などを通して、様々な状況で実際に使える表現を修得する。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国から日本を訪れる方々を迎え入れ、観光案内することを想定し、空港、駅、ホテル、飲食店、観光地などの場所で、相手の意向を尋ね、要求を理解し、それに応えることができる表現などを学修する。毎回、案内する場所とシチュエーションを具体的に設定した上で、想定される状況に最も適した表現を中心に学ぶ。基本的な観光用語や表現のみならず、日本の社会や文化についても分かりやすく説明するなど、おもてなしができる韓国語の実践会話や応用会話にもチャレンジする。自分の考えを述べ、日本文化について伝えるとともに、相手のことを理解することで、より円滑なコミュニケーション力を修得する。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語ビジネス1	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的に初級または中級レベルの課程を修得した学生を受講生として、接客のための敬語表現を使いこなすフォーマルな実用会話能力を修得するための講義を行う。挨拶から飲食、販売、宿泊そしてレジャーまでのビジネス・シーンに対応するために、あらゆる接客現場を想定したフレーズを利用し、現場ですぐ役に立つよう関連語彙・表現などを中心に学修する。さらに、お客様からの質問、呼びかけ、要求などの状況に応じて柔軟に対応でき、伝えたい内容を自分の言葉で表現できるレベルまで、コミュニケーション力を高める。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語ビジネス2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語ビジネス1」を修得した学生、または中級レベルとそれ以上の学生を受講生として、敬語表現を用いたフォーマルなビジネス文書の作成能力を修得し、ビジネス現場で対応できる実用性の高いコミュニケーション力を身につけるための講義を行う。業務電話、メールやFAX、議事録、報告書、稟議書などの書類作成について理解し、業務遂行に必要な文章力向上のための練習をおこなう。特に日本語の敬語は相対敬語であるが、韓国語の敬語は絶対敬語であることに留意し、ビジネスの現場でのやり取りには敬語表現が必要不可欠である点に注意しながら適切に対応する方法を学ぶ。適切なビジネス文書の作成、ビジネス関連の語彙や表現の修得、聞き手が必要とする情報を正確に伝達できる高度なコミュニケーション力の涵養を行う。	
学科科目 学科語学(韓国語)	韓国語検定講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語初級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、 ①「ハングル検定試験の初級(5-4級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK I(1-2級)」(韓国教育省認定・主催)の合格を目指す。講義では、初級レベルの読む・書く・聞く・話すなどの総合的能力を定着させるとともに、過去問や模擬問題を解きながら出題傾向と出題形式を把握し、本試験に備えていく。また、副教材として初級単語800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	学科語学(韓国語) 韓国語検定講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語中級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、</p> <p>①「ハングル検定試験の中級(3級)」(ハングル能力検定協会主催)</p> <p>②「TOPIK II(3-4級)」(韓国教育省認定・主催)</p> <p>の合格を目指す。講義では、試験に出題される「聴き取り」・「作文」・「読解」の全ての項目に対し、パターンを分析・理解・応用の上で、解答力を取得する。また、副教材として中級単語1800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。</p>	
学科科目	学科語学(韓国語) 韓国語実用会話1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した成果をふまえ、実際の場面で使いこなすための会話練習を中心とする講義を行う。「韓国語1・2」で修得した最も基礎的な文法である体言と用言の肯定文と否定文(「～です・～ではありません」「～ます・～ません」)、現在形と過去形、存在詞(ある・いる)、漢数詞などを用いた文型を使いこなしながら、流暢な会話を修得する。ペアワークとグループワークを通して、自己紹介、位置、日付、電話番号、買い物、予定、過去の出来事などについて会話できるように練習する。とっさの場面でも対応可能な高いコミュニケーション力を学ぶ。</p>	
学科科目	学科語学(韓国語) 韓国語実用会話2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した表現を汎用的に活用するための会話練習を実施する。上記科目で修得した固有数詞、勧誘、願望、尊敬、許可、禁止の文型を使いながら、流暢な会話を修得する。ペアワークとグループワークを通して、時刻、依頼、提案、許可、計画についてなどの諸事項を軸として、買い物、注文、病院などの場面での会話ができるようにコミュニケーション力を高め、十分なコミュニケーションが取れる力を修得する。</p>	
学科科目	学科語学(日本語) ビジネス日本語1a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本語能力試験N1を取得した学生が、敬語の仕組みや使い方、敬語表現などを身につける。将来日本語を使って仕事をする留学生にとって敬語学習は必須である。敬語の基本を学習することからはじめ、敬語を通して日本人の考え方などを理解しながら、ビジネス場面に応じた練習を行う。敬語は間違えて使うくらいなら使わないほうがいいと言われるほど、正しさが求められるものである。敬語の形を覚えるのに自学自修が必要となる。</p>	
学科科目	学科語学(日本語) ビジネス日本語1b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「ビジネス日本語1a」を学んだ学生が、ビジネス場面に応じた敬語の練習を行う。また、ビジネスマナーについても、日本人の考え方などを理解しながら学ぶ。さらに、新聞記事を通して日本人や日本社会を理解し、自分の意見をまとめて記事とともに紹介し、ディスカッションする。応用力をつけるためには、敬語の基礎が身につけていて、状況を判断して言葉を選び使うことができなければならない。授業の練習だけでは足りないため、日常生活のさまざまな場においても学ぶ姿勢を養う。</p>	
学科科目	学科語学(日本語) ビジネス日本語2a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では「ビジネス日本語1ab」を修得した、またはそれと同等のレベルを有する学生が、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。ビジネス場面のコミュニケーションは、いかに速く人間関係を理解し、自分の立場に見合った適切な敬語を使えるかにかかっている。前期は、敬語の復習のほかに場面練習も取り入れながら、理解力・運用能力を高めていく。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な用語も学ぶ。</p>	
学科科目	学科語学(日本語) ビジネス日本語2b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、「ビジネス日本語2a」を学んだ学生が、前期に引き続き、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。後期は、就職に役立つ検定試験BJT(ビジネス日本語能力テスト)のJ1以上の取得を目指した勉強を通して、ビジネスコミュニケーション能力を高めていく。人間関係の理解・適切な敬語の運用につなげるため、なぜその解答を導いたのかを客観的に説明する能力も養う。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な語彙も拡充していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科学目 学科語学(日本語)	ビジネス日本語基礎a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得していない学生が、卒業前に敬語全般について理解し、簡単な敬語が使えるようにすることを目指す。日本でも海外でも日本語を使って仕事をしていく上で、敬語は外せない。しかし、敬語を体系的に学んでいる学生はほとんどいないため、本科目ではまずは敬語の基本を学び、敬語の語形や表現を理解し、聞いてわかるようにする。また、簡単な敬語を使って会話できるようにする。	
学科学目 学科語学(日本語)	ビジネス日本語基礎b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語基礎a」を学んだ学生が、簡単な敬語の会話や簡単なビジネスマナーを身につけることを目指す。就職して日本語を使って仕事をする際に、限られた場面ではあっても、どのような場面で敬語を使用するか理解し、適切に使用できるようにする。また、日本社会への理解を深めるために、新聞記事等から日本人や日本社会を読み解き、自分の意見をまとめて、発表することも適宜実施していく。	
学科学目 学科語学(日本語)	総合日本語a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1合格を目的の一つとする学生が、上級レベルの読解力、また聴解力と発話力、さらに語彙力、文法力を身につけることを目指す。読解力・文法力に関しては、基礎力を確認した上で、様々な文体に触れ、文章の構造を読み取る、より高い読解力を身に付けることを目指す。聴解力においても、話の流れ(構成)を聞き取れるようになることを目指す。語彙を増やすためのテストは毎回行う。聴解のための耳をつくるためにも発音・発話練習を行う。	
学科学目 学科語学(日本語)	総合日本語b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「総合日本語a」を学んだ学生が、日本語能力試験N1合格を目的の一つとして「総合日本語a」の内容を引き続き学ぶ。日本語能力試験N1の教材を用いて、読解、文法・語彙、聴解の力をつけることを目指す。また、聴解のための耳をつくるために、発音・発話練習も継続する。内容が多岐にわたるため、一つ一つにかかる時間は少なくなるが、丁寧に学び、力を伸ばす。N1受検後は、丁寧に話す練習を行う。	
学科学目 学科語学(日本語)	日本語レポート1a	本科目は、講義科目である。 日本語能力試験N2レベルの学生が、レポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。まずは、単文レベルで練習する。	
学科学目 学科語学(日本語)	日本語レポート1b	本科目は講義科目である。 「日本語レポート1a」を学んだ学生が、引き続きレポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。単文レベルから複数の文へと少しずつ書く量を増やすことを目指す。	
学科学目 学科語学(日本語)	日本語レポート2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート1ab」を取得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、日本語の文章を書く場合の基礎的な知識(規則)を学んだ(「1ab」を修得した学生は復習した)上で、その規則に則って文章、段落へと範囲を広げていくことを目指す。読み手に伝わる文章を書くためには、表現力が必要となるが、それは文法力や語彙の選択能力、文章の構成力からなるものである。これらの表現力をつけていくことを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 学科語学（日本語）	日本語レポート2b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2a」を学んだ学生が、読み手に伝わる文章を書けるようにすることを目指す。そのためには、文法力や語彙の選択能力、文章の構成力を身につけ、最終的には、一つのテーマについて、複数の段落からなるまとまりのある文章を書けるようにする。また、引用の方法やグラフの書き方、参考文献なども書けるようにする。さらに、わかりやすい文章かどうか、正しく書けているかどうかについて、自分自身でもある程度チェックする力も養いたい。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語レポート3a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。まずは、これまでに学んだレポートの書き方を復習しつつ、全員が一つのテーマで、大学で求められるレベルのレポートの書き方を学ぶ。同じテーマで書いていくので、他の学生の書いたレポートからも相互に学びあいながら、よりよいレポートを書き上げていく。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語レポート3b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート3a」を学んだ学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。後期は、前期の経験をもとに、自分でテーマを決めて自分の力でレポートを書けるようにする。教師は指南役に徹するため、後期は自主的な取り組みが不可欠となり、かなりの時間の自習が必要となる。1年の学びを通して自力でレポートを書ける程度の力をつけ、「卒業論文」「卒業研究」の基本的な骨組みが理解できるようになることを目指す。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語演習a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得している学生が、日本語を用いたプロジェクトワークを行うための準備をする。前期はプロジェクトワークをするために必要となる、資料の読解やインタビュー、アンケート調査、分析、まとめ、発表、ディスカッションなどの練習を行う。また、後期に行うプロジェクトワークのテーマや視点などの例を示していく。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させることを目指す。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語演習b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語演習a」を学んだ学生が、日本語を用いてプロジェクトワークを行う。後期はテーマを決めて、文献調査や実地調査を行い、何らかの形にまとめて発表をする。どのようなテーマでどのような成果物にするかという点から、その年の履修者と話し合った上で決定するが、できる限り実際の課題解決につながるようなテーマを設定する。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させつつ、日本語で目標を遂行することを目指す。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語聴解発話1a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。在学期間が1年以上経過している学生であっても、聴解力の伸びない学生が目立つ。その原因は「耳慣れ」の不足にあると考えるため、発音も含め日本語の音体系を身体の中に作ることから始める。また、聴き取れないのは、語彙力不足も大きな要因となっているため、習得語彙数の増加にも努める。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語聴解発話1b	本科目は講義科目である。 本科目は、「日本語聴解発話1a」を学んだ学生が、聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。聴解力が不足している受講生が多い場合は、前期に引き続き、発音練習を続け、日本語の音体系を体の中に作っていく。また、まとまった内容のものを聞いて理解した上で、自分の意見を表明する発話能力も伸ばすことを目指す。さらに、修得語彙数の増加も継続して努める。	
学科科目 学科語学（日本語）	日本語聴解発話2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語聴解発話1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得の一つの目標と定め、聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を「正確に」聴き取り、質問に対して根拠や状況を説明した上で、解答を導く、という練習を行う。内容がおおよそ聴き取ればよしとするものではないので、文法力や語彙力が問われる。語彙力をつけるために、漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションなどを毎回実施する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 学科語学 (日本語)	日本語聴解発話 2b	本科目は、講義科目である。 「日本語聴解発話 2a」を学んだ学生が、N1レベルの聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を用いて、話の構成を正確に聴き取り、それを説明する力をつけていく。漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションは前期に引き続き実施する。受検前の模擬試験では、答えを導き出した過程を重視する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。発話においては、丁寧な言葉で話す習慣を身に付けることを目指す。	
学科科目 学科語学 (日本語)	日本語読解 1a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が読解力、語彙力、文法力を向上させることを目的とする。授業で扱う語彙や文法は、N2レベルから始める。読解もまずはN2レベルの文章を用いて、文の構造、段落内の構成、文章全体の構成等を理解する練習を積み、確実に読解力を身につけることを目指す。また、1つのものを読み終えたときに、意見交換を行うので、意見交換の方法を身につけ、他人の意見を聞いて自分の考えの幅を広げることも目指す。	
学科科目 学科語学 (日本語)	日本語読解 1b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「日本語読解 1a」を学んだ学生が引き続き読解力・語彙力、文法力を向上させることを目的とする。そのための構造理解も続ける。扱う文章はN2レベルから少しづつN1レベルへと引き上げていく。また、精読とは別に、文章全体からどのような情報やメッセージを得たか等の概略をつかむ読みや、レベルに合わせた楽しみのための読みなども適宜行う。語彙や文法はN2の力を確実に付け、N1レベルのものも取り入れていくようにする。	
学科科目 学科語学 (日本語)	日本語読解 2a	本科目は講義科目である。 「日本語読解 1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身に付けるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。	
学科科目 学科語学 (日本語)	日本語読解 2b	本科目は、講義科目である。 「日本語読解 2a」を学んだ学生が、N1レベルの読解力、文法力、語彙力を養うことを目的とする。N1レベルの文章を用いて、文章全体の構成等を理解し、確実に読解力を身に付けることを目指す。語彙力、文法力もさらに増強していく。N1受検前は模擬試験も実施する。また、N1受検後は、情報を得るための読解だけでなく、楽しむための読解など、可能な限り実社会の題材を使うことにより、読解の幅を広げ、日本語による読解の習慣を付けていく。	
学科科目 文化科目群	アジアの美術	本科目は、講義科目である。 本科目では、絵画・彫刻とも、まずは基礎知識と資料の見方を学び、それぞれの資料を全体だけではなく、細部に至るまで詳細に観察し、その特徴をできるだけ自分自身で把握するための講義を行う。その上で時代ごとに中国・朝鮮半島からの文化の伝播を考えながら、様式の変化を捉えるとともに、各資料が造られた時代及び思想的背景を考察してゆく。なお、本科目では、絵画では、玉虫厨子・法隆寺金堂壁画（飛鳥時代・白鳳時代）、涅槃図・阿弥陀来迎図（平安・鎌倉時代）、曾我蕭白と伊藤若冲らの作品（江戸時代）を、仏像では、法隆寺金堂釈迦三尊像（飛鳥時代）、橘夫人念持仏など（白鳳時代）、薬師寺薬師三尊像と興福寺八部衆像（奈良時代）、神護寺薬師如来立像・新薬師寺薬師如来坐像・平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像（平安時代）、運慶・快慶の仏像（鎌倉時代）などを取り上げる。	
学科科目 文化科目群	ヨーロッパ芸術論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人類の普遍的な文化遺産であるヨーロッパの美術・演劇・音楽について講義する。古典美術やキリスト教美術、ルネサンス美術から20世紀の現代美術、ギリシア悲劇やシェイクスピア悲劇、モーツァルトやヴェルディのオペラからチャイコフスキーのバレエ、あるいはロンドン・ミュージカルなどは世界の共通言語となっており、その基礎知識なくしては、世界の人びととの円滑なコミュニケーションがとれないほどである。異文化理解のための基礎知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 文化科目群	英文学概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、イギリス文学の歴史を学び、使用されている英語表現の多様性、また作品の文化的背景を理解するための講義を行う。特に講義では、「英国小説の発達」に着目し、近代市民社会の誕生とともに生まれた小説という表現形態が、18世紀の書簡体小説から、ロマンティズムを経て、20世紀のモダニズム小説にいたるまで、どのように発展してきたかを、主に小説技法の点から学ぶ。イギリス文学史における主な時代区分ごとの作品の傾向や時代思潮を解説した後、主要と思われる作品を1作品ないしは2作品とりあげ、作品および作家研究を行う。また英文学の代表作を学修者用に書き直した、多読用図書の読解を通して、翻訳ではなく英語による作品理解と英語力の修得をする。	
学科科目 文化科目群	現代アメリカ文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、歴史的知識を踏まえて、アメリカを基軸として、世界に広がる英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化を理解することを目的とした講義を行う。発表やグループ討議を行うことで、実際に英語を使い、将来英語を教える際に、単なる語学としての英語ではなく、文化の中で使われている生きた英語を教えることが出来るような知識の修得を目指す。併せて、英語圏であり、英語教育という点からも日本にとって身近な国であるアメリカの歴史や社会状況についての理解を深める。	
学科科目 文化科目群	多様性の文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界の冠婚葬祭の儀礼や儀式を考察することで、文化の普遍性と多様性について講義する。冠婚葬祭の中でも、特に、結婚風習(婚礼)や祖先を祀る文化(葬祭)を中心テーマとした儀式儀礼の風習について考察する。学修者主導型の事前調査学修を通じて、世界各地の婚礼や葬祭の儀式に含まれている文化的価値観を比較することで、その普遍性と多様性について分析する視角を身につける。各々の文化の儀式儀礼が成立した経緯や変容していく過程を調べることから、文化が持つ普遍性と多様性についての理解を深め、偏見やステレオタイプに偏ることなく客観的に文化を理解する力を修得する。	
学科科目 文化科目群	都市文化論 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、史的カルチャースタディズの視点から、東アジアの都市創成について考察することで、東アジア諸国の文化の普遍性と多様性について講義する。さらに、都市経済学や都市地理学の考えと照らし合わせて学び、人文科学と社会科学の都市創成に対する基本的な考えを修得する。前近代の東アジアの都市創成の中で、コスモロジーによる都市の立地論、社会構造から見る都市空間の形成、学問伝承による都市創成の文化交流は都市文化の重要内容である。東アジアの都城の礼制の歴史を通してこれらを講義し、東アジアの独自性と東西都市創成に存在する文化交流による多様性についての理解を深め、寛容的な文化理解力を養う。本講義は視角・セオリー・ケーススタディの順で、教員と受講生、受講生間の意見交換をしながら理解を深める。	
学科科目 文化科目群	都市文化論 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ケーススタディとして、ヨーロッパの代表的な文化都市フィレンツェと代表的な芸術保護者メディチ家の関係性を歴史的に講義する。都市がどのような立地に、どのように形成され、どのように発展していくのか。都市発展の経済基盤である毛織物産業、国際商業、金融業を分析しつつ、メディチ家がどのように台頭し、どのように政治権力を握っていくのか。そして権力維持に芸術保護をどのように結びつけていくのか。共和制から君主制への転換期に芸術文化はどのような変容をとげるのか。都市と周辺農村の関係はどのようなものか。政治・経済・社会・文化などあらゆる角度から多面体としての都市を分析し、アジア諸都市との比較史的観点から考察することで、都市の環境をより良いものにする思考方法を修得する。	
学科科目 文化科目群	都市文化論 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、ケーススタディとして、「天皇の都と都市形成の方法」をキーワードに、古代都市である「都」の空間分析とその全体像を把握するための講義を行う。併せて、古代の都から近代・現代都市の造管理念についても学ぶ。都市は、様々な技術と社会・文化が有機的に融合することで都市の風景を造形するため、政治・経済・土木・建築・庭園等の諸分野と文化の結合方法を学び、日本における都市形成の独自性を理解する。併せて、アジアやヨーロッパとの都市形成の考え方についての差異を把握し、日本における「都(都市)」の設計理念を含めた総合的な知識を修得する。	
学科科目 文化科目群	日本風俗研究	本科目は、講義科目である。 本科目では、「風土」をキーワードとして、具体的に日常生活の中から具体的な表象文化を抽出することで、日本の風俗を構成する要素について講義する。個々の風俗事象を通して、文化培養の方法論的理解と共に、その周辺要素への理解を深める。それによって、日本文化における「くにぶり(風俗)」を学ぶ。併せて、グローバリズムとダイバーシティの現代において、諸外国との文化比較への視点を涵養することで、日本の風俗が単体で存在しているのではないことについて学び、その諸相の知識を修得する。	
学科科目 文化科目群	文化と言語化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報としての物語」をキーワードに、巷間に流布し浸透する真実と嘘が緋い交ぜになった「都市伝説」について講義する。情報氾濫は同時に情報欠乏でもあり、虚実皮膜の間に言葉が介在することを理解し、『日本書紀』の時代以来、SNSによる発信が世論を形成する現代に至ってなお、人は物語を作り出し続けることを学ぶ。そこに関わって陰謀論が都市伝説として展開する現代社会において、物語ることによって人が歴史と歴史の狭間を埋めてきた方法としての「言語化」を学ぶ。受講生は、変わらぬ物語発信の方法とそのシステムについて修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	文 化 科 目 群	文化交流史 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、古代以来、日本は、中国・朝鮮半島諸国をはじめとした東アジア諸国との交流を通じて、その文化を受容し、独自の日本文化を形成してきた過程について講義する。具体的には、3世紀の卑弥呼の時代から江戸時代の朝鮮通信使との交流に至る日本古代～近世の外交史を通史的に概観する。また、特論として、東アジア世界におけるアイヌ文化・琉球文化、およびオセアニアの諸文化を取り上げ、多彩な文化交流の諸相を修得する。	
学 科 科 目	文 化 科 目 群	文化交流史 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ロシア、中央アジア、モンゴルに跨るユーラシア地域における文化の発展・交流の様相、および諸地域の文化が「国家」の統治構造や人々の思考様式に与えた影響について講義する。その目的は、我々がしばしば普遍的なものと思いがちな欧米的価値観を相対化し、さまざまな文化・習俗を尊重する視点を修得するところにある。こうした点に鑑み、本講義では、特にユーラシア地域を大々的に支配したモンゴル帝国およびロシア帝国・ソ連・現代ロシアにおける宗教文化の趨勢、ならびに文化や政体を発展させるために必要であった「水力」をめぐる地政学的な議論に着目する。	
学 科 科 目	文 化 科 目 群	文化交流史 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、古代のギリシア・ローマから中世を経て、ルネサンス・バロック・ロココの時代、そして産業革命とフランス革命を経た後の19世紀近代市民文化、さらに20世紀以降の現代の国際文化へといたる、ヨーロッパ文化の歴史の変遷を、アフリカ、アジア、アメリカとの交流、とりわけ大航海時代以降の日本との交流も視野に入れて講義する。ヨーロッパの近代的価値観が揺らいでいる現在だからこそ、あらためてヨーロッパ文化の歴史を振り返ることで、人類史におけるヨーロッパ文化の歴史的意義を考察し、人類の来し方・行く末を考察する。本科目は、優劣を論じるのではなく、多文化が共生できる地球規模の思考を修得する。	
学 科 科 目	文 化 科 目 群	文学と宗教文化	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本の精神と言葉」をキーワードに、文学にとっての宗教とは何かを講義する。文学を考察する上で宗教文化や宗教哲学は不可分な要素であるが、それらを物語はどのように取り込み「日本的なる心(信仰)」を具現化してきたのかについて学ぶ。さらに仏教やキリスト教の伝来によって、文学がその度に影響を受けてきた経過を理解することで、人にとっての「救い」や「祈り」とは何かについて学ぶ。受講生は、講義で取り上げる具体的な文学作品を通して、文学と宗教の不可分性についての知識と考え方を修得する。	
学 科 科 目	文 化 科 目 群	米文学概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、アメリカ文学の歴史を学び、作品で使用されている英語表現の多様性、また作品の文化的背景を理解するための講義を行う。特に講義では、マイノリティーに属する作家、あるいは「越境作家の系譜」にも焦点を当て、ナボコフの『ロリータ』を中心に講義をすすめる。併せて、定義上は英文学に属するコンラッドとカズオ・イシグロも扱う。アメリカ文学史における主な時代区分ごとの作品の傾向や時代思潮を解説した後、主要と思われる作品を1作品ないしは2作品とりあげ、作品および作家研究を行う。また米文学の代表作を学修者用に書き直した、多読用図書の読解を通して、翻訳ではなく英語による作品理解と英語力の修得をする。	
学 科 科 目	文 化 科 目 群	歴史と文化入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、「歴史と文化」の相関関係について講義する。講義では、ある一つの国を俯瞰すると併せて、同時代的な世界の動向を把握し、歴史と文化の連動性や必然性について学ぶ。それによって、技術や文明のあり方や、文化培養の方法について理解する。特に、「日本と世界」をキーワードに、変わらぬ風土の下で宗教や伝統を中心とした文化のパラダイム転換がどのように図られるのかを具体的な事例を通して知識と理解を深め、全体像を修得する。	
学 科 科 目	国 際 関 係 科 目 群	アジア国際関係史	本科目は、講義科目である。 本科目では、先ず、現代におけるアジアの国際情勢を俯瞰し、種々の問題のありかについて講義する。そこから時代を遡及することで、種々の問題が生じた歴史的背景を明らかにしていく。具体的には、授業が開始される2025年度を時間軸の起点として、18世紀末19世紀初頭までのアジア世界の変遷を、世界史的視点で遡っていく。その過程で、現在のアジアという枠組みがいかに構築され、現在存在する種々の国際的な諸問題がどのように生じてきたのかを国際関係の枠組みのなかで理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科学目 国際関係科目群	グローバル・ガバナンス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、一国のみでは解決できないグローバルな広がりを持った諸問題をいかに多国間の協力によって解決し、ガバナンスを成立させていくのかという問題を講義する。現代国際社会において、一国のみでは解決できない問題は、安全保障、経済、環境、人権、移民・難民など、さまざまな分野で見つけることができる。それらの問題は、一国のみでは解決できない以上、多国間の協力によって解決するしかない。授業では、その多国間協力を実現するにはどのような条件が必要で、それがどれほど難しいことなのかについて考察する。その際、国家だけではなく、国連などの国際機関やNGOなどの多様なアクターの果たす役割についても学ぶ。	
学科学目 国際関係科目群	現代社会論	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバル化や情報化によって大きな変化を求められている現代日本社会について、社会学の概念や考え方、あるいはさまざまな統計データを使って分析する方法について講義する。経済のグローバル化やIT技術の発展による情報社会化によって、現代日本ではかつてないほど人々の価値観や行動の多様化がもたらされている。それらについてのさまざまなデータが存在しているが、それらから何らかの意味を読み取り、因果関係を見出すのがとても難しくなっている。この授業では、社会学というツールを使って、複雑化する現代日本社会に焦点を当て、分析方法を修得する。	
学科学目 国際関係科目群	国際関係学	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバル・イシューについて講義する。それらへの問題意識を持ち、受講生自身が当事者であることを認識する。私たちは日本で生活を営んでいるが、日本は世界の国々と共に支え合い、行動を起こさなければ、現代の社会経済がうまく回らないだけでなく、当たり前になってきた自然環境の豊かさを享受することはおろか、自然からの警告を受け続けることになる。そうした状況の到来への理解を深めることで、未来へ向けた行動指針について修得する。	
学科学目 国際関係科目群	国際関係入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際関係を学ぶ上で必須となる知識を身につけた上で、国際関係を分析する基礎について講義する。国際関係の基礎知識としては、国家の成り立ちと国家主権、近代国際政治史、戦争発生メカニズム、国際政治経済、開発途上国の経済開発といった今後の上級の科目へとつながっていく知識を身につける。そのため国際関係のなかで発生するさまざまな出来事の原因についての仮説を導く3つの分析視角を学ぶ。国家、国際制度、さらに国内政治にそれぞれ注目する3つの分析視角である。この3つの分析視角を身につけることで、さらに上級の科目と合わせて仮説検証型の科学的分析方法で国際関係を分析するスキルを修得する。	
学科学目 国際関係科目群	国際協力論	本科目は、講義科目である。 本科目では、今日の世界が抱える、経済・財政・金融・貿易問題、南北問題、環境と開発・貧困・難民問題等、様々な課題と、これらの諸問題解決への試みがどのような枠組みで行われているか、それらに関連して生じる問題について明らかにすることを目的として講義を行う。講義で扱う、政府開発援助 (ODA) 問題、世界銀行の組織と事例、国際通貨基金、構造調整融資の問題、中国の「一帯一路」と「債務のワナ」、米中新冷戦、ダム開発の社会と環境への影響、アメリカの食糧援助、緑の革命の功罪、世界銀行のインスペクション・パネル制度等への理解を深める。	
学科学目 国際関係科目群	国際政治経済論	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済活動がもたらす不均衡を政治的に是正するためさまざまなアクターが動かす政治過程を分析していく。特に注目するのは、貿易政策、途上国の開発政策、多国籍企業の管理のための多国間協力、国際金融政策の4つの分野である。それぞれの分野で重視するのは、市場競争の結果、勝者と敗者の間に生まれた不均衡を、市場ではなく政治的に是正しようとする経済アクターたちの動きである。例えば、企業や利益団体が経済的利益という観点からどのような貿易政策や金融政策を望み政治過程に関わり政策が決定されるのか。あるいは、経常収支の不均衡に陥った貿易赤字国が貿易黒字国に何を望み国家間交渉をするのかといった内容である。それによって政治と経済の相互作用のなかで、どのように政策決定がなされるのかについて分析していく。	
学科学目 国際関係科目群	国際平和論	本科目は、講義科目である。 本科目では、第2次世界大戦以後の戦争や紛争について、その状況や原因および背景などについてテーマや事例をもとに講義する。日本を取り巻く国際社会では、戦争や紛争、テロ等が多発している。具体的には、世界軍事情勢、9.11事件、アフガニスタン戦争とイラク戦争、アルカイダとイスラム国によるテロ事件、民間軍事会社、国連平和維持活動(PKO)、ルワンダ虐殺、アフリカ紛争ダイヤモンド、少年兵、ナチス第三帝国興亡、本土大空襲、沖縄戦、太平洋戦争、中東問題、米中新冷戦、台湾海峡危機等についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科学目 国際関係科目群	宗教と社会	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、社会学の立場から宗教が地域社会や国家社会、あるいは国際社会にどのような影響を及ぼし、政治、経済、生活にどのような結果をもたらしているのかについて講義する。高度に情報化が進み、経済活動のグローバル化が進んだ現代の世界においても、宗教は、依然として社会に大きな影響を及ぼしている。中東ではイスラミック・ステイト (IS) がテロリズムを繰り返し、アメリカではキリスト教原理主義団体が大統領選挙を左右するなど、宗教は、国内の小さな共同体における生活から国際政治に至るまで、現代世界のあらゆる階層において、人々の価値観や行動を方向づける「転軸手」としての役割を果たしているといえる。これらへの理解を深めることで、宗教と社会の相互補完性について学ぶ。	
学科学目 国際関係科目群	多文化社会論	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、いかに多文化共生社会を作り上げていくのか、その条件について講義する。この授業で注目するのは、社会的対立の背景にあるのが、本来は経済的格差であるのに文化的差異だけが強調されてしまうような場合である。単に異文化の理解が進めば多文化共生が成立するわけではなく、政治・経済制度などさまざまな条件が必要であることを示していく。ひとつの社会に多様な文化が存在するときに発生する文化的葛藤は、ヘイトクライム、ヘイトスピーチ、レイシズム、場合によっては内戦などの問題を引き起こすことがある。それらを乗り越え、多様な文化が共生する社会を構築するためには、単なる異文化理解だけでは不十分であることへの理解を深める。	
学科学目 国際関係科目群	日本の政治と外交	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、戦前から今日までの日米外交関係を主軸に、主として一次史料や資料をもとに検証し、自分の視点で日米関係に関する意見を持てるようになるための講義を行う。日本とアメリカの力関係を中心に、これまでの特殊な二国間関係を分析する。単に知識を与えるのではなく、各回ごとに学生に課題を提示し、学生同士で当時の状況を踏まえ、いま日本はどのように動くべきか、世界の中での日本の立場はどのような位置づけにあるのかという点を議論し、日本の現状を客観的に俯瞰できるスキルを修得する。	
学科学目 国際関係科目群	比較政治学	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、アメリカおよびアメリカで最も人口の多いカリフォルニア州での政治・社会問題について講義する。日本に住む我々の日常生活では知り得ないことであっても、今後、国際社会の一員として知っておくべき事象について、日本との比較検討を行う。取り上げるテーマは、「アメリカにおける人種問題」、「カリフォルニア州における住民提案制度と日本」、「移民国家における言語政策」、「アメリカにおける非合法移民学生への対応」など多岐にわたる。これらについて、日本との比較を行なうことで、受講生への問題提起とディスカッションを実施し、各自の意見形成を図る。	
学科学目 国際関係科目群	比較政治文化論	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、日本国内で教育を受けてきた学生たちが、日本とは異なる世界の価値観を知るための講義を行う。取り上げるテーマは、「食文化と国民性」、「移民と国際移動」、「駐日アメリカ大使・駐米日本大使選出論」、「アメリカのファーストレディと日本」、「社会生活と犬の役割」、「国立公園に対する政府と国民の思惑」など多岐にわたる。また、世界の動向を知るために、英字新聞や海外の文献を利用し、学生自身で日本との考え方の違いを議論し、自分の考えや意見を発信できる力を修得する。	
学科学目 国際関係科目群	民間協力 (NGO/NPO) 論	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、開発途上国と先進国で活躍する非政府組織 (Non-Governmental Organization, NGO) と、非営利組織 (Non-Profit Organization, NPO) について、その種類、目的、特徴、設立過程等をいくつかの団体を例にして講義する。またその団体が活動する国の政治、経済、社会状況も併せて講義する。受講生は、講義で取り上げる主なNGO団体 (国境なき医師団、ペシャワール会、グリーンピース、グラミンバンク、アドボカシーNGO) への理解を深める。主な活動現場である、バングラデシュ、インドネシア、インド、アメリカ、フランス、日本、台湾、パキスタン、アフガニスタン、アフリカ諸国等の現状を学ぶことで、知識を修得する。	
学科学目 メディア科目群	キャラクター論	本科学目は、講義科目である。 本科学目では、ルネッサンスに端を発する伝統的なメインカルチャーに対して、大衆が作り出したサブカルチャーの中から、「キャラクター」に焦点を当て講義する。「キャラクター大国」であり続けてきた日本では、人々のコミュニケーションにキャラクターは欠かせない存在である。日本独自のキャラクター文化はどう生まれ、世界に出て行くのか。グローバル展開している海外キャラクターの例も取り上げ、国産キャラクターとの比較・考察を行う。ポップカルチャーには、いま流行っているもの・これからヒットしそうなもの・成功や失敗から得られた教訓がたくさん隠されている。これまでの歴史を学ぶことは、常に新しいものを生み出すことにつながる。歴史的経緯やメディアとの結びつきから捉え直し、社会学的アプローチで分析をする。併せて、アナログからデジタルへの技術変化におけるメディアとコンテンツへの影響を理解する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 メディア 科目群	グローバル・イシュー	本科目は、講義科目である。 本科目では、マスメディア、特に新聞、放送報道に焦点をあて、国境を越えたグローバルな課題を考察し、その成立過程を理解することで今後の展開、対応について講義する。グローバル化の広がりによって人、モノ、金、サービス、情報が国境を越えて行き交う一方で、温暖化や人口問題、資源をめぐる紛争は人類的課題となっている。それらについての国内外の報道を手掛かりに具体的事例を取りあげ、原因を歴史的に分析し解説することで解決に向けた取り組みへの理解と学びを修得する。	
学科科目 メディア 科目群	マスメディア論	本科目は、講義科目である。 本科目では、SNSをはじめインターネットや放送や新聞を手がかりにマスメディアの課題に焦点をあて、歴史的アプローチから考察することでマスメディアの果たす社会的役割について講義する。通信技術の深化によりマスメディアの態様は変容し、FAKENEWSの広がりや価値体系の揺ぎが問題化している。そのため具体的事例を手がかりにマスメディアの歴史の変遷を概観し、社会とマスメディアの相関関係について理解を深め、知識を修得する。	
学科科目 メディア 科目群	メディア・情報文化史	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報と文化の関わり」に焦点をあて、歴史的アプローチから考察することで、情報メディアやそれらを支える関連施設の変遷内容を講義する。「情報と文化の関わり」について理解を深めるために、その構成要素となるメディアの発達過程を学ぶ。メディアによって発信される情報の内容が、時代的・社会的変化によって移り変わる様相についても具体的な事例を取りあげ解説する。さらにそれらを側面から支える関連施設や制度的な枠組みの展開について理解を深め、知識を修得する。	
学科科目 メディア 科目群	メディア表現論	本科目は、講義科目である。 本科目では、主に文学や映像、そして文化活動に焦点をあて、メディアを通じた表現が社会や歴史にどのような影響を及ぼしたかについて講義する。メディア表現とは「価値の創造」であるが、SNSやインターネットの普及により公共の言論プラットフォームであるメディアの態様も変容している。価値自体もメディアの変化に影響を受け、表現も移り変わる。そのため映画や小説など、具体的な表現事例を取り上げ、社会的、歴史的な位置づけを解説することでメディア表現の持つ価値創造機能について理解を深め、知識を修得する。	
学科科目 メディア 科目群	音楽産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、ポピュラー音楽産業をテーマに、権利ビジネスの仕組みと基礎知識について講義する。特に、技術の進歩が産業にどう影響を与えるか、「ハード」と「ソフト」の両面から考察する。受講生は、音楽、とりわけポピュラーミュージック業界を「産業」と捉え直し、B L T C = B (ビジネス) ・ L (Law=法律) ・ T (テクノロジー) ・ C (クリエイティブ) の4つの切り口からの理解を行う。併せて、音楽著作権と原盤ビジネス (ミュージシャンをとりまく利権団体とリクープの仕組み) についての実例から、知識の修得と理解を深める。	
学科科目 メディア 科目群	広告文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、商品の魅力や性能を人々に伝える広告のポイントについて講義する。その手法、効果と限界、ブランド構築とクリエイティブ表現の関係、さらには広告が担ってきた文化的な意義について考察する。また、CM・広告だけを抜き出してクリエイティブ表現の分析をしても、本当の意味での広告の機能を理解するには不十分であり、広告はそれ単独だけでは理解できない。「掲載媒体」や「露出方法」が重要となる。したがって、広告が掲載されるメディアの現状・社会的役割・ビジネス構造についても併せて学ぶ。何よりも広告は「実学」の最たるものであることから自らの実体験に置き換えて考える思考力を修得する。	
学科科目 メディア 科目群	情報メディア入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、伝統的なメディアである「印刷メディア」から「視覚メディア」、情報機器を活用する「電子メディア」まで、できるだけ種類のメディアの概要を講義する。取りあげる予定のメディアは、図書、雑誌・新聞、視覚メディア、電子メディアと多岐にわたる。それぞれのメディアの特性を理解することが、情報リテラシー (情報活用能力) の向上につながる。さらに、関連する法的・制度的枠組みについて概説し、知的財産権についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 目	メディア科目群	放送文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、担当者の放送局や広告代理店での経験をもとに、取材・制作する側の思惑・規制の実情とビジネス面からの構造分析とを交えて講義する。放送法や歴史的な変遷、テレビとネットの関わりについても取り上げ、テレビを中心とした放送産業の仕組み、社会における意味を考える。放送は「生きもの」であるため、過去の放送作品を尊重しつつ、最新の番組や、その時に話題になっているものを取り上げ理解を深める。	
学 科 目	心理学科目群	コミュニケーションスキル実習	本科目は、講義科目である。 本科目では、人々とのコミュニケーションをスムーズに行うために必要な方法や知識を実践的に修得するための講義を行う。グループ内での自己開示を通して、自己理解及び他者理解を深めるとともに、グループ内でコンセンサスに至る過程について体験的に学修することで、対人関係を円滑にしていく上で必要なコミュニケーションスキルを養う。具体的には、多様なコミュニケーションの場面を想定し、他者との意見の相違や価値観の相違が存在することに気づかせ、互いに調整しながらグループ内で合意にたどり着くトレーニングを行う。また、自己の開示と他者の受容を促す過程でコミュニケーションスキルのさらなる向上を図る。	
学 科 目	心理学科目群	異文化コミュニケーション論	本科目は、講義科目である。 本科目では、異文化への理解を深め、自己の再発見と相対化が可能な複眼的視点を養うための講義を行う。異文化理解とは、自分の文化とは異なる文化を理解したり、解釈したりすることである。ITの発達とグローバル化に伴って文化背景の異なる人々との直接・間接的な接触が頻繁になり、私達の身近なところで多文化が共存している一方で、差別や偏見も広がっている。このような現状を踏まえ、異文化とどのように向き合うか、異文化理解とは何かを考え、異文化理解のソフトな部分のみならず価値観の相違や偏見・差別などハードな部分にも目を向ける。異文化間で生じる多様なトラブルの根源にある異なる価値観に対する理解を深めることで、文化背景の異なる人々との有効な異文化コミュニケーションを促す。	
学 科 目	心理学科目群	観光とホスピタリティの心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では以下3点を重点的に講義する。 ①なぜ人は観光をするのか。 ②どのような観光商品を購入したいと考えるのか。 ③観光をしている時の人の心理状態はどのようなものか。 観光という社会的かつ消費的な行動、また観光者のさまざまな観光行動について、社会心理学を基本にして社会学なども援用しつつ、心理学の視点から「観光」にアプローチする。この授業を通して、心理学が社会の事象や個人の行動をいかにして分類したり測定したり理論化したりするかを具体的に学ぶことができる。観光についての概念、簡単な歴史や分類、これらを概観した後、旅行者の観光地の選択プロセスや選択要因の分析、観光に対する満足度の分析などを解説する。	
学 科 目	心理学科目群	産業・組織心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、企業人のメンタルヘルスとキャリアデザインの現状を理解するための講義を行う。自らの働くモチベーションを考えるとともに、リーダーシップのあり方、メンタルコントロール方法の基礎並びにキャリアデザインの実践的な方法を修得する。実社会で働く企業人における「自立」とはなにか、そして働くうえで最も重要な「モチベーション」、組織が望む「リーダーシップ」とはどういうものかを学び、現代社会におけるストレスとメンタルヘルスの現状と対策、さらに人生の生き方を問うキャリアデザインについても考える。	
学 科 目	心理学科目群	自己理解心理学入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、「自分のこころ」の理解を深めるための講義を行う。講義と共に、自己理解を深めるための様々なワークを行う。そのなかで、自己像の把握や自分の話し方や聴き方のクセ、自分の持つ価値観やステレオタイプはどのようなものかなど、自分を客観的に把握する機会を通して「自分のこころ」に対する理解を深めていく。「他者」を知る・理解するためには、「自己」を先ず理解し知る必要があることを学ぶ。受講生は、他者の意見や考えを聞いて物事への理解や判断を行う際に、自分自身のものの見方や感じ方・考え方を判断の基準（認知の枠組み）として用いていることを学ぶ。	
学 科 目	心理学科目群	社会心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、自己や他者の認知、対人コミュニケーション、ストレスと精神的健康、集団力学などを学び、社会心理学の主要な知見を知識として修得することを目的とした講義を行う。前半では、対人関係理解に必要なコミュニケーションや恋愛心理学を扱う。後半では、社会で差別や偏見、排除が生じる心理的メカニズムの理解を促し、多様な背景を持つ人たちの共生社会実現に向けた意識を高めていくため、集団心理やリーダーシップを扱う。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科学目 心理学科目群	消費者の心理	本科目は、講義科目である。 本科目では、購買者としての消費者の視点から、その心理や行動の現状を知るとともに、企業側の商品・サービス提供に関するマーケティングやビジネス心理学の理論について講義する。その学修をふまえて、現代社会で扱われる商品およびサービスを消費者の視点について、心理的に動向を概観し、企業側におけるビジネス面からの実践的マーケティング及びその理論について修得する。その学びのプロセスとして、ワークシート作成やグループディスカッションを行うことで、消費者心理について考察するスキルを修得する。	
学科学目 心理学科目群	心理学研究法	本科目は、講義科目である。 本科目では、人の心や行動に関して科学的に探求する学問である心理学における心の探求の方法、すなわち心理学における科学的な研究方法について講義する。心理学では、目に見えない「心」を測定するために様々な研究の手法が考案されているが、これらを調査研究、実験研究、実践研究に区分して考察を行う。はじめて心理学の研究に取り組む学生を対象に、人の性格や能力や対人関係などに関する心理学的知見が何を根拠に主張されているのか、その根拠は信頼に値するのか、といったことを批判的に検討する力を養う。具体的には、観察法などの質的調査や量的調査の調査研究法、実験の理論と方法による実験心理学的手法、臨床や教育現場の実践研究などに触れ、心理学の成果と俗説を見分ける目を育てる。心理学の研究成果から心理学に関する多様な研究法について学ぶこととし、実際の研究事例も参照しながら授業を進める。	
学科学目 心理学科目群	心理統計学 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、データに対して正しい分析方法を修得し、統計リテラシーを身につけることを主眼に講義を行う。ニュースで提示される「犯罪統計」や企業が打ち出す「アンケート結果」など、これからの情報社会を生きていくために、データを正しく理解出来ることが重要である。これらを理解するには「統計学」の知識が極めて重要となってくる。受講生は、調査を行う際に用意すべき項目や分析方法についての統計知識を学ぶと共に、心理統計学に必要な基礎的知識を修得する。	
学科学目 心理学科目群	心理統計学 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、心理学的研究で使用される各種の統計法について講義する。データ処理の実際を通して学ぶ。到達目標は、以下の3点である。 ①心理学において統計が用いられる意義の理解 ②具体的な統計法の利用についてデータの特徴に応じた理解 ③統計法を用いてデータ処理の実行・解釈 具体的には実証的に卒業論文を作成するためのアンケート作成・分析・考察において、名義尺度データ、順位尺度データ、間隔・比率データ、多変量データなどを処理できる知識とスキルを実践的に修得する。	
学科学目 心理学科目群	対人コミュニケーション心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、対人コミュニケーションについての理解を深めるための講義を行う。学業生活や対人関係、就職活動などの日常のコミュニケーション場面で活用できるようになることを狙いの一つとする。対人コミュニケーションに関する基礎的概念や理論について、社会心理学や臨床心理学などの知見をもとに解説する。適宜、ワークも用いながら、自己のコミュニケーション・スキルについても検討する機会を設ける。前半は対人コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する内容とし、後半は現実場面でも利用できる応用的内容を扱う。	
学科学目 心理学科目群	知覚・認知心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の認知機能のしくみを研究する心理学の一分野である知覚心理学や認知心理学の基礎的な概念を知り、専門的知識を修得し、物事を科学的に捉える能力を養う。実験や観察に基づくこれまでの研究知見を紹介し、認知機能に関する研究法および理論や認知モデルを解説する。感覚や知覚、記憶や思考、意思決定などの人間の情報処理過程について、そのメカニズムを理解する。また、感情が人々の知覚・認知にどのような影響を及ぼすのかについても講義する。	
学科学目 心理学科目群	発達心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の発達と老化を理解するために、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、中年期、老年期における生涯発達のあらましを説明し、各発達段階の心理・社会的課題について講義を行う。各発達段階において、認知、感情、社会性、自己と他者の各領域にどのような変化が見られるのかを説明し、発達研究の基礎、発達の規定因についても概説する。誕生から死に至るまでの心身の発達や成長、成熟、生理的変化を、自己の体験も振り返りながら理解していく。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	心理 学 科 目 群	被服・化粧心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、被服や化粧のもつ社会心理学的な意味を探求する。非言語的なコミュニケーションとしての被服や化粧は、自己および対人関係の在り方と密接に関わっており、それらが自己や他者にどのような影響を及ぼしているかを理解するための講義を行う。「装い」と「粧い」についての対目的、対他的な機能を客観的に眺め、自己の心理的かつ社会的な適応力を高めることを目標とする。人はなぜ装うのか、化粧をするのかについて、具体的な実験例を紹介したりこれまでの理論を解説しながら、被服と化粧の心理について社会心理学の一分野としての立場からの解明を行う。	
学 科 科 目	心理 学 科 目 群	福祉心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、女性・児童・高齢者・障がい者・若者・生活困窮者などが直面している社会生活上の心理的・福祉的課題について扱う。日本の各種社会福祉施策や医療保険制度などについて講義する。日本の社会福祉が、第二次世界大戦後、欧米の取り組みを参考にしながらどのように変遷してきたか、また今後超高齢化社会を迎えるにあたりどのような課題と取り組みが必要であるのかを考えていく。そして、福祉対象者に対する心理支援の必要性やどのような支援が必要かについて、その歴史、現状、対象者による違いなどを含めて包括的に学ぶ。	
学 科 科 目	心理 学 科 目 群	文化心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、文化を記号として捉え、文化との関わりの中で創出される人間の心理や、文化と人間の心理の相互影響過程について講義する。特に思考様式における東西の文化差、人間観・世界観の文化差などについての最近の研究動向を紹介した文化心理学の文献をベースに、文化と人間の行為、活動、発達との関係について、いくつかの理論的立場とその関連領域について理解を深める。文化はあらゆる人の営みに潜んでいる。人間は文化を作り出し、学修・伝播・変容と継承を繰り返す中で新たな価値を創出する。人間が作り出したその文化が人間の行動、ものの見方や考え方に影響するのである。文化的存在である人間にとって、その心理的側面が文化と切り離せないものであることはいうまでもない。これらを理解することで、「文化」と「心理」の相関関係について理解を深める。	
学 科 科 目	実 践 科 目 群	プロジェクト型国際実習 a	本科目は、実習科目である。 まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、海外の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。	
学 科 科 目	実 践 科 目 群	プロジェクト型国際実習 b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国際実習1aで実施した資料・文献調査、海外の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通じて、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。	
学 科 科 目	実 践 科 目 群	プロジェクト型国内実習 a	本科目は、実習科目である。 まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、国内の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。	
学 科 科 目	実 践 科 目 群	プロジェクト型国内実習 b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国内実習1aで実施した資料・文献調査、国内の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通じて、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	自由選択科目群	アメリカビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、20世紀以降に登場したアメリカにおけるビッグビジネスの形成過程から21世紀の最新のビジネスまでの歴史的变化を見ることによって、絶えず世界をリードしてきたアメリカビジネスの特徴について講義する。特に高度経済成長期のフォードシステムに代表される大量生産方式、IT革命を主導したやウインデルなどのICT企業の成長、更には21世紀におけるデジタル革命とGAFに代表されるプラットフォームの台頭など、各時代の代表的なアメリカビジネスとビジネスモデルの成長と衰退要因、今後の発展方向について理解を深める。	
学科科目	自由選択科目群	ホスピタリティ産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本のホスピタリティ産業の現状や課題を確認した上で、ホスピタリティ産業の経営の特性を顧客満足と従業員満足に焦点をあてて考察し、経営上の課題を解決するための基礎知識を身につける。具体的には商品としてのホスピタリティの概念や顧客満足についての正確な理解を深め、とりわけ、観光企業では、どのようにホスピタリティを実践すればいいのか、そのために人材をどのように確保・育成すればいいのか、などについて検討する。また、優れた顧客満足活動を実践している観光企業についても考察し、ホスピタリティ経営についての学問的な理論が実践にどのように役に立つのかを学ぶ。	
学科科目	自由選択科目群	異文化経営論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人的資源管理 (HRM) や組織文化論の視点からグローバル・ビジネス・コミュニケーションの特徴や諸問題について考察し、異文化経営への理解を深めるための講義を行う。具体的には、現代社会におけるダイバーシティ問題や異文化マネジメントの諸問題を取り上げ、グローバル経営における人事・組織マネジメントの意義を確認しながら、ケースを扱いつつ、それを組織や個人でコントロールするための方法論を学ぶ。	
学科科目	自由選択科目群	観光企業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、旅行業に関わる関連企業等の経営・営業戦略について講義する。観光関連企業の実務内容について学修し、「観光企業の仕事」の実際について修得する。具体的には、旅行業の現況と経営戦略、添乗業務、会員制リゾートホテル、地域へのインバウンド誘致、テーマパークのマーケティング戦略、航空会社の営業戦略とグランドスタッフ、観光協会の業務、DMOの役割と業務、JRの観光開発、土産物開発、都市観光と地域活性化、日本の旅館文化等の視点からそれぞれの業務について理解を深める。	
学科科目	自由選択科目群	観光交通論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光と交通の関係を理解し、交通の歴史や特徴を概観した上で、現在の観光における観光交通の現状と将来へ向けての課題を学ぶ。観光交通の概念、観光施設や観光地と交通の関わり、観光交通産業の種類、特徴、ビジネスモデルとその現状、サービスのあり方なども含めたマーケティングなどについて学ぶ。合わせて、インバウンド観光における観光交通、シェアリング・エコノミーと観光交通、観光地の二次交通、観光車両の乗り入れ規制、MaaSなどの地域社会と観光交通の課題について、さらにヨーロッパのLRTや自転車を利用したまちづくり、航空会社のカーボンオフセットなど観光交通と環境問題についても学ぶ。	
学科科目	自由選択科目群	航空産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、エアライン業界について全般的に学ぶ。航空業界の歴史を通じてその役割と変遷を理解する事により航空産業の現状と将来の展望を理解する事が出来る。また、新しい経営形態であるLCCの出現や自動化の進む航空産業の将来を検証する。航空産業の歴史の学修によりその特性を学び、航空産業が果たした役割を理解し、新たな時代に突入した航空業界の課題および問題点を検証する。さらに、これからの航空産業の役割を理解する。	
学科科目	自由選択科目群	国際ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際的な規模で事業活動を行っている企業について、どのように国際ビジネスを展開しているのかについて講義する。講義では、事例研究を中心に国際ビジネスについての理解を深めていく。最初に、地球規模で統一的に展開するグローバル型と現地に即した展開をするマルチドメスティック型の国際ビジネスにおける2つの違いを理解し、続いてトランスナショナルやメタナショナルといった応用形態を学ぶ。受講生は、21世紀の「国際化」を理解する上で必須となる基礎知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際コミュニケーション学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 自由選択科目群	集客産業施設運営論	本科目は、講義科目である。 本科目では、テーマパーク事業者を中心に集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する現況を集客ビジネスの視点から講義を行う。具体的には、集客産業施設運営事業者が独自に有する事業特性（装置産業、労働集約型産業等）を踏まえ、継続的な設備投資・人材マネジメント等の諸課題への対応がいかに重要であり、そこにはいかなる戦略性があるのかを学ぶ。『日米のテーマパーク事業者』を中心に、集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する基本的な知識を修得する。	
学科科目 自由選択科目群	宿泊産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、宿泊ビジネスの事業経営について、施設・設備に多額の投資を必要とする資本集約型産業であると同時に人的サービスの提供を中心とする労働集約型産業でもあることを学ぶと共に、このような産業特性を持った宿泊ビジネスの特徴や経営に関する基本的な知識、仕組みなど、宿泊ビジネスの全体像について理解を深める。また、今日的テーマとして、成熟した旅行市場における宿泊ビジネスの抱える諸課題の解決や顧客志向経営について、サービスマネジメントやマーケティングの視点から考察し、その知識を身に付ける。	
学科科目 自由選択科目群	中国・アジアビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、下記に掲げる当該地域の近代国民国家の成立過程と現代の経済発展やビジネス環境の特質との関係を紹介し、成長変化のメカニズムについて講義する。併せて日系企業の当該地域への進出状況と問題点を分析し、これからの経営戦略について理解を深める。中国・アジア経済の成長にとまない、日本企業をはじめ、アジアを「製造基地から市場へ」とみなして投資拡大してきた。また、2022年からアセアンと日中韓を含めた自由貿易を推進するRCEPをスタートし、経済的な結びつきがますます強くなる。この地域は政治・社会制度、文化・宗教も多様性に富んでいるため、このビジネス環境や経済社会と企業経営の特質について理解する。	
学科科目 自由選択科目群	特殊講義 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際コミュニケーション学科の専門学科科目・4領域にある文化分野・国際関係分野において、特に独立した講義として、現代社会の情勢、変化において、特に重要と考えられるテーマについて取り扱う。当該分野の最新の研究、社会情勢との関連について講義を中心としつつも、学生と教員、学生間での議論などインタラクティブな授業を行うことで、学生の文化分野・国際関係分野に関する理解・知識を促す。	
学科科目 自由選択科目群	特殊講義 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際コミュニケーション学科の専門学科科目・4領域にあるメディア分野・心理学分野において、特に独立した講義として、現代社会の情勢、変化において、特に重要と考えられるテーマについて取り扱う。当該分野の最新の研究、社会情勢との関連について講義を中心としつつも、学生と教員、学生間での議論などインタラクティブな授業を行うことで、学生のメディア分野・心理学分野に関する理解・知識を促す。	
学科科目 自由選択科目群	旅行ビジネス論	本科目は、講義科目である。 本科目では、多岐にわたる旅行ビジネスの事業領域について講義する。具体的には、旅行業ビジネスを中心に、旅に関わるビジネス（宿泊・交通・娯楽・土産物・金融）の他、福利厚生代行事業・地域交流事業等である。旅行ビジネスの中核を成す旅行業ビジネス、その仕組みやビジネスモデルの変容を時系列に分析し学ぶと共に、宿泊施設・交通機関他、旅行業ビジネスの素材を提供する事業者についても、その関わりのなかで理解を深める。旅行ビジネスの本質に迫り、旅行ビジネスに関する基本的な知識の修得を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群 スペイン語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、通用範囲の広い言語であることをふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして講義を行う。「スペイン語1」ではスペインを取り上げ、現地の人々と関わり、安全かつ自由に旅ができる語学力を修得する。先ず、文字と音の関係を知り、正しく発音できるようになり、基本的な日常会話としての挨拶やお礼、お願い等の表現を学ぶ。さらに、様々なシチュエーションを設定することによって、個々の場面で行われる会話と表現の仕組み(文法)を知ること、スペイン語の本質を理解する。具体的には、挨拶、数詞、名詞の性と数、名詞句の作り方、数量表現、数量表現を伴った名詞句の作り方を学ぶ。	
一般教育科目	語学群 スペイン語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」での成果をふまえ、「旅行のためのスペイン語」をテーマとして物事を簡単にスペイン語で説明できることや、スペインの地理や見どころをスペイン語で理解する語学力修得のための講義を行う。具体的には、動詞serを用いて持ち物の所有者を伝えるスペイン語作文、動詞ser・estar・hayと疑問詞、行為を表す動詞とスペイン語作文、「助動詞+原形」で希望や予定を伝える、希望・依頼・予定についてのやりとり等について修得する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」での成果をふまえ、中南米(特にペルー)を取り上げ、安全で充実した旅行をクリエイトするための基本的な会話力を修得するための講義を行う。特に、人称代名詞を駆使してよりの確なスペイン語表現を作り、辞書を用いて簡単な文章の読解力を体得する。具体的には、単人称文、気象表現、比較構文、目的格人称代名詞、目的格人称代名詞の併用、再帰表現、人称代名詞と動詞の関係、スペインのスペイン語とアメリカ地域のスペイン語の違いを講義する。	
一般教育科目	語学群 スペイン語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「スペイン語1」「スペイン語2」「スペイン語3」での成果をふまえ、日本国内を取り上げ、スペイン語圏から日本を訪れている旅行者への旅のサポートができるスペイン語力を修得するための講義を行う。特に、日本とスペイン・中南米の歴史に共通する「道(熊野古道・サンティアゴ巡礼路・インカ道)」について学ぶことで、その本質を理解しスペイン語での説明できるスキルを修得する。講義では、旅の場面を想定した会話構文について学ぶと共に、命令形、進行形と完了形、点過去、線過去、未来形、過去未来形、接続法現在について解説する。	
一般教育科目	語学群 ドイツ語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語の言語的な背景をはじめとして、初修ドイツ語としてドイツ語の基礎となる動詞および冠詞の変化をマスターすることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。そのために、基礎的な文法知識および(受講生にとって身近な物事を表す)基礎単語を修得する。具体的には、アルファベットと発音、sein、決まった変化をする動詞、変わった変化をする動詞、haben・werden・wissen、定冠詞、不定冠詞類について学ぶ。	
一般教育科目	語学群 ドイツ語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」での成果をふまえ、初修ドイツ語として前置詞や助動詞などを学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目標とする。具体的にはドイツ語検定4級レベルで問われる程度の文法知識と、簡単な挨拶や買い物が行える会話力を身につけることを目標とする。具体的には、不定冠詞、不定冠詞類、人称代名詞、前置詞、助動詞を学ぶ。最後にここまでの学びを通して習得したドイツ語を使って会話練習を実施する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	語学群	ドイツ語3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、受講生がドイツを旅行する設定で使用するであろう様々な状況を想定し会話を行う。会話でよく使われるフレーズのうち、とくに旅行中に使用する頻度が高いと思われるものを紹介し、それらのフレーズを文法的に解説する。受講生は、これらのフレーズを含む会話をくりかえし声に出して読むことで、発音をマスターすると共にフレーズを暗記していく。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」での成果をふまえ、ドイツ語話者とコミュニケーションをとれる会話力の向上に重点をおいて講義を行う。ただし、正しいドイツ語の活用には文法的な知識が不可欠であるため、毎回の授業において基礎的な文法も含め学ぶ。本授業では、様々なシチュエーションを設定することで、会話文を修得する。具体的には、買い物、切符の購入、服の購入、ホテルでの宿泊、別れのあいさつ等の場面における会話をマスターする。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」「ドイツ語4」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験4級程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。これまで学んだドイツ語の初級文法の知識について復習しながらドイツ語力を高めていく。具体的には、発音・アクセント、動詞の人称変化、名詞・代名詞の変化、語順、前置詞と疑問詞、応答、図表の読解、会話文の読解、会話文の聞き取り、文章の聞き取り等を講義する。	
一般教育科目	語学群	ドイツ語6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ドイツ語1」「ドイツ語2」「ドイツ語3」「ドイツ語4」「ドイツ語5」での成果をふまえ、ドイツ語技能検定試験3級を目指す程度のドイツ語力の修得に重点をおいて講義する。具体的には、語彙、動詞・冠詞についての文法の基礎についての復習を行い、動詞の3基本形、分離動詞と再帰動詞、受動態、接続法、zu不定詞句、形容詞、関係詞代名詞と接続詞、手紙および会話文の読解、長文読解等を講義する。	
一般教育科目	語学群	フランス語1	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス語の言語的な背景をはじめとして、初修フランス語として基礎的な発音や文法構造の修得を目標に簡単な短文の読解も含め講義する。アルファベから始まってフランス語の文法の基本的な事項についてまんべんなく、複合過去までを講義する。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、フランス語のつづり字と発音、名詞の性と数、数詞、不定冠詞、定冠詞、形容詞の性・数の一致、第一群規則動詞、所有形容詞、疑問文、形容詞の位置、形容詞の女性形と名詞の複数形、否定文、指示形容詞、定冠詞の縮約、近い過去・近い未来、疑問代名詞、疑問副詞、中性代名詞について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	
一般教育科目	語学群	フランス語2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語1」での成果をふまえて、初修フランス語として必須となる発音や文法構造の修得へ向けた講義を行う。具体的には、様々なシチュエーションを設定することによって、部分冠詞、数量表現、中性代名詞en、非人称構文、命令形、疑問形容詞、比較級、最上級、指示代名詞、数詞2、補語人称代名詞、代名動詞、複合過去形について学ぶ。加えて、本科目での特別トピックとして、「フランスの文化」を講義する。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 語学群	フランス語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語1」「フランス語2」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、主語人称代名詞、etreの直説法現在、国籍・身分・職業、不定冠詞、名詞の性と数、形容詞の性と数、avoirの直説法現在、定冠詞、-er 型動詞の直説法現在、否定文、指示形容詞、faire/descendreの直説法現在、疑問文、aller/venir の直説法現在、前置詞と定冠詞の縮約、命令形、所有形容詞、強勢形人称代名詞、疑問形容詞について講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語1」「フランス語2」「フランス語3」で修得した内容をふまえ、初級文法として難易度を上げた項目について学ぶ。また短文読解や会話などを随時取り入れ、発音も含め実践力、運用力を高める。具体的には、様々なシチュエーションでの表現を学ぶとともに、部分冠詞、-ir型動詞の直説法現在、vouloir の直説法現在、非人称構文、直接目的語の人称代名詞、pouvoir の直説法現在、prendre の直説法現在、間接目的語の人称代名詞、近接未来、近接過去、中性代名詞、比較級、最上級過去分詞、直説法複合過去(1)(2)について講義する。	
一般教育科目 語学群	フランス語 5	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語1」「フランス語2」「フランス語3」「フランス語4」で講義した内容をふまえ、フランス語の文法事項の確実な定着と発展的な内容を学ぶ。さらに中級程度の会話文の総合的、実践的な運用力の獲得をめざし、まとまった文章に慣れ親しみ、その読解と表現を学ぶことによって、フランス語の言語学的な構造や特徴を理解する。併せて、言語のみならずフランスやフランス語圏の風土、生活習慣、発想、社会や地域の特徴や最新事情への等についての知識の体得と共に理解を深める。	
一般教育科目 語学群	フランス語 6	本科目は、講義科目である。 本科目では、「フランス語1」「フランス語2」「フランス語3」「フランス語4」「フランス語5」で講義した内容をふまえ、実践的なフランス語の知識と運用能力を高めるために、新聞記事、シャンソン、シナリオ、民話など幅広いジャンルについて、修得したフランス語を使って学ぶ。加えて、手紙や日記など簡単なフランス語で表現することも学ぶ。具体的には、新聞記事のコラムを読む、シャンソンのフランス語、映画シナリオのフランス語、民話を読む、フランス語で手紙や日記を書く、長文読解について講義する。	
一般教育科目 言語圏研究	코리아語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国の歴史と文化の理解を図ると同時に、近年注目されている韓流について講義する。特に、韓国の概要、歴史、社会、文化を中心に日本のそれと比較しながら、韓国の「現在」を学ぶ。さらに、韓国の若者の文化や事情について学ぶことで、日本の現在の若者の動向について理解を深める。具体的には、韓国の生活様式(食文化・住居文化・服飾文化)の観点から講義し、さらに、韓流考察としてドラマ、映画、K-POPを通して、現代韓国の世界的な戦略を学ぶ。それらを通して、文化的な交流や半島の歴史を概観し、将来的な日韓関係について理解を深める。	
一般教育科目 言語圏研究	코리아語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界のコリアン」に注目しながら、「在日コリアン」に注目し韓国社会について講義する。併せて、断片でしか知ることのない「北朝鮮」の素顔について紹介すると共に韓国人による北朝鮮観について講義する。これらをふまえて、世界で活躍するコリアンの現状や課題などについても学ぶ。具体的に本授業では、在日コリアン、在外コリアン、韓国の政治・経済・若者事情について学ぶ。さらに、韓流の映画やドラマの社会的背景をふまえた鑑賞方法や、作品を通して見えてくる韓国社会の縮図について講義する。加えて、日本では認知度の低い韓国の宗教や伝統芸能についても講義する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	言語圏研究	スペイン語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、スペイン語圏研究としてスペイン本国について講義する。スペインは、公用語であるスペイン語のほか、バスク語・カタルーニャ語・ガリシア語等の複数の言葉が話され、宗教もキリスト教に加え、ユダヤ教・イスラム教、それに連動するそれぞれの信仰を基盤とした文化形成と共に、ギリシャ・ローマ・カルタゴに代表される古代都市文化が形成された国である。多様な地域や時代の文化が流入することで、スペインは、独特の文化が形成されていることを学ぶ。具体的には、政治・経済・民族・宗教・文化（世界遺産・建築・文学）等の観点からスペインを学び、理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究	スペイン語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、かつてスペインの植民地であった中南米について講義する。カスティーリャスペイン語から現在の中南米式スペイン語になった経緯を学ぶことで、スペイン語圏である中南米諸国についての理解を深めるにあたっては、政治・経済・移民・宗教・スポーツ・音楽・芸術等の観点から講義する。併せて、中南米に形成された文化と世界遺産を取り上げること、ラテンアメリカについての文化的な理解を深め、グローバルゼーションの中で中南米世界の人々と、どのような関係を創り上げる必要があるのかを学ぶ。	
一般教育科目	言語圏研究	ドイツ語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、ドイツ語圏の文化を、おもに歴史的な観点から概観し、その源流を知ることで現代ドイツ文化への理解を深める。とりわけ、日本では「ドイツ」というと、ナチスや環境問題、サッカーなど、特定のテーマでのみ取り上げられることが多く、その文化に対する偏見を助長していると思われるため、この授業では、メディアにあまり取り上げられないテーマにも力点を置く。また、各授業の軸としては歴史的な事柄を扱うが、適宜、受講生が旅行や留学を通じて実際に触れることのできる「現代ドイツ」の姿も紹介する。	
一般教育科目	言語圏研究	ドイツ語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生にとって身近なマンガ文化を通じて、ドイツ語圏における大衆文化やドイツ人のメンタリティを理解する。日本とは対照的に、ドイツ語圏においては独自のコミック文化が発展しておらず、国外からの輸入コミックによって市場が成り立ってきた。そして、1990年代末以降におきた「マンガ・ブーム」によって、日本のマンガ文化がドイツ語圏に定着した。この授業では、日本の一文化がドイツ語圏に根付いたこの一例を考察することで、ドイツ語圏における文化形成の過程や日独の文化の相違を明らかにすることを目標とする。	
一般教育科目	言語圏研究	フランス語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国をとりあげ、起伏に富む風土と多様な地域性、複雑な民族的起源から解き明かし、多面的な魅力をもつフランスについて歴史、政治、宗教、日常生活、ワインに代表される食文化や芸術文化、モードやファッション産業の隆盛、フランスでの日本のマンガ・アニメブームに代表されるクールジャパンや日仏の文化交流にいたるまで、フランスの社会と文化の諸相について概説する。その学びの中で、グローバル化によって変動する今日のフランス社会における移民・難民・外国人問題・少子化対策や家族観などについても理解を深める。	
一般教育科目	言語圏研究	フランス語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、フランス本国以外の世界のフランス語圏の国と地域について、近年の世界状況にも注目しながら、各々の社会や文化の特徴と諸問題について解説し理解を深める。まずカナダの仏語圏について、多民族の共存と多文化主義、先住民問題などについて詳しく学ぶ。特に、フランス系住民を擁し、独自の社会と文化を開花させたケベック州については詳しく解説する。その他、カナダのアカディアと呼ばれていた地域やルイジアナなど北米のフランス語圏、欧州における仏語圏であるスイスやベルギーの国の成り立ちと社会の特徴について概説する。さらにカリブ海地域やアフリカの仏語圏についての理解と、「クレオール」についての文化研究の導入も行う。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育科目	言語 圏研究	英語圏研究a	
一般 教育科目	言語 圏研究	英語圏研究b	
一般 教育科目	言語 圏研究	現代日本事情a	オムニバス方式
一般 教育科目	言語 圏研究	現代日本事情b	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育科目	言語圏研究	中国語圏研究a	本科目は、講義科目である。 本科目では、アジア世界および日本との関係を理解するために、それぞれの歴史や時事問題、文化など多方面から考察する。具体的には、歴史的視点から美的感覚や服飾文化、生活様式等の変遷をもとに、現代にまで継承される固定観念と社会背景を学ぶ。併せて中国での大きな変革となった文化大革命や天安門事件における検証や、現代中国が抱える香港・台湾問題の本質を理解する。さらに、「文化の架け橋」としての遣唐使、アニメや漫画等についてそれらがどのように中国と日本をつないでたのかを講義する。
一般 教育科目	言語圏研究	中国語圏研究b	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語圏を中心として、多民族・多文化社会における共生・共創のために、様々な視点をもとに、日本との対比のみならず、世界全体から問題を俯瞰する視野を養う。それによって、「自分だけの意見」を探る。具体的には、歴史的視点から食文化、音楽、伝統楽器、漢字について学ぶと共に、チャイナタウン、華僑・華人社会、現代中国の民族問題として、チベット・新疆ウイグル自治区、内モンゴル自治区と国際社会との関係や、中国・日本・世界全体の少数民族・人口問題への理解を深める。
一般 教育科目	人間・ 文化研究群	外国文学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、ウィリアム・シェイクスピアの2つの劇作品『ロミオとジュリエット』と『夏の夜の夢』を中心に講義する。併せて、複数の映画や舞台などの映像を参考にしながら、シェイクスピア作品を詳しく読み解き、彼の詩の魅力、劇作術、時代背景を学ぶ。またシェイクスピアの作品が、世界中の映画や舞台で繰り返し演じ続けられていることをふまえて、それらを通して現代という時代をも考察する。特に、受講生はストーリーを追うだけではなく、行間を丁寧に読むことで、そこに潜む文化的背景や豊かな言葉の表現力を理解する読解力を修得する。授業を通して、シェイクスピアの魅力、イギリス文化、さらには我々自身の文化への理解を深める。
一般 教育科目	人間・ 文化研究群	外国文学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、1564年から1616年まで生きたウィリアム・シェイクスピアが捉えた時代や文化について講義する。講義では、理解しづらくなったシェイクスピア作品の文化的背景の一端を理解することと、シェイクスピアを通して自分自身の文化的背景への再認識を行う。シェイクスピアの最大の魅力である「ことば」について、その魅力の一端を理解できるような原文も参照しながら講義する。具体的には、『ヴェニスの商人』、『マクベス』及びクリストファー・マーロー著『タンバレイン大王』、『マルタ島のユダヤ人』等を通して、マーローとシェイクスピアのことばについて探求する。併せて、時の歴史的背景や文化史を学び、日本文化との関わりにも目を向け、シェイクスピア時代の劇場（グローブ座）と、日本の伝統的舞台である能舞台とを比較し、さらに日本におけるシェイクスピア劇の演出について学ぶ。
一般 教育科目	人間・ 文化研究群	教育学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、教育学についての論理と思想を、「教育とは何か」「教育の理論と法則」「教育の歴史と思想」の3つの視点から教育学の論理と思想に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、教育とEducation、教師という職業、教育と再生産、異文化理解教育、教育思想、教育と国家等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえて、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の論理と思想に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。
一般 教育科目	人間・ 文化研究群	教育学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、教育学についての方法と現代的課題を、「人権としての教育」「教育方法」「現代の教育問題」の3つの視点から教育学の方法と現代的課題に関するこれまでの研究成果を講義する。具体的には、人権と教育、教育とジェンダー、道徳教育、多文化教育、いじめ、教育の「機会均等」と「結果の平等」等を講義する。教育学の成果についての概観をふまえて、受講生が個々に3つの視点にもとづいた教育学の方法と現代的課題に関わるテーマを設定し、教育学に対する考察と探究を深める。

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <p>①データをもとに、自分自身の「心」に迫る。</p> <p>②「書く」ことにより、自分自身の「心」の状態を表現する。</p> <p>③本授業で扱った用語およびその意味を理解する。</p> <p>講義では、(1)自分自身の「心」に迫るために必要なことがらとしての代表値(統計)に関する内容(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)と、(2)自分自身の「心」に関する内容の理解および内容に関連した課題演習(パーソナリティ・自身の対人関係のあり方)について学び、自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	心理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、以下の3点をテーマとして講義を行う。</p> <p>①データをもとに、青年期に位置する自分自身の「心」に迫る。</p> <p>②「書く」ことにより、青年期に位置する自分自身の「心」の状態を表現する。</p> <p>③本授業で扱った用語およびその意味を理解する。</p> <p>講義では、(1)青年期に位置する自分自身を理解するための手がかり(代表値:平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差等)及び生涯発達の中における「青年期」の理解と、(2)生涯発達における「青年期」に位置する自分自身について理解(心の健康に関する内容を含む)し、アイデンティティ(自我同一性)や自己効力感、ストレス等について学び、青年期にある自分自身の「心」に係わる事項について理解する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学の観点から講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <p>①実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。</p> <p>②最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。</p> <p>③基本的な地理学用語を学ぶ。</p> <p>各種の統計データを読み取ることにより、現在の世界・日本の経済状況を把握する。具体的には、以下のトピックを扱って講義を行う。人口、スポーツの地理学(プロ野球とJリーグ・WBC・FIFAワールドカップ・オリンピック)、世界の農牧業地域、日本の農牧業と林業、世界と日本の水産業、世界のエネルギー・鉱産資源、工業立地と世界の工業、日本の工業地域、日本の第三次産業、国際機構と地域の結びつき、貿易(各国の結びつき・日本と他国の結びつきを講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、経済地理学に歴史地理学の観点を付け加えた講義を行う。特に、以下の3点から講義内容を理解する。</p> <p>①実習を通じて統計資料を読み取る能力を養う。</p> <p>②最新の統計データから世界・日本の経済状況を把握する。</p> <p>③基本的な地理学用語を学ぶ。</p> <p>本講義では、日本をテキストとして、地理学的考察を通して具体的に講義は、以下のトピックを扱って行う。地形図とは、地形図の読み方、自然環境を読む、古代の都(奈良)と門前町(伊勢)、港町(堺)と寺内町(富田林)、城下町(大和郡山)と宿場町(草津)、近世大坂の土地開発、田園都市(甲子園)、ニュータウン(千里)、観光・リゾート開発、地形図にみる環境問題について講義する。</p>	
一般教育科目	人間・文化研究群	哲学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、哲学の根本問題の一つである「自分・自己」について、哲学者や作家、詩人の考え方などを参考にしながら、多面的に講義する。それによって、受講者が「哲学とはどのような学問であるのか」「哲学を学ぶことによって何が得られるのか」「哲学を学ぶ意味がどこにあるのか」といったテーマを理解し、哲学を学ぶ楽しさや魅力に気づき、哲学が身近なものであることを学ぶ。本講義を通して自分について考え分析し、自分の望み等について哲学的に自己省察するための学びを修得することで、大学生として何をすべきか、どのように生きるべきかということ「自己の問題」と関連させながら自己理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	人間・文化研究群 哲学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講者が、「哲学とはどのような学問なのか」「哲学を学ぶ意味とは何か」といった問題について理解を深め、哲学に興味をもって考えられるようになるための講義を行う。具体的には、人間が、生きることにおいて、生きつつ同時に生きることについて考えて生き、生の意味を問う意識的、言語的存在であるという点において、他の動物とは異なる特色を持つことを理解する。これゆえに、人間の生はしばしば容易には理解しがたい側面や、不可思議な姿を示すことになる。人間が生きること、考えることが一体どのような意味を持つものかを原理的に考え直すことを学ぶ。特に、自己と他者、生と死といった諸問題を哲学の観点から考察することを通じて、人間が生きること、考えることの意味を講義する。	
一般教育科目	人間・文化研究群 日本文学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本文学の作品を読む楽しさを知るための講義を行う。「読む」とは作者が紡いだ「ことば」の意味を読者が理解できるようになることである。読むことで作品における無数の情報を統合し、理解を深める読書法を修得する。講義では、近代文学における子供や学生を主人公としたり、学校を舞台とした短編小説を扱う。書かれた時代の社会や文化を踏まえ、しっかりと問題点を整理する読者となることで、作者すら思いも寄らなかった魅力を引き出せるスキルを修得する。	
一般教育科目	人間・文化研究群 日本文学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、近代文学の作品を通して、時代背景と絡ませながら、分析的に読み、その作家や作品が時代に何を訴えかけていたかについてを中心に講義する。特に日本の近代文学史の変容と文化的な背景を把握する。その上で、作品における問題点の所在を確認し、同時代状況との照合を試みる。様々な社会的文脈から解釈の可能性を探り、読んだ作品から、今日に連なる近代という時代の社会や文化を理解する。	
一般教育科目	人間・文化研究群 文化人類学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、フィールドワークで自己を開くことをテーマに、異文化への対応のあり方としてのフィールドワークの多様性と時代的な変遷を解説し、そうしたフィールドワークの調査、記述方法を、具体例をあげながら紹介する。それと併行して、そうした調査、記述方法を用いて授業の参加者自身が課題をこなしつつ「自己(自分の身の回り)をフィールドワークする」機会を設ける。身近な生活文化を見直し、アクティブ・ラーニング的な課題のアウトプットを通して、受講者の自己を開き、共生のための実践力を涵養する。	
一般教育科目	人間・文化研究群 文化人類学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、人類の根源を考えることをテーマとして、人類にとっての文化や意味の世界のあり方を理解し、意味と結びつく自己のあり方について講義する。文化人類学が、異文化(他者)の「訳のわからなさ」の理解と、自文化(自己)のあり方を問い直してきた学問であることをふまえ、授業では、今の私たちから見て訳のわからない伝統文化や異文化の慣習を取り上げ、それらの社会における意味や自己のあり方を考え、私たちも異なるかたちで似たようなことをしていないかについての理解を深める。	
一般教育科目	人間・文化研究群 倫理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「人間の生き方」や「社会のあり方」について、幸福・義務・徳・道徳といった倫理学の観点から、キーワードごとに講義する。具体的には、倫理学の歴史の概観(前近代・近代以降)、幸福論、義務、徳、道徳判断、道徳等の観点から、これらの話題に対して、様々な哲学者・倫理学者の考えをもとに学ぶ。さらに彼らがどのような時代に、どのように考えたかを正しく把握し、自分なりに考えをまとめるスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育 科目	人間・ 文化 研究 群 倫理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会のあり方」について、市民社会、医療、環境、ビジネスなどの視点から講義する。そこでは、いわゆる生命倫理・環境倫理・ビジネス倫理といわれる分野を扱う。そして、それを「人間の尊厳」「自由」「動物の尊厳」等の倫理学の概念によって把握する。具体的には、応用倫理学の諸問題、自己と他者、個人と社会、正義・自由・平等、医療現場での生命倫理、環境倫理について講義を行う。個々のテーマにおいて、何が問題となっていて、倫理学はそれをどのように考えるのかを正しく知り、受講生は自分の考えをまとめられる思考のスキルを修得する。なお、本講義を通して、多文化・異文化に関する知識及び、人類の文化、社会、自然に関する知識を関連付けて理解する。	
一般 教育 科目	人間・ 文化 研究 群 論理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間の思考の原理、思考の規則をテーマとする。私たちは物事を考えるときに、ある一定の規則にしたがっている。規則や、それに従った思考の方法について学ぶのが論理学である。論理的な思考を身につけ、正しい思考と誤った思考を見分けることができるようになることで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。本講義では、伝統的論理学の基礎を扱う。具体的には、概念、定義、命題の区分、そして、推理のさまざまな形である。これらを学ぶことにより論理的思考を身につける。論理学では、当たり前のように使用している言葉や文章について、それぞれの形の違いを厳密にとらえるスキルを修得する。	
一般 教育 科目	人間・ 文化 研究 群 論理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、論理的思考力の育成をテーマとする。特に、公務員試験やSPIにも出題される論理学（判断推理の論理に関する部分）の問題を導入として、論理的思考について講義する。命題・集合など論理学についての問題を中心に扱うと共に、対応関係・順序関係・ウソつき問題・パズル問題を実践的に解いてみることで、論理的な思考力を身に付ける。なお、論理学を学ぶことで、本学ディプロマポリシーの「論理的思考力」を修得する。	
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群 経済学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済学の基本的な考え方について、過去の経済学者たちの学説の検討を通じて学び、現代の経済において最も基本的な経済的制度である分業と市場について講義する。生産と消費を分離することで豊かさを高めている現代経済の基礎的部分を理解し、経済の成長メカニズム、経済諸主体の間での所得の分配ルールを把握する。さらには、一国の豊かさを決める要因や市場と国家との関係の問題等について修得する。	
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群 経済学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代資本主義における制度的特徴、およびそれが生まれてきた制度変化のプロセスについて講義する。具体的には、産業構造の変化やそれにもなう経営形態の変化、そしてさらには市場の形態の変化や、利潤の源泉の変化などがその事例となる。そのような変化の中で、市場のメカニズムのあり方や会社と経営者、株主、労働者との関係なども大きく変化する。また、人々の自由な経済活動に政府が介入するべきか否か、といった問題も議論されるようになる。受講者は、過去の経済システムの変遷とそれの分析を試みた経済学の発展過程との関連を理解し、我々が生きている現代の資本主義経済がどのようなシステムであるか把握する。	
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群 現代史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、天皇・議会政治・憲法・政党・軍部をキーワードとして、現代に直接つながる近代日本の歴史、特に、明治から昭和戦前の時代を中心に講義する。具体的には、開国から太平洋戦争の敗戦に至るまでの日本の近代史がたどった正（近代国家の早期建設と普通選挙による一定のデモクラシーの実現）と負（対外侵略や排外主義の横行、女性の政治からの排除）の両側面を示し、なぜそうなったのか写真や映像資料を交えた講義を行う。受講生は、授業で提示する情報をふまえて、自らが個々の事象についての判断ができる教養を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	現代史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法・冷戦体制・高度経済成長・55年体制・バブル経済・グローバリゼーションをキーワードとして、戦後を中心に太平洋戦争の敗戦から現在に至るまでの日本の現代史がたどった、正（日本国憲法／日米安保体制による平和の実現、敗戦からの素早い立ち直り、高度成長に伴う国民生活の改善と国際的地位の向上）と、負（戦後処理問題の残存、急激な発展に伴う環境破壊、少子高齢化とここ30年間の経済及び社会の停滞）の両側面について講義する。講義を通して、敗戦直後から現代に至るまでの日本社会を中心とする歴史の概要を正確に理解し、その知識を用いて説明できる教養を修得する。
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	社会学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「社会的行為と集団」をテーマとする。社会学とは何か、社会学のはじまりと社会学的思考、社会科学としての社会学等の理解をふまえて、社会学へのアプローチを行う。具体的には、社会学の各領域と関連諸科目、社会的動物としての人間・社会化、人間と社会的行為、T・パーソンズとM・ヴェーバーの社会的行為、社会的行為と規範・文化、社会集団の要件、二人集団と三人集団、ゲマインシャフトとゼゼルシャフト、社会集団と倫理、社会のゆらぎと社会変動、社会変動の原因と結果について講義する。社会学の基本的概念を学ぶことで、社会化・社会的行為・規範・集団・社会変動などの基本的概念について修得する。
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	社会学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会的制度や構造（家族・都市・職業・階層・宗教・政治・マス・コミ・福祉等）について講義する。受講生は、家族と結婚（家族とは・家族の機能・配偶者選択と家族の構造）、職業の概念と職業選択、都市と都市病理（都市の特性・都市の内部構造と都市計画）、社会階層と社会移動（階層・学歴主義・教育格差・社会的格差）、政治権力と民主主義（権威主義と民衆の行動・状況の圧力・正当性の概念・既成事実化）、宗教と社会（日本の宗教構造・若者の宗教行動と新新宗教）、マス・コミと擬似環境、高齢社会と福祉の観点から社会学という研究と学びへの理解を深める。
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	人権問題論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、各自が当事者である〈性〉の問題を入口にして、相互に異なる生き方を承認しあえる関係を取り結ぶ方法と課題について、女性、男性、間性をはじめとする性的少数者の人権と共生の在り方を探りながら、多面的に講義する。社会構造および人間関係の急速な変化によって、人々の個人化、価値観の多様化が指摘される。そうした中で誰もが当事者である（独自の関わり方を日々生きている）性の問題を、他者の生き方・価値観の尊重＝共生という視点から問題とする「性と人権」について学ぶと共に、理解を深める。
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	人権問題論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、部落問題を語るときに屢々用いられてきた「いわれなき差別」という表現で暗示されている事柄と、そこから開示展開されるべき問題、人権についての認識を豊かにすること目的として講義する。具体的には、生物学者である柴谷篤弘氏の反差別論-人権論の一端を紹介し、それとの関連で障害者問題と部落問題とを取り上げる。さらに、日本文化論としての「生産-労働の歴史」の視点をもふまえ、キョメーケガレ幻想への理解を深め、サベツにかかわる「恣意性」「根拠」「利益」などの問題や、格差社会が進行する現代日本の問題を考え直す知識を修得する。
一般 教育 科目	歴史・ 社会 研究 群	政治学a	本講義は、講義科目である。 本講義では、メディアやネットを通じて私たちが触れるさまざまな政治現象について講義する。具体的には、政治と権力（権力の諸類型）、国家（近代国民国家の生成と構造）、政治システム、立法府、集権と分権、選挙、マス・メディアと世論、政党と政党システム、多元主義とネオ・コーポラティズム等の観点から講義を行う。政治について知り、何かを考える能力を持つことは、将来社会人として生きていく上で多くのメリットがあるため、受講生は、常識的な政治についての知識を修得する。

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目 歴史・社会研究群	政治学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の締結を政治学的に様々な角度から見て、それを日本政府がなぜ締結したのかについて講義する。TPPを政府が選択した政治的理由があるはずである。ただ、TPPは経済政策である以上、その背後には経済的理由もある。またTPPは国際協定であり、日本政府だけでなく他国の政府との関係にもとづく国際的な理由もある。これらを考えるために、授業では政治文化や思想、政治制度、国際政治経済の観点から講義する。受講生は、具体的な政策を見ることで、ひとつの政策を政治学においてどのように考察するのか。具体的な政治の見方と考察方法を修得する。	
一般教育科目 歴史・社会研究群	西洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「世界遺産」にまつわる歴史を中心に、西洋文明の成り立ち、影響についての基礎的な知識について講義する。古代ギリシアやローマのほか、キリスト教に関連する歴史的建造物など、西洋文明を深く理解するために有益な世界遺産を扱うほか、エジプトや、アメリカ大陸先住民の遺跡なども関連するものとして取り上げる。講義で着目する西洋の歴史的な成り立ちを把握することによって、現代世界を理解するスキルと教養として歴史的知識を修得する。	
一般教育科目 歴史・社会研究群	西洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、キリスト教と西洋の歴史・文化がいかに深く関わっているかを確認しながら、ハロウィンやクリスマスなどの祭典、聖人・聖女や悪魔・魔女などのイメージ表現、「ノアの洪水」といった伝承を取り上げ、その歴史的背景、現代への影響などをたどって、西洋文明の深層について講義する。特に着目するのが、キリスト教の祭典や思想の、背景と意味そして影響についての歴史である。受講生は、西洋において長年かけて培われ、社会に根を下ろしている様々な象徴表現や慣習について歴史的に学び、異文化についての表層的ではない教養を修得する。	
一般教育科目 歴史・社会研究群	東洋史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史的展開について日本との関係を政治・社会・文化の諸方面から、現代の我々と関係の深い事象を取り上げ、それがどのように成立し展開したのかについて講義する。講義を通して受講生は、日本が古来、地理的に近い中国や朝鮮などを中心に交流が進められてきたことを理解する。こうした交流は、日本文化の形成にも密接に関係しており、日本の歴史を知るうえでも東アジア世界の国際関係の歴史を理解することで、前近代における東アジア史を比較史的に理解し、日本と中国との国際交流についての知見を広げる。	
一般教育科目 歴史・社会研究群	東洋史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、東アジア世界の歴史的展開について、テーマ別に講義する。具体的には、食文化（中華料理の原型・食文化の変遷・日本の食文化）、服飾文化（服飾文化の変遷・日本の服飾文化）、東アジアの都市プラン、日本と中国の都市プラン、国際関係史（中国からみた日本・日中間の交流史・琉球からみた東アジア）、中国の妖怪、中国におけるスポーツの歴史等の観点から、東アジア全体を概観する講義を行う。受講生は、講義を通して前近代の東アジア世界の国際関係・文化形成がどのように展開していったのかを理解する。	
一般教育科目 歴史・社会研究群	日本国憲法	本科目は、講義科目である。 本科目では、憲法とはいかなる法であるか、その役割や内容について講義する。受講者は、憲法が国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されることがないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる法であることを理解する。憲法には、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。授業では憲法の役割について、基本的人権や統治機構の解説を通して詳解する。憲法を題材とした授業を通じて、社会の様々な問題に対応していくために必要な論理的思考力や衡平感覚を養成する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史a	本授業は、講義科目である。 本科目では、日本史の流れを習熟させることに重点を置き、歴史人物や歴史の舞台をクローズアップして講義を行う。特に、土地に密着した歴史を解説し、今日の風景の中に過去の出来事を再現できるような体感型の学習を通して学びを深める。具体的には、前期は旧石器時代から奈良時代までの歴史を解説する。主な内容としては、旧石器時代の年代決定法、打製石器の製作技法、縄文時代の生活様式、縄文土器の変遷、縄文人と弥生人の形質比較、弥生時代の拠点集落、邪馬台国の所在地、ヤマト政権と古墳群、飛鳥時代の宮殿・陵墓・寺院、藤原京の設計、平城京遷都、奈良時代の政治史、奈良の大寺などを講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	日本史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、受講生が講義内容に興味をいだき、自ら各地の遺跡や史跡を案内し、当地の歴史を語れるほどの水準となる講義を行う。具体的には「日本史a」での成果をふまえ、さらに深い知識を習得する。特に、地域に密着した歴史を学んでいただく目的をもって 弥生時代から飛鳥時代までは奈良盆地中南部、奈良時代は奈良盆地北部、平安時代から織豊時代までは京都市・鎌倉市、江戸時代は東京都・大阪市、明治時代以降は神戸市の歴史地理学的な知識と合せながら講義する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会構造を探究することを通して、「法とは何か」について講義する。法は正義を目指すものであると答えることができるかもしれないが、現実的には正義の尺度も様々であり、法の制定、実現過程においては法以外の諸力と無関係ではありえない。講義ではそのような現状について紹介する。受講生は、実際に法に触れることで、これを身近に感じ社会現象を法的に理解でき、または法的に理解しようとするときに本講義での知識を手掛かりに、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	歴史・社会研究群	法学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「なぜ人を殺してはいけないのか」という命題を出発点として、法構造の理解を中心としつつも広く社会構造を探究し、法とは何かを追究して講義を行う。なぜ人を殺してはいけないのか？それは、「正義に反するから」と答えることができるかもしれない。では何が正義か？それは法であると答えることもできる。ではなぜ、法は人を殺してはいけないと定めているのか？こうなってくると法だけでは説明できない。このようになぜ人を殺してはいけないのか、という命題を探究するためには法だけでなく、法制度を支える様々な正義の尺度を知る必要がある。受講生は、法と社会構造を理解し、その知識と教養によって、必要な法情報に自力で到達できるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	化学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、エネルギー問題・人口問題・食糧問題をテーマとして講義する。今世紀半ばの人口100億を支えるには、経済発展、資源・エネルギー・食料の大量消費、環境保全の3要因を遂行しなければならない。既に差し迫っているこれらの要因は互いに矛盾し、3者が併存出来る可能性は非常に低い。受講生は、このトリレンマ状況について学び、それに関わる「化学」の役割について理解を深めることで、良識あるアプローチを語る知識を修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	化学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、地球温暖化・オゾン層破壊・環境ホルモン問題をテーマとして講義する。今、最も重大なこの3つの環境問題のいずれにも化学が大きく関わっている。その他、従来からの酸性雨、大気汚染、有害廃棄物問題が加わる。これらの環境汚染は、自然災害でなく、人間の社会・経済活動の結果でもある。これらの諸問題について学び、これらを化学の立場から理解を深めることで、どのようにして対処しようとしているのか、良識を持って評論できる知識を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 自然科学史a	本科目は、講義科目である。 本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、火山学・地震学・津波等の防災に関わる今日的課題に繋がる事柄について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。本科目の位置付けとしては、物理・化学・生物・地学・数学の基本的な学びを概観する科目であり、自然科学全体の入門科目でもある。授業では、文明の発祥から産業革命期までを主として扱う。併せて、西洋中心主義を排し中国・インド・アラビア・日本等アジアにおける科学の発達史についても学ぶ。受講生は、ガリレオ・ニュートン・ダーウィン等の著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。	
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 自然科学史b	本科目は、講義科目である。 本科目では、自然科学に関わる諸分野である科学（理科）や数学・技術・医学の発達経過や、原子力と原発問題等、今日的な課題につながる科学・技術の歴史について講義する。さらに政治・社会や哲学・宗教と自然科学の関係について歴史的観点から解説する。授業では、産業革命期以降の科学・技術を主として扱う。受講生は、アインシュタインを始めとする著名な科学者の業績やエピソードを学ぶことで、自然科学の発展の歴史への理解を深める。	
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 数学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、数学の難解な問題を解くための技法を身につけるのではなく、様々な分野で活用されている数学的概念を理解するために必要となる数の扱い方や考え方や様々な数の基本的な計算技法について講義する。授業では、数の種類とそれらの四則演算の方法について理解し、その応用として文字式を用いた計算方法について修得とする。具体的には、自然数から実数・複素数、倍数や約数、素因数分解などを扱う。その上で、文字式を扱う方法や式の展開や因数分解、方程式の計算を理解する。さらに、関数とグラフ、連立方程式や不等式の計算方法、命題と集合の概念を修得する。	
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 数学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、微分積分と線型代数に関連する計算技法とよく利用される記号の扱い方をテーマとして、数の扱い方や基本的な計算法則の理解とそのために数学で使用する記号の理解について講義する。授業では、微分積分・線形代数の修得を目標とするが、三角形や図形概念、座標上で図形を扱えるようになることを目標とする。さらに、数列、指数の計算、関数を中心にグラフの概形や増減について調べる方法を理解する。その上で微分法を修得する。その過程で、極限や級数の概念について学習し、積分法の解説をふまえて、微分積分の基本的な計算技法を学び、最終的に線形代数への理解を深め、IoT分野における積分計算の利用方法を修得する。	
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 生命科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「愛の進化」をテーマとしてさまざまな動物の行動について講義する。私たちは、ヒトの男女の出会い、異性への関心や結婚を特別なことと考えがちである。しかし、動物や昆虫にも雌雄があり、出会い繁殖する。動物界では、一般的に雄が求愛し、雌が真剣に雄を選択している。私たちの永遠のテーマである男女の愛、すなわち恋愛、性的結びつき、結婚と離婚という問題について、これらの動物行動から考察する。受講生は地球上の様々な生物がもとは古代地球に発生した生物から派生したものであることを学ぶと共に、多種多様な生物の行動からヒトの存在や行動について理解を深める。	
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群 生命科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「遺伝の仕組み」をテーマとして、遺伝についての基本的な講義をする。地球上には推定1000万種の生物が存在するといわれる。これらの生物は、全てDNAと呼ばれる遺伝子を持つ。遺伝子は生命を作り上げる設計図であり、その情報にしたがって生物は作られている。このDNAの仕組みを考えると、生物の形は不変ということになるが、突然変異が起こり生命体は進化を遂げてきた。受講生は、授業を通して、遺伝のメカニズムへの理解を深めると共に、遺伝子治療や遺伝子検査といった技術革新についての知識を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①地球の特異性 ②気候変動と気候変化 ③環境問題と自然災害)から講義する。受講生は、地球環境の生い立ちとその特徴を地球誕生に遡及して学び、次に地球の大気にフォーカスして現在の大気の特徴と気候変動のシステムについて理解する。最後に、地球表面に生じる自然災害の特性とリスク、防災減災の基礎について理解を深める。人びとの暮らしを支える水と大気と大地は、生きとし生きるものにとって絶対に必要な自然環境である。人類は、地球温暖化・環境汚染・自然災害・資源の枯渇等、地球環境に負荷をかけてきた。現代社会では、持続可能な社会を構築し地球の自然を未来に引き継ぐ努力が求められている。そのために必要な基礎知識と、解決すべき事柄について学ぶと共に理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	地球環境科学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、3つのテーマ(①固体地球ができるまで ②火成活動による地球ダイナミクス ③地震活動と地殻変動による地球ダイナミクス)から講義する。受講生は、固体地球の形成過程とその自然環境を理解し、地震災害・火山災害・津波災害および地形災害について理解を深める。講義では、まず固体地球の生い立ちとその特徴を学び、次に火成活動をフォーカスし、プレートの動きやプレート同士が集まる日本列島やハワイ島の様に太平洋の真ん中になぜ火山が形成されるのかを理解する。併せて、火山噴火について学ぶ。最後に、地震のメカニズムとその揺れの性質や地震を起こす活断層やプレート境界について理解を深める。生活の足元に存在する活断層と対策の必要性を学ぶことで防災と危機管理のスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日常生活と統計の関係を理解した上で、科学的にデータを収集する方法とデータの整理の仕方、集団の特性を表す数値の計算方法について講義する。具体的には、統計と迷信、統計学と数学の違い、データの収集・整理・集計、統計表の作成と注意、統計グラフの作成と留意すべき点、集団の代表値について、代表値としての平均の求め方と意味、平均値の限界、集団のちらばりの尺度、算術平均と標準偏差、関係と関連の違い、相関関係と相関係数の求め方、相関関係と因果関係について、相関関係による予測と推定等をトピックとして講義を行う。受講生は、個々のトピックをふまえて、日常生活においてどのようなデータが必要であるかを理解する。併せて、調査、測定および観察などから得たデータの整理・集計を通して、分析が行えるスキルを修得する。	
一般教育科目	自然・環境研究群	統計学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、標本と母集団の関係について講義する。具体的には、推定と検定の必要性、標本と母集団の関係、標本抽出、母集団および標本の数値の違い、統計数学の求め方とその意味、標本値による母集団の特性値の推定、母平均と母比率の推定、大標本と小標本の違いによる推定・推定誤差の違い、標本値による母集団の特性値の検定、母平均および母比率の検定、11を大標本と小標本の違いによる検定。二つの母集団の差の検定(母平均・母比率)、分散分析等の観点から講義を行う。受講生は、サンプル(標本を抽出して)から母集団の特性を推定および推測できるスキルを修得する。また、表示、主張、報告の内容などをそのまま受け入れることなく、標本から統計分析をして確かめることの重要性への理解を深める。	
一般教育科目	自然・環境研究群	物理学a	本科目は、講義科目である。 本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、運転免許の学科試験で必要な物理の知識やスポーツの物理をはじめとして、乗物・ファッション・音楽・地震・津波等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般 教育 科目	自然・ 環境 研究 群	物理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、理系の基礎としての物理ではなく、基礎教養の物理学について講義する。具体的には、スポーツ・ファッションをはじめとして、宇宙や放射能等の身近な事柄を題材に取り上げ講義を行う。受講生は、上記のような日常の事柄を通して、そこに物理学的な観点があることを理解する。加えて、相対性理論や宇宙物理学・量子力学との現代物理学についても詳解する。講義を通して解き明かされる「自然の法則や仕組み」と日常生活を物理学でつなげられる思考の修得をする。</p>
一般 教育 科目	健康・ スポ ーツ 研 究 群	スポーツ・トレーニングa	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス(含フィットネスダンス)の基礎的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ。</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニクを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶことで、実践を通してプログラムの基本構成を修得し、自分自身の身体と感性と自己表現能力の向上への理解を深める。なお、「スポーツ・トレーニングa」では、ダンスの他、フットサル・ウェイト・ゴルフ・トランポリン・スポーツトレーニング論が設置されている。</p>
一般 教育 科目	健康・ スポ ーツ 研 究 群	スポーツ・トレーニングb	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンス(含フィットネスダンス)の発展的な技術について講義する。受講生は、以下4点を学び、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を修得する。</p> <p>①リズム感を養い踊る喜びや楽しさを学ぶ</p> <p>②健康の保持増進の観点からその効果や特性、目標運動強度、実施上の安全性や注意点などの理解を深める。</p> <p>③基本ステップと正しい身体の動かし方を習得し、目的にあったプログラム構成能力と実践力を養成する。</p> <p>④身体表現を中心とする創作ダンスでは、ダンスのテクニクを学ぶとともに自己表現力を身につける。</p> <p>これらを学ぶにあたって、基礎練習(w-up、アイソレーション、筋力トレーニング等)を行う。さらに、エアロビクスの理論と実践、創作ダンスの理論と実践を修得する。「スポーツ・トレーニングa」では、ダンスの他、フットサル・ウェイト・ゴルフ・トランポリンが設置されている。</p>
一般 教育 科目	健康・ スポ ーツ 研 究 群	スポーツ科学論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例について、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえて、〈課題設定・情報収集・独自の視点の整理〉という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。個々にスポーツに関する情報を収集し、かつ現状を理解し、自身の経験を分析することで、独自のスポーツ科学論を構築するスキルを修得する。これによって、本学のディプロマ・ポリシーにある「汎用的技能」を修得する。</p>
一般 教育 科目	健康・ スポ ーツ 研 究 群	スポーツ科学論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツに関する様々な事例を交えて、根底に根ざす問題点の重要性について講義する。受講生は、理解を促進するため学んだ知識をふまえて、〈課題設定・情報収集・独自の視点の整理〉という一連の作業を通してスポーツ科学への理解を深める。講義では、員とリダクションとして体育授業やスポーツ活動における友達づくりとそれに対する様々な考えを学ぶ。その上で、運動用具の開発現場、スポーツ界のICT(情報通信技術)活用、スポーツ指導現場における新スポーツ論、世界から評価される日本人アスリート、女性のスポーツ界経営への進出、体力向上の取り組み、アスリートを支える人たち、アスリートのケガ(病気)と競技復帰について、理解を深める。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ技術a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、生涯を通して卓球に親しみ、楽しむことが出来る基礎的なスキルを修得する。特にこの授業では、実技と共に卓球のルールと基礎技術を学ぶ。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなど基本技術の習得 ②卓球に必要な基本的用語・ルール・マナーの理解 ③セルフジャッジでの試合の実施 <p>これらを通して、仲間と協力して目標を達成することでコミュニケーションの重要性についても理解を深める。なお、「スポーツ技術a」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ技術b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、卓球をテーマに講義を行う。受講生は、ラケットの握り方によってボールの回転に変化が生ずることをふまえて、コミュニケーションツールとしての卓球のスキルを修得する。授業では、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①フォアハンド打法・バックハンド打法・サービスなどの発展技術の習得 ②卓球に必要な基本的用語・ルール・マナーの理解 ③セルフジャッジでの試合の実施 <p>これらを通して、具体的にはラリーのスキルとシングルス・ダブルスのルールを学び実技を通して卓球への理解を深める。なお、「スポーツ技術b」では、卓球の他、バスケット・バレーボール・サッカー・バドミントン・BCエクササイズが設置されている。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ文化論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代のスポーツが、政治・経済・教育を含む社会生活の様々な側面と関連し一つの文化現象となっていることについて講義する。受講生は、スポーツを取り巻く様々な社会的課題やスポーツ科学が社会にもたらす多様な可能性について学ぶ。講義では、現代社会におけるスポーツの意義をイントロダクションとして、スポーツの現状とその課題について、文化・社会学的視点から捉えスポーツに関わる社会的問題を把握し分析し、現代社会に望ましいスポーツ文化並びにスポーツ推進施策のあり方についての理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	スポーツ文化論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、スポーツの現状とその課題について文化・社会学的視点から捉え、スポーツに関わる社会的問題について講義する。受講生は、メディアとスポーツ、消費されるスポーツ、スポーツとパワー、スポーツとジェンダー、スポーツする身体、生活から生まれたスポーツ、スポーツと教育、スポーツと人間形成、スポーツと地域社会、職業としてのスポーツ、スポーツファンの文化、日本のスポーツ文化、スポーツと芸術、スポーツをめぐる社会問題等のトピックを学ぶことで、現代社会に望ましいスポーツ文化とスポーツ推進施策のあり方について理解を深める。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群	健康科学論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日常生活の中で健康を守るために必要な運動や、生きがいを通してバランスのとれた知識について講義する。特に、日常生活を健康的に過ごしその姿勢を生涯継続していくために必要な事項について学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①健康についての基礎的知識を学ぶ。 ②生活習慣が健康に及ぼす影響などを知り、健康管理能力を向上させる能力を身につける。 ③生涯の健康を考え、心身の健康の重要性を理解し、社会において健康な生活を送る知識を養う。 <p>最終的に、現代における健康が、各自のライフスタイルの結果として作られるものであることへの理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 健康科学論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多様化する健康の概念と現在の健康問題、及び運動や身体活動と健康の関係性について講義する。特に、健康な生活を送るために必要となる適切な「運動・栄養・休養」を日常生活に取り入れる方法を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <p>①健康に関する用語や身体の仕組み、健康に対する取り組みを学び、基礎的知識を理解する。</p> <p>②健康の概念を理解した上で、自身の健康観を持つ。</p> <p>③自身の生活習慣の改善すべき点を見つけ、実践する。</p> <p>最終的に、生涯にわたる健康づくりへの理解を深め、そこに繋がる知識を修得する。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 人間科学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。</p> <p>この授業では、文科系のみならず理系も含む広い領域にまたがり、自然と人間の関わりや、歴史的な背景、現状把握、今後解決すべき問題も俯瞰して、総合的にとらえることの重要性を学ぶ。</p> <p>新たな時代を見据えて、社会の諸問題を解決する能力を養い、幅広い知識を実践につなげられる人材となることをめざす。</p>	
一般教育科目	健康・スポーツ研究群 人間科学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、新たな時代に求められる人間の生き方、社会の在り方について、「人間と環境」を焦点にし、科学的なアプローチによって、学生諸君が幅広い知見を習得することを目標とする。</p> <p>この授業で環境問題の多様な側面を知り、社会人一人ひとりの課題としてとらえ、行動することの重要性を学ぶ。さらに、そのための普及・啓発の手法や施策の意義も学び、「持続可能な社会」をめざして実践することの重要性を理解し、社会の諸問題を解決しうる人材となることをめざす。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 AI・データサイエンス入門1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会において多種多様な分野で活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。受講生は、AIを理解し、それを活用する事で個々の専門分野において抽出される問題解決に対して、検討・企画・立案できる人材の基礎を学ぶ。具体的には、以下の3点を修得する。</p> <p>①機械学習AIサービスを使用したアクティブラーニングでAIの概要を理解する。</p> <p>②各種AIサービスへ様々なタイプのデータの入力とその結果を分析し、特性を把握する。</p> <p>③AIサービスをシステムに組み入れるプログラミングを実習し、AIサービスの活用手法を理解する。</p> <p>これに必要なPython言語の基礎的なプログラミング手法を実習する共に、自身の専門分野で役立つAIを活用したシステムを、グループワークで立案する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 AI・データサイエンス入門2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「AI・データサイエンス入門1」での成果をふまえ、現代社会において多種多様な分野で活用されているコンピュータシステムの中でも、機械学習タイプの新たなAI（人工知能）について講義する。</p> <p>受講生は、以下の4項目について学ぶ。</p> <p>①プログラミング実習：基礎統計の計算・可視化（ヒストグラム）・回帰分析（散布図・回帰曲線）</p> <p>②AI音声認識：音声の文字起こしのシステムプログラミング体験・システムの企画立案（グループワーク）</p> <p>③AI手書き文字認識：手書き文字認識の体験・プログラミング体験・企画立案（グループワーク）</p> <p>④AI画像認識：画像の内容認識システムのプログラミング体験・学習データのスクレイピング体験・評価・企画立案（グループワーク）・企画のプレゼンテーション（グループワーク）</p> <p>最後に、ゲームでのAI活用例の紹介を講義する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 AIデータサイエンス総論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、AI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面について講義する。AI(Artificial Intelligence [人工知能])やロボットの技術向上により、20年後には、日本では労働人口の約半数が、AIやロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に向かって、受講生は、どのような力を身につけ、キャリアを築いていけば良いのかについて理解を深める。さらに、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策へ向けて考える力を修得する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 コンピュータと法	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、コンピュータやインターネット等に関連する法律について以下の5点の観点から講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①人権………ホームページやブログ等で他者に関する記載を行った場合等に生じる法的問題 ②知的財産権………他者の出版物やホームページ等における記載を自己のそれに転用した場合に生じる法律問題 ③電子商取引………電子商取引の特徴や問題点及び消費者保護等 ④犯罪………コンピュータ関連の刑法犯と不正アクセス禁止法 ⑤法的救済手段………国外も視野に入れた紛争解決手段の概要と問題点 <p>受講生は、一個人及び将来の企業人として、コンピュータ社会において要求される基礎的な法的知識を学び、法的思考方法を修得する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 マスメディア論a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ドキュメンタリーやNEWSの視聴と解説を通して、①メディアがどのような問題意識と覚悟で社会に向き合おうとしているのか、②改善に向けてどこまで影響力を及ぼし事ができるのか、③制作者は何に悩みもがいているのかを知りメディアの役割とは何かについて講義する。メディアは社会をつなぐのか、分断を加速させるのか。担うべき公共とは何か等について、新聞記事やテレビ番組を教材に、ディスカッションとレポート作成を通して、マスメディアとの向き合い方を考える。受講生は、これらの学びと共に、ヘイトスピーチやインターネットで自己の利益のために他者を誹謗中傷する言説について考察する力を修得する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 マスメディア論b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、TVやラジオ番組や映画、出版物を紹介し制作者の視点から講義する。マスメディアという公の言論空間では取材に応じてくれた人々の人生を守るために「伝えられること」は多くはない。権力監視のための取材では、訴えられるリスクと背中合わせでもある。受講生は、時代の変化に関わらず読み継がれる書物や、社会の歪と格闘し、傷つき、悩み、もがきながらも前を向こうとする人間に迫るドキュメンタリーを通して、自己への問いかけ方法を学ぶ。それをふまえて、制作者や取材を受けた人々と自分自身を重ねることで、自己と向き合い、社会との向き合い方への理解を深める。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 情報科学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「社会を支える情報技術の基礎を学ぶ」ことをテーマとして、コンピュータやインターネットの仕組みである情報技術の基礎と、情報技術が社会での利活用方法について、具体的な事例をふまえて講義する。講義で学んだ知識をもとに受講生は、生活や企業の諸課題を自ら調査し、その解決する方法について考察する。これによって、情報技術の基礎知識への理解を深め、社会で必要なスキルを修得する。</p>	
一般教育科目	情報とAI・データサイエンス研究群 情報科学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「近年注目されている新しい情報技術を幅広く学ぶ」ことをテーマとして、AIやIoT、5G、AR・VRといった最先端の技術の特徴と、それらの技術がどのように社会で活用されているのかについて講義する。受講生は、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①日々進化する情報技術に興味を持ち、その動向を追うこと。 ②最先端の技術が、社会でどのように役立てられているのか説明できるようになること。 ③興味のある業界で注目されている技術を把握し、今すべきことを考えられること。 <p>これらの学びをふまえて、興味のある業界で注目されている技術を調査・分析し、社会で注目されている技術に関する知識とそれを応用する方法を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報処理応用	本科目は、講義科目である。 本科目では、「情報処理入門」で修得した成果をふまえ、Word・PowerPoint・Excelの応用的な操作方法・活用方法、プレゼンテーションによる情報発信について講義する。Office連携、Excelでのデータ活用を含め、発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術を活用できるスキルを修得し、より高度なパソコン機能と実践的な操作方法を学ぶ。併せて、インターネットを安全に利用するために現代社会で必須となる知識を学ぶ。	
一般教育科目	情報とA I・データサイエンス研究群	情報処理入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、WordやExcel、PowerPointの一般的な利用方法を含め、大学での発表資料やレポート作成に役立つ知識と技術について講義する。受講生は、大学での学習と実社会での活動においてパソコンを活用するための基本的技能・知識を修得する。具体的には、Windows・Word・Excel・PowerPointの基本的機能とその操作方法、HInTシステムの使い方、メールの送受信、インターネットを使った情報収集、ネット利用における倫理上の常識・エチケットについて学ぶ。	
一般教育科目	基盤教育科目群	スタディスキルズa	本科目は、講義科目である。 本科目では、学生生活を充実させるために、学びの土台を構築し、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力の向上のための講義を行う。受講生は、上記を学ぶと共にレポート作成にあたってのスタンダードを学び、書く技術の修得をする。併せて、読解力・語彙力を修得するために、資料の読み方を学ぶ。修得した知識を使える技術にするために、実践的なテーマを設け演習を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についてのスキルを修得する。	
一般教育科目	基盤教育科目群	スタディスキルズb	本科目は、講義科目である。 本科目では、前期で修得した学びの土台を、より堅固なものにすることを目標とし、授業の理解や教科書及び資料の読解力、レポート・論文作成能力のさらなる向上のための講義を行う。受講生は、前期に修得したレポート作成スタンダードのさらなる養成と、読解力・語彙力を修得するために、長文の資料の読み方を学ぶ。レポート作成能力の育成については、論理力と根拠資料に基づいたレポートの作成を行う。講義では、個別ワークだけでなく、ペアワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションを実施し、論理的思考や表現についての実践を重ねることで、各学部設置される専門演習に対応する論理的思考や表現についてのスキルを修得する。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養数学	本科目は、講義科目である。 本科目では、過去から現在までの数学上の重要な発見について身近な例を用いながら紹介し、数学を構成する代数学・解析学・幾何学の3分野についてそれらがどのように発展してきたかということについて紹介する。 数学は古代から続く学問であり、現代ではAIやIoTなど様々な分野において中心的な役割を担う存在であり続けている。しかしながら、社会の役に立ちそうなものとして認識されているものは数学の分野ではほんの一部である。特に、代数学・解析学・幾何学の分野を学ぶために、どういった点に着目して理解していくことが重要であるかということについて解説し、抽象的な概念を理解するために必要な視点の持ち方についても解説する。	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養政治学	本科目は講義科目である。 本科目では、民主制社会の市民として正しく政治的な問題を理解し、さまざまな選択肢を比較検討し、積極的に政治に参加できるような教養を身につけることを目的とする。そのため、さまざまな政治的課題が、どのように課題として政府に認識され、社会のさまざまな要求が集約され、政策として提案され、審議され、決定されるのか、その政治過程について詳しく講義する。受講生は、その過程を詳しく知り、具体的な政治課題がどのように解決されているのか分析する手法を学び、政治について自ら主体的に考えて行動する方法について理解を深める。また、自らの身近な問題がどのように政治を通じて解決されているのか知ること、政治が自らの生活にどのように影響しているのかを知り、政治に積極的に参加する市民としての態度を身につけることができる。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養西洋史	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、身近な「ファッション」を入り口として、近代の西洋の歴史を学修する。</p> <p>本科目では、「現在の私たちにとって既に当たり前なものとなったファッションのシステムはいつ頃どのようにして確立されたか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、18世紀から20世紀初頭の西洋で起こった産業、都市、生活そして文化の変容について理解を深めていく。対象地域としては、「ファッション都市・パリの成立」を一つの軸とし、パリとの比較でフィレンツェ、ミラノ、ロンドン、ニューヨークなどを適宜取り上げることとする。なお、最終消費財である服ばかりでなく中間財である布にも注目するところは本科目の特色の一つであり、「そもそも服はどのようなプロセスで作られ、流行たりうるのか」という問いを投げかけることで、受講者のより深い理解と考察を促す。</p>	
	後期教養教育科目群	教養哲学	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>本科目では、言語論、認識論、存在論といった分野を中心に講義する。存在をあらわす言葉である「いる」と「ある」を区別しない言語もあるが、日本では「いる」と「ある」を区別する。また、「ない」についても「かばんの中に財布がない」と「丸い三角形はない」とは同じ「ない」ではない。このように普段使っている言葉を手がかりにして、私たちの認識のあり方や、ものの存在のあり方、日本の文化の構造へと考察を深める講義をおこなう。それによって、受講者は自らの使う言葉を様々な角度から考察することができる。さらに、性（男性／女性など）によって異なる言葉の使い分けが示す権力関係や、言葉のもつジェンダーバイアスなど、社会的な問題についても扱う。それによって、受講生は自らの使う言語について「当たり前」とされていることを問い直し、差別や権力についての意識を高めることができる。</p>	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養東洋史	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、国際関係史・文化交流史を考える際、とかく相互の相違点に目が行きがちであるが、東アジア世界（中国・朝鮮半島・日本・台湾・ベトナム・モンゴルを中心とした）における歴史的共通性、とくに「漢字」に着目することで当該地域史の歴史的な理解を深める。具体的には、漢字が中国で生まれ、東アジア世界に伝播していった過程と相互の交流の中で生み出されていった各地域独自の文化的変遷を理解する。</p> <p>受講者は、日本語はもとより朝鮮語、ベトナム語にもいまなお色濃く残る「漢字」の痕跡を手がかりとして、現代東アジア世界を洞察する力を養う。</p>	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養統計学	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>本科目では、一般教養科目の統計学aや統計学bにおいて修得した知識やスキルを前提として講義・演習を行う。我々の身の回りにはたくさんのデータがあるが、統計データに関わるトピックを適宜取り上げ、実際の処理方法や処理方法に関連する理論について説明する。処理方法と処理方法に関連する理論について理解した後、受講生には実際にデータ処理を行ってもらい、その結果の読み取り方について議論する。これらを通じて、身の回りにあるデータを適切に処理し、その結果を適切に読み取ることのできる力を養っていく。</p>	
一般教育科目	後期教養教育科目群	教養日本史	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、身近な「洋服」を入り口として、近現代の日本の歴史を学修する。</p> <p>「もともとは和服で生活していた日本人の大半が洋服を着るようになるまでのプロセスはどのようなものであったか」という問いを出発点とし、様々な事例の紹介を通じて、明治維新以降から戦後に至る日本で起こった産業、消費、生活そして文化の変容について理解を深めていく。最終的には、ファッションデザイナーの活躍やファッションブランドの乱立に触れるが、それ以前に、「デザイナーとは、ブランドとは、そもそもどのようなもので、それらの概念は日本においていつ頃当たり前になったか」という問いを投げかけることで、受講生のより深い理解と考察を促す。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般 教育 科目	後期 教養 教育 科目 目 群	教養倫理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、生命倫理、環境倫理など応用倫理と言われる分野を中心に講義する。生命倫理に関して言えば、医療技術の進歩と社会の多様化により、生、死、性、生殖などについて既存の法律や価値観とは合わない、あるいはこれまで想定されていなかった事態が生じている。また、環境倫理に関しては、環境保護という点では考えが一致するものの、原子力発電への賛否や、温暖化対策における先進国と開発途上国の対立などがあり、簡単に解決できるものではない問題がある。本科目では、まず問題の背景と現状、論点についての講義を教員が行う。それによって受講生は問題を適切に把握できるようになる。さらに、受講生自身が問題を分析し、他の受講生の意見を聴き、自らの考えを述べることができるようになることを目標とする。</p>	
一般 教育 科目	後期 教養 教育 科目 目 群	社会人としての教養講座a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、グローバル化、高度情報化社会の加速度的進捗によって知識や技能の優位性の不確実な社会において、学際的な「教養」の修得を目的とする。リレー型授業によって、幅広い知識と、それを相互に関連づける思考力を体得する。それによって、様々な課題に対して適切な解決を見出す能力を開発する。特に、大学後期で文理融合した「教養」を学ぶことの意義を理解するために、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①社会人になるために知っておくべき知識と教養 ②人文科学および自然科学の境界を越えた専門知の相互連環性 ③阪南大学型「リベラルアーツ」の修得 ④各専門領域におけるAIの課題とそれに対応する教養と実社会の課題 <p>について、毎回の授業を通して思考を深める。受講者は、多様な知見と観点からの思考法と阪南大学型リベラルアーツをととしての教養を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(34 坪井兵輔/6回) 自由になるための教養 (41 前田利之/3回) 社会人の素養としてのAI (45 村上雅俊/2回) 数字から見る日本経済の現状 (38 花川典子/2回) インターネット・世界のビッグテックと日本産業 (20 大野 茂/2回) 映像を読み解く</p>	オムニバス方式
一般 教育 科目	後期 教養 教育 科目 目 群	社会人としての教養講座b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、社会人としての基礎教養の観点から以下の講義を行う。受講生は長く役立つ教養を修得すると共に、その理解を深める。特に、自然科学と人文・社会科学の知識と理解によって、社会における事象について多様な知見と社会での課題の解決に向けた思考法を修得する。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(46 森芳周/7回) 授業概要・生命の倫理学・中間テスト・振り返り (16 渡辺和之/2回) 多文化共生 (1 松村嘉久/3回) 大阪の課題と可能性 (42 松田健 /3回) 自然科学</p>	オムニバス方式
一般 教育 科目	後期 教養 教育 科目 目 群	正解のない問いの答えを考える	<p>本科目は、演習科目である。</p> <p>本科目では、「答えの出ない問題」をテーマとして、現代社会の諸相を的確にとらえ課題発見・課題解決のための思考方法について講義する。実社会において、全ての答えがインターネットの中にあるわけではない。具体的には、遺伝子操作と人間をデザインは許されるか、人工的な気象コントロールは許されるか、成人年齢は引き下げるべきか、絶対に人を殺してはいけないか、芸術作品の売買は商行為として正しいか、戦争はなくなるか、国家は本当に必要か等をトピックとして講義運用する。様々なデータをふまえ、受講生は、自分の考えをもって発表できるだけの教養とコミュニケーション技法を使って、討議力と意見集約力を修得する。</p>	
一般 教育 科目	自由 選択 科目 目 群	ボランティア実践 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教育現場でボランティア活動をすることで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般教育科目	自由選択科目群	ボランティア実践 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ボランティア実践aでの学びを前提として教育現場でボランティア活動を行うことで、その意義や役割を実感し、社会と個人の関係について講義する。受講生は、ボランティア活動の経験をふまえ、多面的なものの捉え方や考え方を修得し、多様な人と自信を持ってコミュニケーションが取れるようにする。さらに、講義と実習を通して自己理解を深め、自分で考え行動することの重要性について学ぶ。本科目の実習先は、大学が所在する松原市内の学校教育の現場とし、活動についての振り返りを講義の中で行う。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教育社会学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代の学校教育に関わる社会的課題に対して、近代化に伴う日常生活次元の変容について、食・家族関係・遊び・交通環境・雇用形態等の日常生活から講義する。具体的には近代以降の子どもの心身の変化とそれに規定される教育政策（中教審第1次答申「生きる力」論や「食育基本法」「がん教育」等）や問題に焦点を置き、社会学・教育論から詳解する。受講生は、以下の4点の観点から学び、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現代における社会・生活状況及び子どもたちの状況と問題の抽出 ②近代以降の変化を特徴的な出来事・社会変容等の理解 ③子どもの変容に対して学校での問題の発生とそれに対する教育政策動向の把握 ④世界に目を向けることで子どもたちが置かれている状況及び環境への理解 <p>これらの教育と社会の関係について、現代的課題（地域社会との連携・学校の安全）として理解する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教職入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、教職の意義や教師の使命、資質及び求められる現代の教師像について講義する。具体的には、教育の成立条件（個人と社会との相互作用）、教師の使命（歴史的視点を含む）、教師の職務（服務上・身分上の義務を中心として）、教師の資質能力と性格との関係、教師の指導性研究Ⅰ（特性論）、教師の指導性研究Ⅱ（状況論と行動論）、生徒指導の内容、教育相談の内容、事例研究Ⅰ（薬物逃避・いじめと自殺・無気力と子どもたち）、学校と他の専門家との連携及び組織対応、問題行動への対応、教育の方向性について詳解する。受講生は、以下の3点を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教職の意義および教師の使命の考察 ②教師の資質能力とは何かの考察 ③生徒の問題行動に対する対応方法と事例研究による考察 <p>これらを考察し、理解を深めると共に教育現場での対応力を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習1a	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、六法全書を読みながら、法的な思考と法律学に関連する作業に実際に触れる講義を実施する。まずは、いろいろな法律の条文に触れることで、法律学の初歩を学ぶ。具体的には、六法の引き方と条文の読み方、立法論と解釈論、法律学における基礎学修の3つの観点から、適切な法律と該当する条文に到達するための手法を学ぶ。その際、ブレインストーミング方式を利用した問題の法的分析の訓練を行うことで、条文の解釈方法を修得する。</p>	
一般教育科目	自由選択科目群	教養演習1b	<p>本科目は、講義・演習科目である。</p> <p>本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点からの分析し、具体的な事案に対して、法的な観点から問題解決をするために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析するための訓練を行う。その際、六法、テキスト、判例集や論文を読み込む。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。講義では、六法の引き方、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法Ⅰ（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方、国家試験・検定試験での法律学分野の出題例とその解答等を学ぶ。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般 教育科目	自由 選択科目 群	教養演習2a	本科目は、講義・演習科目である。 本科目では、変化の激しい経済社会を法的な観点から分析し、様々な具体的事案に対して法的な観点から問題解決をするために必要なスキルを身につけるための講義を行う。本科目の受講者は、「教養演習1a」「教養演習1b」を受講した学生を対象とし、具体的な問題に対して法的な観点から分析する力を修得する。講義では、六法・テキスト・判例集や論文を読み込んだ上で質疑応答を行う。積み上げた成果を基礎に、裁判傍聴等のフィールドスタディーを実施する。	
一般 教育科目	自由 選択科目 群	教養演習2b	本科目は、講義・演習科目である。 本科目では、「法的思考力」をテーマとして、六法の引き方をはじめとして、条文の引用方法、立法論と解釈論、公法と私法、実体法と手続法（民事法分野・刑事法分野）、判例の読み方、体系書の読み方等を実践的に講義を行う。本科目の受講生は、「教養演習1a」「教養演習1b」「教養演習2a」受講した学生を対象とし、具体的な事案に対して、法的な観点から分析する力を修得する。基本的には座学の成果をフィールドスタディーで確認する。	
一般 教育科目	自由 選択科目 群	生涯学習概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、教育に関する法律・自治体行財政・施策、学校教育・家庭教育等との関連、併せて社会教育施設、専門的職員の役割、学習活動への支援等の基本について講義する。受講者は、本科目が図書館司書・博物館学芸員両課程の共通必修科目であることから、図書館や博物館が、生涯学習及び社会教育の本質と意義を具現化する社会教育施設であることを理解する。併せて、生涯学習振興、社会教育行政をめぐる経過を学ぶと共に、今日的課題について自発的に考える。最終的に、生涯にわたる個人の学びを支援する「権利としての社会教育」へ意義の深淵について理解する。	
一般 教育科目	自由 選択科目 群	未来と社会を学ぶ1	本科目は、講義科目である。 本科目では、「地域活性化」をテーマとして、経済だけでは語れない独自性をもった取組が求められている。デザインや情報戦略など含めた様々なブランド化手法による地域活性化事例と、コロナ過で大きく影響を受けた地域と各事業の最新の課題と解決に向けた展開事例の紹介などをふまえ、地域活性についての理解を深める。具体的には、①「地域活性化、地方創生」時代が求めるもの、②少子高齢化グローバル化時代の食ブランド化と地域活性化、③芸術文化と地域活性をブランド化事業、④守り育てる地域文化ブランド化・温泉や観光と世界遺産地域活性化、⑤情報発信による地域活性化、⑥博覧会とこども未来ブランド化事業、⑦未来ものづくりとデザインブランド化による地域活性化、⑧これからの地域活性化の8点の観点から全体テーマを把握する。	
一般 教育科目	自由 選択科目 群	未来と社会を学ぶ2	本科目は、講義科目である。 本科目では、地域を活性化するためのアプローチの1つとして、地域の歴史を取り上げる。大学の立地環境でもある大阪市内と南河内地域をつなぐ近鉄南大阪線沿線を動脈として、この地域史について、地域の文化財や歴史上の人物をトピックとして講義する。これによって、受講生は地域を活性化するために必要な基礎知識を修得する。特に、古代・中世初期を中心として、古代から近現代に至るこれらの地域の地域史を通史的に概観する。その際、日本国内、さらには、東アジア世界における時代背景・社会情勢を意識し、それらとの関わりの中に当該地域の地域史を位置づけて、地勢学的な理解を深める。	
キャリア 教育科目		インターンシップ講座	本科目では、「基礎キャリア演習」「発展キャリア演習」「応用キャリア演習」と科目連動させながら、実際のインターンシップを実施するための座学を行う。具体的には、 ①「インターンシップ」によって、企業が将来的な人材確保に向けてどのような志向を持っているのか。 ②「インターンシップ」での有効的な学び方と働き方とは何か。 ③「インターンシップ」での到達目標の設計の方法とはどのようなものか。 この3点を修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム1	本科目では、航空業界への興味を具体化し、情報や知識を得るための基盤形成のための講義を行う。講義ではタイムリーなエアライン情報や知識と共に、講義内容に応じて研究課題を提示する。受講者は、授業を通して獲得した情報を分析し展開する力を養い、プレゼンテーションの基礎的な力を養う。グループでの取り組みの中から、協働する姿勢を身につけ、自分への関心、周囲への関心を修得する。講義と自主研究を並行させながら、航空業界・サービスについて様々な角度から知識と視野を拡充するための講義を行う。グループでのディスカッション・まとめ・発表を繰り返すことで、情報整理力や表現力を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム2	本科目では、「キャビンアテンダントプログラム1」での修得内容を受けて、航空業界の基礎知識を実際の接客の目線や顧客の目線からスポット的に追及し、知識を修得する。特に、エアライン産業のサービスや取り組みについて理解し、そこから生み出される事柄についての理解を深める。実践的な演習から、責任感や問題意識を実感させると同時に、個々にパーソナルスキルを意識させ、将来の目標設計を行う。「キャビンアテンダントプログラム1」で学んだ基礎知識を応用させ、現場での仕事内容・おもてなしやマナーについて具体的に研究し、知識の拡充を行う。グループワークでは、協力し合う中でチームワーク力や責任感を高め、体験や実践から社会への意識や自分自身への意識が深められる学びを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム3	本科目では、航空業界についての概要及び流れを把握し、エアラインへの就職活動に向けての意識づけとプランニングへ向けて講義する。受講者は、航空会社の現状から社会を知り、立体的なものの見方を修得する。特に、機内保安と機内救命救急、航空用語と基礎知識、空港の機能と設備や地域とのつながり、空港サービスとホスピタリティを学んだ上で、空港見学を行う。それらの学びを通して、「航空会社の役割と社会貢献」について、グループ発表を実施する。本科目での授業内容を通して、エアライン受験における知識を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム4	本科目では、エアラインへの就職活動に向けて、自己の内面性や印象への意識を高め、多面的思考・発想力等についての学びのための講義を行う。特に、これまでの知識をもとに、アウトプットする機会を積極的に設け、伝える力を修得する。構成力・語彙力・表現力を向上させると共に、一方的に発するだけでなく、受ける側への印象にも意識を置き、アピール性のスキルとは何かを学ぶ。具体的には、キャビンアテンダントという職業に関わらず、社会人として求められる人物像とマナー、ビジネスマナー、立居振舞と面接マナー、第一印象の必要性について、基礎と演習を通して形だけでなく本質的に修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	キャビンアテンダントプログラム5	本科目では、エアラインでのインターンシップ対策に焦点を置き、就職試験対策としてエントリーシートの準備に必要な基礎知識、言語化力、グループワークで必要となるパフォーマンス方法について講義する。講義では、実践からの学びを通して、エアライン受験対策から一般企業対策まで網羅する土台形成を行う。受講者は、具体的なイメージと目標、実践に即した社会人基礎力の基盤を構築し、応用力を修得する。併せて、就職活動のスタートに備え、知識やスキルの確認を行うことで、「伝えるスキル」のアップデートを行う。授業では、実践的な面接シミュレーションを重ね、面接力や表現力を高めていく。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーa	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法を講義する。具体的には、組織としての仕事の進め方と考え方、OODAループとPDCAサイクル、適切な敬語を用いた文章表現、電話および来客対応、ホウ・レン・ソウの重要性について講義する。これらを修得すると共に、授業内でのロールプレイによって活用できる実践力を修得する。企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術を学ぶことで、社会人に必須となるビジネス・コミュニケーションを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	ビジネス文書マナーb	本科目では、社会人の実務における基礎知識とその方法について講義する。適切な敬語を用いた文章作成や、メール等を用いた取引先との連絡方法、イベント等の企画、ダイバーシティ、冠婚葬祭に関する一般常識について講義する。具体的には、ビジネス文書の基本とビジネス文書作成演習、ビジネス通信の基本、法的業務、設営の基本、慶弔と贈答、協働とコミュニケーション等を授業内での実践的ワークを通して学び、社会人としての業務マナーを修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	営業活動実務	本科目では、本講義では「営業とは何か」を講義すると共に、これからの「営業に必要なチカラ」を講義する。「昭和モデル」では、正解の横展開で成長することができた。しかしながら今後の「正解のない世の中」では、発想するチカラや相手を納得させるチカラが必要になってきている。その社会状況に鑑み、基本的な営業についての知識に加え、「営業のチカラ」について講義を行う。受講者は、基本的なビジネスの基礎を理解しつつ、役立つチカラを修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	応用キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」「発展キャリアデザイン」と積み上げてきたキャリアデザイン諸科目での修得内容を受けて、以下の項目をさらに修得する。 ①ESの表現力と自分自身の言語化 ②企業研究と分析 ③グループディスカッションでの会話力 ④面接での的確な自己表現とそのスキル ⑤インターンシップと一緒に働きたいと思わせる自己存在 以上の5点を中心にスキルアップと「更新力」を修得する。就職活動へ向けて、実践的なプログラムを行うことで、近未来の自分自身を作り上げるための課題を重ねていく。授業内では、受講生に発言を促すことや、質問を共有していくことで、自己発見につなげていく。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	基礎キャリアデザインa	本科目では、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の基盤を形成すると共に、ソサエティ5.0社会を生き抜くために、自分の市場価値をどのように高めていくかについての基礎を修得する。キャリア形成へ向けてのStep1となる本科目において学ぶ具体的な項目は、以下の通りとなる。 ①なぜ1年次段階から卒業後を意識して「キャリア」を考えるのか ②本学が推進する「創造力」「適応力」「予測力」「想像力」「洞察力」の5つの能力開発の実施と更新力の体得 ③近未来の社会における対応力の基盤形成 上記と併せて、1年次段階からインターンシップを意識できる学びを行う。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	基礎キャリアデザインb	本科目では、「基礎キャリアデザインa」で修得した内容を受けて、さらに自分の市場価値を高めることを目標に、キャリア形成へ向けてのStep2として、読解力・観察力・対応力・解決力といった社会で必要となるスキルを修得する。特に、ロジカルシンキングやクリティカルシンキングについて、具体的なテーマをもとに学んでいく。特に、ディスカッションを中心とし、受講者を主体とした授業を実施する。そこでは、集めた情報の共有・整理・活用力や、知識・情報のインプット・グループ内でのアウトプット等のスキルアップはかると共に、傾聴力と他者の意見の活かし方を修得する。	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	発展キャリアデザイン	本科目では、「基礎キャリアデザインa」「基礎キャリアデザインb」で修得した内容を受けて、経済産業省が提唱する「人生100年時代の『社会人基礎力』」の体得と、ソサエティ5.0社会を生き抜くために必要な視点をふまえて講義を展開する。その一つとして、外資系や外国人経営者の日本企業など、採用候補者の人種・年代・言語・性格・文化的背景が多様化する中で、企業側の採用点である「内発的動機付け・問題解決能力・不確実性への耐性」の修得を行う。さらに受講後にはインターンシップへ向けての自己設計を行う。具体的には以下の項目について学ぶ。 ①自分自身を言語化するための表現力と言語化力のさらなるupdate ②言語化することで1年後に体得するスキルの目標設定とPDCAの修得 ③社会の動向を的確に把握し今後の学びへの計画設計 ④社会人スキルに加えて社会人として求められる教養の修得	講義20時間 演習10時間
キャリア教育科目	貿易実務実践	本科目では、貿易実務の入門編として「なぜ貿易が必要か」「日本のグローバル化はどうあるべきか」について講義を行う。データベースから世界における日本の位置づけを読み解き、海外を知る楽しさについて理解を深める。具体的には、データで世界を見る、日本の強みと弱み、日本と海外の違い、世界で生きるチカラとは何か、異文化におけるコミュニケーションと英語力といった視点から講義する。受講者は、貿易についての実務を修得すると共に、貿易に必要な語学スキルを修得する。	講義20時間 演習10時間

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
キャリア教育科目	貿易実務入門	本科目では、貿易実務の実践編として「基本的な貿易の流れ」と「貿易について最低限必要な知識」について講義を行う。特に、貿易取引のパターン、契約、モノ・カネ・情報の流れ、サプライチェーン、ロジスティクス、関税、コンプライアンスについて事前課題レポートを提出してもらい、それを授業内で分析しながら、貿易実務の基礎概要を講義する。受講者は、上記の2点を学び理解した上で、自ら説明できるスキルを修得する。	講義20時間 演習10時間
学 科 科 目	学 部 導 入 科 目	国際学への招待	オムニバス方式
		本科目は、講義科目である。 本科目では、国際学部での学びを始めるにあたり「国際学」の基礎的な知識を修得し、現代的諸問題の中から抽出されるテーマと知識を拡充するための講義を行う。(オムニバス方式/全15回) (25 権瞳/2回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (22 岡本芳和/1回) 言語文化 (23 神尾登喜子/1回) 日本の文化理解 (12 Caldwell, Matthew/1回) 多文化理解 (7 中山恵利子/1回) 多文化理解 (19 井上裕司/1回) 国際政治と国際経済 (6 段家誠/1回) 国際秩序 (14 長谷川明彦/1回) 国際経済 (60 武藤麻美/1回) 各論 日本と欧米 (1 松村嘉久/1回) 各論 アジア (34 坪井兵輔/1回) 各論 ヨーロッパ (37 橋本英司/1回) 各論 ヨーロッパ (4 塩路有子/1回) 各論 ヨーロッパ (16 渡辺和之/1回) 各論 アジア	
学 科 科 目	学 科 導 入 科 目	大阪観光学	オムニバス方式
		本科目は、講義科目である。 本科目では、阪南大学が立地する「大阪」を題材に、まず大阪の地勢や自然、歴史、交通、観光政策などの基本的な理解を深めるための講義を行う。大阪の観光資源といえば、大坂城や通天閣、USJなどが思い浮かぶが、実際には多様な観光資源があり、それらを活かしたさまざまな取り組みが行われている。大阪にある多様な資源を観光学の視点から取り上げ、その価値や魅力を理解し、それらを活用する方法や可能性を学ぶ。合わせて、インバウンドやIR、万博といった昨今の大阪を取り巻く観光の話題も取り上げ、大阪の観光政策の展望についても理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (9 森重昌之/3回) 授業紹介・振り返り・言語文化 (3 和泉大樹/1回) 大阪平野に形成された中・近世都市 (11 大谷新太郎/1回) 大阪から西へ向かう船旅 (15 山口哲史/1回) 近世大坂の都市形成 (12 Matthew Caldwell/1回) Looking back and looking forward-2つの万博と大阪 (4 塩路有子/1回) 大阪と博覧会 (13 重谷陽一/1回) 大阪の航空・空港 (5 清水苗穂子/1回) 大阪の着地型観光 (14 長谷川明彦/1回) 大阪の観光政策 (8 福本賢太/1回) 大阪の集客ビジネス動向 (1 松村嘉久/1回) 上方芸能の伝統と現在 (10 鷺崎秀一/1回) 地下鉄御堂筋線の歴史から見る近代都市大阪 (16 渡辺和之/1回) 大阪の祭りとその文化	
学 科 科 目	学 科 入 門 科 目	異文化理解入門	
		本科目は、講義科目である。 本科目では、観光の現場で必要とする異文化理解の基礎的な考え方を紹介することに主眼を置いた講義を行う。外国人観光客が増加するなか、外国人に対応するスキルが観光の現場に求められている。観光客を受け入れる側(ホスト)と観光客(ゲスト)の間では、観光をめぐる考え方に相違がある。この授業では、まず、異文化と自文化と同じ部分(文化の普遍性)に注目して、相手の文化を理解する。その上で多様な考え方(文化の多様性)を尊重する方法を考える。また、遠い海の彼方の文化を知ることで、身近な社会の常識への理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	学科入門科目	国際観光学入門	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初めて観光や国際観光を学問として学ぼうとする受講生が、その後の専門的な学修につながるよう基礎となる概念や知識を修得するための講義を実施する。加えて観光現象に関する最新動向を把握するための内容や観光業界へのキャリア意識を高めるための内容も取り扱う。まず観光現象について基本的な理解の仕方を学ぶ。そして観光の歴史や諸制度、社会とのかかわりについて学び、人の営みとしての観光の本質に迫る。加えて学問としての「観光学」とは何か、その考え方とアプローチの特徴を学ぶ。</p>	
学科科目	専門基礎科目	観光経営学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、国際観光学科における「観光事業」分野への第一歩となる学びを行う。具体的には、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の役割や有効な活用法、経営学の理論概要や基礎知識を修得するための講義を行う。その上で、代表的な観光産業（旅行業、運輸業、宿泊業、観光施設）や観光地経営（DMO、DMC）の事業特性を掴み、ビジネスの仕組み、収益構造、事業内容等、観光経営学の基本的な知識と理解を修得する。</p>	
学科科目	専門基礎科目	観光経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、導入教育として、身近な事例を挙げながら、観光を経済的な視点から講義を行う。具体的には、3つの観点から観光と経済について学ぶ。</p> <p>①観光客の立場で、観光客はどのような視点で観光を計画しているのか、その際経済的な視点は考慮しているのかなどについて、学生自らの経験などを通じて考える。</p> <p>②企業の立場で考える。企業はどのような商品を提供し、いかに利益を生み出しているのかについて考える。</p> <p>③地域の立場で、地域はどのように観光客を受け入れているのか、地域に経済効果はあるのかについて、学生の地元を事例にして考える。</p>	
学科科目	専門基礎科目	観光地理学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、空間・場所・地域・分布・立地・中心地理論・空間的相互作用・バトラーの観光地ライフサイクル論など、まずは観光現象を理解するために不可欠な地理学概念を学び、空中写真・衛星画像や地図などの地理情報の収集方法を学ぶための講義を行う。加えて、地域の実態を把握し地域の課題を発見する方法として、フィールドワークを企画して実践するプロセスを学ぶ。受講生の理解を深めるため、適宜、観光地域がなぜ発生して、どのような環境のもと成長したり衰退したりするのかを、事例を通して学ぶ。</p>	
学科科目	専門基礎科目	観光歴史学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、近世に至るまで日本の中心地として数多くの文化財を残す奈良・京都・大阪・神戸などの畿内諸地域で企画することができる歴史観光のモデルコースについて講義する。講義を通じて、歴史や文化に対する造詣が新たな観光を生み出すためにいかに必要であるかを実感させ、観光事業の推進に歴史学についての知識と理解が必要不可欠であることを学ばせる。観光資源を見つけて活用するために必要な歴史学の知識を修得することや、日本の政治や文化の中心的地域である畿内の史跡を広く知ることにより、受講生は具体的かつ視覚的に歴史を学ぶ方法を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	演習科目	<p>本科目は、演習科目である。 本科目では、演習科目担当者の専門領域を把握し、国際観光学における自らの研究領域を決定する。第7回目までは各担当者が自ゼミでの学びや活動実績等を交代で講義する。(1回) 第8回以降は担当者が専門演習への導入教育を実施する。(8回) 観光学が多様なアプローチから研究される実践的な学問であることを理解し、自らが何を専攻していくのかを主体的に考える。(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 李貞順/9回) ホスピタリティ産業と演習内容の説明およびゼミの実施 (3 和泉大樹/9回) 文化財論と演習内容の説明およびゼミの実施 (11 大谷新太郎/9回) 観光マーケティングと演習内容の説明およびゼミの実施 (4 塩路有子/9回) 観光人類学と演習内容の説明およびゼミの実施 (13 重谷陽一/9回) 航空産業と演習の内容の説明およびゼミの実施 (5 清水苗穂子/9回) 着地型観光と演習内容の説明およびゼミの実施 (6 段家誠/9回) 国際協力と演習内容の説明およびゼミの実施 (14 長谷川明彦/9回) 観光政策と演習内容の説明およびゼミの実施 (8 福本賢太/9回) 観光経営学と演習内容の説明およびゼミの実施 (1 松村嘉久/9回) 観光地理学と演習内容の説明およびゼミの実施 (9 森重昌之/9回) 観光資源と演習内容の説明およびゼミの実施 (15 山口哲史/9回) 観光歴史学と演習の内容の説明およびゼミの実施 (10 鷲崎秀一/9回) 日本文学と演習内容の説明およびゼミの実施 (16 渡辺和之/9回) 異文化理解と演習内容の説明およびゼミの実施</p>	オムニバス方式
学科科目	演習科目	<p>本科目は、演習科目である。 本科目では、それぞれの担当教員の専門研究分野について学ぶため、大学やゼミで学修および研究する際に必要とされる基礎知識や基本的なスキルを修得する。具体的には、研究課題を発見する方法やさまざまな資料を検索・収集・整理する方法、文献の輪読、フィールドワークの実施方法やそのための事前準備、プレゼンテーション資料の作成方法、口頭発表や質疑応答の作法や方法など、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、3年次以降の専門演習での学びへとつなげていく。</p>	
学科科目	演習科目	<p>本科目は、演習科目である。 本科目では、「基礎演習」で修得した基礎知識や基本的なスキルをベースに、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより深く、実践的に学ぶ。具体的には、フィールドワークの調査対象となる地域や企業を設定し、現地視察や聞き取り調査、質問票調査などの実践的な調査を行うほか、調査で得た成果を取りまとめて発表するなど、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、4年次で卒業研究に取り組むための基礎的能力を修得する。</p>	
学科科目	演習科目	<p>本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習1a」に引き続き、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより深く、実践的に学ぶ。具体的には、フィールドワークの調査対象となる地域や企業を設定し、現地視察や聞き取り調査、質問票調査などの実践的な調査を行うほか、調査で得た成果を取りまとめて、グループや個人単位で発表するなど、専門研究分野に応じた学びを展開する。これらを通して、4年次における卒業研究に取り組むための基礎的能力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	演習科目	専門演習 2 a	本科目は、演習科目である。 本科目では、「基礎演習」や「専門演習 1 a・b」で修得した知識や経験を応用して、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより専門的に学ぶ。まず学生個人が関心を持つ研究テーマを設定し、背景や目的の設定から先行研究の整理、現状分析、課題抽出、文献・資料調査やフィールドワークを含む現地調査、先進事例調査、調査結果の分析、考察および課題解決に向けた提案、結論に至る一連の研究作業を、学生自身の力で行う能力を身につける。これを通して、論理的思考や社会人基礎力などを養い、社会で生きていくために必要な能力を修得する。	
学科科目	演習科目	専門演習 2 b	本科目は、演習科目である。 本科目では、「専門演習 2 a」に引き続き、それぞれの担当教員の専門研究分野についてより専門的に学ぶ。まず学生個人が関心を持つ研究テーマを設定し、背景や目的の設定から先行研究の整理、現状分析、課題抽出、文献・資料調査やフィールドワークを含む現地調査、先進事例調査、調査結果の分析、考察および課題解決に向けた提案、結論に至る一連の研究作業を、学生自身の力で行う能力を身につける。これを通して、論理的思考や社会人基礎力などを養い、社会で生きていくために必要な能力を修得する。	
学科科目	演習科目	卒業研究	本科目は、演習科目である。 本科目では、国際観光学科における「観光文化」・「観光計画」・「観光事業」の3分野を基軸とする総合的な学びと、所属ゼミにおける専門的な学びの成果をふまえた研究活動が行われ、それらが卒業論文もしくは卒業制作としてとりまとめる。これまで学んできたことをふり返し、身につけた専門性を生かしかつ関心を持って取り組むことのできる研究課題を、研究計画を立てたうえで、指導教員の助言を受けながら、卒業論文もしくは卒業制作という形で結実させる。	
学科科目	演習科目	大学入門ゼミ a	本科目は、演習科目である。 本科目では以下の4点に重点を置く。 ①カリキュラム体系、情報収集・検索方法、発表技法など、履修や学修にあたり必要となる基本的なスタディスキルを身につける。 ②教員と学生および学生間の密度の高いコミュニケーションを可能とするソーシャルスキルを修得する。 ③観光を題材とするフィールドワークに取り組むことにより、観光現象や観光学への関心を高め、今後の学びに対する意欲を高める。 ④国際観光学科での学びを理解し、専門科目・ゼミなど2年次以降の学びや今後のキャリアデザインにつなげていく。	
学科科目	演習科目	大学入門ゼミ b	本科目は、演習科目である。 本科目では、「大学入門ゼミ a」の内容をふまえて、国際観光学に対する現場感覚と学修意欲を高めるため、受講生が関心を持ちやすいテーマを各教員の専門領域に応じて設定し、授業を展開する。具体的には、次の①から④のスキルを修得する。 ①フィールドワーク（フィールドワーク力・調査力・分析力） ②ディスカッション（グループワーク力） ③プレゼンテーション（発表スキル） ④レポート作成（客観的論理展開力・引用の仕方など）	
学科科目	専門基幹科目	観光マーケティング論	本科目は、講義科目である。 本科目では、初めてマーケティングを学ぶ学生を受講生とし、マーケティングやサービスマーケティング、観光マーケティングの基礎理論・知識を学び体系的に理解する。授業全体を通して観光に関わる企業や組織、あるいは地域がどのようにして“お客様に選ばれるための努力”をしているのか、あるいは努力すべきなのかについて講義する。前半では観光マーケティングの基礎理論・知識を中心に授業を展開する。後半ではグループワークを通して観光産業、観光地のマーケティングについて事例とともに理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門基幹科目	観光開発論	本科目は、講義科目である。 本科目では、世界銀行の開発プロジェクト調査や、経験および知識をもとに開発途上国と先進国の政治・経済・社会問題について講義する。前半では開発途上国や欧米、日本における観光リスクについて、とくに環境と開発、地震、津波、火山噴火、ハリケーンやサイクロン、台風などの自然災害の影響、テロ問題と対策、デモ活動、新型感染症と新型コロナウイルス問題等について講義する。後半では台頭する中国を念頭に、チャイナ・リスク、米中新冷戦、香港の民主化問題、台湾の発展過程と中台問題について詳解する。	
学科科目	専門基幹科目	観光計画論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光計画を考える上で基礎となる地域や地域社会、地域住民、地域外の人びと、まちづくりなどの用語を整理するとともに、観光の本質的な特性を修得する。そして、まちづくりと観光それぞれがどのように変化し、観光まちづくりへと展開してきたか、またその過程で地域内外の多様な人びとがまちづくりにどのようにかかわっているかなど、観光まちづくりの現状と課題を整理する。その上で、地域社会の再生に向けて観光まちづくりをどのように進めていくかについて、具体的な事例を交えながら、そのしくみや実践方法を学ぶ。	
学科科目	専門基幹科目	観光資源論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光や資源の定義を踏まえた上で、観光資源の定義や分類、観光施設について講義する。観光資源を含めた観光対象は、観光地や観光商品を構成する際に不可欠な要素であるが、同時に観光資源は地域の魅力を再生したり、創造したりするなど、地域社会の生活や文化にとっても欠かせない。観光資源の基本的な特性を理解し、それらを保全しながら利用する、観光資源の持続可能なマネジメントの考え方や具体的な方法を修得する。さらに、観光資源のマネジメントやそのしくみが地域づくりにつながることを学ぶ。	
学科科目	専門基幹科目	観光事業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光・集客事業を担う観光事業者について、観光事業共通の特性を踏まえ、それぞれの事業の役割、機能、集客への取り組み等について講義する。具体的には、まず観光・集客のもたらす様々な効果を知るところから始まり、観光を構成する要素や仕組みを大枠で捉える。そして、個別の産業である旅行業、宿泊業、交通運輸業、テーマパーク等の施設等について個別にその特徴や課題について学んで行く。また観光事業に大きな影響を与えると考えられる国の役割（観光政策の実施）、地域の観光振興を担う自治体等の役割についても理解を深める。	
学科科目	専門基幹科目	観光人類学	本科目は、講義科目である。 本科目では、20世紀後半以降、地球規模での人の移動が、マストツーリズムとともに世界各地で経済効果というプラスの影響と、自然環境の破壊や汚染、犯罪や売春の増加、貧富の差の拡大、病気の流行、伝統文化の変容などのマイナスの影響を及ぼしたことを含め、観光現象を人類学的にとらえた視点から講義する。具体的には、国際観光の歴史と意味、観光の型と観光行動、ホスト社会の文化、ホストとゲストの関係、観光開発、観光イメージの形成、観光が作り出す文化について、世界の多様な事例を取り上げて学ぶ。	
学科科目	専門基幹科目	観光政策論	本科目は、講義科目である。 本科目では、長引く経済不況、少子高齢化など厳しい環境にあるわが国にとって、観光は成長が期待される領域であることをふまえ、国や地域が観光を通じて暮らしを豊かにし、経済振興を成すためには、どのような政策を講じていくべきかについて講義する。授業は、将来の観光政策人材の育成を目標に、観光データの見方や統計学の基礎、観光政策を立案する力を醸成すべく以下の3部構成で授業を進める。 第1部：地域資源の観光価値と休暇制度 第2部：統計基礎、データを可視化する方法の学修 第3部：ITや投資・防災等多角的な観点から観光を捉え思考力の養成	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門基幹科目	比較文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、モンスーンアジア（夏に梅雨が降るヒマラヤの東部から東南アジアや東アジアを経て日本に至る地域）の衣食住を比較しながら、似たような風土のもとで、日本人とは微妙に違う文化を作った人たちの文化や歴史について講義する。具体的には、発酵食品、織物、茅葺き屋根などについて紹介し、伝統文化がいかに現代にまで残っているのか、その歴史的变化を検討する。この授業では、風土の恵みを生かした先人の技術を理解し、観光地の文化を調べる手法を学ぶ。また、文化は不変ではなく、そのなかみは時代とともに変化してゆくことを理解する。さらに、隣人の文化を知ること、日本の文化について理解を深める。	
学科科目	専門基幹科目	旅の文化史	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本人の旅とそれに関わる様々な歴史的文化的遺物を史的に展望する。日本各地そして各時代における旅文化の成立過程を理解し、今後の観光文化の探求へとつなげることを目標とする。まずは現代の旅に関する基礎知識の確認と文化的事象の整理をし、ついで大きな街道の成立を古代から時代順に追う。近現代についてはモータリゼーションやグローバリズムとの関連も視野に、今日に通じる旅文化の代表的事例を解説する。後半は旅の目的として欠かせない寺社の変遷や種類について学ぶ。	
学科科目	専門発展科目	アーバンツーリズム論	本科目は、講義科目である。 本科目では、都市観光について講義する。戦後の経済発展は、都市部に企業や人々を呼び込み、その受け皿となる都市整備が行政に求められてきた。地価の高騰や慢性的な交通渋滞など都市特有の負の諸問題を抱えつつも、次第に都市の内部に様々なネットワークが構築され、都市自体が文化の発信拠点としての魅力を高めていく。今や観光は都市にとって主要産業であり、如何に都市の魅力を内外に発信し、関係人口を増やせるかは、行政の重要課題となっている。これらの事柄をふまえて、都市のブランド創造とその課題等について学び、都市観光の可能性について理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	アジアの地域と観光	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国・韓国・スリランカにおける仏教・都城・対外関係に着目し、それらと深く関わる歴史遺産をおおむね国別、時代順に紹介しながら、その歴史的背景、文化的意義について講義する。授業の中心となるのは、東アジア・南アジアを中心とした広域的なアジア史の通史である。本授業を通じて、中国史・朝鮮史・スリランカ史を一体化させた広域的なアジア史を学ぶことで、高等学校世界史のうち、アジア分野に関わるあらゆるテーマに対応できるよう、各回の個別テーマを設定し、多角的な視点から東アジア・南アジア世界の歴史を考察する。併せて、日本やヨーロッパも含めた世界史の中のアジア史を展望し、歴史学の立場から中国・韓国・スリランカ観光に有用な情報への理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	アフリカの地域と観光	本科目は、講義科目である。 本科目では、これらの国々の観光地や文化などを題材としながら、アフリカについて学び、文化資源を多面的に活用する方法を考えるための講義を行う。各国の世界遺産、ダンス、音楽、自然、宗教などの観光資源を取り上げ、アフリカの歴史や社会状況との関連を考察することをとおして、今日のアフリカに対する理解を深める。特に講義担当者が調査研究を実施してきた、西アフリカのガーナとナイジェリア、東アフリカのエチオピア、タンザニア、ケニアを対象フィールドとする。講義では、観光をとおしてアフリカについて学ぶことを目標とし、アフリカの生活・文化・近年の変化などにかんする基礎知識を身につけた上で、アフリカへの理解を深め、そこから何を学ぶのかを考える。	
学科科目	専門発展科目	アメリカの地域と観光	本科目は、講義科目である。 本科目では、アメリカの観光に関する教科書を用いて、国際観光学の一環としてアメリカの地域と観光について講義を行う。毎回の授業では広大なアメリカを地域ごとに分け、それぞれの地域的特色や観光などについて学んでいきます。授業では担当講師の実体験に基づくアメリカ紀行の話や交えながら、受講生と共に新たなアメリカの地域像や、アメリカにおけるツーリズムビジネスや旅行業務、アメリカの観光学について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門発展科目	エコツーリズム論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、エコツーリズムを理解するために、以下4点を体系的に講義を行う。</p> <p>①地球の環境問題 ②観光(ツーリズム)の発達 ③自然観光資源の保全と利用 ④地域における観光マネジメント</p> <p>講義ではこれら4つの分野を体系的に学び、エコツーリズムの基本概念を理解した上で、国内外の事例を提示し、エコツーリズムの計画、マーケティング、実践、マネジメント、評価、顧客管理などに関して総合的に学ぶことを目的とする。また知識の修得だけでなく、学生が地域を選択し、その地域でのエコツーリズム実践プランを作ることも目標とする。</p>	
学科科目	専門発展科目	オセアニアの地域と観光	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多民族で多文化なオセアニア社会について講義する。授業内容は、以下に掲げる3点から学ぶ。</p> <p>①オセアニア地域の基本事項(自然・文化・歴史・政治・経済など)を把握し、地域の特性について。 ②オセアニアの歴史的な歩みと現状を把握し、グローバルな視点から世界との関わりについて。 ③オセアニアにある文化資源に注目し、それらの歴史的・文化的意味を理解したうえで、観光資源としての活用法について。</p> <p>これらを学ぶことで、オセアニアの地域の魅力への理解を深める。</p>	
学科科目	専門発展科目	グローバル・イシュー	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、マスメディア、特に新聞、放送報道に焦点をあて、国境を越えたグローバルな課題を考察し、その成立過程を理解することで今後の展開、対応について講義する。グローバリゼーションの広がりによって人、モノ、金、サービス、情報が国境を越えて行き交う一方で、温暖化や人口問題、資源をめぐる紛争は人類的課題となっている。それらについての国内外の報道を手掛かりに具体的事例を取りあげ、原因を歴史的に分析し解説することで解決に向けた取り組みへの理解と学びを修得する。</p>	
学科科目	専門発展科目	グローバル・ガバナンス論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、一国のみでは解決できないグローバルな広がりを持った諸問題をいかに多国間の協力によって解決し、ガバナンスを成立させていくのかという問題を講義する。現代国際社会において、一国のみでは解決できない問題は、安全保障、経済、環境、人権、移民・難民など、さまざまな分野で見つけることができる。それらの問題は、一国のみでは解決できない以上、多国間の協力によって解決するしかない。授業では、その多国間協力を実現するにはどのような条件が必要で、それがどれほど難しいことなのかについて考察する。その際、国家だけではなく、国連などの国際機関やNGOなどの多様なアクターの果たす役割についても学ぶ。</p>	
学科科目	専門発展科目	コミュニティツーリズム論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、観光客が地域コミュニティの人たちとふれあい、相互交流することで成立するコミュニティツーリズム(Community Tourism)の背景、本質、意義について講義する。日本や世界で行われている様々なコミュニティツーリズムの事例、長崎さるく博、大阪あそ歩、大阪旅めがね、外国人向けまち歩きツアーや地誌学的まち歩きツアーなどの実践事例を紹介する。また、受講生たちはコミュニティツーリズムに参加して、その企画、造成、実践の方法を学び修得する。</p>	
学科科目	専門発展科目	プロジェクト型国際実習a	<p>本科目は、実習科目である。</p> <p>まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、海外の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめていく。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門発展科目	プロジェクト型国際実習b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国際実習aで実施した資料・文献調査、海外の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。	
学科科目	専門発展科目	プロジェクト型国内実習a	本科目は、実習科目である。 まず資料・文献調査およびフィールドワークの手法を修得する。その上で、資料・文献調査を通して、国内の調査対象地域の現状や課題を把握するとともに、国際学の視点から問題解決の可能性を検討した上で、現地実習で調査すべき事項をまとめた実習計画書を作成する。そして、現地で視察や聞き取り調査などの実習を行う。その後、調査結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。これらを通して、地域社会や企業の問題解決の方策を立案する。	
学科科目	専門発展科目	プロジェクト型国内実習b	本科目は、実習科目である。 プロジェクト型国内実習aで実施した資料・文献調査、国内の調査対象地域の現状や課題の把握、国際学の視点から見た問題解決の可能性の検討、そして現地での視察や聞き取り調査などの実習に引き続き、現地調査の結果を取りまとめ、国際学の視点から問題解決に向けた提案をまとめる。さらに、学外での学会大会などで成果発表を行うことを通して、地域社会や企業の問題解決に向けたプレゼンテーション力を修得する。	
学科科目	専門発展科目	ホスピタリティ産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本のホスピタリティ産業の現状や課題を確認した上で、ホスピタリティ産業の経営の特性を顧客満足と従業員満足に焦点をあてて考察し、経営上の課題を解決するための基礎知識を身につける。具体的には商品としてのホスピタリティの概念や顧客満足についての正確な理解を深め、とりわけ、観光企業では、どのようにホスピタリティを実践すればいいのか、そのために人材をどのように確保・育成すればいいのか、などについて検討する。また、優れた顧客満足活動を実践している観光企業についても考察し、ホスピタリティ経営についての学問的な理論が実践にどのように役に立つのかを学ぶ。	
学科科目	専門発展科目	ヨーロッパの地域と観光	本科目は講義科目である。 本科目では、以下の項目について講義する。英国で19世紀末以降「歴史」や「伝統」に関するものが観光資源として注目されてきた経過や、博物館や美術館だけでなく、文化遺産や田園風景、産業革命の工場跡なども観光の対象になっていることをふまえ、貴族に流行したグランド・ツアー、近代観光の先駆者トーマス・クック、現在の英国観光で重視されているカントリーサイドと文化遺産としてナショナル・トラストとコッツウォルズ地域を取り上げる。併せて、英国観光の歴史と現代の諸相を学ぶことで西欧文化に対する理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	レジャー文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、人がレジャー・遊びに惹かれるのは何故なのかといった疑問について多面的に講義する。労働のグローバリゼーションがあれば、余暇のグローバリゼーションもあり、この点で、観光もグローバリゼーションの大きな部分を担っている。観光も含めた人々の余暇(レジャー)生活の現状を把握し、新たな自由時間活動の可能性を探ると同時に、レジャー・遊びの本質を理解することによって、人が人らしく生き、豊かさが実感できる社会を実現するためにレジャー・遊びを活用する方法への理解を深め、知識修得する。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門発展科目	移動の社会学	本科目では、人々が移動することを念頭に置いた社会学の分野で議論されてきた古典的なテキスト（ジョン・アーリ『モビリティーズ：移動の社会学』など）を用い、調査研究を踏まえて講義する。受講生は、教員が紹介する古典的なテキストの概要を理解し、自分自身で原典を読み、内容を理解した上で自分なりの考えを説明する批判精神を身につける。そして移動や行動にかかわる社会学およびその周辺領域で重要とされてきた諸テーマについて自分なりの説明ができるようになる。	講義20時間 演習10時間
学科科目	専門発展科目	観光とホスピタリティの心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では以下3点を重点的に講義する。 ①なぜ人は観光をするのか。 ②どのような観光商品を購入したいと考えるのか。 ③観光をしている時の人の心理状態はどのようなものか。 観光という社会的かつ消費的な行動、また観光者のさまざまな観光行動について、社会心理学を基本にして社会学なども援用しつつ、心理学の視点から「観光」にアプローチする。この授業を通して、心理学が社会の事象や個人の行動をいかにして分類したり測定したり理論化したりするかを具体的に学ぶことができる。観光についての概念、簡単な歴史や分類、これらを概観した後、旅行者の観光地の選択プロセスや選択要因の分析、観光に対する満足度の分析などを解説する。	
学科科目	専門発展科目	観光と芸術	本科目は、講義科目である。 本科目では、主としてアジアの芸術作品を対象としながら、歴史的、文化的背景について講義する。具体的には、アジアの美術史を知ること、芸術作品の生まれた文化的背景を歴史的に学ぶ。また、芸術作品はなぜ観光を促進するのかを理解することで、芸術作品を対象とした観光や町づくりの問題点と可能性について考える。受講生には、芸術作品を通じて、隣人の歴史や文化を知るための糸口として欲しい。また、すぐれた芸術作品は人々を美の世界に誘う力を持つ。それを観光の分野でどのように利用したらよいかへの理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	観光と宗教	本科目は、講義科目である。 本科目では、各地に存在する巡礼文化について学ぶことで、観光学を志す者として知っておくべき教養を深め、同時に世界の見方や考え方を身に付けるための講義を行う。まずは日本国内で行われている巡礼文化、ついで世界三大宗教にて行われる巡礼文化についての基礎的な知識の修得を目指し、比較文化的な観点からの考察を試みる。また、文学作品や映画作品にて巡礼がどのように表象され、位置付けられているか、またそこから窺える各地の文化や精神性などについても学ぶ。	
学科科目	専門発展科目	観光会計論	本科目は、講義科目である。 本科目では、企業の事業運営・事業活動の現場では、経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の一つである「カネ」に関する実学的な知識と理解を深めるための講義を行う。具体的には、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）や決算書・経営分析指標に関する基礎知識を学ぶ。併せて、会計学の見地から観光関連企業を考察・分析・評価、又その事業特性や課題を探知できる素養を身につけることを到達目標とする。本授業内容を通して、『ビジネス会計検定試験3級』レベルの知識を修得する。	
学科科目	専門発展科目	観光企業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、旅行業に関わる関連企業等の経営・営業戦略について講義する。観光関連企業の実務内容について学修し、「観光企業の仕事」の実際について修得する。具体的には、旅行業の現況と経営戦略、添乗業務、会員リゾートホテル、地域へのインバウンド誘致、テーマパークのマーケティング戦略、航空会社の営業戦略とグランドスタッフ、観光協会の業務、DMOの役割と業務、JRの観光開発、土産物開発、都市観光と地域活性化、日本の旅館文化等の視点からそれぞれの業務について理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門発展科目	観光交通論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光と交通の関係を理解し、交通の歴史や特徴を概観した上で、現在の観光における観光交通の現状と将来へ向けての課題を学ぶ。観光交通の概念、観光施設や観光地と交通の関わり、観光交通産業の種類、特徴、ビジネスモデルとその現状、サービスのあり方なども含めたマーケティングなどについて学ぶ。合わせて、インバウンド観光における観光交通、シェアリング・エコノミーと観光交通、観光地の二次交通、観光車両の乗り入れ規制、MaaSなどの地域社会と観光交通の課題について、さらにヨーロッパのLRTや自転車を利用したまちづくり、航空会社のカーボンオフセットなど観光交通と環境問題についても学ぶ。	
学科科目	専門発展科目	観光資源解説方法論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光資源を探索するの調査方法、ツアーを企画する手順、観光客を案内する心得や話術を修得させることを目標とするための講義を行う。観光学の実証的研究を進める上で、観光案内を行なう知識や技術を修得させる意義は大きい。ガイドは文化観光を成立させる観光資源を探ることから始め、ツアーを構成し、客を案内するに至るまでの一連の作業を行う職種である。講義ではその姿勢と方法を解説する。受講生は自ら観光調査を行なえる基礎知識と方法、ツアーを造成できる発想力と構成力、解説資料を作成する作文力と図面作成能力、人をひきつける話術などを修得する。	
学科科目	専門発展科目	観光情報論	本科目は、講義科目である。 本科目では、観光現象と情報及び情報通信技術(ICT)をめぐる諸問題をテーマとして扱い、現代の観光現象において情報が持つ意味を、観光者、観光に関わる企業、観光者を迎え入れる地域の視点から講義する。特に観光者の情報収集による問題解決や、サプライヤーが提供するサービスを利用する権利の流通に焦点を当てる。また、ICTが現代観光にもたらしている変化を整理するとともに、観光に関わる企業・地域におけるICTの利用・活用のあり方について主にマーケティングの観点から理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	観光調査法	本科目は、講義科目である。 本科目では、調査法を学ぶことの意義、社会調査の歴史をはじめとして、観光調査の基礎的な知識と技法の修得を目標とする講義を行う。講義前半は、調査対象からデータを集め、その性質を統計学的に探る量的調査方法を学ぶ。講義後半は、数量のみで捉えきれない情報を収集し、その性質を探る質的調査方法を学ぶ。観光研究ではフィールドワークを行う機会も多く、受講生は、講義を通して質的調査のイメージを掴み、量的調査との違いを修得する。	
学科科目	専門発展科目	観光民俗学	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本各地の風俗慣習及びこれに伴う生活用具等の推移から各地の生活の変化を考察し、観光行事と化している民俗行事についての知識を深めることを目標とする講義を行う。全国各地には私たちの知っている風習もあれば知らないものもある。ある地域では正式なものだが別の地域では逆の場合もあるし、また変化の推移が全く異なる場合もある。まずは今日の生活に連なるものとして関心をもち、その上で、過去の日本人の生活に触れる喜びを味わい、暮らしと結び付いた観光の在り方の可能性への理解を深める。	
学科科目	専門発展科目	現代アメリカ文化論	本科目は、講義科目である。 本科目では、歴史的知識を踏まえて、アメリカを基軸として、世界に広がる英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化を理解することを目的とした講義を行う。発表やグループ討議を行うことで、実際に英語を使い、将来英語を教える際に、単なる語学としての英語ではなく、文化の中で使われている生きた英語を教えることが出来るような知識の修得を目指す。併せて、英語圏であり、英語教育という点からも日本にとって身近な国であるアメリカの歴史や社会状況についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	航空産業論	本科目は、講義科目である。 本科目では、エアライン業界について全般的に学ぶ。航空業界の歴史を通じてその役割と変遷を理解する事により航空産業の現状と将来の展望を理解する事が出来る。また、新しい経営形態であるLCCの出現や自動化の進む航空産業の将来を検証する。航空産業の歴史の学修によりその特性を学び、航空産業が果たした役割を理解し、新たな時代に突入した航空業界の課題および問題点を検証する。さらに、これからの航空産業の役割を理解する。
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	国際観光学特別講義 1	本科目は、講義科目である。 本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピックス的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。 ①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	国際観光学特別講義 2	本科目は、講義科目である。 本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピックス的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。 ①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	国際観光学特別講義 3	本科目は、講義科目である。 本学科における以下に掲げる学びの3領域をベースに体系的な学びを構築する上で、これら各領域の専門性をさらに高めることを目的とし、トピックス的、時事的課題などが顕著に意識されたテーマをもとに講義が展開される。 ①文化の多様性や異文化を通じた自文化の理解を深める「観光文化」 ②地域資源を活かして魅力向上や地域再生を考える「観光計画」 ③観光を産業的・経済的に捉えて多様な問題解決をめざす「観光事業」
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	国際協力論	本科目は、講義科目である。 本科目では、今日の世界が抱える、経済・財政・金融・貿易問題、南北問題、環境と開発・貧困・難民問題等、様々な課題と、これらの諸問題解決への試みがどのような枠組みで行われているか、それらに関連して生じる問題について明らかにすることを目的として講義を行う。講義で扱う、政府開発援助（ODA）問題、世界銀行の組織と事例、国際通貨基金、構造調整融資の問題、中国の「一帯一路」と「債務のワナ」、米中新冷戦、ダム開発の社会と環境への影響、アメリカの食糧援助、緑の革命の功罪、世界銀行のインスペクション・パネル制度等への理解を深める。
学 科 科 目	専 門 発 展 科 目	国際平和論	本科目は、講義科目である。 本科目では、第2次世界大戦以後の戦争や紛争について、その状況や原因および背景などについてテーマや事例をもとに講義する。日本を取り巻く国際社会では、戦争や紛争、テロ等が多発している。具体的には、世界軍事情勢、9.11事件、アフガニスタン戦争とイラク戦争、アルカイダとイスラム国によるテロ事件、民間軍事会社、国連平和維持活動（PKO）、ルワンダ虐殺、アフリカ紛争ダイヤモンド、少年兵、ナチス第三帝国興亡、本土大空襲、沖縄戦、太平洋戦争、中東問題、米中新冷戦、台湾海峡危機等についての理解を深める。

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門 発展科目	集客産業施設運営論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、テーマパーク事業者を中心に集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する現況を集客ビジネスの視点から講義を行う。具体的には、集客産業施設運営事業者が独自に有する事業特性（装置産業、労働集約型産業等）を踏まえ、継続的な設備投資・人材マネジメント等の諸課題への対応がいかに重要であり、そこにはいかなる戦略性があるのかを学ぶ。『日米のテーマパーク事業者』を中心に、集客産業施設運営事業者の経営戦略・事業運営に関する基本的な知識を修得する。</p>	
学科科目	専門 発展科目	宿泊産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、宿泊ビジネスの事業経営について、施設・設備に多額の投資を必要とする資本集約型産業であると同時に人的サービスの提供を中心とする労働集約型産業でもあることを学ぶと共に、このような産業特性を持った宿泊ビジネスの特徴や経営に関する基本的な知識、仕組みなど、宿泊ビジネスの全体像について理解を深める。また、今日的テーマとして、成熟した旅行市場における宿泊ビジネスの抱える諸課題の解決や顧客志向経営について、サービスマネジメントやマーケティングの視点から考察し、その知識を身に付ける。</p>	
学科科目	専門 発展科目	食文化論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人が生きるための生活の基本である食について講義する。食生活は、人が属する地域や社会、民族の特徴が表れるため、世界のさまざまな食の文化を取り上げ、その多様性と差異を知ること、食を通じた異文化理解を深める。同時に、我々自身の食文化をより広い視野で見つめなおし国際理解を深めることが目的である。具体的には、生活の基礎となる食料を人々がいかに獲得し、保存し加工するのか、そしていかに食べるのかを身近な食物を取り上げながら理解を深める。</p>	
学科科目	専門 発展科目	世界遺産論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界共通の文化遺産の価値を見出し、評価するための広く深い知識を修得させることを目標とする講義を行う。世界文化遺産条約の成立に至るまでの経緯やその後の運用・課題についての概説を行なったあと、ヨーロッパと日本の世界文化遺産を紹介しながら、世界遺産登録水準をもつ文化的価値を解説する。併せて、文化遺産を理解するための基礎的な知識を修得させる。受講生はオリエント・ギリシャ・ローマ・ヨーロッパの古代遺跡、中世の教会や城郭などについての知識、日本の寺院・城郭・都市景観・神社などについての知識を修得する。</p>	
学科科目	専門 発展科目	多文化社会論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、いかに多文化共生社会を作り上げていくのか、その条件について講義する。この授業で注目するのは、社会的対立の背景にあるのが、本来は経済的格差であるのに文化的差異だけが強調されてしまうような場合である。単に異文化の理解が進めば多文化共生が成立するわけではなく、政治・経済制度などさまざまな条件が必要であることを示していく。ひとつの社会に多様な文化が存在するときに発生する文化的葛藤は、ヘイトクライム、ヘイトスピーチ、レイシズム、場合によっては内戦などの問題を引き起こすことがある。それら乗り越え、多様な文化が共生する社会を構築するためには、単なる異文化理解だけでは不十分であることへの理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	専門 発展科目	地域データ分析	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、演習を通じて分析力を身につけることを目標とする講義を行う。長引く景気低迷により、国、地方自治体ともに厳しい財政運営を強いられる状況が続いている。地域が活気を保ち、持続的発展を成すには、有形無形の多様な資源を活用し、地域にキャッシュフローをもたらす地域経営の取り組みが必要とされている。今、行政の現場では、地域社会環境を的確に分析し、政策を考えることのできる人材を求めている。これらの課題に応えるために以下に掲げる構成で授業を実施する。</p> <p>第1部：データの分析・活用方法を学修 第2部：統計地図の作成演習を実施</p>	
学科科目	専門 発展科目	文化財論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「我々にとって文化財とは何か」を基本テーマとして、文化財の種類や特徴など、文化財に対する基礎的な知識を修得するとともに、その保護の仕組みや活用についての理解を深めることを到達目標とする講義を行う。講義では以下の5点について具体的な事例をあげながら授業を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①文化財の種類とその特徴 ②文化財保護の仕組み（文化財行政） ③教育資源としての文化財 ④地域づくりと文化財 ⑤観光資源としての文化財 <p>さらに「観光資源」として文化財の活用がなされている事例を積極的に取り上げるほか、当該授業では現代美術もその範疇で理解し、各地で見られるアートによる地域づくりや観光振興などについても学ぶ。</p>	
学科科目	専門 発展科目	民間協力（NGO/NPO）論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、開発途上国と先進国で活躍する非政府組織(Non-Governmental Organization, NGO)と、非営利組織(Non-Profit Organization, NPO)について、その種類、目的、特徴、設立過程等をいくつかの団体を例にして講義する。またその団体が活動する国の政治、経済、社会状況も併せて講義する。受講生は、講義で取り上げる主なNGO団体（国境なき医師団、ベシワール会、グリーンピース、グラミンバンク、アドボカシーNGO）への理解を深める。主な活動現場である、パングラデシュ、インドネシア、インド、アメリカ、フランス、日本、台湾、パキスタン、アフガニスタン、アフリカ諸国等の現状を学ぶことで、知識を修得する。</p>	
学科科目	専門 発展科目	旅行ビジネス論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、多岐にわたる旅行ビジネスの事業領域について講義する。具体的には、旅行業ビジネスを中心に、旅に関わるビジネス（宿泊・交通・娯楽・土産物・金融）の他、福利厚生代行事業・地域交流事業等である。旅行ビジネスの中核を成す旅行業ビジネス、その仕組みやビジネスモデルの変容を時系列に分析し学ぶと共に、宿泊施設・交通機関他、旅行業ビジネスの素材を提供する事業者についても、その関わりのなかで理解を深める。旅行ビジネスの本質に迫り、旅行ビジネスに関する基本的な知識の修得を行う。</p>	
学科科目	国際 教養科目	アジアの美術	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、絵画・彫刻とも、まずは基礎知識と資料の見方を学び、それぞれの資料を全体だけではなく、細部に至るまで詳細に観察し、その特徴をできるだけ自分自身で把握するための講義を行う。その上で時代ごとに中国・朝鮮半島からの文化の伝播を考えながら、様式の変化を捉えるとともに、各資料が造られた時代及び思想史的背景を考察してゆく。なお、本科目では、絵画では、玉虫厨子・法隆寺金堂壁画（飛鳥時代・白鳳時代）、涅槃図・阿弥陀来迎図（平安・鎌倉時代）、曾我蕭白と伊藤若冲らの作品（江戸時代）を、仏像では、法隆寺金堂釈迦三尊像（飛鳥時代）、橘夫人念持仏など（白鳳時代）、薬師寺薬師三尊像と興福寺八部衆像（奈良時代）、神護寺薬師如来立像・新薬師寺薬師如来坐像・平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像（平安時代）、運慶・快慶の仏像（鎌倉時代）などを取り上げる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	国際教養科目	マクロ経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、理論モデルや経済統計データを用いて、経済活動水準、物価水準、失業率など一国の経済全体の状態を表す変数の動きの分析する。講義のテーマは、こうしたマクロ経済学の標準的な理論を理解し、関連する経済データの読み方を修得することである。授業前半で、財市場と貨幣市場を中心に一国経済全体の動きの仕組みと伝統的なマクロ経済モデルを学び、後半で開放経済モデルを重点的に学ぶ。授業の具体的な到達目標は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① マクロ経済データを考察できるようになる ② IS/LMモデルとその意味を理解できるようになる ③ 為替レートの決め方を理解できるようになる ④ IS/LMモデルからマンデルフレミングモデルを導きその意味を理解できるようになる 	
学科科目	国際教養科目	ミクロ経済学	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、資源配分に関わるいろいろな問題を分析する。ミクロ経済学で用いられる代表的な分析手法の使い方を紹介していくことで、ミクロ経済学では問題をどのように捉え、解決しようとするかを修得してもらうことを意図している。実際のところ、ミクロ経済学は他のいろいろな分野で行われている分析の基本になっており、この授業の受講生が授業で学修した分析手法をそれぞれが関心を持つ問題に応用できるようになることが重要な到達点である。</p>	
学科科目	国際教養科目	ヨーロッパ芸術論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、人類の普遍的な文化遺産であるヨーロッパの美術・演劇・音楽について講義する。古典美術やキリスト教美術、ルネサンス美術から20世紀の現代美術、ギリシア悲劇やシェイクスピア悲劇、モーツァルトやヴェルディのオペラからチャイコフスキーのバレエ、あるいはロンドン・ミュージカルなどは世界の共通言語となっており、その基礎知識なくしては、世界の人びととの円滑なコミュニケーションがとれないほどである。異文化理解のための基礎知識を修得する。</p>	
学科科目	国際教養科目	音楽産業論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ポピュラー音楽産業をテーマに、権利ビジネスの仕組みと基礎知識について講義する。特に、技術の進歩が産業にどう影響を与えるか、「ハード」と「ソフト」の両面から考察する。受講生は、音楽、とりわけポピュラーミュージック業界を「産業」と捉え直し、BLTC=B(ビジネス)・L(Law=法律)・T(テクノロジー)・C(クリエイティブ)の4つの切り口からの理解を行う。併せて、音楽著作権と原盤ビジネス(ミュージシャンをとりまく利権団体とリクープの仕組み)についての実例から、知識の修得と理解を深める。</p>	
学科科目	国際教養科目	現代企業事情	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本社会は予測困難な時代をむかえ、将来へのキャリア形成が見通しにくい状況下、自らの価値観に沿う最善の職業を選択することが極めて難しい判断であることをふまえて、受講生は観光産業以外の業界・企業に着目、多種多様な業界・企業により構成される実社会を俯瞰するスキルを身に付けるための講義を行う。それは、職業選択の幅を拡充することでもある。受講生自らが実社会を知る手段(アンテナ)を携え、自らの価値観に沿う職業選択を具体的に検討し判断できるスキルを修得する。</p>	
学科科目	国際教養科目	現代地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代における生活と結びつきの深い学問である「地理学」の中で、日本および世界の地誌について、主として自然破壊と環境・文化をテーマとして講義を行う。具体的には、①世界の気候及び自然(熱帯・乾燥帯・温帯・寒冷帯)、②世界遺産とまちづくり、③暮らしと文化、の3点の観点から考察を行う。受講生は、課題として提示するフィールドリサーチに向けて、毎回のテーマについて知識を拡充し思考を深めていくことで、事象を関連付けるための考察力と分析力を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	現代地理学b	本科目は、講義科目である。 本科目では、現代における生活と結びつきの深い学問である「地理学」の中でも、「現代地理学 a」の学修内容をふまえ、社会的に話題となった事柄と地理学に紐づくの関連分野と連動させながら結びつけた理解を行う。具体的には、①地図—その歴史と地図投影法・GIS(国土地理院)、②人口問題—世界および日本(市町村合併)、③スポーツと地理学の3点の観点から講義を行う。受講生は、課題として提示するフィールドリサーチに向けて、毎回のテーマについて知識を拡充し思考を深めていくことで、事象を関連付けるための考察力と分析力を修得する。	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	国際経済学	本科目は、講義科目である。 本科目では、国際貿易について講義する。本授業内容を修得することで、グローバル経済の動きや、アジア諸国、欧米諸国などの経済と日本経済との相互関係を、ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎理論に基づくモデルを使って理解できるようになる。授業内では理論モデルの演習問題を用いたグループワーク(理論モデルの演習問題を)を行う。授業では、国際貿易の理論モデルを使って詳述するが、内容的には労働生産性と比較優位・特殊要素と所得分配・資源と貿易・規模の経済・多国籍企業・貿易政策・貿易ルール・貿易交渉・サービス貿易・地域貿易協定などについて講義する。	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	国際社会と人間	本科目は、講義科目である。 本科目では、変容する国際社会について理解を深め、国際関係というアプローチから、現代の国際社会の諸問題について講義する。とりわけ、国際社会と戦争、難民問題や国際人権への取り組み、グローバルな人の移動に関する諸事象などを取り上げ、国家という枠組みでは解決しきれない問題と国際社会について、そして今日の国際関係の在り様についても考える場とする。授業では、学生が、戦争と平和やグローバル・イシューなどのテーマを通じて国際関係のあり方と現代の国際社会について知識と理解を深める。そして、授業で得た学識をもとに、学生が国際社会で起こる諸問題について自分の意見を持ち、それぞれの視点で論理的に説明できるスキルを修得する。	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	国際政治経済論	本科目は、講義科目である。 本科目では、経済活動がもたらす不均衡を政治的に是正するためさまざまなアクターが動かす政治過程を分析していく。特に注目するのは、貿易政策、途上国の開発政策、多国籍企業の管理のための多国間協力、国際金融政策の4つの分野である。それぞれの分野で重視するのは、市場競争の結果、勝者と敗者の間に生まれた不均衡を、市場ではなく政治的に是正しようとする経済アクターたちの動きである。例えば、企業や利益団体が経済的利益という観点からどのような貿易政策や金融政策を望み政治過程に関わり政策が決定されるのか。あるいは、経常収支の不均衡に陥った貿易赤字国が貿易黒字国に何を望み国家間交渉をするのかといった内容である。それによって政治と経済の相互作用のなかで、どのように政策決定がなされるのかについて分析していく。	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	宗教と社会	本科目は、講義科目である。 本科目では、社会学の立場から宗教が地域社会や国家社会、あるいは国際社会にどのような影響を及ぼし、政治、経済、生活にどのような結果をもたらしているのかについて講義する。高度に情報化が進み、経済活動のグローバル化が進んだ現代の世界においても、宗教は、依然として社会に大きな影響を及ぼしている。中東ではイスラミック・ステイト(IS)がテロリズムを繰り返し、アメリカではキリスト教原理主義団体が大統領選挙を左右するなど、宗教は、国内の小さな共同体における生活から国際政治に至るまで、現代世界のあらゆる階層において、人々の価値観や行動を方向づける「転轍手」としての役割を果たしているといえる。これらへの理解を深めることで、宗教と社会の相互補完性について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	国際教養科目	消費者の心理	本科目は、講義科目である。 本科目では、購買者としての消費者の視点から、その心理や行動の現状を知るとともに、企業側の商品・サービス提供に関連するマーケティングやビジネス心理学の理論について講義する。その学修をふまえて、現代社会で扱われる商品およびサービスを消費者の視点について、心理的に動向を概観し、企業側におけるビジネス面からの実践的マーケティング及びその理論について修得する。その学びのプロセスとして、ワークシート作成やグループディスカッションを行うことで、消費者心理について考察するスキルを修得する。	
学科科目	国際教養科目	世界地誌学 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、地誌学の本質と動態的地誌学の手法を踏まえたうえで、ポピュラー音楽が成立し変容する過程から、その地域や国家への理解を深めていくための講義を行う。音楽としては、ブルース、ジャズ、ソウル、Hip Hop、レゲエなどを扱い、地域としては、アメリカやジャマイカ、スペインなどに注目する。「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われるが、現代ポピュラー音楽は特定の民族的特色を持った音楽を起源として、ある地域や国家における社会的・文化的・政治的状況のなかで成立し、時代の流れとともに民族や国家を越えて伝播し変容し洗練されてきた。その本質的な理解と知識を修得する。	
学科科目	国際教養科目	世界地誌学 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、地誌学の本質と動態的地誌学の方法を踏まえ、アジアの地域や国々の自然環境、民族、文化、社会、政治などを紹介し、多様な現代アジアに関する知識を深め、豊かな国際感覚と空間認識を修得するための講義を行う。具体的には、中華人民共和国、台湾、香港、マカオ、インド、インドネシア、韓国などを取り上げる。注目する事象としては、ホームレスや住宅困窮者、ストリートで展開するアートや飲食文化、オリンピックや万博などのビッグイベント、統合型リゾートやテーマパークなどを取り上げる。これらから地誌学への理解を深める。	
学科科目	国際教養科目	西洋史概論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本はもとより世界中の国々に絶大な影響を及ぼしてきた西洋文明について概観する。西洋の歴史的な成り立ちを知ることは、現代世界を理解するためにも重要な教養であるため、西洋史を把握することで、現代世界の諸問題について深く洞察する分析力を修得する。具体的には、①古代から現代にかけての「ユダヤ人の歴史」②古代ギリシア文明の成り立ち、③ローマ帝国、④ヨーロッパ中世、⑤ビザンツ帝国と十字軍の5点の観点から講義を行う。各回に共通して、歴史的出来事がどのような社会的・文化的状況と結びついているか、またその出来事が現代の我々にどのようなかたちで関連を有しているかについて理解を深める。	
学科科目	国際教養科目	西洋史概論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「西洋史概論 a」の学修内容をふまえ、西洋の歴史的な成り立ちを把握することで、現代世界を理解するための教養と、深く洞察する分析力を修得する。具体的には、①宗教改革、②大航海時代、③アメリカの独立、④フランス革命、⑤国民国家の発展（ドイツ・フランス）、⑥帝国主義、⑦世界大戦、⑧ホロコーストの8点の観点から講義を行う。各回に共通して、歴史的出来事がどのような社会的・文化的状況と結びついているか、またその出来事が現代の我々にどのようなかたちで関連を有しているかについて理解を深める。	
学科科目	国際教養科目	対人コミュニケーション心理学	本科目は、講義科目である。 本科目では、対人コミュニケーションについての理解を深めるための講義を行う。学業生活や対人関係、就職活動などの日常のコミュニケーション場面で活用できるようになることを狙いの一つとする。対人コミュニケーションに関する基礎的概念や理論について、社会心理学や臨床心理学などの知見をもとに解説する。適宜、ワークも用いながら、自己のコミュニケーション・スキルについても検討する機会を設ける。前半は対人コミュニケーションに関する基礎的知識を修得する内容とし、後半は現実場面でも利用できる応用的内容を扱う。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 国際教養科目	哲学概論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、西欧の哲学の起源としてのギリシアからローマ帝国時代までの歴史を概観することで、ギリシア的人間観や幸福観、キリスト教的人間観や世界観などの特色について講義する。講義内容を通して、受講生は哲学的な物の見方と、生きていく上での指標を修得する。その学びにあたり、授業では「①哲学者たちは何を考えたか。②哲学者たちは何を批判したか。③哲学者はそれらを通して何を目指したか」を主要テーマとして、哲学の多様な世界の一端を学ぶ。本科目においては、ソクラテス・プラトン・アリストテレス・アウグスティヌス5名の哲学者を取り上げ、上記の①から③について理解を深める。	
学科科目 国際教養科目	哲学概論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、西欧の中世を経て現代に至る歴史を概観しつつ、キリスト教的人間観や世界観を背景とした、ルネサンス期から現代に至るまでの人間観などの特色について講義する。「哲学概論a」の学修内容をふまえ、受講生は哲学的な物の見方と、生きていく上での指標を修得する。その学びにあたり、授業では「①哲学者たちは何を考えたか。②哲学者たちは何を批判したか。③哲学者はそれらを通して何を目指したか」を主要テーマとして、哲学の多様な世界の一端を学ぶ。本科目においては、スピノザ・フィヒテ・ヘーゲル・ショーペンハウワー・サルトル・マルセル6名の哲学者を取り上げ、上記の①から③について理解を深める。	
学科科目 国際教養科目	東洋史概論	本科目は、講義科目である。 本科目では、旧石器時代から現代に至る中国全史を概説し、各時代における日本を含めた近隣諸国の歴史も解説する。これによって受講生が中国の歴史を軸にして東アジア社会の外交史や文化交流史を整理できるようになることを目標とする。中国の地理や行政区についての基礎的な知識を学ばせたのち、歴史資料と考古資料を併用しながら歴代王朝の盛衰史を時系列で解説する。また、世界でも有数の世界遺産保有国となった中国の文化財保護政策についても言及する。受講生は中国の地理や行政区についての知識、原始社会から近代社会にいたるまでの通史や文化財の現状を学び、中国の歴史・文化を広く理解することができる。	
学科科目 国際教養科目	日本経済論 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、戦後の日本経済の推移をマクロ経済学の理論に基づきながら解説する。まず、財市場、貨幣市場、労働市場の役割についてのマクロ経済理論を紹介する。つづいて具体的、高度経済成長期を経て1970年代から1990年代にかけて、日本経済がどのように変化してきたのかを年代ごとに整理する。そのうえで、各期においてとりわけ重要な問題を解説する。高度成長と1970年代以降の各期において何が起こったのか歴史と経済理論の両面から把握することをテーマとし、今日に至るまでの日本経済の変化を総体的に学ぶ。その際、マクロ経済学の理論にできるだけ即した説明を行う。以上を通じて高度経済成長期から1990年代にかけての日本経済の変化を通時的に理解することが到達目標である。	
学科科目 国際教養科目	日本経済論 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、とくに1970年代以降の日本経済をテーマごとに解説していく。具体的には、まず、マクロ経済学の基本理論と高度経済成長期から今日に至るまでの日本経済について再説する。次いで、授業計画に掲げたテーマに即してこの間に日本経済がどのような変化を遂げてきたのかをみていく。授業計画の後半は、日本経済をとりまく最新のトピックスも交えることも考えている。各年代における重要な経済的出来事について解説をしながら、企業経営、産業構造、雇用、物価、財政、為替相場、人口問題、アベノミクスといったテーマについても触れる。戦後の日本経済の歴史と現状を理解し、自分で今の日本経済をどうみるか考える能力を得ることができるようになる。	
学科科目 国際教養科目	日本史概論 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本史は中国の歴史書に記された列伝、『古事記』『日本書紀』を初めとし、近現代の官報や新聞に至るまでの文字資料を読み、理解し、出来事を時系列で整理する作業によって構築されてきた。その学問的な手続きを学ばせることを目標とする。 古代史・中世史・近世史・近現代史を構成する史料についての概説を行ったのち、漢文で記された史料を読み、理解し、出来事を整理する作業を通じて、歴史学の基礎的な修練を行う。受講生は原始・古代・中世・近世・近現代の日本全史を再確認でき、史料の講読技術を身に付けることができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本史概論 2 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、飛鳥時代から室町時代の政治・外交・文化史をテーマとし、多様な文献史料・文字資料を講読・積読する。各時代を代表する史料の中から、歴史上、重要なできごとに関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義したのち、個別史料の講読・積読を進める。それによって、歴史教科書などに反映された学説の構築過程を体験的に学ばせ、史料の読解力を修得させることを目標とする。受講生は文献史料および古代の出土文字資料・金石文など、多様な歴史資料の講読・積読を通じて、飛鳥時代から室町時代における日本の歴史を多角的・通史的に概観できる歴史学への視野を修得する。
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本史概論 2 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本史概論 2 a」の学修内容をふまえ、江戸時代から近現代における政治・外交・文化史をテーマとし、多様な文献史料・文字資料を講読・積読する。各時代を代表する史料の中から、歴史上、重要なできごとに関する記事を選び、それに関わる基礎知識を講義したのち、個別史料の講読・積読を進める。それによって、歴史教科書などに反映された学説の構築過程を体験的に学ばせ、史料の読解力を修得させることを目標とする。受講生は多様な歴史資料の講読・積読を通じて、江戸時代から近現代における日本の歴史を多角的・通史的に概観できる歴史学への視野を修得する。
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本地誌学 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、地理学的視点を有しつつ、1920年代から1970年代を重点ある特定の都市・地域がどんな背景によって成り立っているのかについて、総合的に講義する。特に、今日の状態に至るまでの日本の都市の系譜を紐解き、理解することを目的としている。その際に、「地誌学とは何か」、「地理学と地誌学」を理解した上で、以下の観点から講義する。 第1部：近代都市の形成過程 第2部：高度経済成長と都市 第3部：都市と社会 受講生が具体的なイメージを持てるように、身近な大阪の事例や、映像資料・写真・地図等を多く利用しながら日本の都市が、どのような系譜をたどって今日の状態に至っているのか考察する。
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本地誌学 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、今日の都市を形成する社会・経済・文化・政治的背景、現代都市の争点について考えながら、身近な大阪を始めとする日本の都市の状況を講義する。地理学の視点から都市景観を眺めなおしてみると、現代や過去のさまざまな社会・経済・政治・文化的な仕組みが見えてくる。地誌学の課題は、そうした地理学的視点を有しつつ、ある特定の都市・地域がどんな背景によって成り立っているのか、総合的に理解することである。 都市の争点について考えながら、身近な大阪を始めとする日本の都市の状況を紐解いていく。受講生が具体的なイメージを持てるように、写真、地図等を多く利用し授業を進める。
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本文化史 a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本文化の基礎～古代から近世まで」をテーマとして、日本文化の多様な側面をビデオなどの視覚資料をふまえて講義する。この時代は日本文化の源流と基層、すなわち日本文化の土台が形成された時期である。授業は編年方式（時代順に時間軸を追うやり方）と文化項目（ジャンル）ごとに取り上げるやり方を組み合わせて進める。また、日本文化の特徴を、より明確に理解するために、他地域、他民族の文化との比較を適宜おこなう。つまり、比較文化の視点もとりいれながら、日本文化の歴史と特徴を解説する。
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	日本文化史 b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本文化の近代化」をテーマとして、明治以後の日本文化の様々な側面を、ビデオなどの視覚資料をふまえて講義する。この時代は西洋文化を吸収しつつ独自の新しい日本文化を創出した時期であり、他方、敗戦によるどん底状況から経済の復興・成長・繁栄をバックに多様な文化を展開させた時代でもある。こうした点から、日本文化の近代化に焦点をあて、さらに昭和がどのような時代であったのかということ詳しく学ぶ。また、広い視野から日本文化の特徴を理解するために、他地域、他民族の文化との比較を適宜おこなう。つまり、比較文化の視点もとりいれながら、日本近現代文化の特徴を詳述する。

授 業 科 目 の 概 要 (国際学部国際観光学科)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	博物館概論	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、これからの博物館・専門職員としての学芸員の在り方を考えるという観点から、博物館を取り巻く現在の社会状況もふまえて講義を行う。博物館に関する基礎的な知識を修得するとともに、現代社会における博物館や博物館学芸員の在り方に関して理解を深めることを到達目標とする。「博物館とは何か」を基本テーマとして、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①博物館の歴史 ②博物館の機能や役割 ③学芸員の役割 ④現代社会における博物館 <p>などを中心課題として、具体的な事例をあげながらミュージアムへの理解を深める。</p>	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	文化交流史 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、古代以来、日本は、中国・朝鮮半島諸国をはじめとした東アジア諸国との交流を通じて、その文化を受容し、独自の日本文化を形成してきた過程について講義する。具体的には、3世紀の卑弥呼の時代から江戸時代の朝鮮通信使との交流に至る日本古代～近世の外交史を通史的に概観する。また、特論として、東アジア世界におけるアイヌ文化・琉球文化、およびオセアニアの諸文化を取り上げ、多彩な文化交流の諸相を修得する。</p>	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	文化交流史 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ロシア、中央アジア、モンゴルに跨がるユーラシア地域における文化の発展・交流の様相、および諸地域の文化が「国家」の統治構造や人々の思考様式に与えた影響について講義する。その目的は、我々がしばしば普遍的なものと思いがちな欧米的価値観を相対化し、さまざまな文化・習俗を尊重する視点を修得するところにある。こうした点に鑑み、本講義では、特にユーラシア地域を大々的に支配したモンゴル帝国およびロシア帝国・ソ連・現代ロシアにおける宗教文化の趨勢、ならびに文化や政体を発展させるために必要であった「水力」をめぐる地政学的な議論に着目する。</p>	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	文化交流史 3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、古代のギリシア・ローマから中世を経て、ルネサンス・バロック・ロココの時代、そして産業革命とフランス革命を経た後の19世紀近代市民文化、さらに20世紀以降の現代の国際文化へといたる、ヨーロッパ文化の歴史の変遷を、アフリカ、アジア、アメリカとの交流、とりわけ大航海時代以降の日本との交流も視野に入れて講義する。ヨーロッパの近代的価値観が揺らいでいる現在だからこそ、あらためてヨーロッパ文化の歴史を振り返ることで、人類史におけるヨーロッパ文化の歴史的意義を考察し、人類の来し方・行く末を考察する。本科目は、優劣を論じるのではなく、多文化が共生できる地球規模の思考を修得する。</p>	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	文化地理学a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、日本の地域と開発の地政学をふまえて、総合的に学修すると共に各地域の文化にはどのようなものが見られるのかについて理解を深める。具体的には、①都市圏と都市システム、②世界遺産、③地域とスポーツ、④近畿地方ー鉄道会社と郊外社会ー、⑤東海地方ー新聞社と余暇活動ー、⑥関東地方ー多様化する社会・都市の目がイベントー、⑦東北地方ー地方中枢都市ー、⑧北海道地方ー開拓の歴史ー、⑨中国地方ー地方の時代ー、という9つの観点から考察を行い、日本の地理学的全体像について把握する。</p>	
学 科 科 目	国際 教 養 科 目	文化地理学b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界の地域について総合的に学修するとともに、「文化地理学 a」の学修内容をふまえ、各地域の文化における表象及び事象について概観する。その際に、「地政学」的な視点を挿入することで、各地域に造形されてきた文化について分析を行う。具体的には、①世界とスポーツ、②アフリカにおける南北問題、③東南アジア・南アジアを通して見える躍進するアジア諸国、④西アジア・中央アジアにおけるイスラム世界、⑤北アメリカの人種のるつぼ、⑥オセアニア・北極・南極という洋上の国々、の6点の観点から考察を行い、世界地図を地理学的に把握する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	国際教養科目	法学概論 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、「法」が目指すところについて講義する。法は正義を目指すものであると答えることができるかもしれないが、現実的には正義の尺度も様々であるし、法の制定、実現過程においては法以外の諸力と無関係ではありえない。そのような社会構造を探究することで法とは何かを追究する。併せて、受講生は、法に触れることでこれを身近に感じ、社会現象を法的に理解できること、または法的に理解しようとするときに、必要な法情報を獲得するスキルを修得する。	
学科科目	国際教養科目	法学概論 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「法と正義」をテーマとして、「殺人と法」について考察する。なぜ人を殺してはいけないのか、という命題を探求するためには、「法」だけではなく、法制度を支える様々な正義の尺度を知るための講義を行う。講義では、「なぜ人を殺してはいけないのか」という命題を出発点として、違法性の推定を覆す例外的事情である違法性阻却事由(正当行為・正当防衛・緊急避難・安楽死)などにも触れながら、法構造の理解を中心としつつも広く社会構造を探究し、法とは何かを理解する。	
学科科目	国際教養科目	倫理学概論a	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間と社会における規範の探求をテーマとする。本講義を通して、各思想の歴史的背景をふまえて、現代的な問題における倫理的なアプローチ方法をも学ぶ。なお、本講義内容を学ぶことで、人類の文化、自然に関する知識を関連付けた考察力を修得する。具体的なテーマとしては、①「神と倫理」の観点から、ユダヤ教・キリスト教・中世キリスト教・その他の宗教について理解を深める。②「仏教と倫理」の観点から、奈良～平安時代・鎌倉～江戸時代の倫理観を学ぶ。	
学科科目	国際教養科目	倫理学概論b	本科目は、講義科目である。 本科目では、人間と社会における規範の探求をテーマとする。「倫理学概論 a」の学修内容をふまえ、本講義を通して、各思想の歴史的背景と共に、現代的な問題に対しての倫理的なアプローチ方法を学ぶ。なお、本講義内容を学ぶことで、多文化・異文化に関する知識及び、社会に関する知識を関連付けた考察力を修得する。具体的なテーマとしては、①「生命倫理」の観点から、生殖技術・出生前診断・脳死と臓器移植について医療技術と倫理観について理解を深める。②「環境倫理」の観点から、環境破壊・SDGs・環境正義について文明と倫理観を通して近未来へ向けた人間社会を考察する。	
学科科目	観光コミュニケーション(英語)	Advanced English Reading 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、難易度の高い英文読解に不可欠な語彙や文法に関する知識を身につけ、その内容をすばやく正確に理解するだけでなく、文体の多様性をふまえ、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。また読み終えた英文に対して、自分なりの考えを英語でまとめる、あるいは口頭で述べる能力の修得も目指す。テキストの各ユニットには、やや長めの英文が収められているが、各回の授業ごとに読み切る。またスキミングやスキヤニング等のリーディングスキルを紹介し、新出単語の発音練習を行ったのち、英文の理解度を問う問題に取りくむ。ディクテーションと音読活動を導入することにより、総合的な英語力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション(英語)	Advanced English Reading 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、英文で書かれた内容を正確かつ迅速に理解するだけでなく、書き手の文体上の特色や、用語選択の意図を理解した、言葉の深淵を捉えた読解力を養成する。さらに、読み終えた英文に対して、300語程度の英文、または3分間程度の英語スピーチで、自身の見解を示す能力の伸張も目指す。毎回の授業では、英文を読み切ること前提に、理解が難しいと思われる自然科学系や社会科学系の語彙、また複雑な倒置・省略表現などの説明を行う。併せて修得したリーディングスキルを用いて、英文の理解度を問う問題に取りくむ。またディクテーションや音読も行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Business English	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、ビジネスの世界で成功するために必要な必須の言語スキルを学ぶ。将来、遭遇するあらゆるビジネスシーンにおいて使用される語彙、文法、および表現を学修することにより、以下の6つの能力を修得する。</p> <p>①オフィスでのメモ、指示、お知らせ、苦情の手紙、電子メールの送受信できる。</p> <p>②英語を用いた自己紹介やコミュニケーションをとることができる。</p> <p>③国際的な職場環境で求められるエチケットや礼儀作法に従うことができる。</p> <p>④海外出張で英語を使うことができる。</p> <p>⑤グループでのディスカッションや交渉の際に英語を用いることができる。</p> <p>⑥ビジネスシーンにおける面接場面等で英語を用いることができる。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Debate and Discussion	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、現代社会の様々な領域における日常的な話題（携帯電話、フリーター、結婚、飲酒喫煙、英語学修など）について、現象、背景、その問題・課題におけるメリットとデメリットを把握し、自分の意見を英語で明確に主張できるようになることを目的とする。</p> <p>以下の3点の内容において知識とスキルの修得を目指す。</p> <p>①英語を運用する上での表現を数多く修得する。</p> <p>②論理的思考力、批判的思考力を向上する。</p> <p>③統合的で、インタラクティブな英語活動を通し、英語コミュニケーション力を向上させる。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Presenting in English 1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、プレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法を講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現について学修する。さらに、プレゼンテーションの3つの要素、visual、vocal、& verbalスキルに焦点を当てたフレームワークを通して、プレゼンテーションの作り方を学ぶ。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Presenting in English 2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、高度な英語でのプレゼンテーションを論理的で理解しやすくするための準備の方法について講義する。また、プレゼンテーションを理解しやすくするための適切なフレーズや表現についても学修する。プレゼンテーションのトピックを調べることで、英語のボキャブラリーを増やし、英語の読解力を身につけます。宿題としてプレゼンテーションの原稿作成やビジュアルエイドの作成などを行い、プレゼンテーション後の分析を実施する。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション科目 (英語)	Topic Studies	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、世界の様々な課題、問題についてのトピックに関する基本的な情報や知識を英文での読み・聞きから、理解できるようになることを目的とする。</p> <p>特に、持続可能な開発目標について詳しく学び、その達成のための方法を議論する。この他、複雑な課題、問題について理解できるだけの語彙力、聴解力、読解力を身につけ、様々なトピックについて、自分の意見を英語で発信する力（ライティング力、プレゼンテーション力）を向上させる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	ドラマで学ぶ英語	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語圏の映像化作品を教材として、主に次の2点の能力を伸長させることを目標とする。第一に、ナチュラルスピードで発話される英語のリスニング力を高める。速いスピードや発音の省略などにより、日常の英語会話の理解はしばしば困難となる。授業では、日本語を第一言語とする学修者がつまづきやすい連続音や同化について解説し、実際にディクテーションのタスクに取り組むことで、聴解力を高める。第二に、これまでの学修者用テキストにはあまり見られない、口語特有の英語表現、時には俗語等もとりあげ、理解を深める。作品によってはポリティカル・コレクトネスに配慮した表現も見られ、これらの学修を通して、日常英会話の語彙を増やすと同時に、英語圏における社会・メディアと言語の関係についても学ぶ。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	ホスピタリティ英語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために必要な英語コミュニケーション・スキル、知識を修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら必要な能力を獲得する。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて学修したトピックを、プロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめ発表する。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	ホスピタリティ英語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与するために不可欠な英語コミュニケーションを楽しみながら修得する。様々な場面をシミュレーションし、自信を持って活用できるように、接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を実際に使いながら覚えていく。併せて、ホスピタリティ業についての資料を通じて、学修したトピックをプロジェクトやプレゼンテーションのテーマとしてまとめた上で発表する。また、海外からのインバウンド客および海外での接遇に欠かせない、日本の伝統、催事、現代の社会などを英語で発信できるスキルを修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	メディア・イングリッシュ 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、環境、科学、社会問題などの題材に関して読解し、自分の意見を発信する力を身につけることを目標としています。リーディング・リスニングを中心に、様々な興味深いトピックを扱ったテキストを使用してトレーニングを積み重ねます。授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指します。ビデオ教材を学修した上、理解力とライティングの課題を行うことで、リスニングとライティングのスキルを強化し、オンラインでのリーディングや語彙の課題に取り組む。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	メディア・イングリッシュ 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「メディア・イングリッシュ1」で修得したスキルをさらに発展させることを目標とする。環境、科学、社会問題に関する記事を読んだ後、自分の意見を発表する。また、読解のためのストラテジーを学び、より深く理解できるようにする。授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指す。ビデオ教材を学修した上、理解力とライティングの課題を行うことで、リスニングとライティングのスキルを強化し、オンラインでのリーディングや語彙の課題に取り組む。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	メディア・イングリッシュ 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、「メディア・イングリッシュ1・2」で学んだスキルを構築することを目標とする。受講生は、文章を詳細に読む前に、その文章の概要を全体的に理解するためのリーディングスキルを身につける。教科書の各章の語彙クイズを行い、授業で学んだトピックについて自分の意見を簡単な文章にまとめ、授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指す。また、オンラインでのリーディングと語彙の課題に取り組む。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	メディア・イングリッシュ 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、「メディア・イングリッシュ1・2・3」で学んだスキルをさらに発展させることを目標とする。記事を短時間で読み、理解できるようなリーディングスキルに重点を置いて学修する。また、教科書の各章ごとに語彙の小テストを行う。さらに、教科書で学修した環境、科学、社会問題について、自分の意見を短いパラグラフにまとめて表現し、授業を通して異文化への理解と関心を深めることを目的とする。宿題として、オンラインで読書と語彙の課題に取り組む。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	英語アドバンスト・コミュニケーション1	本科目は、講義科目である。 本科目では、これまでの英語コースで学んだスキルを基に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEIC L&Rの教材を用いて、文法・リーディング・リスニングのスキルを強化すると共に、リスニングとリーディングのスキルを補うために、語彙学修も行う。スピーキングとリスニングには、適切な表現や練習問題が掲載された教材を使用して、スキルアップを図る。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標の一つとする。TOEIC L&R450以上の英語力を身につけることを目指す。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	英語アドバンスト・コミュニケーション2	本科目は、講義科目である。 本科目では、これまでの英語コースで学んだスキルを基に、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEIC L&Rの教材を用いて、文法、リーディング、リスニングのスキルを強化すると共に、リスニングとリーディングのスキルを補うために、語彙学修も行う。スピーキングとリスニングには、適切な表現や練習問題が掲載された教材を使用して、スキルアップを図る。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標の一つとする。TOEIC L&R500以上の英語力を身につけることを目指す。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	英語コミュニケーション1	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的な文法学修、語彙学修、リスニングとスピーキングの練習を組み合わせることで、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEICの練習問題を解くことで、TOEIC L&R 350以上の英語力を身につけることを目指す。毎週の文法と語彙のミニテストを行うことで学修を深め、ペアワークやグループワークのスピーキング活動を通じて、修得した文法や語彙を練習する。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標とする。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	英語コミュニケーション2	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語コミュニケーション1を踏まえ基本的な文法学修、語彙学修、リスニングとスピーキングの練習を組み合わせることで、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。TOEICの練習問題を解くことで、TOEIC L&R 400以上の英語力を身につけることを目指す。毎週の文法と語彙のミニテストを行うことで学修を深め、ペアワークやグループワークのスピーキング活動を通じて、修得した文法や語彙を練習する。さらに、他国の伝統や文化に焦点を当てたトピックを取り入れることで、異文化への興味を育むことも目標とする。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(英語)	英語圏留学入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、次の2点を重点項目として講義を行う。I 英語圏留学に関する基礎知識についての学修(文化・習慣・社会情勢：留学事情や留学する際の危機管理)。II 空港・機内・ホテル・観光地・ホームステイ先等でのコミュニケーションスキルの学修。具体的には、以下の3点を学ぶ。 ① 出国から帰国するまでに遭遇する場面で必要とされるコミュニケーション力の修得。 ② 出国から帰国までに求められるコミュニケーションスキルへの理解。 ③ 「わたしの留学」をテーマに自分がプランした留学のプレゼンテーション。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	資格ビジネス英語 1	本科目は、講義科目である。 本科目では、リスニング、リーディングを主として基本的な英語力を身につけながら、日常会話、およびビジネスシーンで使用する英語の語彙、表現を学び、TOEIC L&R 400点レベルの修得をする。TOEIC初心者を対象に、TOEIC問題の構成や内容について紹介する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、実際の試験問題を通して、必要なスキルを確認しながら、英語力を向上させていく。各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	資格ビジネス英語 2	本科目は、講義科目である。 本科目では、基礎的なリスニング・リーディング力を強化しつつ、グローバルなビジネスシーンで用いられる英語の語彙、表現を理解し、身につける能力を修得する。またビジネスに関する知識を学び、英語コミュニケーション能力を高めるとともに、TOEIC L&R 500点レベルの英語力を修得する。また、各パートの練習を繰り返し解くことで、英語力向上のためのPDCAを受講生各自が確認しながら、実際の試験問題に慣れると共に、早く解けるようになるための学びを蓄積していく。授業で一斉に学び、さらに各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも培う。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	資格ビジネス英語 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、これまで培った基礎英語力をベースに、日常会話を含め、グローバルなビジネスシーンで用いられる会話ストラテジーの理解を向上させ、リスニングスキルを磨く。また、TOEIC問題に対して、迅速かつ正確に解答できるよう、文法知識の定着を目指す。また、多くの英語のビジネス文書を読むことでビジネス文書の読解力を向上させる。TOEIC L&R 600点以上のレベルに到達するために、各自で設定する目標スコアに向かって学修計画を立て、自律的に学ぶ態度やスキルも取得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	資格ビジネス英語 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、グローバルなビジネスシーンで用いられる高度な英語力を駆使できるようになることを目指す。ビジネスに関する語彙量、表現についての知識を増やし、会話、オンライン等で行われるインタラクティブに慣れ、英語コミュニケーション能力を総合的に向上する。また、多くの英語のビジネス文書等を迅速かつ正確に読み取る練習を行い、結果としてTOEICのスコアアップを目指す。TOEIC L&R 700点以上のレベルに到達するために、自律的・継続的な学びの態度とスキルも取得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	通訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語と日本語の論理構成の違いを意識しながら、日英に通訳する通訳スキルトレーニング(シャドーイング・サイトトランスレーション)を行う。トレーニングを繰り返すことで、英語と日本語を聴き取り、理解し、自分の言葉で発話し、発話内容を確認する力を磨く。通訳に必要なスキルを学ぶほか、英語で日本の案内をしたり、病院、役所といった施設で国際共通語としての英語によって日常生活をサポートするなど、様々なシーンにおいて活用できる通訳の基本について学ぶ。	
学科科目	観光コミュニケーション科 目(英語)	翻訳入門	本科目は、講義科目である。 本科目では、英語から日本語への翻訳の基礎を学ぶ。幅広いテーマの練習問題を通して実践することで、基本的な英語の知識、語彙力、表現力を向上させるだけでなく、日本語の語彙力や表現の力を修得する。翻訳に必要な英語を正確に読む力、コンテキストの理解、辞書の使い方、インターネットを使ったリサーチスキルに加え、ビジネス文書、メールやSNS、コミュニティでの案内文、文芸作品、歌詞など、幅広いジャンルを学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	ネットビジネス中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、簡単な中国語のビジネスメール・ファックスを読むこと及び日本語に訳すことを行う。具体的には、インターネット等を用い、中国各種企業のホームページを閲覧し、各地政府が開設する外資系企業向けのホームページの掲載内容から検索し読む能力を養成する。中国におけるのショッピングサイトなどを閲覧でき、販売実績の調査、商品の紹介、配送方法の確認などができるように演習を行う。中国大陸だけではなく、台湾などの華語圏の商業用語とそれと中国大陸との異同についても見識を広める。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	ポスト留学中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語圏留学経験者がさらにその中国語力を高めることを目標とする。具体的には、以下の6点に重点を置く ①語彙を生活用語から広げ、社会・経済・時事などの多分野の用語を身につける。 ②公式の場におけるスピーチ或いは通訳ができる。 ③簡単なプレゼンテーションができる。 ④複文・四字熟語等を駆使し、やや高度な中国語の文書を読み・書き・聴解ができる。 ⑤構文・読解・聴解力を修得する。 ⑥日常会話から初歩的ビジネスで活用可能な中国語力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	接客のための中国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、接客に重点を置いてした中国語を学修する。 具体的には、小売・飲食・宿泊施設・交通機関等の業種ごとに必要なフレーズを中心に構成する。教員からの一方通行ではなく、受講生相互にロールプレイを行い実践的な語学力を身につけることを目標とする。中国語圏の人々とコミュニケーションをとるために必要な地理的・文化的な知識もあわせて学修する。語学力とともに、コミュニケーションに必要な中国・台湾についての知識の獲得も目指す。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	台湾華語	本科目は、講義科目である。 本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、まず外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、繁体字に対する拒否感を持たせないためにも、日本の漢字との相違点・類似点、基本的な旁(つくり)の学修により、個々に繁体字を覚えるのではなく、体系的かつ効率的な繁体字修得を目指す。発音練習の際には、基礎の会話に必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を台湾華語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。あわせて、台湾の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	中国語コミュニケーション1	本科目は、講義科目である。 本科目では、授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。発音練習の際には、単なるピンイン練習だけにとどまらず、基礎の中国語会話で必要な単語、学生が興味を持てる単語や、必要最低限の数詞・量詞を意識的に用いることで、文法学修に先立ち、耳と口を中国語に慣れさせ、中国語作文・読解に必要な重要表現を修得させる。必要に応じて、簡単な疑問構文を用いて、会話形式で発音の練習を行うこともある。また、日本の漢字と異なる簡体字に対する拒否感を持たせないためにも、簡体字の成立過程の説明を行い、常用の漢字の日中での書き方の違いを明示して体系的かつ効率的な簡体字修得を目指す。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(中国語)	中国語コミュニケーション2	本科目は、講義科目である。 本科目では、中国語コミュニケーション1に引き続き授業や日常の挨拶・会話で使う簡単な文章の会話学修から入ることで、外国語学修に対する抵抗感を軽減する。また、中国語1で学修した内容を踏まえ、語彙を増やし、より複雑な言語表現能力の獲得を目指す。本科目での到達目標は、商品の説明、ガイドブックの観光案内、注意書き等における読解力、日本のことを伝えられるような会話力、簡単なメールのやり取りができる文書作成能力を身につける。あわせて、中国の社会や文化についても情報収集を行い、異文化理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション(中国語)	中国語コミュニケーション 3	本科目は、講義科目である。 本科目では、初中級レベルの単語と文型(慣用形)を修得することを目標とする。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで実践的な語学運用能力を養う。具体的には、簡単な観光案内・簡単な打ち合わせの通訳ができ、日常生活でよく使われる商品の紹介などができる力を身につける。あわせて、中国語検定4級・HSK(漢語水平考試)3・4級レベルに相当する中国語力を獲得することを目指す。	
学科科目	観光コミュニケーション(中国語)	中国語コミュニケーション 4	本科目は、講義科目である。 本科目では、中・上級レベルの中国語を学修する授業である。中級レベルの中国語の学修を終えた学生は、この授業で中・上級レベルの単語と文型を学ぶ。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで会話を中心とした実践的な語学運用能力を養う。具体的には、観光案内、ビジネスシーンにおける打ち合わせの通訳などができる力を修得する。あわせて、中国語検定3級・HSK(漢語水平考試)4・5級相当の語学力を獲得することを目指す。	
学科科目	観光コミュニケーション(中国語)	中国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的な観光用語を学修した上で、観光地の紹介ができる能力を養成する。発音の正確さは観光案内の基本であることをふまえ、授業では発音練習を実施する。併せて、観光実務での聴解力の重要性に鑑み、観光関係のヒアリング資料を活用し、聴解力を伸長させる。交通機関の乗換や、免税店の利用方法などを紹介する場合、説明文が欠かせないことも含め、構文や選択すべき表現方法について実践を意識してロールプレイングを行いながら修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション(中国語)	中国語検定講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、資格取得のために必要な単語・聴力・文法をバランスよく取り上げる。具体的には、HSK(漢語水平考試)3・4級、中国語検定試験3・4級検定の過去問題および模擬問題を用い、主要な文法ごとに分類し、実践的な練習・解説を行う。また、模擬テストを実施することで実践的な資格受験の準備を行う。過去問題および模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション(中国語)	中国語検定講座b	本科目は、講義科目である。 本科目では、HSK(漢語水平考試)4・5級、中国語検定3級の試験内容に沿って授業を展開する。具体的には、1500語～2500語前後の単語および生活・学修・仕事などの場面で基本的な文型を修得することで検定試験の合格を目指す。また模擬テストを実施し、実践的な資格受験の準備を行う。過去問題、模擬問題の解答だけではなく、質疑応答の時間を毎回の授業に設けることで、受講生のレベルを把握しながらに基礎文法力と語彙力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション(韓国語)	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語の入門クラス「韓国語1」で、文字・発音・基礎文法を修得した初修学修者を受講生として、リスニングとシャドーイングをおこなう。日本語と韓国語では発声方法や喉、舌の使い方が違う為、微妙な発音の違いが表現できなかったり、聞きとれない事が多い。これを克服するために、日本でもよく知られているKpopのサビの部分を中心に、リスニングとシャドーイングをおこなう。併せて、歌詞に使われた簡単な文型も学修する。また、ドラマの一場面を通して、自己紹介や趣味など日常生活に関連する決まり文句を身につけることで韓国の文化にもふれる。発音の基本と抑揚、発音の変化の決まりなどを知り、ネイティブに近い韓国語発音で会話ができるようになるための土台作りを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	トラベル韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語1」を学修済で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書きができ、基礎的な文型が理解できる学生を受講生として、初歩的な旅行会話をおこなう。空港、ホテル、飲食店、ショップ、公演場、観光地などで多用する表現方法を身につけ、状況に応じた対応ができる実践力を養う。具体的には、毎回異なる場所とシチュエーションを設定し、依頼に応る、問い合わせる、提案する、許可を求める等の表現を学ぶとともに、値段や時間の表現方法なども学修する。また、ペアワークとグループワークでの会話練習を通じて、旅行先で出会う韓国人とスムーズにコミュニケーションができることを目指す。</p>	
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	ポスト留学韓国語	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、韓国語圏での短期・長期の語学留学を経た受講生を対象として、留学先で修得した韓国語能力(話す・聴く・読む・書くの4技能)のさらなる向上を図るための講義を行う。併せて、TOPIK3級以上の能力を修得する。中級レベルの語彙や表現を多用したテキストを読みながら、各トピックの内容を理解し、韓国語で議論・作文・プレゼンテーションを行うことで、コミュニケーション力を向上させる。また、韓国の言葉だけでなく、韓国文化や社会について熟知することで日本文化との比較方法を学び、異文化理解力を修得する。</p>	
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	韓国語コミュニケーション1	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、はじめて韓国語を学修する学生を対象とした初修学修者向けの入門クラスである。テキストを用い、以下を体得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①韓国語の文字(ハングル)の仕組みを正確に理解する。 ②母音・子音・終音(パッチム)・発音の変化の学修を重ね読み書きができるようになる。 ③基礎的な文法「～ですか/です」「～ますか/ます」の表現や過去形表現を修得する。 ④基礎的な文法と文型を使い簡単な挨拶や自己紹介等の初歩的日常生活会話を修得する。 ⑤ペアワーク・グループワークで学んだ表現を使ったコミュニケーション力を高める。 <p>語彙レベルは、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級)、ハングル能力検定試験5級程度とする。</p>	
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	韓国語コミュニケーション2	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、初修学修者向けのクラスとして、入門クラスの「韓国語コミュニケーション1」で、韓国語の文字の仕組みを理解し、読み書きができるようになっていくことを前提として展開する。テキストに従い、各課における語彙の学修とともに、初歩的な日常生活ができる基礎的な文法と文型を中心に学ぶ。多数の例文を用いながら反復的に文型練習を行い、会話の中で学修した文法項目をしっかりと使いこなせるように取り組む。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級(1級・2級)、ハングル能力検定試験5級程度を修得する。</p>	
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	韓国語コミュニケーション3	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語コミュニケーション1」と「韓国語コミュニケーション2」で学修した基礎知識を基盤に表現力を定着させ、初級から中級への橋渡しをおこなう。テキストに沿って、各課における語彙の学修とともに、中級レベルの実用的な文法表現を学修する。多数の例文を用いながら反復的に文型練習を行い、学修した文法項目を活用できるようにするための講義を行う。ペアワーク・グループワークを通して、様々な表現を身につけることで韓国語コミュニケーション能力を高めていく。レベルとしては、韓国語能力試験(TOPIK)初級1級、2級、ハングル能力検定5級、4級レベルの語彙力と表現力を修得する。</p>	
学科科目 観光 科目 (韓国語) コミュニケーション	韓国語コミュニケーション4	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目では、「韓国語コミュニケーション3」に引き続き、中級レベルから上級レベルへのステップアップを目標に、授業の中で文章の正確な読解力と表現力、会話運用力など実践で活かせる総合的な韓国語力を高めるための講義を行う。使用するテキストにおける各課の新出語彙、文法の理解と本文のダイアログをベースに、会話練習、語彙の置き換え練習、リスニング問題、作文問題などを通して、様々な状況で実際に使える表現を修得する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語で日本案内	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国から日本を訪れる方々を迎え入れ、観光案内することを想定し、空港、駅、ホテル、飲食店、観光地などの場所で、相手の意向を尋ね、要求を理解し、それに応えることができる表現などを学修する。毎回、案内する場所とシチュエーションを具体的に設定した上で、想定される状況に最も適した表現を中心に学ぶ。基本的な観光用語や表現のみならず、日本の社会や文化についても分かりやすく説明するなど、おもてなしができる韓国語の実践会話や応用会話にもチャレンジする。自分の考えを述べ、日本文化について伝えるとともに、相手のことを理解することで、より円滑なコミュニケーション力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語ビジネス1	本科目は、講義科目である。 本科目では、基本的に初級または中級レベルの課程を修得した学生を受講生として、接客のための敬語表現を使いこなすフォーマルな実用会話能力を修得するための講義を行う。挨拶から飲食、販売、宿泊そしてレジャーまでのビジネス・シーンに対応するために、あらゆる接客現場を想定したフレーズを利用し、現場ですぐ役に立つよう関連語彙・表現などを中心に学修する。さらに、お客様からの質問、呼びかけ、要求などの状況に応じて柔軟に対応でき、伝えたい内容を自分の言葉で表現できるレベルまで、コミュニケーション力を高める。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語ビジネス2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語ビジネス1」を修得した学生、または中級レベルとそれ以上の学生を受講生として、敬語表現を用いたフォーマルなビジネス文書の作成能力を修得し、ビジネス現場で対応できる実用性の高いコミュニケーション力を身につけるための講義を行う。業務電話、メールやFAX、議事録、報告書、稟議書などの書類作成について理解し、業務遂行に必要な文章力向上のための練習をおこなう。特に日本語の敬語は相対敬語であるが、韓国語の敬語は絶対敬語であることに留意し、ビジネスの現場でのやり取りには敬語表現が必要不可欠である点に注意しながら適切に対応する方法を学ぶ。適切なビジネス文書の作成、ビジネス関連の語彙や表現の修得、聞き手が必要とする情報を正確に伝達できる高度なコミュニケーション力の涵養を行う。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語検定講座a	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語初級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、 ①「ハングル検定試験の初級(5-4級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK I (1-2級)」(韓国教育省認定・主催)の合格を目指す。講義では、初級レベルの読む・書く・聞く・話すなどの総合的能力を定着させるとともに、過去問や模擬問題を解きながら出題傾向と出題形式を把握し、本試験に備えていく。また、副教材として初級単語800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語検定講座b	本科目は、講義科目である。 本科目では、韓国語中級レベルの受講生が、韓国語検定試験を取得するための講義を行う。まず、日本語を母語とする受講生を対象に、 ①「ハングル検定試験の中級(3級)」(ハングル能力検定協会主催) ②「TOPIK II (3-4級)」(韓国教育省認定・主催)の合格を目指す。講義では、試験に出題される「聴き取り」・「作文」・「読解」の全ての項目に対し、パターンを分析・理解・応用の上で、解答力を取得する。また、副教材として中級単語1800を用い、合格に必要な語彙力を修得する。	
学科科目	観光コミュニケーション科目(韓国語)	韓国語実用会話1	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した成果をふまえ、実際の場面で使いこなすための会話練習を中心とする講義を行う。「韓国語1・2」で修得した最も基礎的な文法である体言と用言の肯定文と否定文(「～です・～ではありません」「～ます・～ません」)、現在形と過去形、存在詞(ある・いる)、漢数詞などを用いた文型を使いこなしながら、流暢な会話力を修得する。ペアワークとグループワークを通して、自己紹介、位置、日付、電話番号、買い物、予定、過去の出来事などについて会話できるように練習する。とっさの場面でも対応可能な高いコミュニケーション力を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (韓国)	韓国語実用会話2	本科目は、講義科目である。 本科目では、「韓国語1」と「韓国語2」で学修した表現を汎用的に活用するための会話練習を実施する。上記科目で修得した固有数詞、勧誘、願望、尊敬、許可、禁止の文型を使いながら、流暢な会話力を修得する。ペアワークとグループワークを通して、時刻、依頼、提案、許可、計画についての諸事項を軸として、買い物、注文、病院などの場面での会話ができるようにコミュニケーション力を高め、十分なコミュニケーションが取れる力を修得する。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語1a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得した学生が、敬語の仕組みや使い方、敬語表現などを身につける。将来日本語を使って仕事をする留学生にとって敬語学習は必須である。敬語の基本を学習することからはじめ、敬語を通して日本人の考え方を理解しながら、ビジネス場面に応じた練習を行う。敬語は間違えて使うくらいなら使わないほうがいいと言われるほど、正しさが求められるものである。敬語の形を覚えるのに自学自修が必要となる。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語1b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「ビジネス日本語1a」を学んだ学生が、ビジネス場面に応じた敬語の練習を行う。また、ビジネスマナーについても、日本人の考え方を理解しながら学ぶ。さらに、新聞記事を通して日本人や日本社会を理解し、自分の意見をまとめて記事とともに紹介し、ディスカッションする。応用力をつけるためには、敬語の基礎が身につくこと、状況を判断して言葉を選び使うことができなければならない。授業の練習だけでは足りないため、日常生活のさまざまな場においても学ぶ姿勢を養う。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語2a	本科目は、講義科目である。 本科目では「ビジネス日本語1ab」を修得した、またはそれと同等のレベルを有する学生が、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。ビジネス場面のコミュニケーションは、いかに速く人間関係を理解し、自分の立場に見合った適切な敬語を使えるかにかかっている。前期は、敬語の復習のほかに場面練習も取り入れながら、理解力・運用能力を高めていく。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な用語も学ぶ。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語2b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語2a」を学んだ学生が、前期に引き続き、ビジネス場面におけるコミュニケーション能力の向上を目指す。後期は、就職に役立つ検定試験BJT(ビジネス日本語能力テスト)のJ1以上の取得を目指した勉強を通して、ビジネスコミュニケーション能力を高めていく。人間関係の理解・適切な敬語の運用につなげるため、なぜその解答を導いたのかを客観的に説明する能力も養う。また、ビジネス場面に不可欠な常識的な語彙も拡充していく。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語基礎a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得していない学生が、卒業前に敬語全般について理解し、簡単な敬語が使えるようにすることを目指す。日本でも海外でも日本語を使って仕事をしていく上で、敬語は外せない。しかし、敬語を体系的に学んでいる学生はほとんどいないため、本科目ではまずは敬語の基本を学び、敬語の語形や表現を理解し、聞いてわかるようにする。また、簡単な敬語を使って会話できるようにする。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	ビジネス日本語基礎b	本科目は、講義科目である。 本科目は、「ビジネス日本語基礎a」を学んだ学生が、簡単な敬語の会話や簡単なビジネスマナーを身につけることを目指す。就職して日本語を使って仕事をする際に、限られた場面ではあっても、どのような場面で敬語を使用するか理解し、適切に使用できるようにする。また、日本社会への理解を深めるために、新聞記事等から日本人や日本社会を読み解き、自分の意見をまとめて、発表することも適宜実施していく。	
学科科目	シ観光 コミュニケーション 科目 (日本)	総合日本語a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1合格を目的の一つとする学生が、上級レベルの読解力、また聴解力と発話力、さらに語彙力、文法力を身につけることを目指す。読解力・文法力に関しては、基礎力を確認した上で、様々な文体に触れ、文章の構造を読み取る、より高い読解力を身に付けることを目指す。聴解力においても、話の流れ(構成)を聴き取るようになることを目指す。語彙を増やすためのテストは毎回行う。聴解のための耳をつくるためにも発音・発話練習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	総合日本語b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「総合日本語a」を学んだ学生が、日本語能力試験N1合格を目的の一つとして「総合日本語a」の内容を引き続き学ぶ。日本語能力試験N1の教材を用いて、読解、文法・語彙、聴解の力をつけることを目指す。また、聴解のための耳をつくるために、発音・発話練習も継続する。内容が多岐にわたるため、一つ一つにかける時間は少なくなるが、丁寧に学び、力を伸ばす。N1受検後は、丁寧に話す練習を行う。	
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	日本語レポート1a	本科目は、講義科目である。 日本語能力試験N2レベルの学生が、レポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。まずは、単文レベルで練習する。	
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	日本語レポート1b	本科目は講義科目である。 「日本語レポート1a」を学んだ学生が、引き続きレポート作成の基礎を学ぶための科目である。日本語でレポートを書くために必要となる、基礎的な知識(規則)を学び、正しい文法と語彙選択に基づきながら、読み手に伝わる、きちんとした文が書けるようにすることが目標である。文を正確に書くためには、文法力や語彙力が欠かせないため、文法や語彙を覚え、自分で文を書くときに覚えたものを使えるようにしていく。単文レベルから複数の文へと少しずつ書く量を増やすことを目指す。	
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	日本語レポート2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート1ab」を取得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、日本語の文章を書く場合の基礎的な知識(規則)を学んだ(「1ab」を修得した学生は復習した)上で、その規則に則って文章、段落へと範囲を広げていくことを目指す。読み手に伝わる文章を書くためには、表現力が必要となるが、それは文法力や語彙の選択能力、文章の構成力からなるものである。これらの表現力をつけていくことを目指す。	
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	日本語レポート2b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2a」を学んだ学生が、読み手に伝わる文章を書けるようにすることを目指す。そのためには、文法力や語彙の選択能力、文章の構成力を身につけ、最終的には、一つのテーマについて、複数の段落からなるまとまりのある文章を書けるようにする。また、引用の方法やグラフの書き方、参考文献なども書けるようにする。さらに、わかりやすい文章かどうか、正しく書けているかどうかについて、自分自身でもある程度チェックする力も養いたい。	
学科科目	シ観 ヨ光 ンコ ム語 目ユ (ニ 日ケ 本)	日本語レポート3a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート2ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。まずは、これまでに学んだレポートの書き方を復習しつつ、全員が一つのテーマで、大学で求められるレベルのレポートの書き方を学ぶ。同じテーマで書いていくので、他の学生の書いたレポートからも相互に学びあいながら、よりよいレポートを書き上げていく。	
学科科目	観 ン光 科コ 目ミ (ユ ニ 日ケ 本 語) シ ヨ	日本語レポート3b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語レポート3a」を学んだ学生が、大学の講義で求められるレポートを書けるようにする。後期は、前期の経験をもとに、自分でテーマを決めて自分の力でレポートを書けるようにする。教師は指南役に徹するため、後期は自主的な取り組みが不可欠となり、かなりの時間の自習が必要となる。1年の学びを通して自力でレポートを書ける程度の力をつけ、「卒業論文」「卒業研究」の基本的な骨組みが理解できるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学 科 科 目	シ ョ ン コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語演習a	本科目は、講義科目である。 本科目では、日本語能力試験N1を取得している学生が、日本語を用いたプロジェクトワークを行うための準備をする。前期はプロジェクトワークをするために必要となる、資料の読解やインタビュー、アンケート調査、分析、まとめ、発表、ディスカッションなどの練習を行う。また、後期に行うプロジェクトワークのテーマや視点などの例を示していく。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させることを目指す。	
学 科 科 目	観 ン 光 科 目 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語演習b	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語演習a」を学んだ学生が、日本語を用いてプロジェクトワークを行う。後期はテーマを決めて、文献調査や実地調査を行い、何らかの形にまとめて発表をする。どのようなテーマでどのような成果物にするかという点から、その年の履修者と話し合った上で決定するが、できる限り実際の課題解決につながるようなテーマを設定する。様々な活動を日本語で行うことを通して、日本語の運用能力を総合的に向上させつつ、日本語で目標を遂行することを目指す。	
学 科 科 目	シ ョ ン コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語聴解発話1a	本科目は、講義科目である。 本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。在日期间が1年以上経過している学生であっても、聴解能力の伸びない学生が目立つ。その原因は「耳慣れ」の不足にあると考えるため、発音も含め日本語の音体系を身体の中に作ることから始める。また、聴き取れないのは、語彙力不足も大きな要因となっているため、習得語彙数の増加にも努める。	
学 科 科 目	観 ン 光 科 目 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語聴解発話1b	本科目は講義科目である。 本科目は、「日本語聴解発話1a」を学んだ学生が、聴解力、発話力、語彙力、文法力を中級後半から上級にかけて向上させることを目的とする。聴解力が不足している受講生が多い場合は、前期に引き続き、発音練習を続け、日本語の音体系を体の中に作っていく。また、まとまった内容のものを聞いて理解した上で、自分の意見を表明する発話能力も伸ばすことを目指す。さらに、修得語彙数の増加も継続して努める。	
学 科 科 目	観 光 科 目 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語聴解発話2a	本科目は、講義科目である。 本科目では、「日本語聴解発話1ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を「正確に」聴き取り、質問に対して根拠や状況を説明した上で、解答を導く、という練習を行う。内容がおおよそ聴き取ればよしとするものではないので、文法力や語彙力が問われる。語彙力をつけるために、漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションなどを毎回実施する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。	
学 科 科 目	観 ン 光 科 目 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 語 目 (日 本 語)	日本語聴解発話2b	本科目は、講義科目である。 「日本語聴解発話2a」を学んだ学生が、N1レベルの聴解力、文法力、語彙力、発話力を養うことを目的とする。N1レベルの聴解問題を用いて、話の構成を正確に聴き取り、それを説明する力をつけていく。漢字や語彙の小テスト、カタカナのディクテーションは前期に引き続き実施する。受検前の模擬試験では、答えを導き出した過程を重視する。授業外でも「注意深く聴く」時間を設けて、自身で聴解力を伸ばす自学自修が必要となる。発話においては、丁寧な言葉で話す習慣を身に付けることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要

(国際学部国際観光学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目 観光コミュニケーション(日本語)	日本語読解 1 a	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、日本語能力試験N2レベルの学生が読解力、語彙力、文法力を向上させることを目的とする。授業で扱う語彙や文法は、N2レベルから始める。読解もまずはN2レベルの文章を用いて、文の構造、段落内の構造、文章全体の構成等を理解する練習を積み、確実に読解力を身につけることを目指す。また、1つのものを読み終えたときに、意見交換を行うので、意見交換の方法を身につけ、他人の意見を聞いて自分の考えの幅を広げることも目指す。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション(日本語)	日本語読解 1 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>本科目は、「日本語読解 1 a」を学んだ学生が引き続き読解力・語彙力、文法力を向上させることを目的とする。そのための構造理解も続ける。扱う文章はN2レベルから少しずつN1レベルへと引き上げていく。また、精読とは別に、文章全体からどのような情報やメッセージを得たか等の概略をつかむ読みや、レベルに合わせた楽しみのための読みなども適宜行う。語彙や文法はN2の力を確実に付け、N1レベルのものも取り入れていくようにする。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション(日本語)	日本語読解 2 a	<p>本科目は講義科目である。</p> <p>「日本語読解 1 ab」を修得済み、またはそれと同等のレベルがあるとみなせる学生が、N1取得を一つの目標と定め、読解力と語彙力、文法力を身に付けるための科目である。ある程度の長さのある、論理的な文章を全体の構成を理解しながら的確に読みとる力を培う。また、短い文章を読んで討論をしたり、グラフ等を読み取ったりする練習も適宜行っていく。さらに、N1レベルの語彙の拡充、文法力の修得も目指す。</p>	
学科科目 観光コミュニケーション(日本語)	日本語読解 2 b	<p>本科目は、講義科目である。</p> <p>「日本語読解 2 a」を学んだ学生が、N1レベルの読解力、文法力、語彙力を養うことを目的とする。N1レベルの文章を用いて、文章全体の構成等を理解し、確実に読解力を身に付けることを目指す。語彙力、文法力もさらに増強していく。N1受検前は模擬試験も実施する。また、N1受検後は、情報を得るための読解だけでなく、楽しむための読解など、可能な限り実社会の題材を使うことにより、読解の幅を広げ、日本語による読解の習慣を付けていく。</p>	

学校法人阪南大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
阪南大学				阪南大学				
流通学部				流通学部				
流通学科	230	—	920	0	—	0	0	令和6年4月学生募集停止
経済学部				経営学部				
経済学科	280	—	1,120	290	—	1,160	1,160	学部の設置(届出)
経営情報学部				経済学部				
経営情報学科	220	—	880	290	—	1,160	1,160	定員変更(10)
国際コミュニケーション学部				総合情報学部				
国際コミュニケーション学科	170	2	684	176	—	704	704	学部の設置(届出)
国際観光学部				国際学部				
国際観光学科	155	2	624	155	2	624	624	学部の設置(届出)
計				計				
	1,055	3年次 4	4,228	1,055	3年次 4	4,228	4,228	

阪南大学国際学部
設置の趣旨等を記載した書類

目次

1 設置の趣旨及び必要性	・・・P. 2
2 学部・学科等の特色	・・・P. 10
3 学部・学科等の名称及び学位の名称	・・・P. 10
4 教育課程の編成の考え方及び特色	・・・P. 11
5 教育方法・履修指導方法及び卒業要件	・・・P. 24
6 編入学定員を設定する場合の具体的計画	・・・P. 29
7 取得可能な資格	・・・P. 30
8 入学者選抜の概要	・・・P. 31
9 教員組織の編制の考え方及び特色	・・・P. 36
10 研究の実施についての考え方、体制、取組	・・・P. 37
11 施設・設備等の整備計画	・・・P. 37
12 管理運営	・・・P. 39
13 自己点検・評価	・・・P. 41
14 情報の公表	・・・P. 43
15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	・・・P. 44
16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	・・・P. 45

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 阪南大学の沿革

阪南大学(以下、「本学」という。)は、昭和14(1939)年に小林菊治郎・奥田政三が設立した「大鉄工学校」に起源を發し、昭和40(1965)年に創立し商学部商学科を設置した。本学は、大阪市に隣接する松原市に立地し、創立以来、「すすんで世界に雄飛していくに足る有能有為な人材、真の国際商業人の育成」を建学の精神として掲げている。

(2) 国際学部設置の趣旨及び必要性

1) 国際学部設置の趣旨及び必要性

本学では、グローバリズムが進む1990年代に、国際的な場で活躍できる人材の育成を目的として、国際コミュニケーション学部を開設した(平成9(1997)年)。その後、平成19(2007)年に施行された観光立国推進基本法を受けて、平成22(2010)年に国際観光学部を開設した。両学部は、本学において国際化を推進する学部として位置付けられ、真の国際人の育成をめざし、外国語運用能力と共に、国際的な教養、激動する国際関係、多様な文化や宗教の教育を行うことで、「国際」に関わる多岐にわたる知識の修得と社会が要請する人材を輩出してきた。

21世紀は、前世紀末からのグローバリズムの拡大と、それに伴うダイバーシティやボーダーレスが加速度的に拡大している。令和2(2020)年のパンデミックによって、一時的に国際的な交流は停滞した。しかしながら、グローバリズムは全世界的な視野に鑑みて不可避の潮流である。各国は、相互の影響と結びつきを強めている。日本人の外国での就労と同時に、外国人の日本での就労及び居住は増加の一途をたどる。斯かる社会においては、外国語によるコミュニケーション能力は、特定の業界・業種・職種に求められるものではなく、日常的に多種多様な場面で必要不可欠となっている。そこでは、実践的な外国語とコミュニケーションの能力と併せて、異文化への理解力を備えた人材の養成が求められている。

平成22(2010)年の産学人材育成パートナーシップグローバル人材育成委員会報告書「産学官でグローバル人材の育成を」には、グローバル人材について、「グローバル化が進展している世界の中で、主体的に物事を考え、多様なバックグラウンドをもつ同僚、取引先、顧客等に自分の考えを分かりやすく伝え、文化的・歴史的なバックグラウンドに由来する価値観や特性の差異を乗り越えて、相手の立場に立って互いを理解し、更にはそうした差異からそれぞれの強みを引き出して活用し、相乗効果を生み出して、新しい価値を生み出すことができる人材」と定義する。平成24(2012)年の「グローバル人材育成戦略」では、「豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際的に活躍できる『グローバル人材』を我が国で継続的に育てていかなければならない」と方針の提示がなされている。そこでのグローバル人材が有する能力は、以下の3点が明示されている。

ア. 語学力・コミュニケーション能力

イ. 主体性・積極性・チャレンジ精神・協調性・柔軟性・責任感・使命感

ウ. 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ

特にグローバル人材について「幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等を併せ持つ者」と定義し、外国語(英語)運用能力について、「業務上の文書・会話レベル」を超え「二者間折衝・交渉レベル」または、「多数者間折衝・交渉レベル」の語学能力を持った人材の不足と、継続的に育成する必要があることが指摘されている。平成29(2017)年の「グローバル人材育成の推進に関する政策評価」には、企業から大学に対して求める取り組みとして、海外留学の促進・異文化理解に関する授業・ディベート等の対話型の授業の必要性等が挙げられている。

さらに、近年の我が国における観光分野の発展やインバウンドの外国人観光客の増加は、パンデミックの現状においては一時的停滞を示しているものの、長期的視点に立脚した場合には、極めて重要な成長分野である。特に、ホスピタリティ業界の人材育成の要請と共に、外国語運用能力、コミュニケーション能力、情報発信能力を備えた人材が求められている。また、SDGsに集約される持続可能な発展とその活動を実現させるためには、多国籍・多文化・多言語の理解力とコミュニケーション力に基づく共同作業能力が不可欠であると考える。

現在、多言語、多国籍、多文化等「国際」を意識せざるを得なくなっている。その中で、教養や文化、観光といった国際にかかわる様々な領域を横断的に捉えながら、国際社会に対応できる国際人の育成が求めら

れている。本学の国際系2学部を統合する背景には、平成30(2018)11月に中央教育審議会から出された「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」に示されたような、社会の変化と高等教育機関への課題をふまえている。

- ア. 世界的な規模で生じる社会的変化に対応できる人材育成と教育研究体制の構築
- イ. 日本社会の少子化問題と大学の規模の適正化
- ウ. 多様で柔軟な教育プログラムの編成
- エ. 地域連携の強化 等

これらの課題を実現する高等教育機関として、「国際」領域を有する本学の国際コミュニケーション学部と国際観光学部の2学部が、人的・物的資源を共有し、教育研究活動を有機的に結びつける「国際学部」の設置を行う。本学部では、2つの学部のこれまでの成果と独自性を残しつつ、語学教育や国際教養教育、地域連携や実務型教育を共有する。それによって、学生は、両学科の科目を横断的に修得し、学修の幅を拡充することが可能となると考えている。

2) 国際コミュニケーション学科・国際観光学科設置の趣旨及び必要性

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科の母体は、国際コミュニケーション学部文化コミュニケーション学科である。グローバリズムの進展を背景に、異文化理解(文化・歴史・宗教・政治等)とコミュニケーション力及び2つの外国語を修得し、社会で活躍できる人材の育成を目的として平成9(1997)年に開設された。その後、平成16(2004)年に国際理解教育の強化を目的として国際コミュニケーション学科への名称変更と共に、国際文化・国際関係・メディア・心理学の4分野の学修を実施してきた。以来、国内外で活躍する優秀な人材を輩出し、一定の成果をおさめてきた。

以来、四半世紀を過ぎ、日本及び世界の状況は大きく変化した。1990年代と比較して、少子高齢化と共に、外国人人口は1990年から2020年にかけて約200万人増加しており、今後もこの傾向は持続的に増加するものと推測される。その中で、以下の点の変化が顕著である。

1. 日本社会の多様化
2. 外国人労働者の受け入れ増

世界的に見ても、グローバル化の一方で、ローカル化が進行し、脱境界に反動するように、国家・民族・宗教間対立も顕著である。急速なテクノロジーの変化は、ボーダーレスなコミュニケーションの機会を作り出しているが、SNSの発達と諸問題からもうかがわれるように、非常に限定化・個別化されたコミュニティ、あるいは排他的で攻撃的なコミュニケーションをも生んでいる。斯かる現状を受け、本学科は社会の要請に応え、多様な社会のあり方について理解すると共に、地域・日本・国際社会の共生共栄に貢献すべく、国際コミュニケーションに係る研究と教育の体制を構築し、国際化への視点を、グローバル・ローカルパーソナル領域から、多角的に学ぶ学科として開設する。

明確な解答が存在しない不確実な課題に対して、創造的思考力によって主体的に新たな価値を創出する人材育成を目標とする「新たな国際コミュニケーション学科」へと発展的に進化させることが設置の趣旨である。

国際観光学科

国際観光学科は平成9(1997)年に西日本の4年制大学として初めて「観光」を冠する学科として国際コミュニケーション学部国際観光学科を設置し、平成22(2010)年に国際観光学部国際観光学科に改組した。これは当時の観光立国政策の流れを受け、観光に特化した独創的かつ体系的な教育研究の実践が求められていたという背景がある。その後、訪日外国人旅行者数は急増し、令和元(2019)年には過去最高の3,188万人に達した。観光学は、かつての「余暇時間の中で日常生活圏を離れて行う活動」としてのみならず、そこに付加されるコミュニケーションやおもてなし等のホスピタリティを研究する時代を迎えた。

観光庁は、平成27(2015)年度より訪日外国人の周遊促進の取り組みを支援する「広域観光周遊ルート」の形勢をはじめ、平成28(2016)年には訪日外国人旅行者を地方へ誘客するモデルケースを形成する「観光立国ショーケース」として3都市を選定したほか、平成30(2018)年度より「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」を開始した。この間、観光学を学ぶ学部学科が多くの大学をはじめとする高等教育機関で開

設され、観光振興に寄与する人材の育成が図られてきた。

しかし、頻繁に外国人旅行者と接するなど、観光が日常生活の中で身近な存在となる中で、観光の本質的な意義を改めて問い直す必要性を認識している。観光の本質的な意義は、他者との出会いを通じてさまざまな感動や知識を得て、精神的な豊かさを追求することとはいえ、これらは観光客だけでなく、彼らを迎え入れる側の人びとも享受できる。こうした他者との出会いやそれがもたらす効果を捉えるには、異文化理解や自文化理解、外国語運用能力も含めた幅広いコミュニケーション、交流を通じた問題解決など、従来の観光の枠を超えた理解が不可欠である。さらに、グローバル化やSDGs(持続可能な開発目標)など、国際社会が強調して立ち向かうべき課題に対し、グローバルとローカルとグローカルの視点を併せ持つ「国際」という枠組みから観光学を捉え、課題解決を図る必要がある。

国際学部設置の趣旨を受け、上記を達成し地域創生や産官学連携によるPBL(Project Based Learning)を通して、「観光立国・日本」を支える人材育成を目標とする「新たな国際観光学科」へと発展的に進化させることが設置の趣旨である。

本学では、上記の趣旨に則り、国際コミュニケーション学部と国際観光学部の国際系2学部を統合し、以下の通り、令和6(2024)年に国際学部(以下、「本学部」という。)を開設し、国際コミュニケーション学科と国際観光学科を置くこととした。

学部名	学科名	修業年限	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	学位分野
国際学部	国際コミュニケーション学科	4年	155名	2名	624名	文学
	国際観光学科	4年	144名	2名	580名	文学、社会学・社会福祉学

(3) 国際学部の養成する人材像

本学部の養成する人材像は、コミュニケーション力と幅広い教養を身につけ、文化の多様性を理解することで、国際社会で実践的に活躍できる人材である。

1) 国際コミュニケーション学科の養成する人材像

世界の現状を広い視野をもって把握でき、挑戦的かつ創造的思考力を持って主体的に行動し、かつ多様な価値観と文化を理解し、グローバルな視点で地域や文化の違いを超えたコミュニケーション力を発揮できる適応力を備えた人材を養成する。

2) 国際観光学科の養成する人材像

幅広い教養と国際観光に関する専門知識を修得し、異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身につけ、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業等で問題解決に導くことができる、国際社会で活躍できる実践力のある人材を養成する。

(4) 国際学部国際コミュニケーション学科・国際観光学科の3つのポリシー

本学部の3つのポリシーは以下の通りである。養成する人材像及び3つのポリシーの各項目との相関及び整合性については、【資料1】の通りである。【資料1 養成する人材像とカリキュラム・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・アドミッション・ポリシーとの相関図】

国際コミュニケーション学科

1) -1 国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー(以下、「DP」と記載)

ア. 国際コミュニケーション学に関する専門知識を修得する。【DP1・DP2・DP3】

イ. 挑戦的かつ創造的思考力を持って主体的に新たな価値を創出することができる。【DP7・DP8・DP12】

ウ. 自他の多様な価値観と文化を理解している。【DP1・DP2・DP9・DP10・DP11】

エ. グローバルな視点で他者との境界を越えたコミュニケーション力を発揮できる。【DP4・DP5・DP6・DP9】

具体的には、下記に示す項目及び内容を要件とする。

【知識・理解】国際コミュニケーションに関する基礎的な学修をふまえて、以下の専門分野に関する知識を

修得している。

- DP 1：言語や多文化・異文化についての基礎的な知識、および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方と理解。
- DP 2：文化、国際関係、メディア、心理科目群の4分野における学びを通し修得する、グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びに個人（パーソナル）の行動や思考、それぞれについての基礎的・体系的知識。
- DP 3：自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈についてとその関連性への理解および知識。

【汎用的技能】

DP 4：コミュニケーション力

日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につける。同時に、現代社会の多様性を理解した上で対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。

DP 5：情報リテラシー力

情報通信技術(ICT)等を用いて多様な情報を収集・整理・分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。

DP 6：論理的思考力

情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、言語化できる。

DP 7：問題解決力

社会にあるさまざまな問題の背景を理解し、解決に必要な情報を収集・整理・分析し、解決策を見いだすことができる。

DP 8：社会人としての実践力

体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。

【態度・志向性】

DP 9：多様性の理解と協調性

自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。

DP10：倫理観と社会的責任

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

DP11：自己管理力

自らを律して行動することで自己成長につなげることができる。

【総合的な学修経験と創造的思考力】

- DP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

1) -2 国際コミュニケーション学科のカリキュラム・ポリシー(以下「CP」と記載)

- CP 1：言語や多文化・異文化についての基礎的な知識および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方と理解する力の体得。

1年次に学科必修科目の「コミュニケーション概論」を履修することで、言語や多文化・異文化についての基礎的な知識および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方についての基礎知識を学ぶ。

- CP 2：文化、国際関係、メディア、心理科目群の4分野における学びを通し修得するグローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びにパーソナルな行動や思考、それぞれについての基礎的・体系的知識。

1年次に国際コミュニケーション学科の学際的学びを構成する4分野である、文化科目群、国際関係科目群、メディア科目群、心理学科目群において、それぞれの入門となる科目を学修し基礎的知識を身につけた上で、それらの発展、応用となる科目を履修し、グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びにパーソナルな行動や思考についての体系的知識を獲得する。

- CP 3：自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈についてとその関連性への理解および知識。
1 年次に「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」を履修することで、自己や世界についての関心を高め、さらに4分野における発展科目、応用科目を履修することで、自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈に関する知識を獲得し、その関連性への理解を深める。
- CP 4：コミュニケーション力 日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につける。同時に、現代社会の多様性を理解した上で対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。
1 年次に「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」を履修することで日本語の言語運用能力を向上させると同時に、外国語については全員履修の英語の基礎的科目、および中国語、韓国語の基礎科目を修得し、その後の発展科目、応用科目の履修により、高度な言語運用能力と多様性の社会における対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる力を体得する。
- CP 5：情報リテラシー力 情報通信技術(ICT)等を用いて多様な情報を収集・整理・分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。
1 年次に一般教育科目の「情報処理入門・応用」を履修することで、情報通信技術(ICT)等を用いた、データの収集・整理・分析を学び、その他のメディア科目群、および演習科目において、得られた情報をモラルに則って効果的に活用できる力、および多様な媒体による情報の真偽やその価値を批判的に評価し、正しく理解する能力を体得する。
- CP 6：論理的思考力 情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、言語化できる。
1 年次に履修する「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」などで大学に必要な論理的思考力の基礎を学び得た知識をもとに、演習科目をはじめ、学科の多くの科目において、情報や知識を論理的に分析し言語化できる力を体得する。
- CP 7：問題解決力 社会にあるさまざまな問題の背景を理解し、解決に必要な情報を収集・整理・分析し、解決策を見いだすことができる。
1 年次に履修する「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」などで、問題解決のために必要な基礎を学び得た知識をもとに、演習科目をはじめ、学科の多くの科目において、社会問題を理解し解決に必要な情報の収集・整理・分析を行い、解決策を提示できる力を体得する。
- CP 8：社会人としての実践力 体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。
1 年次から学科のカリキュラムの中で体系的に得た専門知識を将来の職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を4年間を通して身につける。また、1 年次に「基礎キャリアデザイン1・2」を履修した上で、基礎・発展・応用と段階的にキャリア教育科目を修得することで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができるようになる。
- CP 9：多様性の理解と協調性 自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。
1 年次に履修する「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習 1a」「専門演習 1b」「専門演習 2a」「専門演習 2b」、およびさまざまな科目を通して、多様な人々と協調・協力して行動できる力を体得する。
- CP10：倫理観と社会的責任 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。
1 年次に履修する「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習 1a」「専門演習 1b」「専門演習 2a」「専門演習 2b」及び様々な科目を通して、倫理観を体得し社会的責任を意識しながら社会発展に貢献できる力を体得する。
- CP11：自己管理力 自らを律して行動することで自己成長につなげることができる。
1 年次に履修する「大学入門ゼミ a」「大学入門ゼミ b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習 1a」「専門演習 1b」「専門演習 2a」「専門演習 2b」、およびさまざまな科目を通して、自らを律して行動することで自己成長につなげる力を体得する。
- CP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

4年間を通しての学びで獲得した知識・技能・態度など特に専門演習1・2において、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

1) -3 国際コミュニケーション学科のアドミッション・ポリシー(以下「AP」と記載)

i) 求める能力

AP1 知識・理解：高等学校で学習する科目において、身につけるべき水準の知識を有すること。

AP2 思考・判断：広い視野で物事をとらえ、自分なりの考えをもつことができる。

AP3 関心・意欲：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。

AP4 技能・表現：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。

AP5 主体性・協調性：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。

本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接、課題文、志望理由書、推薦書などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

ii) 求める学生像

1. 探究心を持ち、他者と共に学び成長できる人。
2. グローバル社会で通用する語学運用能力を身に付けたい人。
3. 在学中に留学をして、自分の可能性を広げたい意欲のある人。
4. 世界の国や地域の民族・政治・社会・歴史・文化・宗教などについて学びたい人。
5. 心理学・マスコミュニケーション・メディア・異文化理解について学びたい人。
6. 国際社会に通用する教養・コミュニケーション能力を身につけ、それを活かす職業に就きたい人。
7. 将来の目標を設定して、継続的にキャリアアップを目指せる人。
8. 日本および世界の発展に貢献したいという意志がある人。

国際観光学科

2) -1 国際観光学科のディプロマ・ポリシー(以下、「DP」と記載)

1. 幅広い教養と国際観光に関する専門知識を修得する。【DP1・DP2・DP3】

2. 異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身につける。

【DP1・DP2・DP4・DP5・DP6・DP9】、

3. グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業と協力して問題解決に導くことができる。

【DP7・DP8・DP9・DP10・DP11・DP12】

上記のDPをもって、国際社会で活躍できる実践力のある人材を育成する。具体的には、下記に示す項目及び内容を要件とする。

【知識・理解】

DP 1：異文化および自文化に関する専門的な知識を有している。

DP 2：社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を有している。

DP 3：観光学の専門的な知識を有し体系的に理解している。

【汎用的技能】

DP 4：コミュニケーション力

日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につけるとともに、現代社会の多様性を理解したうえで対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。

DP 5：情報リテラシー力

情報通信技術（ICT）を用いて多様な情報を収集・分析・整理し、モラルに則って効果的に活用できる。

DP 6：論理的思考力

情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

DP 7：問題解決力

グローバルかつローカルな視点からの社会調査をふまえ、地域社会や企業と協力して問題の解決に

必要な情報を収集・分析・整理し、その解決策を見出すことができる。

DP 8：社会人としての実践力

体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。

【態度・志向性】

DP 9：多様性の理解と協調性

自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。

DP10：倫理観と社会的責任

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

DP11：自己管理力

自ら立てた目標を達成するために、チャレンジ精神を持ちながら主体的に行動できる。

【総合的な学習経験と創造的思考力】

DP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

2) -2 国際観光学科のカリキュラム・ポリシー(以下「CP」と記載)

CP 1：異文化および自文化に関する専門的な知識を有している。

1年次から全員が「国際学への招待」・「大阪観光学」を履修し、国際学の視点と身近な自文化への関心を深めながら、「国際観光学入門」・「異文化理解入門」の履修により観光の本質が異文化・自文化理解にあることを認識する。また「専門基幹科目」と「専門発展科目」の「観光文化」科目群から異文化および自文化に多面的に触れることで国際感覚を養い、さらに「観光コミュニケーション科目」の外国語科目を履修し異文化理解の手段として外国語運用能力を身につける。以上により、異文化および自文化に関する専門的な知識を獲得する。

CP 2：社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を有している。

1年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光と社会・自然の関係について理解するとともに、「専門基礎科目」・「専門基幹科目」においてさまざまな観点からその関係について掘り下げることで、社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を獲得する。

CP 3：観光学の専門的な知識を有し体系的に理解している。

1年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光の概念や観光学の体系・手法を修得するとともに、2年次以降に「専門発展科目」の「観光事業」科目群の科目を履修し観光の基幹産業や事業としての応用について理解を深めることで、観光学の専門的な知識を有し体系的に理解できる能力を体得する。

CP 4：コミュニケーション力 日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につけるとともに、現代社会の多様性を理解したうえで対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。

1年次から全員が「大学入門ゼミ」を履修し社会現象の観察・理解・問題設定およびそれに対する自らの意見の発信スキルを身につけるとともに、「観光コミュニケーション科目」の外国語科目を履修することで特定の外国語の運用能力を高める。また3年次から「専門発展科目」の「外国語特別講義」を履修することで特定の外国語を用いた観光研究を实践し、高度な言語運用能力と多様化する現代社会における対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる力を体得する。

CP 5：情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集・整理・分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。

1年次から一般教育としての「情報処理入門・応用」を中心として、全員が「大学入門ゼミ」を履修し情報通信技術(ICT)の利活用スキルを身につける。さらに「専門基幹科目」や「専門発展科目」のうちアクティブ・ラーニングの一環としてICTの利活用が求められる科目で実践することで、ICTを用いて収集・分析・整理を行え、モラルに則って効果的に活用できる力を体得する。

CP 6：論理的思考力 情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

ほぼすべての科目において対象に関する情報や知識を得るだけでなくその応用を求めており、その履修により情報や知識を論理的に分析し表現できる力を体得する。

- CP 7：問題解決力 グローバルかつローカルな視点からの社会調査をふまえ、地域社会や企業と協力して問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決策を見出すことができる。
「演習科目」や一部の「専門発展科目」におけるプロジェクト型の社会実践が伴う学びを通じ、地域社会や企業と協力して問題の解決策を提示できる力を体得する。
- CP 8：社会人としての実践力 体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。
1 年次から全学のキャリア教育を受けるとともに、学部独自のキャリア教育を行う科目「現代企業事情」や「専門発展科目」における観光関連業界を対象とする科目を履修し企業・観光関連業界の動向や課題をとらえ、あわせて「演習科目」において企業・地域社会との問題解決に取り組むことで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組む力を体得する。
- CP 9：多様性の理解と協調性 自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。
1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士で協働活動を行うことで、多様な人々と協調・協力して行動できる力を体得する。
- CP10：倫理観と社会的責任 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。
1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観を体得し社会的責任を意識しながら社会発展に貢献できる力を体得する。
- CP11：自己管理能力 自ら立てた目標を達成するために、チャレンジ精神を持ちながら主体的に行動できる。
1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、「専門発展科目」の「実習講義」科目群や「観光コミュニケーション科目」を履修し、自ら目標を設定し学修を進めていくことで、自らの目標達成に向けて主体的に行動できる力を体得する。
- CP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。
1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、いくつかの科目において、さまざまな科目の学修内容を総合的に理解した上で、自ら設定した課題に適用し、他の受講生とも協力しながらその解決に挑戦することで、目標実現のために能動的に行動できる力を体得する。

2) -3 国際観光学科のアドミッション・ポリシー(以下「AP」と記載)

i) 求める能力

- AP1 知識・理解：高等学校の主要教科・科目について、基礎的な知識を幅広く有している。とりわけ、高等学校までの履修教科のうち、受験科目に関わらず、「地理」「歴史」「国語」「英語」に関する基礎的な内容を身につけている。
- AP2 思考・判断：ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。
- AP3 関心・意欲：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。
- AP4 技能・表現：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。
- AP5 主体性・協調性：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。

ii) 求める学生像

1. 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、必要なコミュニケーション力を養うことによって、国際社会や地域社会で活躍したい人。
2. 国内外の多様な文化に興味を抱き、それらが持つ意味や可能性をホストとゲストの双方の視点から学ぶことで、幅広く活用したい人。
3. 地域社会と積極的にかかわる中で、観光のもつ多面的な手法を学び、生活者と観光者ともに魅力ある地域づくりに向けて貢献したい人。
4. 観光にかかわる事業や産業に関心を持ち、ビジネスやマーケティングの知識を身につけ、社会においてその能力を発揮したい人。
5. グローバルな視野から国際社会や地域社会における様々な問題に関心を持ち、身につけた知識をこれら

の解決に役立てたい人。

(5) 組織として研究対象とする中心的な学問分野

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、外国語および、文化、国際関係、メディア、心理の諸分野における、教育研究をとおして、国際コミュニケーションに関する分野の理解・解明・実践を目指す。中心的な研究対象の学問分野は「文学分野」とし、文学、外国語教育、言語学、歴史学、政治学、心理学、マス・コミュニケーションおよびメディアなどの諸分野をその研究対象とする。

国際観光学科

国際観光学科では、観光文化、観光計画、観光ビジネスという三つの分野における、教育研究をとおして、国際観光を理解し、国際観光の現場で実践できる能力養成を目指す。中心的な研究分野は「文学」・「社会学・社会福祉学」とし、社会学、文化人類学、地理学、歴史学、経営学、政治学、文学、地域・文化研究、都市計画や観光まちづくり、交通航空やホテル旅館など、国際観光の現場と関わる諸分野を研究対象とする。

2. 学部・学科等の特色

(1) 国際学部の特徴

本学部では、幅広い職業人養成、総合的教養教育、社会貢献の機能を重点的に担う。幅広い職業人養成については、国際コミュニケーション学科は、グローバルな視点で多面的なコミュニケーション力を身に付けることを目的にし、国際観光学科は、国際理解に向けた語学教育にも力を入れ、観光立国・日本の将来を担う人材を養成する。総合的教養教育については、本学の次世代型実学教育として、後期教養教育を本学部においても展開していく。社会貢献機能については、学生のフィールドワーク等を通じて、地域貢献活動を進めていく。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 国際学部の名称及び学位の名称

本学部は、「コミュニケーション力と幅広い教養を身につけ、文化の多様性を理解することで、国際社会で実践的に活躍できる人材」を養成する人材像とし、「文化・歴史等の学びを基盤に多様な社会を理解するとともに、高度なコミュニケーション力を身につけ、観光の本質である異文化および自文化に対する理解力を育み、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業と協力して問題解決に導くことができる、実践力を身につけさせる。」ことを教育研究上の目的としていることから、学部名称を「国際学部」とし、学科は2学科とし、「国際コミュニケーション学科」と「国際観光学科」とする。

英語名称については、国際学部は、「Faculty of International Studies」とし、国際コミュニケーション学科は「Department of International Communication」、国際観光学科は、「Department of International Tourism」とする。

学位の名称は、本学部学科の養成する人材像と教育研究上の目的に照らして、国際コミュニケーション学科は、「学士（国際コミュニケーション学）」、国際観光学科は、「学士（国際観光学）」とする。

英語名称については、国際コミュニケーション学科は「Bachelor of International Communication」、国際観光学科は、「Bachelor of International Tourism」とする。

学部名称	国 際 学 部	英語名称	Faculty of International Studies
学科名称	国際コミュニケーション学科	英語名称	Department of International Communication
	国際観光学科		Department of International Tourism
学位名称	学士(国際コミュニケーション学)	英語名称	Bachelor of International Communication
	学士(国際観光学)		Bachelor of International Tourism

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学部では、基礎的な言語スキル、自文化・異文化と多様性の理解、そしてグローバル・国際社会に求められる21世紀型スキルや教養の修得をベースに、各学科の専門性を学びながら、学生が主体的に社会に関わり新たな価値を創造していくための知識やスキルを培うためのカリキュラム編成を行う。それによって、コミュニケーション力と幅広い教養を身につけ、文化の多様性を理解することで、国際社会で新たな価値を創造する実践力のある人材の育成を行う。

(1) 教育課程の編成の考え方（カリキュラム・ポリシー）

国際コミュニケーション学科のカリキュラム・ポリシー

CP1：言語や多文化・異文化についての基礎的な知識および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方と理解する力の修得

1年次に「コミュニケーション概論」を全員履修することで、言語や多文化・異文化についての基礎的な知識及び心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方についての基礎知識を学ぶ。その上で、下記のような語学、心理学科目、多文化、異文化を取り扱う科目、演習科目などを履修する。

DP1を達成するにあたって履修する科目

基礎科目：コミュニケーション概論・大学入門ゼミa・大学入門ゼミb

専門演習科目：基礎演習・専門演習1a・専門演習1b・専門演習2a・専門演習2b

4分野講義科目：基礎科目；マスコミュニケーション論・対人コミュニケーション心理学・異文化コミュニケーション論・コミュニケーションスキル実習 等

CP2：文化、国際関係、メディア、心理科目群からなる学際的分野における学びを通し修得する、グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びに個人（パーソナル）の行動や思考、それぞれについての基礎的・体系的知識。

1年次に国際コミュニケーション学科の学際的学びを構成する4分野である、文化科目群、国際関係科目群、メディア科目群、心理学科目群において、それぞれの入門となる科目を学修し基礎知識を身につけた上で、それらの発展、応用となる科目を履修し、グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びにパーソナルな行動や思考についての体系的知識を獲得する。

DP2を達成するにあたって履修する科目

専門演習科目：基礎演習・専門演習1a・専門演習1b・専門演習2a・専門演習2b 等

4分野講義科目：基礎科目；歴史と文化入門・国際関係入門・情報メディア入門・自己理解心理学入門・文化交流史・英文学論・米文学論・日本の政治と外交・多文化社会論・地域政治文化論 等

発展科目；都市文化論・日本風俗研究・多様性の文化論・現代社会論・アジア国際関係史・グローバル・ガバナンス論・宗教と社会・国際関係学・比較政治学・グローバル・イシュー・マスコミュニケーション論・対人コミュニケーション論・異文化コミュニケーション論 等

応用科目；文学と宗教文化・国際政治経済論・文化心理学・福祉心理学 等

CP3：自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈についてとその関連性への理解および知識。

1年次に「大学入門ゼミa・b」を履修することで、自己や世界についての関心を高め、さらに下記のような4分野における発展科目、応用科目を履修することで、自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈に関する知識を獲得し、その関連性への理解を深める。

DP3を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミa・大学入門ゼミb

専門演習科目：基礎演習、専門演習1a・専門演習1b・専門演習2a・専門演習2b

4分野講義科目：発展科目；都市文化論・多様性の文化論・グローバル・ガバナンス論・宗教と社会・国際関係学・メディア・情報文化史・マスコミュニケーション論・社会

心理学・発達心理学 等

応用科目；文学と宗教文化・国際政治経済論・国際平和論・広告文化論・音楽産業論・
国際政治経済論・文化心理学 等

CP4：コミュニケーション力 日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につける。同時に、
現代社会の多様性を理解したうえで対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。

1年次に「大学入門ゼミ a・b」を履修することで日本語の言語運用能力を向上させると同時に、外国語については全員履修の英語の基礎的科目、および中国語、韓国語の基礎科目を修得し、その後の発展科目、応用科目の履修により、高度な言語運用能力と多様性の社会における対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる力を体得する。

DP4 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

学科語学科目：English Grammar・Oral English・入門中国語・入門韓国語 等

4分野講義科目：基礎科目；対人コミュニケーション論 等

発展科目；Debate and Discussion・ネットビジネス中国語・韓国語コミュニケーション・日本風俗研究・多様性の文化論・異文化コミュニケーション論・コミュニケーションスキル実習 等

応用科目：ポスト留学中国語・ポスト留学韓国語 等

CP5：情報リテラシー力 情報通信技術(ICT)等を用いて多様な情報を収集・分析・整理し、モラルに則って効果的に活用することができる。

1年次に一般教育科目の「情報処理入門・応用」を履修することで、情報通信技術(ICT)等を用いた、データの収集・整理・分析を学び、その他のメディア科目群、および演習科目において、得られた情報をモラルに則って効果的に活用できる力、および多様な媒体による情報の真偽やその価値を批判的に評価し、正しく理解する能力を体得する。

DP5 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

4分野講義科目：基礎科目；情報メディア入門・メディア・情報文化史・心理統計学 I 等

発展科目；Debate and Discussion・日本風俗研究・多様性の文化論 等

応用科目：心理統計学 II 等

CP6：論理的思考力 情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、言語化できる。

1年次に履修する「大学入門ゼミ a・b」などで大学に必要な論理的思考力の基礎を学び得た知識をもとに、演習科目をはじめ、学科の多くの科目において、情報や知識を論理的に分析し言語化できる力を体得する。

DP6 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・1b・専門演習 2a・2b

学科語学科目：Writing in English・Debate and Discussion 等

4分野講義科目：基礎科目；文化交流史・多様化社会論・比較政治文化論・心理統計学 I・心理学研究法等

発展科目；都市文化論・現代社会論・アジア国際関係史・国際関係学・メディア・情報文化史・広告文化論・放送文化論・知覚・認知心理学 等

応用科目；文学と宗教文化・国際政治経済論・キャラクター論・音楽産業論・心理統計学 II 等

CP7：問題解決力 社会にあるさまざまな問題の背景を理解し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決策を見いだすことができる。

1年次に履修する「大学入門ゼミ a・b」などで、問題解決のために必要な基礎を学び得た知識をもとに、演習科目をはじめ、学科の多くの科目において、社会問題を理解し解決に必要な情報の収集・整理・分析を行い、解決策を提示できる力を体得する。

DP7 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

学科語学科目：Debate and Discussion 等

4分野講義科目：基礎科目；文化交流史・英文学概論・米文学概論・多文化社会論・比較政治文化論・グローバル・イシュー・心理統計学Ⅰ 等

発展科目；都市文化論・現代社会論・アジア国際関係史・グローバル・ガバナンス論・国際関係学・マスコミュニケーション論・広告文化論・社会心理学・コミュニケーションスキル実習 等

応用科目；文学と宗教文化・国際政治経済論・キャラクター論・音楽産業論・福祉心理学・心理統計学Ⅱ 等

CP8：社会人としての実践力 体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。

1 年次から学科のカリキュラムの中で体系的に得た専門知識を将来の職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を、4 年間を通して身につける。また、1 年次に「基礎キャリアデザイン 1・2」を履修した上で、基礎、発展、応用と段階的にキャリア教育科目を修得することで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができるようになる。

DP8 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b、専門演習 2a・専門演習 2b

学科語学科目：Debate and Discussion・Business English・ネットビジネス中国語・中国語で日本案内・ポスト留学中国語・韓国語で日本案内・韓国語ビジネス・ポスト留学韓国語 等

4分野講義科目：基礎科目；歴史と文化入門・情報メディア入門・自己理解心理学入門・対人コミュニケーション心理学・異文化コミュニケーション論・社会心理学 等

発展科目；文化交流史・日本風俗研究・多様性の文化論・アジア国際関係史・宗教と社会・グローバル・イシュー・マスコミュニケーション論・放送文化論・広告文化論・消費者の心理・産業・組織心理学 等

応用科目：文学と宗教文化・キャラクター論・音楽産業論・文化心理学・福祉心理学等

CP9：多様性の理解と協調性 自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。

1 年次に履修する「大学入門ゼミ a・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習 1a・1b」「専門演習 2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、多様な人々と協調・協力して行動できる力を体得する。

DP9 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

学科語学科目：Debate and Discussion・Business English・韓国語で日本案内・韓国語ビジネス・ポスト留学韓国語 等

4分野講義科目：基礎科目；歴史と文化入門・文化交流史・自己理解心理学入門・対人コミュニケーション心理学 等

発展科目；日本風俗研究・多様性の文化論・現代社会論・宗教と社会・異文化コミュニケーション論・社会心理学・発達心理学・文化心理学・福祉心理学 等

応用科目；文化と言語化論・キャラクター論 等

CP10：倫理観と社会的責任 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を

持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍的価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

1 年次に履修する「大学入門ゼミ a・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」

「専門演習 1a・1b」「専門演習 2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、倫理観を体得し社会的責任を意識しながら社会発展に貢献できる力を体得する。

DP10 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

4分野講義科目：基礎科目；日本の政治と外交・多文化社会論・比較政治文化論・グローバル・イシュー等

発展科目；現代社会論・アジア国際関係史・グローバル・ガバナンス論・宗教と社会・国際関係学・マスコミュニケーション論・メディア表現論・社会心理学・消費者の心理・産業・組織心理学 等

応用科目；文学と宗教文化・国際政治経済論・福祉心理学 等

CP11：自己管理能力 自らを律して行動することで自己成長につなげることができる。

1年次に履修する「大学入門ゼミ a・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習 1a・1b」「専門演習 2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、自らを律して行動することで自己成長につなげる力を体得する。

DP11 を達成するにあたって履修する科目

基礎教育科目：大学入門ゼミ a・大学入門ゼミ b

専門演習科目：基礎演習・専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b

4分野講義科目：基礎科目；歴史と文化入門・自己理解心理学入門・対人コミュニケーション心理学等

発展科目；発達心理学・コミュニケーションスキル実習・消費者の心理・産業・組織心理学 等

CP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

4年間を通しての学びで獲得した知識・技能・態度など特に「専門演習 1a・1b」「専門演習 2a・2b」において、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。

DP12 を達成するにあたって履修する科目

専門演習科目：専門演習 1a・専門演習 1b・専門演習 2a・専門演習 2b・卒業研究

4分野講義科目：発展科目；コミュニケーションスキル実習 等

国際観光学科のカリキュラム・ポリシー

CP1：異文化および自文化に関する専門的な知識を有している

1年次から全員が「国際学への招待」・「大阪観光学」を履修し、国際学の視点と身近な自文化への関心を深めながら、「国際観光学入門」・「異文化理解入門」の履修により観光の本質が異文化・自文化理解にあることを認識する。また「専門基幹科目」と「専門発展科目」の「観光文化」科目群から異文化および自文化に多面的に触れることで国際感覚を養い、さらに「観光コミュニケーション科目」の外国語科目を履修し異文化・自文化理解の手段として外国語運用能力を身につける。以上により、異文化および自文化に関する専門的な知識を獲得する。

DP1 を達成するにあたって履修する科目

学部導入科目：国際学への招待

学科導入科目：大阪観光学

学科入門科目：国際観光学入門・異文化理解入門 等

専門基幹科目：比較文化論・観光人類学・旅の文化史 等

専門発展科目：観光民俗学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国内、国際実習 等

観光ポータル科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ 等

CP2：社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を有し

ている。

1 年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光と社会・自然の関係について理解するとともに、「専門基礎科目」・「専門基幹科目」においてさまざまな観点からその関係について掘り下げることで、社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を獲得する。

DP2 を達成するにあたって履修する科目

学科入門科目：国際観光学入門

専門基礎科目：観光歴史学・観光地理学・観光経済学・観光経営学 等

専門基幹科目：観光計画論・観光資源論・観光事業論 等

専門発展科目：レジャー文化論・観光資源解説方法論・世界遺産論 等

CP3：観光学の専門的な知識を有し体系的に理解している。

1 年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光の概念や観光学の体系・手法を修得するとともに、2 年次以降に「専門発展科目」の「観光事業」科目群の科目を履修し観光の基幹産業や事業としての応用について理解を深めることで、観光学の専門的な知識を有し体系的に理解できる能力を体得する。

DP3 を達成するにあたって履修する科目

学科入門科目：国際観光学入門

専門基礎科目：観光歴史学・観光地理学・観光経済学・観光経営学 等

専門基幹科目：観光人類学・観光政策論・観光事業論 等

専門発展科目：観光調査法・旅行ビジネス論・観光交通論 等

CP4：コミュニケーション力 日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につけるとともに、現代社会の多様性を理解したうえで対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。

1 年次から全員が「大学入門ゼミ」を履修し社会現象の観察・理解・問題設定およびそれに対する自らの意見の発信スキルを身につけるとともに、「観光コミュニケーション科目」の外国語科目を履修することで特定の外国語の運用能力を高める。また 3 年次から「専門発展科目」の「外国語特別講義」を履修することで特定の外国語を用いた観光研究を実践し、高度な言語運用能力と多様化する現代社会における対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる力を体得する。

DP4 を達成するにあたって履修する科目

専門発展科目：英語観光研究・中国語観光研究・韓国語観光研究

観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ・中国語コミュニケーション・韓国語コミュニケーション 等

CP5：情報リテラシー 情報通信技術(ICT)を用いて多様な情報を収集・整理・分析し、モラルに則って効果的に活用することができる。

1 年次から一般教育としての「情報処理入門・応用」を中心として、全員が「大学入門ゼミ」を履修し情報通信技術(ICT)の利活用スキルを身につける。さらに「専門基幹科目」や「専門発展科目」のうちアクティブ・ラーニングの一環として ICT の利活用が求められる科目で実践することで、ICT を用いて収集・分析・整理を行え、モラルに則って効果的に活用できる力を体得する。

DP5 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：大学入門ゼミ

専門基幹科目：観光政策論

専門発展科目：エコツーリズム論・アーバンツーリズム論・観光情報論 等

CP6：論理的思考力 情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、表現できる。ほぼすべての科目において対象に関する情報や知識を得るだけでなくその応用を求めており、その履修により情報や知識を論理的に分析し表現できる力を体得する。

DP6 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究

学科入門科目：国際観光学入門・異文化理解入門

専門基礎科目：観光地理学・観光経済学・観光経営学

専門基幹科目：観光政策論・観光資源論・観光開発論 等

専門発展科目：食文化論・観光と芸術・観光と宗教 等

観光コミュニケーション科目：英語アドバンスコミュニケーション・ホスピタリティ英語・Advanced English

CP7：問題解決力 グローバルかつローカルな視点からの社会調査をふまえ、地域社会や企業と協力して問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決策を見出すことができる。

「演習科目」や一部の「専門発展科目」におけるプロジェクト型の社会実践が伴う学びを通じ、地域社会や企業と協力して問題の解決策を提示できる力を体得する。

DP7 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究

専門発展科目：観光会計論・民間協力論・国際平和論 等

CP8：社会人としての実践力 体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。

1 年次から全学のキャリア教育を受けるとともに、学部独自のキャリア教育を行う科目「現代企業事情」や「専門発展科目」における観光関連業界を対象とする科目を履修し企業・観光関連業界の動向や課題をとらえ、あわせて「演習科目」において企業・地域社会との問題解決に取り組むことで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組む力を体得する。

DP8 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究

専門発展科目：宿泊産業論・ホスピタリティ産業論・観光企業論 等

学科自由選択科目：現代企業事情

CP9：多様性の理解と協調性 自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。

1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士で協働活動を行うことで、多様な人々と協調・協力して行動できる力を体得する。

DP9 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究

専門基礎科目：観光経済学

専門基幹科目：観光開発論

専門発展科目：集客産業施設運営論・オセアニアの地域と観光 等

CP10：倫理観と社会的責任 自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。

1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観を体得し社会的責任を意識しながら社会発展に貢献できる力を体得する。

DP10 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究

学科入門科目：異文化理解入門

専門基幹科目：観光人類学・観光政策論・観光開発論

専門発展科目：観光社会学・国際協力論・プロジェクト型国内実習・プロジェクト型国際実習 等

CP11：自己管理能力 自ら立てた目標を達成するために、チャレンジ精神を持ちながら主体的に行動できる。

1 年次から 4 年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ「専門発展科目」の「実習講義」科目群や「観光コミュニケーション科目」を履修し自ら目標を設定し学修を進めていくことで、自らの目標達成に向けて主体的に行動できる力を体得する。

DP11 を達成するにあたって履修する科目

演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究

専門発展科目：プロジェクト型国内実習・プロジェクト型国際実習

観光コミュニケーション科目：英語圏留学入門・通訳入門・翻訳入門

CP12：これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動

的に果たすことができる。

1年次から4年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、いくつかの科目において、さまざまな科目の学修内容を総合的に理解した上で、自ら設定した課題に適用し、他の受講生とも協力しながらその解決に挑戦することで、目標実現のために能動的に行動できる力を体得する。

DP12を達成するにあたって履修する科目

演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究

専門発展科目：プロジェクト型国内実習・プロジェクト型国際実習

(2) 教育課程の編成の体系性

1) 科目区分の設定及びその理由

国際コミュニケーション学科

科目区分は、基礎教育科目、専門教育科目、一般教育科目、キャリア教育科目とし、専門教育科目に、演習科目、学科語学科目、講義科目を設置する。また、講義科目に、必修科目、選択必修科目、全員履修科目、自由選択科目を設置する。

【基礎教育】入学生の円滑な大学生活への移行を促すために、少人数のクラス編成による「大学入門ゼミ a」および「大学入門ゼミ b」を開講する。また、本学部の学生が、初年次に全員履修する「国際学への招待」、学科の学びの基礎となる科目として、学科必修科目の「コミュニケーション概論」を置く。

【専門教育】

演習科目(必修科目)：初年次での学びを継承した上で、より専門的な演習科目の履修のための前段階として、2年次前期に「専門演習アプローチ」を置く。2年次前期にその後の学修計画を明確化し、所属ゼミを決定、2年次後期からは指導教員の指導のもと「基礎演習」を履修し、専門演習で学ぶための基礎的知識とスキルを身につける。3年次の「専門演習 1a」と「専門演習 1b」では専門領域における学びを深め、自律的に研究活動を行う。4年次では「専門演習 2a」と「専門演習 2b」および「卒業研究」を履修し、これまでの学修の集大成として論文作成や作品制作に取り組み、その成果を発表する。

学科語学科目：コミュニケーションと異文化理解の手段として、国際共通語である英語を中心として学修する。さらに、中国語、韓国語等の語学科目を置く。なお、語学科目全体で、卒業までに18単位の修得が必修であり、そのうち8単位は必ず英語科目群から修得しなければならない。

講義科目

必修科目：国際コミュニケーション学科の基本となる科目で、学科の学生全員が必ず修得しなければならない。学科の学びの入門となる「コミュニケーション概論」がこれにあたる。

選択必修科目：この他、国際コミュニケーション学科の学びを構成する、文化科目群、国際関係科目群、メディア科目群、心理学科目群について、定められた単位数を履修する必要がある。

自由選択科目：国際学部国際観光学科科目である、観光やホスピタリティ業界に関する科目、国際学部設置されている国際・グローバル・ビジネスに関する科目を、学科の自由選択科目群として設置する。

全員履修科目：指定された年次に全学生が履修する科目である。学部共通科目「国際学への招待」、演習科目「大学入門ゼミ a」、「大学入門ゼミ b」、「専門演習アプローチ」がこれにあたる。

国際観光学科

科目区分は、「基礎教育」科目、「専門教育」科目、「一般教育」科目、「キャリア教育」科目を設定する。国際観光学科入学後の大学における導入教育としてのスキルや、国際観光学の視点及び考え方を学ぶための基礎教育と、国際観光学の専門的な知識とプロジェクトベースの演習による実践力を身につけるために専門教育を以下の通り設定している。

【基礎教育】「基礎教育」には、入学生の円滑な大学生活への移行を促すとともに大学での学びの基礎を身につけるために「大学入門ゼミ a」、観光を対象とするプロジェクトベースの学びを身につけるために「大学入門ゼミ b」を、それぞれ少人数のクラス編成により開講する。また、専門科目での学びに対してグローバルおよびローカルから関心・意欲を喚起する科目として全員履修科目の「国際学への招待」・「大阪観光学」を開講する。あわせて観光を学ぶうえで基盤となる知識・概念を習得するための「学科入門科目」として「国際観光学入門」・「異文化理解入門」、大学入学前までの学びを生かし観光の学びに応用する「専門基礎

科目」として「観光歴史学」・「観光地理学」・「観光経済学」・「観光経営学」を開講する。これらの基礎教育により専門科目の学修基礎の構築を図る。

【専門教育】

演習科目(必修科目)：演習科目は、2年次から4年次にかけて、指導教員のもとそれぞれの専門領域において少人数の学生が自律的に研究活動を行う。1年次における基礎教育を通じた学びをふまえ、2年次前期に各教員の専門領域を把握し、その後の学修計画を明確化したうえで観光の学びにおける自らの研究領域を決定する「演習導入」を開講する。2年次後期には自ら決定した研究領域で研究を行うための基礎を習得するための「基礎演習」を開講する。3年次には観光を対象とするプロジェクトベースの学びを通じて専門性を高める「専門演習 1a」・「専門演習 1b」、4年次にはそれまでの研究の集大成として卒業研究として論文作成や制作活動に取り組み、その成果を発表・共有する「専門演習 2a」・「専門演習 2b」を開講する。

講義科目

必修科目：国際観光学科において専門科目の学修基礎となる科目および学修成果の集約・応用・深化をはかる科目として開講するもので、全員が必ず履修し、合格しなければ卒業することができない科目である。

選択必修科目：国際観光学科が指定する以下の4つの科目群において、定められた単位数の履修と合格が求められる科目である。大学入学前までの学びを生かし観光の学びに応用する「専門基礎科目」、観光の学びにおける主要な3領域である観光文化・観光計画・観光事業について、それぞれの領域の専門的な学びの基盤となる「専門基幹科目」、主要3領域をはじめ観光のさまざまな領域についてそれまでの学修を発展・応用させるとともに観光に関する幅広い視野を養うための「専門発展科目」、コミュニケーション手段として必要な外国語運用能力を習得するための「観光コミュニケーション科目」の科目群がある。

選択科目：国際観光学科における学修領域に近接する科目として開講するもので、卒業に必要な単位数の指定は無いが、履修を推奨する科目である。教職課程科目や博物館学芸員課程に関する科目、学科独自のキャリア教育を提供する科目、このほか他学部・他学科の科目も「国際社会と規範」、「文化と交流」、「ビジネスとキャリア」の3領域を通じて国際的な教養を涵養するための科目として履修できる。

全員履修科目：国際観光学科において専門科目の学修に関心・意欲を喚起する科目および学修の質を高める科目として開講するもので、全員に履修を求める科目である。

2) 各科目区分の科目構成とその理由

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、以下のような科目区分と科目構成の理由を設定している。

【基礎科目】高校の学習から大学の学習への円滑な移行を促すため以下の科目を設置する。

大学入門ゼミ a/ 大学入門ゼミ b/ コミュニケーション概論

【専門教育】大学教育における主体となる科目群である。

専門教育科目には「演習科目」、「学科語学科目」、「講義科目」を設置する。

「演習科目」には、初年次の大学入門ゼミで高校から大学への学習の移行を促した後、より国際コミュニケーション学科の専門的な学習に取り組む演習科目が設置される。まず、2年次前期にはその後の学修計画を明確化し、所属ゼミを決定するため「専門演習アプローチ」を設置する。2年次後期からは指導教員の指導のもと「基礎演習」を履修し、専門演習で学ぶための基礎的知識とスキルを身につける。3年次の「専門演習 1a」と「専門演習 1b」では専門領域における学びを深め、自律的に研究活動を行う。4年次では「専門演習 2a」と「専門演習 2b」および「卒業研究」を履修し、これまでの学修の集大成として論文作成や作品制作に取り組み、その成果を発表する。

「学科語学科目」には、高度な言語リテラシーと言語コミュニケーション能力の育成のために、国際共通語としての英語に加え、日本に隣接する中国・朝鮮半島の言語が修得可能な科目群を設置する。語学が国際コミュニケーションのツールとして中心的な位置にあることは間違いなく、学科語学科目として独立した科目群となっている。

「講義科目」には、総合的な国際コミュニケーション能力育成のために不可欠な、文化、国際関係、メディア、

心理学の4分野において、諸現象についてのパーソナル、ローカル、グローバルな領域や側面からアプローチ可能な科目群を設置する。語学以外のそれらの講義科目を置くことで、国際コミュニケーションについての多角的・総合的な理解を促す。これらの科目には、「必修科目」、「選択必修科目」、「自由選択科目」「全員履修科目」、がある。「必修科目」は、卒業要件として必須の科目として、学科の学生全員が必ず修得しなければならない科目である。該当する科目として「コミュニケーション概論」がある。「選択必修科目」は、文化科目群、国際関係科目群、メディア科目群、心理学科目群それぞれについて、定められ単位数を取得することで総合的な国際コミュニケーション能力を身につけられるようになっている。「自由選択科目」は、国際学部のもうひとつの学科である国際観光学部や、他学部設置されている授業の一部であるが、国際コミュニケーション学科の学習効果を高め、総合的な国際コミュニケーション能力の涵養に役立つ科目が設置されている。「全員履修科目」は、学部共通科目「国際学への招待」、演習科目「大学入門ゼミ a」、「大学入門ゼミ b」、「専門演習アプローチ」が設置されている。定められた年次に全員が履修するこれらの科目によって、多様な分野から構成される学科及び学部の科目全体について体験する機会を与え、知的好奇心や学修のモチベーションを向上させる。

国際観光学科

国際観光学科では、以下のような科目区分と科目構成の理由を設定している。

【基礎科目】入学生の円滑な大学生活への移行を促すとともに大学での学びの基礎を身につけるため、以下の科目を設置する。

大学入門ゼミ a/大学入門ゼミ b/国際学への招待/大阪観光学/国際観光学入門/異文化理解入門/観光歴史学/観光地理学/観光経済学/観光経営学

【専門教育】大学教育における主体となる科目群である。

専門教育科目には「演習科目」、「講義科目」を設置する。

「演習科目」は、2年次から4年次にかけて、指導教員のもとそれぞれの専門領域において少人数の学生が自律的に研究活動を行う。1年次における基礎教育を通じた学びをふまえ、2年次前期に各教員の専門領域を把握し、その後の学修計画を明確化したうえで観光の学びにおける自らの研究領域を決定する「演習導入」を開講する。2年次後期には自ら決定した研究領域で研究を行うための基礎を習得するための「基礎演習」を開講する。3年次には観光を対象とするプロジェクトベースの学びを通じて専門性を高める「専門演習 1a」・「専門演習 1b」、4年次にはそれまでの研究の集大成として卒業研究として論文作成や制作活動に取り組み、その成果を発表・共有する「専門演習 2a」・「専門演習 2b」を開講する。

「講義科目」には、「必修科目」、「全員履修科目」、「選択必修科目」、「選択科目」がある。「必修科目」は、観光を学ぶ上で基盤となる知識・概念を習得するための「学科入門科目」として、「国際観光学入門」・「異文化理解入門」を開講する。「選択必修科目」は、専門基礎科目、専門基幹科目、専門発展科目、観光コミュニケーション科目を配置し、それぞれについて定められた単位数を取得することで、基礎から応用、発展までの幅広い観光学の知識の習得をめざす。2年次以降には国際コミュニケーション学科と共通の「プロジェクト型国内実習」と「プロジェクト型国際実習」も選択可能科目として開設する。「選択科目」は、国際観光学科における学修領域に近接する科目として開講するもので、教職課程科目や博物館学芸員課程に関する科目、学科独自のキャリア教育を提供する科目、国際的な教養を涵養するための科目を開設する。「全員履修科目」は、専門科目での学びに対してグローバルおよびローカルから関心・意欲を喚起する科目として、「国際学への招待」・「大阪観光学」を開講する。

3) 設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

①養成する人材像と科目との対応

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科においては、世界の現状を広い視野をもって把握でき、挑戦的かつ創造的思考力を持って主体的に新たな価値創出ができ、かつ多様な価値観と文化を理解し、グローバルな視点で他者との境界を越えたコミュニケーション力を発揮できる適応力を備えた人材の育成を目指す。そのため、国際コミュニケーション学に関する専門知識【CP1・CP2・CP3】を修得し、以下の能力・理解を有する、共生共栄可能な国際社会の実現に貢献できる人材を養成する。

1. 創造的思考力を持って主体的に新たな価値を創出することができる【CP7・CP8・CP12】。

2. 自他の多様な価値観と文化を理解している【CP1・CP2・CP9・CP10・CP11】。
3. グローバルな視点で他者との境界を越えたコミュニケーション力を発揮できる【CP4・CP5・CP6・CP9】。それぞれの人物像に対応するカリキュラム・ポリシーに沿った科目を設置している。

国際観光学科

国際観光学科においては、幅広い教養と国際観光学に関する専門知識を修得し、異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身につけ、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業と協力して問題解決に導くことができる、国際社会で活躍できる実践力のある人材の育成をめざす。そのため、幅広い教養と国際観光学に関する専門知識を修得し【CP1、CP2、CP3】、異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身につけ【CP1、CP2、CP4、CP5、CP6、CP9】、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業と協力して問題解決に導くことができる【CP7、CP8、CP9、CP10、CP11、CP12】。それぞれの人物像に対応するカリキュラム・ポリシーに沿った科目を設置している。

4) 学部・学科の特色と科目との対応

本学部が担う機能、特色としては、国際コミュニケーション学科・国際観光学科ともに、「総合的教養教育」「幅広い職業人養成」および「社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）」であるとする。

本学部のカリキュラムにおいては、日本語に加え、国際共通語としての英語、代表的なアジア言語である中国語、韓国語の学びを通して、コミュニケーション能力とグローバル時代にふさわしい教養の涵養が可能となるように設置する。カリキュラム全体を通して、21世紀型スキルとも称される、思考方法、働く方法、仕事に必要な情報、ICTリテラシー、またグローバル市民として世界で生きる方法、という、いわば総合的を講義・実践的学修を通して身につけることができるよう、配置された各授業科目の内容および教授方法により検討している。

また、本学部では、学生のキャリアゴールを念頭に置いた上での履修及び科目配置を行う。学生は履修モデルを参考に、定期的にゼミ担当教員の助言を受けながら、個別の目標に合わせた主体的な履修ができるような指導体制を置く。21世紀のグローバル・国際社会に必要な幅広い教養、異文化理解、コミュニケーション能力を身につける。その上で、卒業後の進路としては、これまでの実績をふまえ以下のように想定される。

国際コミュニケーション学科：マスコミ、情報通信業、商社、ホスピタリティ産業、教育関係 等

国際観光学科：国内外の旅行業や宿泊業、交通業などの観光関連業、公務員 等

の幅広い職業が進路として想定される。学生は、本学生全員に提供される、教養科目としてのキャリア科目を1年次より履修し、職業人としての教養や意識形成を行いながら、学部・学科内で提供される授業において、専門的知識や理論を身につけながら、「プロジェクト型国内実習」、「プロジェクト型国外実習」等の実践的科目を通して、体験的知識やスキルを修得することができる。

社会貢献として、国際コミュニケーション学科では国際交流を、国際観光学科では地域貢献と産学官連携を主として、その機能を担う。国際コミュニケーション学科の学生は、英語圏諸国・中国・台湾・韓国等への留学・海外研修参加へのモチベーションを高め、積極的に参加できるようカリキュラム内で言語・文化・地域・コミュニケーションについての学びを可能にするため多様なプログラムを配置する。国際観光学科では、フィールドワークやプロジェクト等の実践科目を多く設置することで、4年間を通して、具体的に地域や企業と協働し、体験的な学修を行う。

5) 必修科目・選択科目・自由科目等の構成とその理由

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、必修科目・選択必修科目・自由選択科目・全員履修科目を設置している。必修科目：学科の学生全員が必ず修得しなければならない科目である。該当科目として、基礎教育「コミュニケーション概論」が設置されている。国際コミュニケーション学部は、いわゆる学際系の学部として、既存の分野の考え方に従えば、多様な分野を横断的に学ぶことを特色としている。そこにすべての分野に共通する内容を設定するのは困難であり、この1科目のみとなっている。また、演習科目としては、「基礎演習」、「専門演習 1a」、「専門演習 1b」、「専門演習 2a」、「専門演習 2b」、「卒業研究」が設置されて

いる。それぞれ専門領域における学びを深め、自律的に研究活動を行う科目である。

選択必修科目：一定の範囲の科目群から、定められた単位数を取得しなければならない科目である。学科語学科目と講義科目に設置されている。学科語学科目では、卒業までに18単位の修得が必修であり、そのうち8単位は必ず英語科目群から修得しなければならない。講義科目では、文化科目群、国際関係科目群、心理科目群、メディア科目群から、それぞれ卒業までに4単位の習得が必修である。多様な分野を横断的に学ぶ学部カリキュラムの特色上、一つの分野のみに学習が偏ることなく、広く多様な分野を学ぶことで国際コミュニケーションについての多角的・総合的な理解を促す。

自由選択科目：国際学部国際観光学科や、他学部設置されている授業の一部であるが、国際コミュニケーション学科の学修効果を高め、総合的な国際コミュニケーション能力の涵養に役立つ科目が設置されている。

全員履修科目：定められた年次に全員が履修する科目である。学部共通科目「国際学への招待」、基礎教育「大学入門ゼミ a」、「大学入門ゼミ b」、演習科目「専門演習アプローチ」が設置されている。多様な分野から構成される学科及び学部の科目全体について体験する機会を与え、知的好奇心や学習のモチベーションを向上させる科目である。

国際観光学科

国際観光学科では、学科導入科目・学科入門科目・専門基礎科目・演習科目・専門基幹科目・全員履修科目・専門発展科目・国際教養科目・観光コミュニケーション科目から成り立つ。

必修科目：必修科目は、学科入門科目と専門演習科目から成る。学科入門科目は本学科において基本となる科目「国際観光学入門」と「異文化理解入門」が配置されており、全員が必ず履修し合格しなければ卒業できない科目である。専門演習科目は少人数の学生が自ら研究し、発表、討論、論文作成を行うための授業が配置されており、本学科の学習の軸となる科目であり、2年次では基礎演習、3年次では専門演習1ab、4年次では専門演習2ab及び卒業研究と年次が進むごとに専門性が高くなる。

選択必修科目：専門基礎科目、専門基幹科目、専門発展科目、観光コミュニケーション科目から成る。

専門基礎科目：上位年次に学習する専門科目の基礎となる科目「観光歴史学」「観光地理学」「観光経済学」「観光経営学」が配置されている。

専門基幹科目：国際観光学の専門的な学習をする上で中心となる科目が観光文化・観光計画・観光事業の3領域に分けて3科目ずつ配置されており、専門発展科目とともに国際観光学のダイナミズムを学ぶことができる。

専門発展科目：専門的な知識・技術を発展・応用させると共に、観光に関する幅広い視野を養うための科目を8つのカテゴリー（観光文化、観光計画、観光事業、国際理解、特別講義、特別演習、外国語特別講義、実習講義）に分類して配置されている。

観光コミュニケーション科目：国際的に通用する人材の育成に向け、コミュニケーション手段として必要な外国語能力を実践的に習得していくための科目を各自の語学学習能力に対応できるように配置している。言語の種類として英語・韓国語・中国語・日本語の4言語を選択することができる。

選択科目は、学科自由選択科目（国際教養科目）がある。学科自由選択科目は、教職課程科目や博物館学芸員課程に関する科目、学科独自のキャリア教育を提供する科目、国際学部国際コミュニケーション学科の専門科目、他学部の科目などを、「国際社会と規範」、「文化と交流」、「ビジネスとキャリア」の3つのカテゴリーに分類し、国際的な教養を涵養するために配置している。

6) 履修順序（配当年次）の考え方

国際コミュニケーション学科

基礎教育の「コミュニケーション概論」、「大学入門ゼミ a」、「大学入門ゼミ b」は、1年次に配当し、高校から大学の学習へのスムーズな移行を促す。専門教育である学科語学科目と講義科目には、基礎科目、発展科目、応用科目の区分がある。基礎科目は、初学者に向けて専門教育の初歩の内容を扱う科目であり、1年次以降に配当されている。発展科目は、基礎科目で学んだことを前提に、より専門性の高い内容を扱う科目であり、2年次以降に配当されている。応用科目も基礎科目で学んだことを前提に、より専門領域の学びを深める科目であり、2年次、あるいは3年次以降に配当されている。多くの科目が2年次以降受講できるようになっているのは、国際コミュニケーション学科の特性上、外国の協定校などへの留学を希望する学生が

多く、学科としてもそれを推奨しているため、その期間を確保するためできる限り柔軟な単位取得を可能にするためである。演習科目は、2年次に全員履修科目である「専門演習アプローチ」、必修科目である「基礎演習」が配当され、3年次に必修科目である「専門演習 1a」、「専門演習 1b」が配当され、4年次に必修科目である「専門演習 2a」、「専門演習 2b」が配当されている。

国際観光学科

1年次：学科導入科目、学科入門科目、専門基礎科目、大学入門ゼミ ab、観光調査法を履修し、国際観光学の入門的な内容を理解できる導入教育としている。また1年次から4年次まで多様な観光コミュニケーション科目を配当し、継続的なコミュニケーション能力の向上に努める。

2年次：観光文化・観光計画・観光事業の3領域に関する専門基礎科目を核として履修し、国際観光への多角的なアプローチを習得し、演習導入と基礎演習を専門演習への前段階の科目として履修するように配当している。2年次以降には、3領域の応用・発展的内容を専門的に理解し、世界の地域と観光や国際理解を促進するための専門発展科目を履修できる。また、特別講義、特別演習、プロジェクト型国内・国際実習も履修できるように配置している。なお、国際教養科目も2年次以降履修可能としている。

3年次：上記の科目に加えて、専門演習 1 と外国語特別講義など、語学科目の応用的な科目を配当している。

4年次：上記の科目に加えて、専門演習 2 と卒業研究を配当し、国際観光学科のさまざまな科目の学修内容を総合的に理解した上で、自ら設定した課題に応用して調査研究を行うことができるようにしている。

7) 科目の設定単位数の考え方

国際コミュニケーション学科

卒業に必要な単位数としては、一般教育の科目から30単位以上、学科の設置する専門教育の科目から72単位以上を含む合計124単位とする。学科の設置する必修科目の単位は必ず習得する必要がある。選択必修科目については、学科語学科目については合計18単位以上（英語を8単位以上）、講義科目の文化科目群、国際関係科目群、心理科目群、メディア科目群から、それぞれ4単位以上の習得する必要がある。

国際観光学科

卒業に必要な単位数としては、一般教育科目から30単位以上、学科の設置する専門教育科目から72単位以上を含む、合計124単位とする。学科の設置する必修科目の単位は必ず習得する必要がある。選択必修科目については、専門基礎科目から4単位以上、専門基礎科目から12単位以上、専門発展科目から16単位以上、観光コミュニケーション科目から12単位以上をそれぞれ習得する必要がある。

8) 教養教育

1) 教養教育に関する教育課程の編成方針

本学の教養教育は全学カリキュラム（一般教育科目・キャリア教育科目）である。編成方針の基盤は、以下に掲げる文書に明示される内容をふまえている。

◎中央教育審議会答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（平成30（2018）年11月26日）」

◎中央教育審議会大学分科会「教学マネジメント指針（令和2（2020）年1月22日）」

ここには高等教育改革を通して実現すべき方向性が記されている。その中でも特に、本学の全学カリキュラム（一般教育科目）では、次の2点を主眼に置き編成している。

1. 科目担当者は学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者がルーブリック等で確認できる教育を行う。
2. 多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質保証へ転換する。

これらは、「学修者本位の教育の実現」として集約できるものである。これによって、高次の教育の質保証を希求する本学では、一般教育科目及び学部・学科科目の全科目において、ルーブリック評価を導入することとなった。さらに、2040年に求められる人材像の定義として、

1. 総合的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持つこと。

2. その知識や技能を活用できること。
3. ジレンマの克服を含めたコミュニケーション能力を持つこと。
4. 自律的に責任ある行動をとれる人材であること。

以上の4点が掲げられている。そうした人材を育成するために求められる高等教育では、「何を教えたか」から、「何を学び、何を身に付けることができたのか」への転換がはかられていることが重要となる。それが、最終的には、「何が出来るようになったのか」に連動させていくことが肝要である。これをふまえ本学の全学カリキュラム（一般教育科目）では、「教育課程の編成」として、以下のような観点からカリキュラム編成を行っている。

1. 学位を与える課程全体としてのカリキュラムの構成を行うこと。
2. 学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えたい内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し理解が得られる体系的な内容となるよう構成すること。

この2点をふまえ、全学カリキュラム（一般教育科目）の編成を審議・検討する「全学カリキュラム委員会」において、「個々人の可能性を最大限に伸長する教育への転換」として合意し編成をしている。

ii) 全学カリキュラム

①一般教育科目のカテゴリー

本学の一般教育科目は、「次世代型実学教育」の一環として以下のように科目カテゴリー設計されている。

1. 語学群
2. 言語圏研究群
3. 人間・文化研究群
4. 歴史・社会研究群
5. 自然・環境研究群
6. 健康・スポーツ研究群
7. 情報とAIデータサイエンス研究群
8. 基盤教育科目群
9. 後期教養教育科目群
10. 自由選択科目群

②一般教育科目の概要

本学の一般教育科目は、教育理念にある「総合的な分析・判断能力」の養成や、「人間性豊かな人材」の育成を目的とする科目である。これらの科目は、各分野を研究する意義と意味、受講生の興味を喚起する内容となっている。特に、高大接続を意識しながら大学での学び方の重要な一点となる、受講内容を通して自発的に課題抽出し、考え、解を導き出せる講義設計を実施している。各授業内容は、科目担当者の研究成果をふまえた内容である。加えて2024年度から一般教育全科目は、本学が目的とする「次世代型実学教育」を実現する一貫として、学びの可視化をより明確にするために、各科目の講義内容のテーマを明示する。

③キャリア教育科目

本学のキャリア教育科目とは、人生100年時代の「社会人基礎力」及びSociety5.0社会を生き抜くための基盤形成を行う科目である。本科目は、スキルの体得にとどまらず、卒業後を意識して上記を育成するために設置されている。AIをはじめとして加速度的な進化を遂げる現代社会とその現実を見据えた時、自らを更新させる能力が求められている中で、本学がキャリア教育科目を通して養成する能力は、以下の3点となる。

- ・文章や情報を正確に読み解き対話する力
- ・科学的に思考・吟味し活用する力
- ・価値を見つけ生み出す感性と洞察力・好奇心および探求力

これらは、文部科学省が2018年に提示した「Society5.0に向けた人材育成」において明示された内容である。とりわけ、基礎学力のみならず文章・情報・データを的確に理解し、論理的思考が出来る人材となる必要がある。そのためには、読解力と共に他者との協働力が能力として求められる。その実施においては、社会的なスキルとして、思考・判断・表現を深めるコミュニケーション力が重要となる。卒業後に求められるリテラシー能力やロジカルシンキング力、クリティカルティンキング力は、進化し続けるAIを使いこなすための基盤である。それらの修得にあたっての根幹には、自分を常にアッ

アップデートする力を持つことで、恒常的な即戦力となれる基礎形成を行うことを目的としている。以上を体現するために、基礎から応用に至るまで段階的に履修できる環境を整備している。キャリアに関する諸科目を受講することで、本学部の全学生が、大学での学びを「人生100年時代」の第一歩とすると共に、自己の目標実現と実り豊かな人生を構築するための礎となる科目設定と教育の実現を行う。なお、本科目と連動して「インターンシップ準備講座」へと連動させていく。

④キャリア教育科目の特色

本科目群は、以下のように段階的履修が出来るようになっている。

- ◎基礎キャリアデザイン1 (1年次前期)
- ◎基礎キャリアデザイン2 (1年次後期)
- ◎発展キャリアデザイン (2年次前期)
- ◎応用キャリアデザイン (3年次前期)

本学は開学以来の一つの特色として、就職支援を行うことと共に就職率の高さがある。その証左として、ミッション・ステートメント(大学の使命)において「自由と清新の気風のもと、チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育て、幅広い教養を持つ国際的なビジネスパーソンとして成長させる」ことが明示されている。その実現のために、1年次前期より就職活動が開始される直前の3年次前期まで、学年進行に合わせてスキルのアップグレードをはかれる授業プログラムを組んでいる。

5. 教育方法・履修指導方法及び卒業要件

(1)教育方法

1) 授業の内容に応じた授業の方法

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、以下に掲げる7点の観点から授業の内容に応じたそれぞれの授業方法を実施する。

- ①学生は1年次よりゼミ担当者の助言を得ながら、自分の進路を見据え、主体的にそれぞれの履修計画を作成する。
- ②初年次のゼミ、専門演習等のゼミ、および語学科目は少人数制編成で行う。ゼミでは発表やグループ活動が中心となるため、専門的な学習内容を深めるだけでなく、自主性と協調性を伸ばすことも求められる。語学科目についてはレベルや目的に応じたクラス編成で、積極的な学習へと結びつける。
- ③学生が学びの主体となる教授法の工夫を各課程科目で実践する。さらに課程外においても、実践的に学ぶ機会を多数設けるなど、実践型実学教育を行う。
- ④各科目における成績評価には、公平でわかりやすい評価基準を示すとともに、必要に応じてフィードバックを行うことで、学生が自分の学習状況を把握し、改善することができるようにする。
- ⑤学修成果の蓄積と、定期的な振り返りや履修計画の見直しなど、学びの立案・実践・検証・行動(PDCA)を実施し、自己学習管理能力を向上させる。
- ⑥語学科目については、学生の目標に応じた基準への到達度合いを外部評価テスト等を利用して測り、基準を満たすよう指導する。
- ⑦学科語学科目と学科基幹科目の授業内容に応じた授業の方法の詳細は以下のとおりである。

学科語学科目：英語・中国語及び韓国語科目は、少人数編成から成り、すべての履修生が主体的・能動的に学べるような各授業の内容と、初級から、高度な内容まで、それぞれの目標に合わせて、積み上げて学修できるよう、体系的なカリキュラム構成としている。特に、英語については入学時にプレイスメントテストを実施し、習熟度別のクラス編成を行うことで学生のレベルに応じた指導を行い、国際コミュニケーションの学びの言語として、またビジネスに対応可能な英語、および英語圏への進学も念頭にいたアカデミックな内容など、学生の興味や目標に対応できるプログラムを置いている。中国語・韓国語についても、基礎からスタートして、それぞれの目標に合わせた授業選択が可能である。すべての語学科目について、聞く、読む、話す、書く、の4技能とインタラクションについて、学生たちが実践的に学び、コミュニケーション・ツールとして十分な語学力を修得できるよう構成されている。

学科基幹科目(4分野)：

文化科目分野；国際社会において実践的な外国語運用能力を獲得するために、歴史、文化、宗教などを手がかりとして異文化への造詣を深め、世界の多様性を理解する力を養う。当該分野の科目は、知識だけでなく、学習者主導型の事前調査学習や反転授業形式などを取り入れ、世界各地の文化的価値観の普遍性と多様性を理解するための分析的視角を身につける。

国際関係科目分野；日本を取り巻く社会情勢や国際関係などについて、一次史料や関連資料をもとに検証を行い、国際関係のなかで発生するさまざまな出来事の原因についての仮説を導く分析的視角を身につける。当該分野の科目は、単に知識を伝授するのではなく、学生に課題を提示し、学生が主体的に考え、資料収集や議論を通じ、世界の中での日本の立場を客観的に捉えることができるよう構成されている。

メディア科目分野；活字や映像、ソーシャル・ネットワークワーキング・サービス(SNS：Social Networking Service)やメディアイベントなど、さまざまな媒体におけるコミュニケーションの本質を理解し、日本を含めたグローバル・イシューを知り、情報に関する法的、社会的な枠組を理解する力を養う。情報文化の系譜をはじめ、広告や放送、ジャーナリズムなどのメディア表現を参考にメディアを主体的、批判的に読み解き、活用するメディア・リテラシーを学ぶ。

心理学科目分野；人の「心」のあり様に関する理解を深めるために、心理学の既存理論の紹介や例示により学修を進める。自己理解や他者理解、社会への理解、ひいては、多様な価値観や異文化への理解を深めるために、ワークへの取り組みと並行し、グループでの討論を通じ、問題解決に至る過程の理解を図り、思考力を養成するカリキュラム構成としている。心理学の研究手法や分析手法を身につけ、多様化する社会を分析・理解し、問題解決に向けてコンセンサスにたどりつくまでの心理過程を学ぶ。これらの心理学科目は、深い自己理解に基づいて人間の心の本質を見抜く力を培い、グローバルな視点で他者との境界を越えたコミュニケーション力を養えるよう構成されている。

実践科目分野；資料収集や文献調査およびフィールドワークを通じて、国内外の調査対象地域の現状や課題を把握すると共に、国際学の視点から問題解決力を養成するカリキュラム構成としている。現地実習で調査するべき事項をまとめた実習計画書作成にはじまり、現地での視察や聞き取り調査をふまえ、調査結果の取りまとめ方などを身につけることで、国際学の視点から地域社会や企業の問題解決に向けた提案を作成できる力を養う。

国際観光学科

国際観光学科の授業方法は、講義・演習・実習からなる。それぞれの授業形式にしたがって、学生が潜在的に有する能力を引き出していくことを基本として教育を実施する。

講義科目：受講生の学習意欲と関心を喚起させる資料教材や映像教材などを活用するだけでなく、学習支援ツールを用いた質疑応答や、グループワークなども取り入れるなどアクティブ・ラーニングを意識した授業を行う。観光コミュニケーション科目については、少人数編成からなり、すべての受講生が主体的・能動的に学べるような各授業の内容と、初級から高度な内容まで、それぞれの目標に合わせて積み上げ型で学修できるよう、体系的なカリキュラム構成としている。特に、英語については、入学時にプレイスメントテストを実施し、習熟度別のクラス編成を行うことで、学生のレベルに応じた指導を行う。

演習科目：指導教員のもと、少人数の学生が自立的に研究活動を行う。まず大学入門ゼミでは、1年次よりゼミ担当教員の助言を得ながら、主体的に履修計画を作成とともに、討論や発表を多く課す授業を行う。その後、基礎演習、専門演習では企業や地域との社会実践を伴うプロジェクトベースでの学びを提供し実践力を身につけられるようにする。また、学びの成果を論文や制作として取りまとめる。

実習科目：国内観光・国際観光の現場へ赴き、課題を発見し、その解決を提案する課題解決型の学びを、その準備から成果のとりまとめまでも含めて提供する。

2) 授業の方法に適した学生数の設定

国際コミュニケーション学科

基礎教育科目・専門科目 学部教育に関連する幅広い基礎知識を身につける基礎科目においては、150人以下のクラス編成とし、討論や発表が基本となる演習科目等の専門科目においては20人以下の少人数編成とする。

学科語学科目：外国語の効果的修得のために、英語、中国語および韓国語科目においては、全クラス20人以下の少人数編成とする。

学科科目(講義科目)：講義内でのワークへの取り組みや、受講生同士のグループ・ワークを含む、自らの学びを深めるアクティブ・ラーニングが実施される反転授業が行われるため、科目の特徴に合わせて、100～150人以下のクラス編成とする。

国際観光学科

1. 講義科目は学生数について特に定めてはいないが「観光コミュニケーション科目」についてはプレイスメントテストに基づき各自の習熟度に応じたクラス編成を行うことにより15～20名を目安とした少人数クラスとする。それ以外の科目については、受講者数が多い科目については150名を目安にクラス分割などの対応を行うとともに、毎年度教務委員会(全学)が検証を行い、適正な人数になるよう、時間割配置の見直しなどを行う。
2. 演習科目のうち全員が履修する「大学入門ゼミ a」・「大学入門ゼミ b」・「基礎演習」・「専門演習 1a」・「専門演習 1b」・「専門演習 2a」・「専門演習 2b」は、ほぼ全員の専任教員が担当することにより、10～15名程度の少人数クラスを編成する。選択科目である「プロジェクト型国内演習」と「プロジェクト型国際演習」についても同様の人数となるよう運用する。
3. 実習科目は学生数について特に定めてはいないが、おおむね5～15名程度の履修を想定している。それを超える履修がある場合には実習先やクラスを複数設定するなどの対応を行う。

3) 配当年次の設定

国際コミュニケーション学科

基礎教育：「コミュニケーション概論」、「大学入門ゼミ a」、「大学入門ゼミ b」は、1年次に配当し、高校から大学の学習へのスムーズな移行を促す。

専門教育：学科語学科目と講義科目には、基礎科目、発展科目、応用科目の区分がある。

基礎科目；初学者に向けて専門教育の初歩の内容を扱う科目であり、1年次以降に配当されている。

発展科目；基礎科目で学んだことを前提に、より専門性の高い内容を扱う科目であり、2年次以降に配当されている。

応用科目；基礎科目で学んだことを前提に、より専門領域の学びを深める科目であり、2年次、あるいは3年次以降に配当されている。

多くの科目が2年次以降受講できるようになっているのは、国際コミュニケーション学科の特性上、外国の協定校などへの留学を希望する学生が多く、学科としてもそれを推奨しているため、その期間を確保するためできる限り柔軟な単位取得を可能にするためである。

演習科目；2年次に全員履修科目である「専門演習アプローチ」、必修科目である「基礎演習」が配当され、3年次に必修科目である「専門演習 1a」、「専門演習 1b」が配当され、4年次に必修科目である「専門演習 2a」、「専門演習 2b」が配当されている。「専門演習 1a」「専門演習 1b」は、3年次配当科目であり、「専門演習 2a」「専門演習 2b」は、4年次配当科目である。「専門演習 2a」「専門演習 2b」は、原則として同一教員が継続担当することになっており、「専門演習 1a」「専門演習 1b」を修得しなければ履修出来ない。

卒業研究；「専門演習 2a」「専門演習 2b」の担当教員の科目を履修する。

国際観光学科

1年次：学部導入科目、学科導入科目、学科入門科目、専門基礎科目を設定しているほか、大学入門ゼミ ab や観光調査法を履修し、国際観光学の入門的な内容を理解できる導入教育としている。また1年次から4年次まで多様な観光コミュニケーション科目を配当し、継続的なコミュニケーション能力の向上に

努める。

2年次：観光文化・観光計画・観光事業の3領域に関する専門基幹科目を核として履修し、国際観光への多角的なアプローチを習得し、演習導入と基礎演習を専門演習への前段階の科目として履修するように配当している。2年次以降には、3領域の応用・発展的内容を専門的に理解し、世界の地域と観光や国際理解を促進するための専門発展科目を履修できる。また、特別講義、特別演習、プロジェクト型国内・国際実習も履修できるように配置している。なお、国際教養科目も2年次以降履修可能としている。

3年次：上記の科目に加えて、専門演習1abと外国語特別講義等、語学科目の応用的な科目を配当している。

4年次：上記の科目に加えて、専門演習2abと卒業研究を配当し、国際観光学科のさまざまな科目の学修内容を総合的に理解した上で、自ら設定した課題に応用して調査研究を行うことができるようにしている。

なお、2年次以降の基礎演習、専門演習1ab、専門演習2abは原則として同一教員が継続担当することになっており、それぞれの科目を習得しなければ、次の科目を履修できない。

(2) 履修指導方法

1) ガイダンス

履修指導は、入学段階で全学及び学部独自にオリエンテーション時間を1週間確保している。その期間に総合情報学部のカリキュラムの説明や授業履修の仕組み、Web上での履修登録の方法等を組織的に実施する。在学生への履修指導は、毎年度末の3月にリモート・オンデマンド・対面等多様な方法で実施する。全ての学生個々に一人の専任教員が指導教員となり、学業や学生生活全般について助言や指導を行う。全専任教員が毎週2コマ分のオフィスアワーズを設け、学生は指導教員のみならず全専任教員から必要に応じて指導を受けることができる。なお、全学生に大学からメールアドレスが付与されており、大学や専任教員から学生への連絡はWebシステムを通じて行われる。同システムは、全学生に対して掲示やメールによる連絡が可能であり、学籍番号指定によって特定の学生のみに掲示やメールによる連絡も行える。2020年以降は、リモートシステムに付属する機能を使用する場合もある。

2) 個別指導

国際コミュニケーション学科

学生は1年次から4年次まで、少人数編成のゼミに所属する。初年次は「大学入門ゼミ」として、大学で必要とされる学習スキルや態度を習得し、2年次以降は段階的に、より発展的科目の履修を通じて、知識の獲得だけでなく、自ら問題の解決策を提案し、発信できるような態度や能力を修得するように履修指導する。特に、3、4年次に所属する専門演習では、専門的知識をさらに深め、論理的な思考能力を身につけるだけでなく、1、2年次のうちに学んだコミュニケーション・スキル、言語スキル、情報リテラシーを効果的に用い、問題解決に向けた自律的な学修内容の発信や共有ができるように履修指導する。3・4年次に配当される専門演習各科目は、原則として同一教員が継続担当することとし、「専門演習1a」「専門演習1b」を修得しなければ履修出来ないことについて十分指導を行う。「卒業研究」においても、「専門演習2a」「専門演習2b」の担当教員の科目を履修するよう指導する。また、学生それぞれが将来の進路を想定した履修ができるように、初年次よりキャリア教育科目の履修によってキャリア形成に主体的に取り組む態度を体得していただくだけでなく、資格取得のための科目、社会人基礎力を高めるための体験型の科目、インターンシップ科目などを履修することで、実践力を身につけることができるように履修指導する。各自のキャリア目標を早くから定め、その後、各キャリア目標に応じた学びが行えるように、履修モデルによって、それぞれが4年間で、どのような科目履修を行うべきかをわかりやすく示し、系統だった履修ができるよう指導を行うとともに、特にキャリア教育科目については、より多くの科目を履修し、修得することが望ましいことについて履修指導する。その他、学期中にお出席アラートなどのITを活用し、各ゼミ教員と学部教職員が協同で学生への履修指導に取り組む。新入生への履修指導については、ITを活用した履修ガイダンスと新入生全体を対象とした対面の履修指導に加え、各ゼミ担当教員による履修指導を行う。その際、SA組織を活用し、学生目線に立った履修指導を並行することで、大学生活がスムーズにスタートできるよう指導する。さらに、4年間、少人数制のゼミに所属するフルセミナー制により、各ゼミ担当教員が、学生の目標や学期ごとのふり返りをもとに、きめ細やかな履修指導により、卒業まで支援する。

国際観光学科

個別指導はゼミの担当教員（1年次は「大学入門ゼミ a」、2年次は前年度「大学入門ゼミ b」、3年次は前年度「基礎演習」、4年次は前年度「専門演習 1b」）が行い、単位修得状況、成績、卒業要件などのプロフィールデータも用いながら学生一人ひとりの学修計画に助言し、適切な助言を行う。前述のガイダンスと同日に個別指導の時間を設けるほか、週に2コマ設けているオフィスアワーなどに個別に日時を設定する形での相談も受け付ける。1年次については「大学入門ゼミ a」のスケジュール・アシスタント(SA)を務める学生も助言を行う。年度末・年度初頭に限らず履修に関する相談に対応できる体制をとっており、学生はゼミの担当者や教務課に個別に相談できる。

(3) 卒業要件

卒業要件は、一般教育科目 30 単位以上、学科科目 72 単位以上、加えてキャリア教育科目・他学部受講科目を合わせて合計 124 単位以上修得することとする。

国際コミュニケーション学科

① 学科科目

学科必修科目である「グローバル・ディスカバリー」2 単位、演習科目群より「基礎演習」「専門演習 1a」「専門演習 1b」「専門演習 2a」「専門演習 2b」各 2 単位の合計 10 単位、学科語学科目においては「英語科目」群から 8 単位以上を含む合計 18 単位以上、学科専門科目においては「文化科目群」4 単位以上、「国際関係科目群」4 単位以上、「メディア科目群」4 単位以上、「心理学科目群」4 単位以上を修得し、学部導入科目、自由選択科目を合わせて、合計 72 単位以上修得することを卒業要件とする。

② 一般教育科目

一般教育科目のうち、「言語圏研究」群から 4 単位以上、「人間・文化研究」群から 6 単位以上、「歴史・社会研究」群から 6 単位以上、「自然・環境研究」群から 4 単位以上、「健康・スポーツ研究」群から 4 単位以上、「情報と AI・データサイエンス」群から 6 単位以上を修得し、「語学」群、「基盤教育科目」群、「後期教養科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計 30 単位以上を修得することを卒業要件とする。

国際観光学科

① 学科科目

学科入門科目から 4 単位、専門基礎科目から 4 単位以上、演習科目から 14 単位、専門基幹科目から 12 単位以上、専門発展科目から 16 単位以上、観光コミュニケーション科目から 12 単位以上を修得し、国際教養科目を合わせて合計 72 単位以上を修得することを卒業要件とする。

② 一般教育科目

一般教育科目のうち、「言語圏研究」群から 4 単位以上、「人間・文化研究」群から 6 単位以上、「歴史・社会研究」群から 6 単位以上、「自然・環境研究」群から 4 単位以上、「健康・スポーツ研究」群から 4 単位以上、「情報と AI・データサイエンス」群から 6 単位以上を修得し、「語学」群、「基盤教育科目」群、「後期教養科目」群、「自由選択科目」群と合わせて合計 30 単位以上を修得することを卒業要件とする。

3) 履修モデル

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科が目指す、養成する人材像を輩出するために、4 つの科目群を設けている。科目群ごとに履修モデルを設定する。【資料 2】

- ①文化科目群に重点を置く履修モデル
- ②国際関係科目群に重点を置く履修モデル
- ③メディア科目群に重点を置く履修モデル
- ④心理学科目群に重点を置く履修モデル

国際観光学科

国際観光学科が目指す、養成する人材像を輩出するために、3 つの領域を設けている。3 つの領域ごとに

履修モデルを設定する。【資料2 履修モデル】

- ①観光文化科目群に重点を置く履修モデル
- ②観光計画科目群に重点を置く履修モデル
- ③観光事業科目群に重点を置く履修モデル

4) 履修上限単位

学生の自学自習時間を適正に確保するために、1年間に履修登録できる単位の上限を設ける。履修上限は、1年次44単位、2年次46単位、3年次48単位、4年次48単位とし、計画的に学修が進むようにする。

5) 他大学における授業科目の履修

他大学における授業科目の履修については、さらに科目選択の自由度を持たせ、学びに対する意欲を高めることを目的としている。以下の大学と単位互換制度を締結し、修得した単位は、最大60単位まで、卒業要件に算入することを認める。

①大学コンソーシアム大阪

大阪大学、大阪教育大学、大阪公立大学、藍野大学、追手門学院大学、大阪青山大学、大阪医科薬科大学、大阪音楽大学、大阪学院大学、大阪観光大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大学、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪樟蔭女子大学、大阪商業大学、大阪女学院大学、大阪信愛学院大学、大阪成蹊大学、大阪総合保育大学、大阪体育大学、大阪電気通信大学、大阪人間科学大学、大阪保健医療大学、大手前大学、関西大学、関西福祉科学大学、近畿大学、四條畷学園大学、四天王寺大学、摂南大学、千里金蘭大学、相愛大学、宝塚大学、梅花女子大学、阪南大学、東大阪大学、桃山学院大学、森ノ宮医療大学の40大学が単位互換包括協定を締結している。

②他大学との単位互換

和歌山大学及び名桜大学とそれぞれ単位互換制度を設けている。

6) 留学生の在籍管理の方法や履修指導、生活指導

①留学生の在籍管理の方法

本学部に在籍する留学生については、原則、日本人学生と同様に在籍管理を行う。但し、日本在留に係る留学生固有の手続きについて遺漏のないように支援を行う。

②履修指導

留学生が日本で生活し、日本文化を理解するうえで不可欠な日本語の修得のため、日本語科目を用意している。入学後に実施するテストの結果により、必要な履修指導を行う。

③生活指導

留学生が入学後の生活に困らないように、担当の部署が、授業料の納付や奨学金の受給、在留手続き住居やアルバイト、日本人学生や地域との交流等について、サポートを行う。

6. 編入学定員を設定する場合の具体的計画

(1) 受入学生

- 1) 本学部では、各学科それぞれ2名の編入学定員の設定し、以下の学生を受け入れる。
 - i) 短期大学での2年間の就学期間を修了した者
 - ii) 大学4年間の就学期間を修了した者
 - iii) 高等専門学校での2年間修了した者
 - iv) 他大学で2年間の就学期間を終了した者

(2) 既修得単位の認定方法

1) 単位認定基準

「阪南大学編入学に関する規程」第5条に基づき定められた「編入学による単位認定基準」に即して、単位の認定を実施する。具体的には、本学編入学以前に修得した単位の認定については、70単位を上限として認定する。一般教育科目は、各群へ一括して30単位まで充当する。ただし、編入先学部は必要により充当単

位数を減ずることができる。一般教育科目の単位認定において、充当する単位数を越えた場合は、学科科目の各区分・分野へ一括して充当できる。ただし、編入先学部は必要により個別の科目へ単位認定することができる。編入先学部の資格に関する科目(諸課程科目)への認定は行わない。必要な場合、本学編入学以前の学修を、本学学則第10条の規定を準用して単位に換算する。なお、認定科目の成績評価は「N」(認定)とする。認定に際しては、「編入学による単位認定基準」をもとに作成された、「編入学生の単位認定方針」を用い、教務委員会において原案を作成し、教授会の審議によって認定を行う。

2) 単位認定方法

編入学による単位認定は以下の通りである。

◎一般教育科目：卒業要件30単位まで各群へ単位を一括して充当する

編入先学科は必要により充当単位数を減ずることができる。必修科目「AI・データサイエンス」については、読替え可能な科目があれば読替えるが無ければ履修が必要となる。一般教育科目に充当する単位数を超えた場合は、学科科目の各区分・分野へ一括して充当できる。ただし、編入先学科は必要により個別の科目へ単位認定することができる。

国際コミュニケーション学科

語学科目(英語・中国語・韓国語)として認定できるものは「編」「認定学科語学18」へ単位認定する。その他の単位数は「学科自由科目」の単位として認定する。

国際観光学科

語学科目として認定できるものは「観光コミュニケーション科目」へ単位認定する(最大12単位迄)。その他の単位数は、最初に「国際教養科目」として認定する(最大30単位迄)。それ以外の単位数は、「専門発展科目」の単位として認定する(最大10単位迄)。学科科目の単位認定にあたっては、必要により編入先学科の各区分・分野の個別科目へ単位認定することができる。

(3) 教育上の配慮等

編入学後の移行がスムーズに進むよう留意する。まず、「専門演習」選択の際に、既にゼミ選択を終えた他学生と比較し不利益を被らないよう、学生枠を事前に調整する。編入学生は、入学直後に選択に必要な情報として資料を提供されるので、それをもとにして、所属ゼミ選択を行う。入学後は、ゼミ担当者及び学部教務担当者、教務事務局により履修指導や大学生活への助言を行う。必要に応じて、複数名の教員の面談を受けた上で、ゼミ選択ができる環境を整備している。

(4) 履修モデル

編入後の履修モデルは、別紙【資料3】の通りである。【資料3 履修モデル(編入後)】

7. 取得可能な資格

国際学部国際コミュニケーション学科・国際観光学科では、学部設置する学科科目の修得や資格課程(卒業要件に含まない)を修得することにより、高等学校教諭一種免許状「商業」・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員の資格を取得することができる。特に、高等学校教諭一種免許状「商業」は、卒業要件等単位に含まれる科目の他、教職関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。教職課程の他、図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員は、何れもそれぞれの課程に関する科目の修得が必要となるが、資格取得が卒業の必須条件ではない。これらの国家資格の取得については、学部の卒業単位数を超えて関連科目を修得するため、卒業までの綿密な履修計画を適切に指導する。

国際コミュニケーション学科

免 許	種 類	条 件
高等学校教諭一種免許状「英語」 中学校教諭一種免許状「英語」	国家資格	卒業要件等単位に含まれる科目の他、教職関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。

		い。
図書館司書	国家資格	図書館司書関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
学校図書館司書教諭	国家資格	学校図書館司書教諭関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
博物館学芸員	国家資格	博物館学芸員関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
社会福祉主事	任用資格	社会福祉主事関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。

国際観光学科

免許	種類	条件
高等学校教諭一種免許状「地理歴史」 高等学校教諭一種免許状「公民」 中学校教諭一種免許状「社会」	国家資格	卒業要件等単位に含まれる科目の他、教職関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
図書館司書	国家資格	図書館司書関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
学校図書館司書教諭	国家資格	学校図書館司書教諭関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
博物館学芸員	国家資格	博物館学芸員関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。
社会福祉主事	任用資格	社会福祉主事関連科目の修得が必要となる。但し、資格取得が卒業の必須条件ではない。

8. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学部では、教育目的の達成のため、主体的に行動を起こせる人、他者と共に学び成長したいと思う人、自分の目標に向かって努力できる人、また、国際社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、社会発展に貢献する意志をもっている人材を受け入れる。

1) アドミッション・ポリシー

i) 求める能力

国際コミュニケーション学科

AP1 知識・理解：高等学校で学習する科目において、身につけるべき水準の知識を有すること。

AP2 思考・判断：広い視野で物事をとらえ、自分なりの考えをもつことができる。

AP3 関心・意欲：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。

AP4 技能・表現：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。

AP5 主体性・協調性：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。

本学の入試では、個別学力検査、大学入学共通テスト、調査書、面接、課題文、志望理由書、推薦書などを組み合わせて志願者の能力や資質を総合的に評価する。

国際観光学科

AP1 知識・理解：高等学校の主要教科・科目について、基礎的な知識を幅広く有している。とりわけ、高等学校までの履修教科のうち、受験科目に関わらず、「地理」「歴史」「国語」「英語」に関する基礎的な内容を身につけている。

AP2 思考・判断：ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

AP3 関心・意欲：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。

AP4 技能・表現：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。

AP5 主体性・協調性：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。

ii) 求める学生像

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科が求める学生像は、以下の通りである。

1. 探究心を持ち、他者と共に学び成長できる人。
2. グローバル社会で通用する語学運用能力を身に付けたい人。
3. 在学中に留学をして、自分の可能性を広げたい意欲のある人。
4. 世界の国や地域の民族・政治・社会・歴史・文化・宗教などについて学びたい人。
5. 心理学・マスコミュニケーション・メディア・異文化理解について学びたい人。
6. 国際社会に通用する教養・コミュニケーション能力を身につけ、それを活かす職業に就きたい人。
7. 将来の目標を設定して、継続的にキャリアアップを目指せる人。
8. 日本および世界の発展に貢献したいという意志がある人。

国際観光学科

国際観光学科が求める学生像は、以下の通りである。

1. 観光を通して異文化や自文化を理解するとともに、必要なコミュニケーション力を養うことによって、国際社会や地域社会で活躍したい人。
2. 国内外の多様な文化に興味を抱き、それらが持つ意味や可能性をホストとゲストの双方の視点から学ぶことで、幅広く活用したい人。
3. 地域社会と積極的にかかわる中で、観光のもつ多面的な手法を学び、生活者と観光者ともに魅力ある地域づくりに向けて貢献したい人。
4. 観光にかかわる事業や産業に関心を持ち、ビジネスやマーケティングの知識を身につけ、社会においてその能力を発揮したい人。
5. グローバルな視野から国際社会や地域社会における様々な問題に関心を持ち、身につけた知識をこれらの解決に役立てたい人。

(2) 選抜の方法

1) 総合型選抜

i) 総合型選抜入試

総合型選抜入試は、学力試験だけでは見出すことのできない能力・個性・適性・意欲・目的意識・将来性等を調査書等の提出書類と面接・プレゼンテーション等によって多面的・総合的に評価・選抜する。

総合型選抜入試は、志望する学部・学科の求める人物像との適合性、自らを成長させ続ける意欲、高校生活で得た経験や経験に基づいた将来の夢やビジョン等について大学が一人一人の学生と十分な時間をかけて対話し、評価・選抜する。

ii) 資格活用型選抜入試

資格活用型選抜入試は、社会で活躍するために自身のキャリアアップを積極的にはかることができる人材を育成することが目的であるため、主体的に計画し試行錯誤を繰り返しながら自らを成長させ続ける意欲、高校生活で得た経験やその経験に基づいた将来やビジョンを持った学生を評価・選抜する。

iii) スポーツ・文化特別推薦入試

スポーツ・文化推薦入試は、書類審査と口頭試問等によって総合的に評価・選抜する。特に、高等学校において課外活動として本学が指定する種目のクラブに所属し、本学が認める実績を持ち、人物的にも優秀であると出身学校長の推薦があるとともに、なおかつ本学が指定するクラブ活動に意欲があり、本学当該クラブ顧問からの推薦があることを出願資格としている。

iv) スポーツ特別推薦入試

スポーツ特別推薦入試は、書類審査と口頭試問等によって総合的に評価・選抜する。特に、高等学校にお

いて課外活動として本学が指定する種目のクラブに所属し、学校長が参加を認めているスポーツ競技大会で本学が認める成績をおさめ、人物的にも優秀であると出身学校長の推薦があるとともに、なおかつ本学が指定するクラブ活動に意欲があり、本学当該クラブ顧問からの推薦があることを出願資格としている。

2) 学校推薦型選抜

i) 指定校推薦入試

指定校推薦入試は、高等学校からの推薦を得るに至った努力・活動・実績等をもとに大学入学後も継続して学習する意欲の高い者を評価・選抜する。

ii) 公募制推薦入試

公募制推薦入試は、本学独自の基礎能力検査と調査書等の提出書類および高等学校在学中に取得した資格によって総合的に評価・選抜する。高等学校等在学中に取得した資格に関しては、本学が指定する資格の取得を学習に対する意欲と評価し、出願時に申請された場合は、その資格を得点化することによって評価・選抜する。

3) 一般選抜

i) 一般入試

一般入試では、本学の教育目的を理解し、志望する学部で学びたいと強く希望する者で、主に学力試験によって評価・選抜する。一般入試は、本学独自の学力試験によって選抜する。有能有為な人物の育成を重視する本学では、2教科または3教科の入学試験を実施することによって、特定の科目に秀でた者を評価・選抜する。

ii) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テスト利用入試は、本学では入試は実施せず、「大学入学共通テスト」の受験生の中から、本学への入学を強く希望する者を選抜する。有能有為な人物の育成を重視する本学では、大学入学共通テスト利用入試（前期）において2教科または3教科の入学試験を実施することによって、特定の科目に秀でた者を評価・選抜する。

4) その他

i) 帰国生徒入試

帰国生徒入試は、外国で学校教育を受け、本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類と口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

ii) 社会人入試

社会人入試は、社会経験をもち本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類と口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

iii) 外国人留学生入試

外国人留学生入試は、本学の教育目的を理解し、本学部で学びたいと強く希望する者で、本学が定める出願資格を満たしていることを条件に、入学後の学修計画書等の提出書類を基に日本語による口頭試問等によって総合的に評価し選抜する。

iv) 3年次編入学試験

すでに大学や短期大学等で学んだ学生で、本学部での学修に強い目的意識をもつ者を面接等により評価し選抜する。

4) 科目等履修生等(該当する場合)

基本的に、科目等履修生として本学部で学びたい者は、書類提出後、学部長及び学部選出の教務委員によ

る面談をふまえて判断する。

5) 入試方法の区分ごとの募集人員

国際コミュニケーション学科

＜総合選抜型＞	
総合型選抜入試	15名
資格活用型選抜入試	15名
スポーツ・文化、スポーツ特別推薦入試	若干名
＜学校推薦型選抜＞	
指定校、公募制推薦入試	40名
＜一般入試＞	
一般入試	70名
大学入学共通テスト利用入試	15名
＜その他＞	
帰国生徒、外国人留学生	若干名
合計	155名

国際観光学科

＜総合選抜型＞	
総合型選抜入試	17名
資格活用型選抜入試	12名
スポーツ・文化、スポーツ特別推薦入試	若干名
＜学校推薦型選抜＞	
指定校、公募制推薦入試	40名
＜一般入試＞	
一般入試	60名
大学入学共通テスト利用入試	15名
＜その他＞	
帰国生徒、外国人留学生	若干名
合計	144名

(3) 選抜の体制

本学部はアドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、公正な入学者選抜を実施している。学生受け入れの適切性について本学部執行部が随時検証を行うと共にその結果を教授会で定期的に報告を行う。本学部の入学者選抜の方法は、個別学力検査・大学入学共通テスト・調査書・面接・課題文・志望理由書・推薦書等を組み合わせて、志願者の能力や資質を総合的に評価するものである。適切な入学者選抜のために、全学的委員会として入試委員会及び入試実行委員会を置く。それぞれの委員会において選抜体制を整備し公正な入学者選抜を実施している。

(4) 選抜の基準

本学部の選抜基準は、それぞれの学科として以下の選考方法を実施する。

【総合型選抜】

総合型選抜入試：

個人面接・課題レポート(小論文)及び提出書類(指定課題等)によって能力をのびたいという意欲・計画性・表現力等を総合的に評価し選考する。

総合型選抜入試(資格活用型)：

個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考スポーツ特別推薦入試・スポーツ文化推薦入試：個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書・クラブに関するレポート等)によって総合的に選考する。

【学校推薦型選抜】

指定校推薦入試：

個人面接(含口頭試問)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

公募制推薦入試：

基礎能力検査と調査書及び資格の点数化(申請者のみ)によって選考する。

【一般選抜】

一般入試：

独自試験(国語、英語、選択科目<数学①、数学②、日本史、世界史>から2教科又は3教科)によって選考する。

大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テスト(国語、外国語、数学、地理歴史、公民から2教科又は3教科以上)によって選考する。

【その他】

外国人留学生入試：

個人面接(口頭試問含む)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって選考する。

帰国生徒入試・社会人入試：

個人面接(口頭試問含む)及び提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

3年次編入学試験：

個人面接(口頭試問含む)および提出書類(入学後の学修計画書等)によって総合的に選考する。

(5) 留学生の受入れ

留学生の受入れについては、学習意欲が高く、4年間大学生活を継続できる留学生の受け入れを目指している。そのため、出願条件である日本語能力(日本留学試験の成績)の基準を明確化し、経費支弁状況の確認を行う。

日本語能力の基準は以下のいずれかに該当する者である。

- ・ 日本留学試験 240 点以上
- ・ 日本語能力試験 N2 以上合格
- ・ ビジネス日本語能力テスト J2 以上合格

経費支弁状況の把握については、

在籍管理については、年度当初に個別面接を実施し、修学状況、生活状況等について把握確認の上、必要に応じ指導助言を行うことにより、資格外活動許可の要件(週 28 時間等)についても周知に努め、留学生をサポートする。日本での就職を希望する留学生に対しては、キャリアセンターと連携し、独自の留学生対象キャリアガイダンス、外国人雇用サービスセンター登録会の開催、インターンシッププログラム等の紹介を行う等の就職支援を行う。

(6) 社会人の受入れ

社会経験(職業または家事に従事)を有する入学時満 23 歳以上で、別途設ける基準を満たす社会人を、若干名受け入れる。

(7) 科目等履修生等

生涯学習に対するニーズの増大と多様化という時代の要請に応えるため、科目等履修生および聴講生の受け入れを行う。ただし、教員免許状・司書・司書教諭・博物館学芸員資格の取得を目的とする場合は、本学卒業生のみ受け入れる。また、大学では 2019 年度より、社会人が学び続ける機会を提供し、新たに必要とされる知識や技術を身につけていくことを支援する「リカレント教育」制度を採用しており、所定の科目を学ぶことにより履修証明書を交付することとなっている。

9. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員配置の考え方

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、世界の現状を広い視野をもって把握でき、挑戦的かつ創造的思考力を持って主体的に行動し、かつ多様な価値観と文化を理解し、グローバルな視点で地域や文化の違いを超えたコミュニケーション力を発揮できる適応力を備えた人材を養成するために相応しい教員組織を編成した。

開設時の専任教員は、教授14名・准教授3名・助教1名の18名で構成する。主要授業科目については、専任の教授または准教授が当たる。学科語学科目については、ネイティブ・スピーカーを配置する。学科4領域の科目の一部は、国際観光学科との共有科目であるため、当該科目は国際観光学科専任教員を兼担として配置している。

国際観光学科

国際観光学科では、幅広い教養と国際観光に関する専門知識を修得し、異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身につけ、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業等で問題解決に導くことができる、国際社会で活躍できる実践力のある人材を養成するために相応しい教員組織を編成した。

開設時の専任教員は、教授11名、准教授5名の16名で構成する。主要授業科目については、専任の教授または准教授が当たる。なお、観光コミュニケーション科目および専門発展科目、国際教養科目の一部については、国際コミュニケーション学科との共有科目であるため、国際コミュニケーション学科専任教員を兼担として配置する。

(2) 研究分野及び研究体制

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科では、中心的な研究分野は「文学分野」とし、文学、外国語教育、言語学、歴史学、政治学、心理学、マス・コミュニケーションおよびメディアなどの諸分野をその研究対象とする。

それらの研究体制については、教員個々の研究を全学的に研究部がサポートを行っている。

国際観光学科

国際観光学科では、中心的な研究分野は「文学」・「社会学・社会福祉学」とし、社会学、文化人類学、地理学、歴史学、経営学、政治学、文学、地域・文化研究、都市計画や観光まちづくり、交通航空やホテル旅館など、国際観光の現場と関わる諸分野を研究対象とする。

それらの研究体制については、教員個々の研究を全学的に研究部がサポートを行っている。

(3) 教員組織の年齢構成

国際コミュニケーション学科

教員組織の年齢構成は、完成年度の3月31日時点において17名で、年代別内訳は30代1人、40代2人、50代7人、60代7人となる見込みである。本学の定年退職年齢は67歳であり、開設時(18名)から完成年度(17名)までに定年に達する専任教員はいないが、助教(任期付き)1名は退職する予定である。よって、教育研究水準の維持向上には支障はなく、年齢バランスにおいても大きくバランスを欠いていないため、教育研究の活性化にも支障はないと考えている。

国際観光学科

教員組織の年齢構成は、完成年度の3月31日時点において16名で、年代別内訳は40代1人、50代10人、60代5人となる見込みである。本学の定年退職年齢は67歳であり、開設時(16名)から完成年度(16名)までに定年に達する専任教員はいない。よって、教育研究水準の維持向上には支障はなく、年齢バランスにおいても適正な水準であり、教育研究の活性化にも支障はないと考えている。

10. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学は、多様な研究の推進・充実を掲げている。その実施体制は、研究部が中心となり、推進を行う。研究を行うための環境整備として、教員一人に一部屋の研究室を用意するとともに、教員個人に一人あたり年間63万円の研究費を割り当てている。また、一定の勤務年数を経過した専任教員には、1年間もしくは半年間、国内外の研究機関に派遣する研究・研修制度を設けている。加えて、国際学会において発表する場合の旅費支援制度を設け、研究成果公開促進を後押ししている。

専任教員は全員、大学の付属機関である産業経済研究所に所属しており、研究所独自の研究支援制度である「助成研究制度」や著作や翻訳を助成する「叢書刊行制度」、外国研究者短期招聘制度を申請することができるようにしており、本学部における研究環境は整っていると考えている。

なお、専任教員の研究記録並びに産業経済研究所事業として助成を受けた研究成果は『産業経済研究所年報』に掲載し、研究機関リポジトリへの登録を通じ公開する他、一般市民を対象にした公開講座を定期的に実施することで、知の還元を行っていきたいと考えている。

11. 施設・設備等の整備計画

(1) 校地・運動場の整備計画

本学は、学生の意欲をかきたて、質の高い学びの場としての機能を有していることが、教育にふさわしい環境であると考えている。本学部を設置する本キャンパス(大阪府松原市天美東5丁目4丁目33号)は、大阪市内(「大阪阿部野橋」駅)から電車(近鉄南大阪線)で12分、最寄り駅の「河内天美」駅から徒歩6分という交通至便な場所に立地している。

1) 校地の整備計画

本学部の教育研究活動は、本キャンパスで行う。なお、大学設置基準上、校地に算入される面積は101,210.16㎡となり、設置基準面積42,280㎡(収容定員4,228名)の約2.4倍の面積を保有するため、特に校地の整備は行わない。

2) 学生の休息等空地の整備

本キャンパスには、6号館前に芝生広場(1,951.1㎡)を設けるとともに、中庭広場(3,632.4㎡)にもベンチやテーブルを配置し、学生が自由に休息できるようにしている。さらに、新しく建設する教室棟には、屋外にテラスを設置するなど、学生が緑に囲まれた空間で休息、交流等ができるように配慮している。後述するように、建て替える新棟は、学生のキャンパス滞留時間を意識した設計となっている。

3) 運動場の整備状況

本キャンパス敷地内には第1グラウンドを設置している。その同一敷地以外に、第2グラウンド(高校と共用)、高見の里グラウンド(高校と共用)、及び羽曳野グラウンドを有している。なお、本キャンパスには5号館として体育館仕様のGYC HALL(5,057㎡)を設置している。

i) 第1グラウンド

本キャンパス敷地内にあり、人工芝のグラウンドとして、学生が休憩時間に自由に利用できるようにしている。

敷地面積：6,658㎡

施設概要：多目的グラウンド・陸上トラックレーン

利用計画：正課授業・課外活動・学生の自由利用

ii) 第2グラウンド

本キャンパス敷地内から徒歩5分で移動可能なため、学生の移動等に特段の支障はない。

敷地面積：17,413㎡

施設概要：アーチェリー場・ゴルフ練習場・阪南大学高等学校用硬式野球グラウンド

利用計画：課外活動

iii) 高見の里グラウンド

本キャンパス敷地内からの距離は約 2.5 km であるが、近鉄南大阪線沿線にあり、学生の移動等に特段の支障はない。

敷地面積：32,122 m²

施設概要：サッカー用人工芝グラウンド(阪南大学・阪南大学高等学校個別に設置)・テニスコート他

利用計画：課外活動

iv) 羽曳野グラウンド

本キャンパスからの距離は約 9 km であるが、本学所有のバスが本キャンパスと羽曳野グラウンドを往復(無料)しており、学生の利便性を図っている。

敷地面積：12,636 m²

施設概要：硬式野球グラウンド

利用計画：課外活動

v) GYC HALL

敷地面積：5,057 m²

施設概要：体育関連授業使用及びクラブ等活動用

利用計画：正課活動・課外活動

(2) 校舎等施設の整備計画

本学における教育施設と今後の整備計画については、以下の通りである。

1) 校舎の整備計画

本学は、校舎等施設は全学共通で使用する。同一法人内の高等学校との共用利用は行わない。今般の新学部設置に併せて、既存の 4 号館(4 階建て 4,492.27 m²)及び 7 号館(2 階建て 1022.20 m²)を解体撤去し、跡地に教室棟(5 階建て 9,889.5 m²)を建設する。新教室棟は、全学部使用の教室棟として、令和 6 年 4 月からの供用開始を予定している。大学設置基準上、校舎に算入される面積は 41,961.17 m² となり、設置基準上の校舎面積 20,340 m² の約 2.1 倍の面積を保有する。

【新教室等の特徴】

1. 大小 48 教室・総座席数約 4,100 席を備えた学びのシンボルと BYOD やアクティブ・ラーニングを実践する充実した学修環境。
2. 開放感のある屋外緑化テラスと緑を望むコモンスペースの設置による学生たちの憩いと交流の実現。
3. 自然エネルギーを活用し SDGs を意識した快適かつ省資源・省エネルギーに貢献するデザインの採用。ここに記すように、自然環境を意識しながら、学生の自主的・能動的な学修を促進することを明確に意識した設計と造形となっている。

本学部の教育課程、授業形態、学生人数等を実施するために、新教室棟と既存校舎を既存学部と共用し使用する。教室等以外の施設として、スチューデント・コモンズ、保健室、学生相談室、図書館内に AV ホール等を整備している。スチューデント・コモンズは、レポートや論文の作成、グループでの課題や資料作成が自由にできる場所として、机を自由に動かしてアクティブに学習することを可能にしています。スチューデント・コモンズには、語学学習ができるグローバルスペースや学習支援室も設置しています。

本学部の授業形態、履修人数を踏まえ、施設・設備の利用については特に支障がないものと考えている。【資料 5 国際学部時間割配置】

2) 教員研究室の整備計画

本学部の専任教員が使用する教員研究室は、本キャンパスの中心に位置する 8 号館に配置している。専任教員 1 名につき個室 1 室(約 20~22 m²)を配置し、オフィスアワーズ等における学生のプライバシー確保にも配慮している。研究室については、空調設備の更新工事・電源容量の増強工事を施しさらなる環境整備を行った。

3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は図書館を本キャンパス 1 号館の 2 階、3 階、4 階に設置している。図書館は、延べ床面積 5,042 m² で、蔵書冊数は、約 55 万冊を所蔵している。

2 階は、メディアフロアで、インターネットラウンジ、AV ホール、和雑誌・洋雑誌のコーナー、新書・文庫コーナー、資格・就職関連コーナー、コミュニティルーム、カウンター、閲覧席等を備えている。

また、学部教育に合わせた資料を展示する特設コーナーを配置している。

3階は、一般図書（社会科学、人文・自然科学）、参考図書、大阪関係図書、テーマ図書、新着図書の各コーナー、共同研究室、カウンター、閲覧席等を備えている。

4階は、事務室、書庫、貴重書室、マイクロ資料室、個人研究室を備えている。

全フロアを通して多目的な学修研究活動を支援できる環境を提供するという考え方で整備を行っている。図書館の開館時間は、授業期間中の平日 9:00 から 20:00 まで、土曜日は 9:00 から 17:00、授業期間以外の平日は 9:00 から 17:00 である。

図書資料は、本学部開設時に大学全体として、図書約 571,766 冊、雑誌 2,252 種、視聴覚資料 9,188 点を配置する見込みである。

また、図書館に来館しない場合でも、資料の提供が出来るように、電子書籍など電子情報リソースの割合を増やし、デジタル資料に対応した新しいシステムの構築を進めている。

デジタルデータベース、電子ジャーナルについては、EBSCO Discovery Service、日経テレコン、毎日・読売・朝日新聞、日経 BP 記事検索サービス、ジャパンナレッジ Lib、magazine plus、東洋経済 DCL、eol、eol 企業ナビなどを利用している。

図書資料の閲覧に際しては、744 席の閲覧席を配置している。レファレンスサービスは、図書館カウンターで行い、調査・研究などを行う上で必要とする文献や情報に、効率的にたどり着けるように以下のサポートを行っている。

- ・図書館の利用や資料に関する質問への回答
- ・図書館の蔵書検索(OPAC)のサポート
- ・必要とする情報を探し出すための方法や手段についてのアドバイス
- ・知りたい情報についての資料や情報を提供する事項調査
- ・求める資料について所在を調べる所蔵調査
- ・他大学図書館への所蔵調査および訪問利用のための紹介状の発行、複写や図書を取り寄せする相互利用サービス
- ・インターネットによる文献・情報検索のサポート
- ・契約データベースの代行検索

検索手法については、EBSCO Discovery Service、日経テレコン、毎日・読売・朝日新聞、日経 BP 記事検索サービス、ジャパンナレッジ Lib、magazine plus、東洋経済 DCL、eol、eol 企業ナビなど学外・自宅からでも利用可能になっている。

以上のことから、本学部の学修及び教育研究上に必要な図書等資料を整備を適切におこなっていると考えている。

12. 管理運営

(1) 教学面における管理運営の体制

本学学則第 29 条において、「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」と規定しており、学長は教育研究を含む校務全般をつかさどる。また、同学則第 29 条第 2 項において「副学長は、学長を助け、学長の命を受けて教育研究に関する校務をつかさどる。」と規定しており、副学長（2 名）は、学長の命を受けて、教育研究に関する校務をつかさどる。同学則第 31 条において、「各学部の重要事項を審議し、教育研究に関する専門的な観点から学長に意見を述べるため、本学の各学部の教授会を置く」と規定している。また、同学則第 30 条において、「管理運営上の全学的な重要事項を審議するため、本学に評議会を置く。」と規定している。その他の主な委員会としては、学部長会、全学人事委員会、内部質保証推進委員会などを設置し、教学組織の適切な運営を図る。具体的には、下記に掲げる諸会議を通して、学長のリーダーシップの下で大学の管理運営が実施されている。

1) 教授会

教授会の構成員は、各学部にも所属する専任の教授・准教授・講師及び助教としている。教授会は、定例教授会を月 1 回開催する。教授会における審議事項は教授会等規則で具体的に以下の事項を定め明記している。

1. 学生（研究生等を含む。以下同じ。）の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
2. 学位の授与に関する事項
3. 教育課程の編成及びその実施に関する事項

4. 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導、厚生補導及びその他の支援に関する事項
5. 学生の休学、復学、転部、転科、転学、退学、除籍、復籍及び再入学に関する事項
6. 学生の表彰及び懲戒に関する事項
7. 科目等履修生、聴講生、外国人留学生及び単位互換履修生に関する事項
8. 当該組織の教育活動等の状況について当該組織が行う評価に関する事項
9. 全学人事委員会への専任教員採用計画の発議に関する事項
10. 専任教員の採用における教育研究業績の審査及び選考に関する事項
11. 専任教員の昇任に関する事項
12. 専任教員の配置換及び兼務に関する事項
13. 非常勤教員の任免に関する事項
14. 当該組織の長及び各種委員の専攻に関する事項
15. 学長専攻規程第 15 条の規定による学長候補者の推薦に関する事項
16. 名誉教授の推薦に関する事項
17. 当該組織の入学定員及び教員数の変更に関する事項
18. 当該組織の廃止、変更及びキャンパスの移転に関する事項
19. 当該組織の予算及び決算に関する事項
20. 当該組織に係る諸規程の制定改廃に関する事項
21. 当該組織の運営に関する事項
22. 学長から審議を求められた教育及び研究に関する事項
23. その他当該組織に係る重要事項

2) 評議会

- i) 評議会は以下の評議員で構成し原則として月 1 回定例会議を開催する。
 1. 学長
 2. 副学長
 3. 各学部長及び大学院研究科長
 4. 各学部教授会選出の専任教員各 1 名
 5. 大学事務局長
- ii) 評議会の審議事項は以下の通りである。
 1. 学則その他大学の管理運営に関する重要な学内諸規程の制定改廃に関する事項
 2. 学部、学科、大学院研究科等の新設、増設、廃止及び入学定員の変更に関する事項
 3. 大学の予算及び決算に関する事項
 4. 大学の管理運営に関する重要な施策、施設及び組織に関する事項
 5. その他学長が必要と認める事項

3) その他の主な委員会組織

- i) 学部長会
各学部及び大学院研究科の運営に関する事項を相互に連絡・調整し、全学的な問題の協議のために設置する。
- ii) 全学人事委員会
各教授会の専任教員採用計画発議を受け、全学的視点に立って公正・適正な教員人事を行うために設置する。
- iii) 内部質保証推進委員会
教育研究及び管理運営等本学の諸側面を点検・評価し、その改革・改善を図り、全学の内部質保証の推進に責任を負うために設置する。

(2) 事務組織体制

本学部の管理運営に係る事務は、教務部（教務課、教育情報課）が中心となり、学長室（総務企画課、入試広報課）、学生部（学生支援課、キャリア支援課）、研究部（学術情報課、社会連携課）と連携して対応を行う。

学生の厚生補導については、学生部学生支援課が対応し、本学部の学生の支援を行う。

13. 自己点検・評価

平成3(1991)年に大学設置基準が改正され、「自己点検・評価」が規定されたことに伴い、本学の学則を改正した。学則第2条に「本学は、教育研究の向上を図り、前条(大学の目的)の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究、管理運営等について自己点検・評価を行う。」と規定した。この学則改正により、平成4(1992)年から、自己点検・評価を行い、平成7(1995)年には、自己点検・評価報告書として「第1回阪南大学白書」を発行した。自己点検・評価に基づき、本学は学部・設置等の改革を実施してきた。平成17(2005)年には、大学基準協会による認証評価を受審し、平成18(2006)年に大学基準に適合しているとの認定を受けた。平成24(2012)年には大学基準協会による2回目の認証評価を受審し、平成25(2013)年に大学基準に適合しているとの認定を得ている。さらに、令和元(2019)年に3回目の認証評価を受審し、令和2(2020)年に大学基準に適合しているとの認定を得ている。

(1) 基本方針

自己点検・評価の基本方針を以下の通り定めている。

1. 一定期間ごとに自己点検・評価等を実施し、結果を公表する。
2. 認証評価機関による大学評価を受審し、この結果に対して適切に対応する。
3. ホームページ等を通じて教育・研究活動および大学に関する情報を積極的に発信する。
4. 内部質保証システムを構築し、PDCAサイクルを有効に機能させる。

「1.」に定める通り、本学のホームページ上では、「阪南大学に対する大学評価(認証評価)結果」/「点検・評価報告書(申請用)」/「大学基礎データ(申請用)」を公表している。

(2) 実施体制

平成30(2018)年に自己点検・評価実施体制の大幅な刷新を行い、自己評価運営委員会は、内部質保証推進委員会と名称変更し、内部質保証推進委員会を全学の内部質保証の推進に責任を負う組織として設置している。内部質保証推進委員会のもと、以下の体制を構築している。

i) 内部質保証推進委員会

構成員

学長・副学長・各学部長・大学院研究科長・大学事務局長

委員会の役割：以下の事項を審議し、実施する。

1. 自己点検・評価の実施計画の策定及び実施に関する事項
2. 自己点検・評価の対象分野・領域、方法及び項目に関する事項
3. 自己点検・評価結果の総括、白書の作成及び公表に関する事項
4. 自己点検・評価結果に基づく改革・改善案策定及び実施に関する事項
5. 各種統計・資料等自己評価に必要な基礎データの収集・整備
6. その他本学の内部質保証の推進に関する事項

ii) 基本事項検討委員会

大学・学部・学科・大学院研究科の理念・目的・使命に関する事項を検討及び審議し、必要に応じて学内諸機関に諮問する。

構成員

学長が指名した副学長・各学部長・大学院研究科長・教務部長・学生部長・研究部長・入試担当部長・大学事務局長

委員会の役割

大学・学部・学科・大学院研究科の理念・目的・使命に関する事項を検討し、必要に応じて学内諸機関に諮問または関係者に出席を求め、その意見を聴取する。

iii) 全学自己評価実施委員会

各部局自己評価実施委員会の報告に基づき、全学の自己点検・評価を行い、内部質保証推進委員会に報告する。

構成員

学長が指名した副学長・教務部長・学生部長・研究部長・入試担当部長・学長室長・教務部事務部

長・学生部事務部長・研究部事務部長・法人部長

委員会の役割

各部署の自己評価実施委員会報告を基に全学の自己点検・評価を行い、内部質保証推進委員会に報告する。

iv) 各部署自己評価実施委員会

各学部及び大学院研究科に設置する実施委員会・各部署に設置する実施委員会委員会の役割

担当分野・領域について点検・評価を行う。

(3) 評価項目

以下の10項目について、自己点検・評価を実施する。

1. 理念・目的
2. 内部質保証
3. 教育研究組織
4. 教育課程・学習成果
5. 学生の受け入れ
6. 教員・教員組織
7. 学生支援
8. 教育研究等環境
9. 社会連携・社会貢献
10. 大学運営・財務

(4) 結果の活用・公表

自己点検・評価の結果、改善が必要な事項は、学長による課題及び改善点の明確化と、改善方針についての提示を受け、内部質保証推進委員会で審議すると共に、改善へむけてのアクションプランを具体的な内容として策定する手続きとなっている。その際、明確にPDCAサイクルを回していきながら、学生満足度の向上と、高等教育機関としての機能を具現化することを第一の目標として検証し、改善案を可視化している。また、自己点検・評価の結果については、令和元（2019）年度の「点検・評価報告書」と、認証評価結果をホームページで公表している。

(5) 自己点検・評価結果に対する外部による検証

自己点検・評価活動の客観性及び妥当性について、「外部評価実施要領」に基づき、第三者評価機関へ依頼し、検証を行っている。具体的には下記に掲げる通りである。当該各機関は、本学が包括協定を結ぶ松原市に所属する機関である。

1) 実施体制・実施方法

松原市役所および松原商工会議所による外部評価を、以下の項目について受けている。

- i) 教育活動の充実に向けた取組（松原商工会議所）
 - ・学部教育の充実と質の保証
 - ・大学院の充実
 - ・地域連携の推進
 - ・生涯教育の充実
- ii) 研究活動に充実に向けた取組（松原商工会議所）
 - ・研究の推進
 - ・研究支援体制の充実
 - ・図書館機能の充実
 - ・地域連携の推進
- iii) 学生支援活動に向けた取組（松原市役所）
 - ・修学に関する支援・充実
 - ・学生生活に関する支援・充実
 - ・就職に関する支援・充実

- ・卒業生との連携
- ・保護者との連携
- iv) 学生受入・広報活動の充実に向けた取組（松原市役所）
 - ・アドミッション・ポリシーに基づく多様な入学試験の実施
 - ・大学広報機能の充実
- v) 学園運営の充実に向けた取組（松原市役所）
 - ・自己点検・評価活動の実質化
 - ・大学運営体制の整備
 - ・社会的要請の達成
 - ・施設・環境の整備

2) 結果の活用

評価結果については、「外部評価報告書」として学長へ報告し、内部質保証推進委員会を通して各部局自己評価実施委員会へ結果報告と改善指示を行う。改善指示については、各部局における独自の課題とクロス検証することで、抽出された課題の整理を行った上で、毎年度の各部局における実施計画に反映させている。

14. 情報の公表

教育研究活動等の情報については、社会に対する説明責任を果たし、教育研究活動の質を向上させるため、本学ホームページで以下の通り公表している。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること
 - 1) 建学の理念・教育目的・ミッションステートメント・めざす大学像・3 ポリシー
<https://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
 - 1) 大学組織図（設置学部学科・大学院研究科等）
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000001u0m.html>
 - 2) 事務組織図
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000001ukd.html>
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - 1) 専任教員と非常勤教員比率・大学専任教員数・大学院担当教員数・専任教員年齢構成
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002nhu.html>
 - 2) 業績
<https://www.hannan-u.ac.jp/doctor/index.html>
- (4) 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数・収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
 - 1) 入学者に関する受入れ方針
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
 - 2) 入学者の数・収容定員及び在学する学生の数・卒業又は修了した者の数並びに進学者数
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002ose.html>
 - 3) 就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
<http://www.hannan-u.ac.jp/career/mrrf430000000n.jn.html>
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
 - 1) カリキュラム・ポリシー（学部・大学院）
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000000033y.html>
 - 2) 授業科目・カリキュラムマップ
<http://www.hannan-u.ac.jp/study/mrrf430000002u1f.html>
 - 3) 年間の授業の計画
<https://unipa.hannan-u.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp>
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
 - 1) ディプロマ・ポリシー（学部・大学院）

- <http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf43000001rcoc.html>
- 2) 修得可能学位
<http://www.hannan-u.ac.jp/study/mrrf430000002tpg.html>
- 3) 卒業必要単位数 (大学)
<https://www.hannan-u.ac.jp/study/n5fenj000000v12e.html>
- 4) 修了要件 (大学院)
<https://www.hannan-u.ac.jp/study/n5fenj000000v12e.html>
- (7)校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- 1) 主要校舎等建物の状況
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002o0b.html>
- 2) 施設紹介
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002nqx.html>
- (8)授業料・入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- 1) 学費関係
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002yee.html>
- (9)大学が行う学生の修学・進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- 1) 就職支援
<http://www.hannan-u.ac.jp/career/mrrf430000000gms.html>
- 2) 保健室
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf43000000h4z4.html>
- 3) 学生相談室
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002yv1.html>
- 4) 奨学金制度
<http://www.hannan-u.ac.jp/support/mrrf430000002x6j.html>
- (10)学位論文に係る評価に当たっての基準
<https://www.hannan-u.ac.jp/faculties/guraduate/n5fenj0000002ier2.html>
- (11)その他
- 1) 学則 (大学・大学院)
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002p6g.html>
- 2) 自己点検・評価報告書・認証評価の結果
<http://www.hannan-u.ac.jp/gaiyou/mrrf430000002ozf.html>
- 3) 財務状況・事業計画書・事業報告書
<https://www.hannan-u.ac.jp/corp/st9plj0000001nv1.html>

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1)授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画

本学では、教育開発及び教育支援を推進し、本学教育の充実及び発展に寄与することを目的とするため、大学教育センターを設置している。当該センターは、教職員等を対象とした講演会・シンポジウムを開催すると共に、学生の授業アンケートの集計・分析を行い、データを各学部提供し改善に繋げている。また、本学の中期ビジョンに掲げた Society5.0 に対応する AI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行うためそれを統轄する AI・データサイエンス教育研究所を令和 2(2020)年度 4 月に設置した。

1) 大学教育センター

大学教育センターは、「本学における教育開発及び教育支援を推進し、本学教育の充実及び発展に寄与すること」を目的とする。センター長は学長の指名した副学長が、副センター長には教務部長がその任にあたる。大学教育センターは、以下の事業を行うと共に、事業実施にあたり、各学部 FD 部会・研究科 FD 部会・SD 部会を置く。大学教育センターは、各部会との連携を図り全学的に運用する。

1. 導入教育の施策に関する事項
2. キャリア教育の施策に関する事項
3. 大学全体の FD・SD の基本方針等の策定と実施に関する事項

4. 学修支援の施策に関する事項
5. AI・データサイエンス教育の施策に関する事項
6. その他教育プログラムの開発及び教育支援に関する事項

2) AI・データサイエンス教育研究所

AI・データサイエンス教育研究所は、「Society5.0に対応するAI・データサイエンス教育及び基盤となる数理教育を全学的に行う」ことである。AI・データサイエンス研究所は、以下の事業を行う。

1. 全学的なAI・データサイエンスに関する教育の研究
2. 各学部の専門分野とAI・データサイエンスの連携に関する研究並びにAI・データサイエンスとのコラボレーション科目の授業設計
3. AI・データサイエンスに関する新たな知見の収集並びに各学部への情報提供・提言
4. その他前条の目的を達成するために必要と認められる事業

なお、本研究所が取り組む本学の数理・データサイエンス教育の取組の一部が、文部科学省より「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に2021年度認定されている。本学では、2019年度より正課教育として学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、適切に理解し、活用できる基礎的な能力を育成するための基盤形成をしてきた。大阪の私立総合大学では唯一の認定校となっている。

3) 国際学部の取組

本学部において、授業の内容及び方法の改善を図るために、大学教育センターの下に国際学部FD部会（仮称）を置く。FD部会では、学部としての課題を抽出し、その分析を行い、全学部構成員との情報共有のもとで、授業の内容及び方法の改善を推進する。

4) SD活動の取組

本学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、大学教育センターでは、SD部会において研修を企画している。研修は、毎年、事務職員を対象として、各自が求める知識とマネジメントスキルを向上させるために、外部団体が主催するセミナーへの参加を行っている。研修報告を共有し、教職員全体のスキルアップを図る。

16. 社会的・職業的自立に関する指導を行うための体制

(1) 教育課程内の取組

本学は、建学の精神として「すすんで世界に雄飛していくに足る 有能有為な人材、真の国際商業人の育成」と共に、ミッションステートメント(大学の使命)として「阪南大学は、自由と清新の気風のもと、チャレンジ精神旺盛な意欲ある学生を育て、幅広い教養を持つ国際的なビジネスパーソンとして成長させることを使命とします。」という教育理念を掲げる。その中で、学生個々の社会的・職業的な自立を目標とし、その実現に向かって必要な基盤となる人間力である「社会人基礎力」を育成するため、教育課程の内外において次の通りキャリア形成を促す教育を行っている。

1) キャリア教育

「キャリア教育科目の特色」で明記したように、本学の全学的なキャリア教育は、下記をkeywordsとして段階的履修の設計を行い、学年進行と共に積み上げ型教育を実施している。これらの座学による学修と併せて、2年次後期から3年次後期に至る課程の中で、各自が就業体験として「インターンシップ」に参加できる設計となっている。

- 1年次：自分の市場価値を高める
- 2年次：社会の仕組みを知る Step①
- 3年次：社会の仕組みを知る Step②

加えて、座学と就業体験というこの相互補完的な学びは、キャリアにのみ適応するものではない。一般教育科目・各学科科目・語学科目・副専攻科目と連動させながら、各自の学びに深さと厚みを造形できるようになっている。何よりも、「座学」とはいえ能動的な授業への参加が本科目群の特徴である。受講生同士のディスカッションやプレゼンテーション、リモートツールを使った意見の発信など、卒業後においても使いこなせるスキルの体得を目標として授業運営を行うものである。卒業所要単位取得のための学びではなく、自

発的な学修者になれるよう設計されたカリキュラムが本学のキャリア教育の特色である。

もう一点付け加えておくならば、本学には「キャリアゼミ」として、以下のような教育課程内での取り組みを行っている。具体的には、産学官連携を通じ、地域社会（企業や地域組織など）と本学とが双方向の協力関係を持ちながら地域社会の課題を発見し、解決する活動を通して、学生の社会人基礎力を育成することを目的としたゼミ活動である。このゼミ活動を通じて、前に踏み出す力（主体性・働きかけ力・実行力）、考え抜く力（課題発見力・計画力・創造力）、チームで働く力（発信力・傾聴力・柔軟性・情況把握力・規律性・ストレスコントロール力）を養成する。

2) 後期教養教育及び情報とAI データサイエンス教育

i) 後期教養教育 ……実学教育のバックボーンとなる教養をさらに学ぶ科目

一般教育・各学科科目での学びによる蓄積をふまえ、より深い教養教育を学べる環境として、後期教養教育科目が設置されている。これは、就職活動などを通して、卒業後が見えてきた大学生活の後期に、実学教育のバックボーンとなる教養をさらに学ぶことを目的としている。これらの学びは、思考力を養成することも含めた「深い教養」を体得する科目としての位置づけがなされた「阪南大学型リベラルアーツ」の学修体系である。一般教育科目と学科専門科目の学びの上に、さらに学問的興味に基づき知的経験値を積み上げる科目である。この科目がいわば目次の機能を果たし、3年次以降に社会人に必要な教養・知識および長く役立つ教養を切り口として科目設置を行う。このことにより、一般教育科目においても、1年次からの学修の積み上げを実現すると同時に、課題を様々な角度から考察する能力、成熟した市民として教養を身につける意義への気づきを与える。

ii) 情報とAI データサイエンス教育 ……Society5.0社会を生き抜くための人材の育成科目

Society5.0・AIの進化と普及・IoTやデータサイエンスなど高度情報技術の進展による社会や経済の変革により、社会は加速度的に変化している。特に2030年以降、2040年・2050年とその変化においては想像を超越した社会が到来すると予測されている。これらが作り出す未来では、あらゆる職種・業務でAIやデータサイエンス関連の知識が必要となる。各自が学ぶ学科専門科目を問わず、これらに関する基本的な知識と理解が、Society5.0社会を生き抜く上で求められることになる。そのための人材の育成科目である。

(2) 教育課程外の取組

3年次に入ると本格的な就職準備が開始される。本学では、学生一人ひとりが納得のいく進路を実現するために独自の「就職支援プログラム」が展開されている。就職市場の動向や就職活動への準備方法等の基礎知識のための「就職基礎ガイダンス」、「インターンシップ準備」・「書類作成」・「面接練習」・「筆記試験対策」等、各種テーマに応じた対策講座を随時開催することで学生の課題の抽出と対策を実施し、「キャリアカルテ」を使って学生の指導教員との情報共有を行う。将来の仕事像を具体化していくために、企業や業界の現状を学ぶ「業界研究セミナー」を実施し、採用選考本番に備える。さらに、本学と繋がりが深い企業と交流できる「学内企業説明会（合同・単独）」の実施や「個別相談」の強化を行い、早期の内定獲得をサポートする。

以上を通して、本学は経済産業省が提示する「社会人基礎力」の強化を行うと共に、学生の達成感と学びの可視化の一端として資格取得への奨励を行っている。初級・中級レベルの基礎を学ぶ学内資格講座と、上級・スペシャリストをめざす学外推薦講座を設定してレベルに応じた系統的な学修を行う。学内で実施する講座の受講料は低く設定しているため、学生にとって受講しやすくしている。以下に掲げるように、秘書検定では2021年度に、文部科学大臣賞を受賞している。

資格名	受賞年度	受賞内容	資格試験実施機関・団体
秘書検定	2015年度	団体優秀賞	公益財団法人実務技能検定協会
	2016年度	団体優秀賞	
	2017年度	団体優秀賞	
	2018年度	団体優秀賞	
	2019年度	団体優秀賞	
	2021年度	文部科学大臣賞	
色彩検定	2020年度	奨励賞	公益社団法人色彩検定協会
	2021年度	奨励賞	

ホテルビジネス実務検定	2020年度	優秀指導校賞	一般財団法人日本ホテル教育センター
サービス接遇実務検定	2021年度	団体優秀賞	公益財団法人実務技能検定協会

(3) 適切な体制の整備

本学では、学生の社会的・職業的自立に関する指導を含めたキャリア支援を行う組織として、キャリアセンターを置く。キャリアセンター長には学長が指名した副学長がその任にあたる。キャリアセンターには、キャリア委員会を設置し、キャリア委員会は、各学部代表の委員と当該センターに配置されるキャリア支援課職員とが、教学に配慮しながら、本学の「キャリア支援」に関する企画・立案を全学的に行っている。キャリア支援課は、本学のキャリア支援に関わる具体的な事業を推進している。当該学部開設以降も教職員協同のもとに学生のキャリア支援を推進する。

1) キャリアセンターの学生支援ポリシー

i) キャリアセンターでは、以下のポリシーを公表し、キャリアセンターと学生がこれを共有し、社会で活躍する自律した大人として成長する施策を行い、本学の特徴である「就職に強い「阪南大学」を実現する。

1. 自主性を磨く

就職活動は自分で考え、自分で行動する意志が大切である。就職支援は単にノウハウだけを伝えるのではなく、自ら進んで考え、行動する自主性の養成を行う。

2. think → action → never give up

まず考え、行動し、結果が出るまで諦めない学生の育成を目標として設定し実現する。初めて経験する就職活動への不安を払拭し、学生本位のヒヤリングと情報収集の方法をサポートする。

3. 職業観・人生観を育む

企業が実施する面接試験で問われる職業観を予め一緒に深く掘り下げる。就職相談では、その養成がなされているか否かの確認を積み重ねながら、学生が求める就職先の斡旋を納得いくまで継続する。

これらの実現にあたり対面・オンライン・オンデマンド等学生多様な対応を実施している。

2) 1年次からのキャリアサポート

i) キャリアセンターでは、下位年次から企業研究・インターシップ斡旋等のキャリアサポートを実施する。阪南大学就職支援ポリシーは、就職活動の結果、内定が取得できた点にゴールに置いていない就職支援観がある。就職できるだけでなく社会に出てから活躍できる人材の育成が本学のキャリア支援の目的である。

ii) 学修支援室との連携を行うことで、SPI試験や公務員試験対策等の誘導を行っている。加えて、1年次・2次学生が、やがて4年次になった際に理想の進路を実現するために、学生時代に取り組むべきテーマについて学ぶ「キャリアガイダンス」を実施し、早期の内から卒業後の進路を意識させるきっかけを提供している。

本学では、大学独自のキャリア形成支援体制を構築し、学生の進路実現に向けてきめ細かな支援を行っている。その取組結果として、平成30(2018)年度から令和4(2021)年度の5年間の就職率は、以下の通りの結果となっている。

就職決定実績 (数字は年度) [内定率=就職者数÷就職希望者×100]					
年度	2021(2022/3)	2020(2021/3)	2019(2020/3)	2018(2019/3)	2018(2019/3)
内定率	89.0%	88.2%	92.3%	92.6%	91.9%

キャリアセンターでは、企業等との密接なネットワーク構築と、卒業生との連携によって学生の就職内定率向上に繋げている。本学部においても、これまで実績のある就職先となる企業や事業所等に対して、就職先の確保のための関係構築の取組を早期に展開する。

阪南大学国際学部

設置の趣旨等を記載した書類

添付資料

【資料1】 養成する人材像と3つのポリシー関連図 (カリキュラムツリー)	・・・P2
【資料2】 履修モデル	・・・P9
【資料3】 履修モデル (編入生)	・・・P18
【資料4】 就業規則・阪南大学任期付教員任用規程	・・・P25
【資料5】 時間割配置	・・・P36

養成する人材像とカリキュラム・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・アドミッション・ポリシーとの相関図【国際コミュニケーション学科】

養成する人材像

世界の現状を広い視野をもって把握でき、 挑戦的かつ創造的思考力を持って主体的に行動し、かつ多様な価値観と文化を理解し、グローバルな視点で地域や文化の違いを超えたコミュニケーション力を発揮できる適応力を備えた人材を養成する。

ディプロマ・ポリシー

DP1 言語や多文化・異文化についての基礎的な知識、および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方と理解。	DP2 文化、国際関係、メディア、心理科目群からなる学際的分野における学びを通し修得する。グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びに個人(パーソナル)の行動や思考、それぞれについての基礎的・体系的知識。	DP3 自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈についてとその関連性への理解および知識。	DP4 コミュニケーション力日本語と特定の外国語を用い、高度な言語運用能力を身につける。同時に、現代社会の多様性を理解しううえで対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる。	DP5 情報リテラシー・情報通信技術(ICT)等を用いて多様な情報を収集・分析・整理し、モラルに則って効果的に活用することができる。	DP6 論理的思考力情報や知識を利用して、自然や社会現象を複眼的、論理的に分析し、言語化できる。	DP7 問題解決力社会にあるさまざまな問題の背景を理解し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決策を見いだすことができる。	DP8 社会人としての実践力体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。	DP9 多様性の理解と協調性自己と他者を理解し、多様な人々と協調・協力して行動できる。	DP10 倫理観と社会的責任自己の良心と社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義・基本的人権という人類普遍の価値を尊重し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。	DP11 自己管理能力自らを律して行動することで自己成長につなげることができる。	DP12 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォローアップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。
---	---	--	---	---	---	--	---	--	---	---	---

カリキュラム・ポリシー

CP1 1年次に「グローバル・ディスカバリー」を全員履修すること、言語や多文化・異文化についての基礎的な知識および心理的な側面を含めた総合的なコミュニケーションのあり方についての基礎知識を学ぶ。その上で、下記のような語学、心理科目、多文化、異文化を取り扱う科目、演習科目などを履修する。	CP2 1年次に国際コミュニケーション学科の学際的学びを構成する4分野である、文化科目群、国際関係科目群、メディア科目群、心理科目群において、それぞれの入門となる科目を学修し基礎知識を身につけた上で、それらの発展、応用となる科目を履修し、グローバルな世界の動き、ローカルな共同体のあり方、並びにパーソナルな行動や思考についての体系的知識を獲得する。	CP3 1年次に「大学入門ゼミa・b」を履修することで、自己や世界についての関心を高め、さらに下記のような4分野における発展科目、応用科目を履修することで、自己をとりまくローカルな社会が直面するさまざまな問題の背景にあるグローバルな意味や文脈に関する知識を獲得し、その関連性への理解を深める。	CP4 1年次に「大学入門ゼミa・b」を履修することで日本語の言語運用能力を向上させると同時に、外国語については全員履修の英語の基礎的科目、および中国語、韓国語の基礎科目を修得し、その後の発展科目、応用科目の履修により、高度な言語運用能力と多様な社会における対応力を身につけ、さらに自らの意見を発信できる力を体得する。	CP5 1年次に一般教育科目の「情報処理入門・応用」を履修すること、情報通信技術(ICT)等を用いた、データの収集・整理・分析を学び、その他のメディア科目群、および演習科目において、得られた情報をモラルに則って効果的に活用できる力、および多様な媒体による情報の真偽やその価値を批判的に評価し、正しく理解する能力を体得する。	CP6 1年次に履修する「大学入門ゼミa・b」などで大学に必要な論理的思考力の基礎を学び得た知識をもとに、演習科目をはじめ、学科の多くの科目において、情報や知識を論理的に分析し言語化できる力を体得する。	CP7 1年次に履修する「大学入門ゼミa・b」などで、問題解決のために必要な基礎を学び得た知識をもとに、演習科目の多くにおいて、社会問題を理解し解決に必要な情報の収集・整理・分析を行い解決策を提示できる力を体得する。	CP8 1年次から学科のカリキュラムの中で体系的に得た専門知識を将来の職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を4年間を通して身につける。また、1年次に「基礎キャリアデザイン1・2」を履修した上で、基礎、発展、応用と段階的にキャリア教育科目を修得することで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができるようになる。	CP9 1年次に履修する「大学入門ゼミa・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習1a・1b」「専門演習2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、多様な人々と協調・協力して行動できる力を体得する。	CP10 1年次に履修する「大学入門ゼミa・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習1a・1b」「専門演習2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、自らを律して行動することで自己成長につなげる力を体得する。	CP11 1年次に履修する「大学入門ゼミa・b」をはじめとし、少人数制の必修・演習科目である「基礎演習」「専門演習1a・1b」「専門演習2a・2b」、および下記のようなさまざまな科目を通して、自らを律して行動することで自己成長につなげる力を体得する。	CP12 4年間を通しての学びで獲得した知識・技能・態度など特に「専門演習1a・1b」「専門演習2a・2b」において、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、旺盛なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォローアップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。
--	---	---	--	--	--	---	---	---	--	--	--

カリキュラム・ポリシー

CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7	CP8	CP9	CP10	CP11	CP12
<p>DP1を体得するにあたって履修する科目 学科入門科目：グローバル・ディスカバリー演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：マスコミュニケーション論、対人コミュニケーション心理学 発展科目：異文化コミュニケーション論、コミュニケーションスキル実習 等</p>	<p>DP2を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：歴史と文化入門、国際関係入門、情報メディア入門、自己理解心理学入門、文化交流史1・2・3、英文学概論、米文学概論、日本の政治と外交、多文化社会論、地域政治文化論、対人コミュニケーション心理学 発展科目：都市文化論1・2・3、日本風俗研究、多様性の文化論、現代社会論、アジア国際関係論、グローバル・ガバナンス論、宗教と社会、国際関係論、音楽産業論、国際政治経済論、文化心理学等</p>	<p>DP3を体得するにあたって履修する科目 基礎教育科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、大学入門ゼミc 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：歴史と文化入門、国際関係入門、情報メディア入門、自己理解心理学入門、文化交流史1・2・3、英文学概論、米文学概論、日本の政治と外交、多文化社会論、地域政治文化論、対人コミュニケーション心理学 発展科目：都市文化論1・2・3、多様性の文化論、グローバル・ガバナンス論、宗教と社会、国際関係論、メディア・情報文化史、マスコミュニケーション論、社会心理学、発達心理学 等 応用科目：文学と宗教文化、国際政治経済論、国際政治経済論、音楽産業論、国際政治経済論、文化心理学等</p>	<p>DP4を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科語学科目：English Grammar, Oral English, 中国語コミュニケーション1, 2、韓国語コミュニケーション 学科専門科目：基礎科目：対人コミュニケーション心理学 発展科目：Debate and Discussion, ネットビジネス中国語、韓国語 応用科目：心理統計学Ⅱ 等</p>	<p>P5を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：情報メディア入門、メディア・情報文化史、心理統計学Ⅰ 等 発展科目：Debate and Discussion, 日本風俗研究、多様性の文化論 応用科目：心理統計学Ⅱ 等</p>	<p>DP6を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科語学科目：Writing in English, Debate and Discussion 等 学科専門科目：基礎科目：文化交流史1・2・3、英文学概論、米文学概論、多文化社会論、比較政治文化論、グローバル・イシュー、心理統計学Ⅰ 等 発展科目：都市文化論1・2・3、現代社会論、アジア国際関係論、グローバル・ガバナンス論、国際関係論、マスコミュニケーション論、異文化コミュニケーション論、社会心理学等 応用科目：文学と宗教文化、国際政治経済論、キャラクター論、音楽産業論、心理統計学Ⅱ 等</p>	<p>DP7を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科語学科目：Debate and Discussion 等 学科専門科目：基礎科目：文化交流史1・2・3、英文学概論、米文学概論、多文化社会論、比較政治文化論、グローバル・イシュー、心理統計学Ⅰ 等 発展科目：都市文化論1・2・3、現代社会論、アジア国際関係論、グローバル・ガバナンス論、国際関係論、マスコミュニケーション論、異文化コミュニケーション論、社会心理学等 応用科目：文学と宗教文化、国際政治経済論、キャラクター論、音楽産業論、福祉心理学、心理統計学Ⅱ 等</p>	<p>DP8を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科語学科目：Debate and Discussion, Business English, ネットビジネス中国語、中国語で日本案内、ポスト留学中国語、韓国語で日本案内、韓国語ビジネス、ポスト留学韓国語 等 学科専門科目：基礎科目：歴史と文化入門、文化交流史1・2・3、自己理解心理学入門、情報メディア入門、自己理解心理学入門、対人コミュニケーション心理学、異文化コミュニケーション心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学等 発展科目：文化交流史1・2・3、日本風俗研究、多様性の文化論、アジア国際関係論、宗教と社会、グローバル・イシュー、マスコミュニケーション論、放送文化論、広告文化論、消費者の心理、産業・組織心理学 等 応用科目：文学と宗教文化、キャラクター論、音楽産業論、文化心理学、福祉心理学等</p>	<p>DP9を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科語学科目：Debate and Discussion, Business English, 韓国語で日本案内、韓国語ビジネス、ポスト留学韓国語 等 学科専門科目：基礎科目：歴史と文化入門、文化交流史1・2・3、自己理解心理学入門、対人コミュニケーション心理学、異文化コミュニケーション心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学等 発展科目：日本風俗研究、多様性の文化論、現代社会論、宗教と社会、異文化コミュニケーション論、社会心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学、異文化コミュニケーション論、社会心理学等 応用科目：文化と言語化論、キャラクター論等</p>	<p>DP10を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：日本の政治と外交、多文化社会論、比較政治文化論、グローバル・イシュー 等 発展科目：現代社会論、アジア国際関係論、グローバル・ガバナンス論、宗教と社会、国際関係論、マスコミュニケーション論、メディア表現論、社会心理学、消費者の心理、産業・組織心理学 等 応用科目：文学と宗教文化、国際政治経済論、福祉心理学 等</p>	<p>P11を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミa、大学入門ゼミb、基礎演習、専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b 学科専門科目：基礎科目：歴史と文化入門、自己理解心理学入門、対人コミュニケーション心理学 等 発展科目：発達心理学、コミュニケーションスキル実習、消費者の心理、産業・組織心理学 等</p>	<p>DP12を体得するにあたって履修する科目 演習科目：専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b、学科専門科目：発展科目：コミュニケーションスキル実習 等</p>

アドミッション・ポリシー

AP1	AP4	AP2・AP3・AP4	AP3・AP5	AP1・AP2・AP3・AP4・AP5
<p>AP1: 高等学校で学習する科目において、身につけるべき水準の知識を有すること。</p>	<p>AP4: 自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。</p>	<p>AP2: 広い視野で物事をとらえ、自分なりの考えをもつことができる。 AP3: 旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP4: 自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。</p>	<p>AP3: 旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP5: 特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。</p>	<p>AP1: 高等学校で学習する科目において、身につけるべき水準の知識を有すること。 AP2: 広い視野で物事をとらえ、自分なりの考えをもつことができる。 AP3: 旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP4: 自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。 AP5: 特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。</p>

【知識・理解】

【汎用的技能】

【態度・志向性】

【総合的な学修経験と創造的思考力】

【国際学部 国際コミュニケーション学科 カリキュラムツリー】

学年	区分	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	
1年次	導入科目	国際学への招待			国際学への招待					国際学への招待	国際学への招待			
	必修科目	グローバル・ディスカバリー			グローバル・ディスカバリー									
	全員履修科目	マスコミュニケーション論	歴史と文化入門 情報メディア入門	歴史と文化入門 情報メディア入門	国際関係入門 対人コミュニケーション心理学	歴史と文化入門 情報メディア入門	大学入門ゼミ a・b	情報メディア入門	歴史と文化入門 情報メディア入門	歴史と文化入門 情報メディア入門	歴史と文化入門 情報メディア入門	大学入門ゼミ a・b	大学入門ゼミ a・b	
	選択必修科目	自己理解心理学入門/心理学研究法/対人コミュニケーション心理学 多文化社会論	国際関係入門/日本の政治と外交/多文化社会論/比較政治文化論	国際関係入門/日本の政治と外交/多文化社会論/比較政治文化論	対人コミュニケーション心理学	国際関係入門/日本の政治と外交/多文化社会論/比較政治文化論	心理統計学1	心理統計学1/心理学研究法	国際関係入門/日本の政治と外交/多文化社会論/比較政治文化論	心理統計学1	自己理解心理学入門/対人コミュニケーション心理学	国際関係入門/日本の政治と外交/多文化社会論/比較政治文化論	自己理解心理学入門/心理学研究法/対人コミュニケーション心理学	
2年次	必修科目	グローバル・ディスカバリー	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	基礎演習	
	全員履修科目	専門演習アプローチ			専門演習アプローチ									
	選択必修科目	グローバル・コミュニケーション論 心理学研究法/異文化コミュニケーション/社会学/宗教学/観光とホスピタリティの心理学	文化交流史1・2・3/英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論 現代社会論/アジア国際関係史/グローバル・ガバナンス論/国際協力論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/民間協力 (GPO/NPO) 論	グローバル・コミュニケーション論 異文化コミュニケーション/社会学/観光とホスピタリティの心理学	文化交流史1・2・3/英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論 現代社会論/アジア国際関係史/グローバル・ガバナンス論/国際協力論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/民間協力 (GPO/NPO) 論	メディア・情報文化史/マスコミュニケーション論 英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論 異文化コミュニケーション/社会学/観光とホスピタリティの心理学	心理統計学1	文化交流史1・2・3/英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論 メディア・情報文化史 現代社会論/アジア国際関係史/グローバル・ガバナンス論/国際協力論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/民間協力 (GPO/NPO) 論	文化交流史1・2・3/英文学概論/米文学概論/現代アメリカ文化論 メディア・情報文化史 現代社会論/アジア国際関係史/グローバル・ガバナンス論/国際協力論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/民間協力 (GPO/NPO) 論	グローバル・コミュニケーション論 消費者の心理学/産業・組織心理学	英文学概論/米文学概論 異文化コミュニケーション/社会学/観光とホスピタリティの心理学	現代社会論/アジア国際関係史/グローバル・ガバナンス論/国際協力論/宗教と社会/国際関係学/比較政治学/民間協力 (GPO/NPO) 論	グローバル・コミュニケーション論 心理学研究法/発達心理学/コミュニケーションズスキル実習/被服・化粧心理学/消費者の心理学/産業・組織心理学	コミュニケーションズスキル実習
	自由選択科目	特殊講義1・2		特殊講義1・2				特殊講義1・2		特殊講義1・2				

学年	区分	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12	
2年次	学科語学科目	Advanced Oral Communication 1 2/Presenting in English 1・2/ホスピタリティ英語1・2/資格ビジネス英語3・4			Advanced English Grammar 1・2/Advanced English Reading 1・2/Advanced Oral Communication 1 2/Presenting in English 1・2/ドラマで学ぶ英語/ホスピタリティ英語 1・2/資格ビジネス英語3・4/英語発音クリニック/英語音声学概論/英語学概論/第二言語習得概論		Advanced Oral Communication 1 2/Presenting in English 1・2/第二言語習得概論	Advanced Oral Communication 1・2	Advanced Oral Communication 1・2	Presenting in English 1・2/ホスピタリティ英語1・2/資格ビジネス英語3・4	英語学概論	Advanced Oral Communication 1・2	Advanced English Grammar 1・2/Advanced English Reading 1・2/Advanced Oral Communication 1 2/Presenting in English 1・2/ドラマで学ぶ英語/ホスピタリティ英語 1・2/資格ビジネス英語3・4/英語学概論	Advanced Oral Communication 1 2/Presenting in English 1・2
		日本語読解 2a, 2b/日本語聴解発音 2a, 2b/日本語レポート 2a, 2b/総合日本語a, b			韓国語実用会話1・2/韓国語コミュニケーション3・4/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1/ポスト留学韓国語		韓国語実用会話1・2/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1/ポスト留学韓国語	韓国語実用会話1・2/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1/ポスト留学韓国語	韓国語実用会話1・2/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1/ポスト留学韓国語	ポスト留学韓国語/韓国語ビジネス1・2		韓国語実用会話1・2/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1・2	韓国語実用会話1・2/韓国語で日本案内/接客のための中国語/中国語検定講座 a・b/韓国語ビジネス1・2	
3年次	必修科目	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	専門演習1a・1b	
	選択必修科目	メディア表現論 観光とホスピタリティの心理学/視覚・文化心理学	都市文化論 1・2・3/ 日本風俗研究/多様性の文化論/アジアの美術/ヨーロッパ芸術論	都市文化論 1・2・3/ 日本風俗研究/多様性の文化論/アジアの美術/ヨーロッパ芸術論	日本風俗研究/多様性の文化論	日本風俗研究/多様性の文化論	都市文化論 1・2・3/ アジアの美術/ヨーロッパ芸術論	都市文化論 1・2・3/ アジアの美術/ヨーロッパ芸術論	メディア表現論/広告文化論/放送文化論	メディア表現論/広告文化論/放送文化論	消費心理/産業・組織心理学	消費心理/産業・組織心理学	消費心理/産業・組織心理学	消費心理/産業・組織心理学
4年次	必修科目	専門演習2a・2b/	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	専門演習2a・2b	
	選択必修科目	文化心理学	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	音楽産業論 観光とホスピタリティの心理学/文化心理学	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	文化と言語化論/文学と宗教文化	
4年		Debate and Discussion/Topic Studies			Academic Reading 1・2/Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Debate and Discussion/Topic Studies	Academic Reading 1・2/Debate and Discussion/Topic Studies	Academic Reading 1・2/Debate and Discussion/Topic Studies	

学年 学年次	区分	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12
	学科語学 科目	韓国語コミュニケーション ビジネス日本語2a, 2b			韓国語コミュニケーション4/韓国語ビジネス1・2/ポスト留学韓国語	ポスト留学韓国語/韓国語ビジネス1・2	韓国語コミュニケーション4/韓国語ビジネス1・2/ポスト留学韓国語		ポスト留学韓国語/韓国語ビジネス1・2/韓国語コミュニケーション4	ポスト留学韓国語/韓国語で日本案内/韓国語ビジネス2		韓国語コミュニケーション3・4/ポスト留学韓国語/韓国語検定講座a・b/韓国語ビジネス1・2	
学年	区分	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12

漢習科目終了	特殊講義終了
文化	メディア
健康	心療
英語	中国語
日本語	韓国語

養成する人材像とカリキュラム・ポリシー・ディプロマ・ポリシー・アドミッション・ポリシーとの関連図【国際観光学科】

養成する人材像														
幅広い教養と国際観光に関する専門知識を修得し、異文化および自文化を理解した高度なコミュニケーション力と調査・分析力を身に付け、グローバルかつローカルな視点から地域社会や企業等で問題解決に導くことができる、国際社会で活躍できる実践力のある人材を養成する。														
ディプロマ・ポリシー														
DP1 異文化および自文化に関する専門的な知識を有している	DP2 社会、自然に関する事柄について幅広い視野から総合的に物事を判断できる専門的な知識を有している。	DP3 観光学の専門的な知識を有し体系的に理解している。	DP4 コミュニケーション力 英語と母国語の両語を用い、高度な言語運用能力を身につけるとともに、現代社会の多様性を理解し対外的対応力を身に付け、さらには自らの意見を発信できる。	DP5 情報リテラシー 情報通信技術(IT)を用いて多様な情報を収集、整理、分析し、モラルに即して効果的に活用することができる。	DP6 論理的思考力 論理的思考力を利用して、自然や社会現象を客観的、論理的に分析し、表現することができる。	DP7 問題解決力 グローバルかつローカルな視点からの社会調査を手法とし、地域社会や企業と協力して問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その解決策を見出すことができる。	DP8 社会人としての実践力 体系的に身につけた専門知識を職業や社会生活のなかに応用し、社会で有用とされる実践力を身につけている。また、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組むことができる。	DP9 多様性の理解と協働性 自己と他者を理解し、多様な人々と協同・協力して行動できる。	DP10 倫理観と社会的責任 自己の良心や社会の規範やルールに従って行動でき、社会の一員としての意識を持ち、平和・民主主義、基本的人権という人権意識の確立を尊し、権利と義務の理解の上に立って、社会発展に貢献する意志を持っている。	DP11 自己管理力 自ら設定した目標を達成するために、チャレンジ精神を持ちながら主体的に行動できる。	DP12 これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自ら立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決することができる。また、促進的なチャレンジ精神と創造的思考力を持って、目標実現のために状況に応じてリーダーシップやフォロワーシップを発揮し、必要な役割を能動的に果たすことができる。			
カリキュラム・ポリシー														
CP1 1年次から全員が「国際学への招待」・「大衆観光学」を履修し、国際学の視点と身近な自文化への関心を深めながら、「国際観光学入門」・「異文化理解入門」の履修により観光の本質を異文化・自文化理解にあることを認識する。また「専門基礎科目」と「専門発展科目」の「観光文化」科目を履修し異文化・自文化理解の手段として外国語運用能力を身につける。以上により、異文化および自文化に関する専門的な知識を獲得する。	CP2 1年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光と社会・自然の関わりについて理解するとともに、「専門基礎科目」・「専門基礎科目」においてさまざまな観点からその関係について整理し、手法を習得するとともに、2年次以降に「専門発展科目」の「観光実務実習」科目の科目を履修し観光の産業界や事業としての応用について理解を深めること、観光学の専門的な知識を有し体系的に理解できる能力を体得する。	CP3 1年次から全員が「国際観光学入門」を履修し、観光の概念や観光学の体系的知識を有し体系的に理解している。	CP4 1年次から全員が「大学入門ゼミ」を履修し社会現象の観察・理解・問題解決手法を身につけるとともに、「観光実務実習」科目の科目を履修し観光の産業界や事業としての応用について理解を深めること、観光学の専門的な知識を有し体系的に理解できる能力を体得する。	CP5 1年次から一般教養としての「情報リテラシー」を履修し情報通信技術(IT)の利活用スキルを身につけるとともに、「専門基礎科目」や「専門発展科目」のうちアクティブラーニングの一端としてITの利活用が求められる科目で実践することで、ITを用いて収集・分析・整理を行え、モラルに即して効果的に活用できる力を体得する。	CP6 ほぼすべての科目において対象に関する情報や知識を得るだけでなくその応用や知能を論理的に分析し表現できる力を体得する。	CP7 「演習科目」や一部の「専門発展科目」におけるプロジェクト型の授業を行う科目「現代企業事情」や「専門発展科目」における観光関連業界を対象とする科目を履修し企業・観光関連業界の動向や課題を捉え、あわせて「演習科目」において企業・地域社会との問題解決に取り組むことで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組む力を体得する。	CP8 1年次から4年次まで「現代企業事情」を受けるとともに、学部独自のキャリア教育を行う科目「現代企業事情」や「専門発展科目」における観光関連業界を対象とする科目を履修し企業・観光関連業界の動向や課題を捉え、あわせて「演習科目」において企業・地域社会との問題解決に取り組むことで、社会人としてのキャリア形成に主体的に取り組む力を体得する。	CP9 1年次から4年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観・協働性・社会的責任を重視しながら社会発展に貢献できる力を体得する。	CP10 1年次から4年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観・協働性・社会的責任を重視しながら社会発展に貢献できる力を体得する。	CP11 1年次から4年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観・協働性・社会的責任を重視しながら社会発展に貢献できる力を体得する。	CP12 1年次から4年次まですべてに配置される「演習科目」をはじめ、さまざまな科目において受講生同士あるいはその科目の対象フィールドを通じて倫理観・協働性・社会的責任を重視しながら社会発展に貢献できる力を体得する。			
DP1を体得するにあたって履修する科目 学修導入科目：国際学への招待 学修導入科目：大衆観光学 学修導入科目：国際観光学入門・異文化理解入門 専門基礎科目：比較文化論・観光人類学・旅の文化史等 専門発展科目：観光経済学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ等	DP2を体得するにあたって履修する科目 学修導入科目：国際観光学入門 専門基礎科目：観光社会学・観光地理学 専門基礎科目：観光経済学・観光経営学 専門基礎科目：観光計画論・観光資源論・観光実業論等 専門発展科目：レジャー文化論・観光学・観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ等	DP3を体得するにあたって履修する科目 学修導入科目：国際観光学入門 専門基礎科目：観光社会学・観光地理学 専門基礎科目：観光経済学・観光経営学 専門基礎科目：観光人類学・観光社会学 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ等	DP4を体得するにあたって履修する科目 専門発展科目：中国語観光研究・韓国語観光研究 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ等	DP5を体得するにあたって履修する科目 学修導入科目：大学入門ゼミ 専門基礎科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 専門発展科目：中国語観光研究・韓国語観光研究 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 観光コミュニケーション科目：英語コミュニケーション・メディアイングリッシュ等	DP6を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP7を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP8を体得するにあたって履修する科目 演習科目：基礎演習・専門演習・卒業研究 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP9を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究 専門基礎科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP10を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究 専門基礎科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP11を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究 専門基礎科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等	DP12を体得するにあたって履修する科目 演習科目：大学入門ゼミ・演習導入・基礎演習・専門演習・卒業研究 専門基礎科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等 専門発展科目：観光社会学・観光社会学・アジアの地域と観光・プロジェクト型国際・国際実習等			
カリキュラム・ポリシー														
CP1	CP2	CP3	CP4	CP5	CP6	CP7	CP8	CP9	CP10	CP11	CP12			
アドミッション・ポリシー														
AP1			AP4			AP2・AP3・AP4			AP3・AP5			AP1・AP2・AP3・AP4・AP5		
AP1：高等学校の主要教科・科目について、基礎的な知識を幅広く有している。とりわけ、高等学校までの履修教科のうち、実験科目に関わらず、「地理」「歴史」「英語」に関する基礎的な内容を身につけている。			AP4：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。			AP2：ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。 AP3：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP4：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。			AP3：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP5：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。			AP1：高等学校の主要教科・科目について、基礎的な知識を幅広く有している。とりわけ、高等学校までの履修教科のうち、実験科目に関わらず、「地理」「歴史」「英語」に関する基礎的な内容を身につけている。 AP2：ある事象に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。 AP3：旺盛な好奇心を持って、さまざまな問題について積極的に考えることができる。 AP4：自分の考えをわかりやすく伝えることができる。特別な技能を持っている。 AP5：特別活動や課外活動等において、他者と協力して物事を進めることができる。		
【知識・理解】			【汎用的技能】			【態度・志向性】			【総合的な学修態度と創造的的思考力】					

【国際学部 国際観光学科 カリキュラムツリー】

DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8	DP9	DP10	DP11	DP12
国際観光学入門 異文化理解入門	国際観光学入門	国際観光学入門			国際観光学入門 異文化理解入門				異文化理解入門		
国際学への招待 大版観光学				大学入門ゼミ	大学入門ゼミ			大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	大学入門ゼミ	
観光歴史学 観光地理学	観光歴史学 観光地理学	観光経済学 観光経営学			観光地理学 観光経済学			観光経済学			
英語コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ1、2			英語コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ1、2		英語コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ1、2					英語圏留学入門	
					基礎演習	基礎演習	基礎演習	演習導入 基礎演習	演習導入 基礎演習	演習導入 基礎演習	基礎演習
								観光経済学			
比較文化論 観光人類学	観光計画論 観光資源論	観光政策論 観光事業論		観光政策論	観光政策論 観光資源論			観光開発論	観光人類学 観光政策論		
観光民俗学 アジアの地域と観光	レジャー文化論 観光資源解説方法論	観光調査法 旅行ビジネス論		エコツーリズム論 アーバンツーリズム論		観光会計論 民間協力(NGO/NPO)論	宿泊産業論 ホスピタリティ産業論		国際協力論		
英語アドバンスト・コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ3、4			英語アドバンスト・コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ3、4		英語アドバンスト・コミュニケーション1、2 メディアイングリッシュ3、4					英語圏留学入門 通訳入門	
					専門演習 1	専門演習 1	専門演習 1	専門演習 1	専門演習 1	専門演習 1	専門演習 1
旅の文化史		観光人類学			観光開発論				観光開発論		
プロジェクト型国内実習	プロジェクト型国際実習	世界遺産論	観光交通論	観光情報論	食文化論 観光と芸術	国際平和論	観光企業論 現代企業事情	集客産業施設運営論 オセアニアの地域と観光	プロジェクト型国内実習 プロジェクト型国際実習	プロジェクト型国内実習 プロジェクト型国際実習	プロジェクト型国内実習 プロジェクト型国際実習
					ホスピタリティ英語1、2 Advanced English Reading 3、4					通訳入門	
					専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究	専門演習 2 卒業研究
					観光と宗教						

履修モデル 国際コミュニケーション学科(文化科目群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)			
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択							42	
	人間・文化研究群			哲学a 2 選択	哲学b 2 選択						
	歴史・社会研究群			日本文学a 2 選択							
	自然・環境研究群			日本史a 2 選択	日本史b 2 選択	政治学a 2 選択					
	健康・スポーツ研究群					統計学a 2 選択	統計学b 2 選択				
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	AI・データサイエンス入門1 2 選択	AI・データサイエンス入門2 2 選択						
	基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択								
後期教養科目群			社会人としての教養講座a 2 選択		正解のない問いの答えを考える 2 選択						
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択	発展キャリアデザイン 2 選択						6		
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修								2	
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	専門演習アプローチ 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修	16	
	学科語学科目	Basic English Grammar1 2 選択	Basic English Grammar2 2 選択			中国語コミュニケーション 2 選択	中国語コミュニケーション 2 選択				20
		Basic English Reading 1 1 選択	Basic English Reading 2 1 選択	Intermediate English Reading 1 1 選択	Intermediate English Reading 2 1 選択	韓国語コミュニケーション 2 選択	韓国語コミュニケーション 2 選択				
		Basic Oral Communication 1 1 選択	Basic Oral Communication 2 1 選択	Intermediate Oral Communication 1 1 選択	Intermediate Oral Communication 2 1 選択						
	文化科目群	歴史と文化入門 2 選択	文化交流史1 2 選択	日本風俗研究 2 選択	都市文化論3 2 選択	英文学概論 2 選択	文学と宗教文化 2 選択	文化と言語化論 2 選択	多様性の文化論 2 選択	24	
				現代アメリカ文化論 2 選択	ヨーロッパ芸術論 2 選択	文化交流史2 2 選択	都市文化論1 2 選択		都市文化論2 2 選択		
	国際関係科目群	国際関係入門 2 選択		現代社会論 2 選択						4	
メディア科目群	情報メディア入門 2 選択		広告文化論 2 選択						4		
心理学科目群	自己理解心理学入門 2 選択			文化心理学 2 選択					4		
総単位数	26	18	26	18	16	12	4	6	124		

	1年		2年		3年		4年		単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択							44
	人間・文化研究群			哲学a 2 選択	哲学b 2 選択					
	歴史・社会研究群			日本文学a 2 選択						
	自然・環境研究群			日本史a 2 選択	日本史b 2 選択	政治学a 2 選択				
	健康・スポーツ研究群			健康科学論a 2 選択	健康科学論b 2 選択	統計学a 2 選択	統計学b 2 選択			
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	AI・データサイエンス入門1 2 選択	AI・データサイエンス入門2 2 選択					
	基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択							
後期教養科目群			社会人としての教養講座a 2 選択		正解のない問いの答えを考える 2 選択	教養哲学 2 選択				
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択							4	
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修								2
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	専門演習アプローチ 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修	16
	学科語学科目	Advanced English Grammar1 2 選択 Advanced English Reading 1 1 選択 Advanced Oral Communication 1 1 選択	Advanced English Grammar2 2 選択 Advanced English Reading 2 1 選択 Advanced Oral Communication 2 1 選択	Debate and Discussion 1 選択 通訳入門 1 選択	Business English 1 選択 資格ビジネス英語2 1 選択	資格ビジネス英語3 1 選択 Writing in English1 1 選択	資格ビジネス英語4 1 選択 Writing in English2 1 選択	英語音声学概論 2 選択		18
	文化科目群	歴史と文化入門 2 選択	文化交流史1 2 選択							4
	国際関係科目群	国際関係入門 2 選択		アジア国際関係史 2 選択 グローバル・ガバナンス論 2 選択	ヨーロッパ芸術論 2 選択 日本の政治と外交 2 選択	文化交流史2 2 選択 国際平和論 2 選択	国際政治経済論 2 選択 宗教と社会 2 選択	民間協力(NGO/NPO)論 2 選択 現代社会論 2 選択	比較政治学 2 選択 国際協力論 2 選択	26
	メディア科目群	情報メディア入門 2 選択		広告文化論 2 選択						4
心理学科目群	自己理解心理学入門 2 選択			コミュニケーションスキル実習 2 選択					4	
総単位数	26	18	22	18	14	12	8	6	124	

履修モデル 国際コミュニケーション学科(メディア科目群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択						42	
	人間・文化研究群			哲学a 2 選択	哲学b 2 選択					
	歴史・社会研究群			日本文学a 2 選択						
	自然・環境研究群			日本史a 2 選択	日本史b 2 選択	政治学a 2 選択				
	健康・スポーツ研究群			健康科学論a 2 選択	健康科学論b 2 選択	統計学a 2 選択	統計学b 2 選択			
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	AI・データサイエンス入門1 2 選択	AI・データサイエンス入門2 2 選択					
	基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択							
後期教養科目群			社会人としての教養講座a 2 選択		正解のない問いの答えを考える 2 選択					
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択	発展キャリアデザイン 2 選択					6		
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択							2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修							2	
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	専門演習アブローチ 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修	16
	学科語学科目	Intermediate English Grammar1 2 選択	Intermediate English Grammar2 2 選択	中国語コミュニケーション1 2 選択	中国語コミュニケーション2 2 選択	Kpopとドラマで学ぶ韓国語 1 選択	ネットビジネス中国語 1 選択			18
		Intermediate English Reading 1 1 選択	Intermediate English Reading 2 1 選択	韓国語コミュニケーション1 2 選択	韓国語コミュニケーション2 2 選択					
		Intermediate Oral Communication 1 1 選択	Intermediate Oral Communication 2 1 選択							
	文化科目群	歴史と文化入門 2 選択	文化交流史1 2 選択				文学と宗教文化 2 選択	文化と言語化論 2 選択		8
	国際関係科目群	国際関係入門 2 選択			ヨーロッパ芸術論	文化交流史2 2 選択	比較政治学 2 選択			6
メディア科目群	情報メディア入門 2 選択		グローバル・イシュー 2 選択	マスコミュニケーション論 2 選択	音楽産業論 2 選択		キャラクター論 2 選択		18	
			メディア表現論 2 選択	広告文化論 2 選択	放送文化論 2 選択		メディア・情報文化史 2 選択			
心理学科目群	自己理解心理学入門 2 選択			社会心理学 2 選択		産業・組織心理学 2 選択			6	
総単位数	26	18	22	20	15	13	4	6	124	

履修モデル(心理学科目群)	1年		2年		3年		4年		単位数		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)			
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択							44	
	人間・文化研究群			哲学a 2 選択	哲学b 2 選択						
	歴史・社会研究群			日本文学a 2 選択							
	自然・環境研究群			日本史a 2 選択	日本史b 2 選択	政治学a 2 選択					
	健康・スポーツ研究群			健康科学論a 2 選択	健康科学論b 2 選択	統計学a 2 選択	統計学b 2 選択				
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	AI・データサイエンス入門1 2 選択	AI・データサイエンス入門2 2 選択						
			AI・データサイエンス総論 2 必修								
基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択									
後期教養科目群			社会人としての教養講座a 2 選択		正解のない問いの答えを考える 2 選択	教養哲学 2 選択					
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択							4		
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修								2	
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	専門演習アプローチ 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修	16	
	学科語学科目	Intermediate English Grammar1 2 選択	Intermediate English Grammar2 2 選択	ホスピタリティ英語1 1 選択	ホスピタリティ英語2 1 選択						18
		Intermediate English Reading 1 1 選択	Intermediate English Reading 2 1 選択	中国語コミュニケーション1 2 選択	中国語コミュニケーション2 2 選択						
		Intermediate Oral Communication 1 1 選択	Intermediate Oral Communication 2 1 選択	韓国語コミュニケーション1 2 選択	韓国語コミュニケーション2 2 選択						
	文化科目群	歴史と文化入門 2 選択			ヨーロッパ芸術論 2 選択					4	
	国際関係科目群	国際関係入門 2 選択				現代社会論 2 選択				4	
メディア科目群	情報メディア入門 2 選択		広告文化論 2 選択						4		
心理学科目群	自己理解心理学入門 2 選択	心理統計学1 2 選択	異文化コミュニケーション論 2 選択	社会心理学 2 選択	知覚・認知心理学 2 選択	文化心理学 2 選択	心理統計学2 2 選択	福祉心理学 2 選択	26		
			対人コミュニケーション心理学 2 選択	被服・化粧品心理学 2 選択	心理学研究法 2 選択	産業・組織心理学 2 選択	観光とホスピタリティの心 2 選択				
総単位数	26	18	25	21	12	8	6	4	124		

履修モデル 国際観光学科(観光文化群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	
一般教育科目	言語圏研究群 人間・文化研究群 歴史・社会研究群 自然・環境研究群 健康・スポーツ研究群 情報とAI・データサイエンス研究群 基礎教育科目群 後期教養科目群	英語圏研究a 2 選択 英語圏研究b 2 選択	英語圏研究a 2 選択 英語圏研究b 2 選択	外国文学a 2 選択 哲学a 2 選択 日本史a 2 選択 社会学a 2 選択 自然科学史a 2 選択 人間科学a 2 選択	外国文学b 2 選択 日本史b 2 選択 自然科学史b 2 選択 人間科学b 2 選択				34
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択							4
学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2
学科導入科目		大阪観光学 2 選択							2
学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修							4
専門基礎科目	観光歴史学 2 選択 観光経済学 2 選択	観光地理学 2 選択 観光経営学 2 選択							8
演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	演習導入 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	20
専門基幹科目			観光人類学 2 選択 観光政策論 2 選択 観光開発論 2 選択	比較文化論 2 選択 旅の文化史 2 選択 観光資源論 2 選択					12
専門発展科目					観光民俗学 2 選択 レジャー文化論 2 選択 世界遺産論 2 選択 アジアの地域と観光 2 選択	食文化論 2 選択 文化財論 2 選択 アメリカの地域と観光 2 選択 多文化社会論 2 選択	観光と芸術 2 選択 観光と宗教 2 選択 観光資源解説方法論 2 選択		22
国際教養科目					日本文化史a 2 選択	日本文化史b 2 選択			4
観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ1 1 選択	英語コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ2 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ3 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ4 1 選択					12
総単位数	21	23	23	19	12	12	8	6	124

履修モデル 国際観光学科(観光計画群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択						34	
	人間・文化研究群			地理学a 2 選択	地理学b 2 選択					
	歴史・社会研究群			倫理学a 2 選択						
	自然・環境研究群			経済学a 2 選択	経済学b 2 選択					
	健康・スポーツ研究群			政治学a 2 選択						
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	自然科学史a 2 選択	自然科学史b 2 選択					
	基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択	人間科学a 2 選択	人間科学b 2 選択					
	後期教養科目群		AI・データサイエンス総論 2 必修							
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択						4		
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択							2	
	学科導入科目		大阪観光学 2 選択						2	
	学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修						4	
	専門基礎科目	観光歴史学 2 選択	観光地理学 2 選択							8
		観光経済学 2 選択	観光経営学 2 選択							
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	演習導入 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	20
	専門基幹科目			観光計画論 2 選択	旅の文化史 2 選択					12
				観光政策論 2 選択	観光資源論 2 選択					
				観光開発論 2 選択	観光事業論 2 選択					
	専門発展科目			観光調査法 2 選択		エコツーリズム論 2 選択	移動の社会学 2 選択	レジャー文化論 2 選択		22
					コミュニティツーリズム論 2 選択	アーバンツーリズム論 2 選択	観光資源解説方法論 2 選択			
					アジアの地域と観光 2 選択	地域データ分析 2 選択				
					プロジェクト型国内実習1a 2 選択	プロジェクト型国内実習1b 2 選択				
国際教養科目					世界地誌学a 2 選択	世界地誌学b 2 選択			4	
観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1 2 選択	英語コミュニケーション2 2 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション1 2 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション2 2 選択					12	
	メディア・イングリッシュ1 1 選択	メディア・イングリッシュ2 1 選択	メディア・イングリッシュ3 1 選択	メディア・イングリッシュ4 1 選択						
総単位数	21	23	25	19	12	12	6	6	124	

履修モデル 国際観光学科(観光事業群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	
一般教育科目	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択	哲学a 2 選択 倫理学a 2 選択 経営学a 2 選択 経済学a 2 選択 自然科学史a 2 選択 人間科学a 2 選択	哲学b 2 選択 経営学b 2 選択 自然科学史b 2 選択 人間科学b 2 選択					34
言語圏研究群									
人間・文化研究群									
歴史・社会研究群									
自然・環境研究群									
健康・スポーツ研究群									
情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択							
		AI・データサイエンス総論 2 必修							
基礎教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択							
後期教養科目群									
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択							4
学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2
学科導入科目		大阪観光学 2 選択							2
学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修							4
専門基礎科目	観光歴史学 2 選択 観光経済学 2 選択	観光地理学 2 選択 観光経営学 2 選択							8
演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	演習導入 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	20
専門基幹科目			観光計画論 2 選択 観光マーケティング論 2 選択 観光開発論 2 選択	旅の文化史 2 選択 観光資源論 2 選択 観光事業論 2 選択					12
専門発展科目					旅行ビジネス論 2 選択 航空産業論 2 選択 宿泊産業論 2 選択 集客産業施設運営論 2 選択	観光交通論 2 選択 観光企業論 2 選択 ホスピタリティ産業論 2 選択 観光情報論 2 選択	レジャー文化論 2 選択 国際平和論 2 選択 グローバルガバナンス論 2 選択		22
国際教養科目					日本文化史a 2 選択	日本文化史b 2 選択			4
観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ1 1 選択	英語コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ2 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ3 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ4 1 選択					12
総単位数	21	23	23	19	12	12	8	6	124

履修モデル 国際観光学科(観光計画群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択						34	
	人間・文化研究群			地理学a 2 選択	地理学b 2 選択					
	歴史・社会研究群			倫理学a 2 選択						
	自然・環境研究群			経済学a 2 選択	経済学b 2 選択					
	健康・スポーツ研究群			政治学a 2 選択						
	情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択	自然科学史a 2 選択	自然科学史b 2 選択					
	基盤教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択	人間科学a 2 選択	人間科学b 2 選択					
	後期教養科目群		AI・データサイエンス総論 2 必修							
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択						4		
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択							2	
	学科導入科目		大阪観光学 2 選択						2	
	学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修						4	
	専門基礎科目	観光歴史学 2 選択	観光地理学 2 選択							8
		観光経済学 2 選択	観光経営学 2 選択							
	演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	演習導入 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	20
	専門基幹科目			観光計画論 2 選択	旅の文化史 2 選択					12
				観光政策論 2 選択	観光資源論 2 選択					
				観光開発論 2 選択	観光事業論 2 選択					
	専門発展科目			観光調査法 2 選択		エコツーリズム論 2 選択	移動の社会学 2 選択	レジャー文化論 2 選択		22
					コミュニティツーリズム論 2 選択	アーバンツーリズム論 2 選択	観光資源解説方法論 2 選択			
					アジアの地域と観光 2 選択	地域データ分析 2 選択				
					プロジェクト型国内実習1a 2 選択	プロジェクト型国内実習1b 2 選択				
国際教養科目					世界地誌学a 2 選択	世界地誌学b 2 選択		4		
観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1 2 選択	英語コミュニケーション2 2 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション1 2 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション2 2 選択					12	
	メディア・イングリッシュ1 1 選択	メディア・イングリッシュ2 1 選択	メディア・イングリッシュ3 1 選択	メディア・イングリッシュ4 1 選択						
総単位数	21	23	25	19	12	12	6	6	124	

履修モデル 国際観光学科(観光事業群)

【資料2】

	1年		2年		3年		4年		単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	
一般教育科目	英語圏研究a 2 選択	英語圏研究b 2 選択	哲学a 2 選択 倫理学a 2 選択 経営学a 2 選択 経済学a 2 選択 自然科学史a 2 選択 人間科学a 2 選択	哲学b 2 選択 経営学b 2 選択 自然科学史b 2 選択 人間科学b 2 選択					34
人間・文化研究群									
歴史・社会研究群									
自然・環境研究群									
健康・スポーツ研究群									
情報とAI・データサイエンス研究群	情報処理入門 2 選択	情報処理応用 2 選択							
基礎教育科目群	スタディスキルズa 2 選択	スタディスキルズb 2 選択							
後期教養科目群									
キャリア教育科目群	基礎キャリアデザインa 2 選択	基礎キャリアデザインb 2 選択							4
学部導入科目	国際学への招待 2 選択								2
学科導入科目		大阪観光学 2 選択							2
学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修							4
専門基礎科目	観光歴史学 2 選択 観光経済学 2 選択	観光地理学 2 選択 観光経営学 2 選択							8
演習科目	大学入門ゼミa 2 選択	大学入門ゼミb 2 選択	演習導入 2 選択	基礎演習 2 必修	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	20
専門基幹科目			観光計画論 2 選択 観光マーケティング論 2 選択 観光開発論 2 選択	旅の文化史 2 選択 観光資源論 2 選択 観光事業論 2 選択					12
専門発展科目					旅行ビジネス論 2 選択 航空産業論 2 選択 宿泊産業論 2 選択 集客産業施設運営論 2 選択	観光交通論 2 選択 観光企業論 2 選択 ホスピタリティ産業論 2 選択 観光情報論 2 選択	レジャー文化論 2 選択 国際平和論 2 選択 グローバルガバナンス論 2 選択		22
国際教養科目					日本文化史a 2 選択	日本文化史b 2 選択			4
観光コミュニケーション科目	英語コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ1 1 選択	英語コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ2 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション1 2 選択 メディア・イングリッシュ3 1 選択	英語アドバンスド・コミュニケーション2 2 選択 メディア・イングリッシュ4 1 選択					12
総単位数	21	23	23	19	12	12	8	6	124

履修モデル 国際コミュニケーション学科(文化科目群)

	3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期			
	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群 人間・文化研究群 歴史・社会研究群 自然・環境研究群 健康・スポーツ研究群 情報とAI・データサイエンス研究群 基盤教育科目群 後期教養科目群	正解のない問いの答えを考える 2 選択	後期	教養哲学 2 選択					4	
キャリア教育科目群	応用キャリアデザイン 2 選択								2	
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択							2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修							2	
	演習科目	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修				8	
	学科語学科目	中国語コミュニケーション1 2 選択	中国語コミュニケーション2 2 選択							8
		韓国語コミュニケーション1 2 選択	韓国語コミュニケーション2 2 選択							
	文化科目群	英文学概論 2 選択	文学と宗教文化 2 選択	文化と言語化論 2 選択	多様性の文化論 2 選択					16
		文化交流史2 2 選択	都市文化論1 2 選択	日本風俗研究 2 選択	都市文化論2 2 選択					
	国際関係科目群	国際関係学 2 選択	国際協力論 2 選択							4
メディア科目群	グローバル・イシュー 2 選択	キャラクター論 2 選択							4	
心理学科目群			消費者の心理 2 選択	産業・組織心理学 2 選択					4	
総単位数	22	16	8	8					54	

履修モデル 国際コミュニケーション学科(国際関係科目群)

		3年		4年		単位数
		前期	後期	前期	後期	
		科目名 単位 種別(必修・選択の別)	後期 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	後期 単位 種別(必修・選択の別)	
一般教育科目	言語圏研究群					4
	人間・文化研究群					
	歴史・社会研究群					
	自然・環境研究群					
	健康・スポーツ研究群					
	情報とAI・データサイエンス研究群					
	基盤教育科目群					
	後期教養教育科目群	正解のない問いの答えを考える 2 選択	教養哲学 2 選択			
キャリア教育科目群	応用キャリアデザイン 2 選択				2	
学科科目	学部導入科目	国際学への招待 2 選択				2
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー 2 必修				2
	演習科目	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修	8
	学科語学科目	資格ビジネス英語3 1 選択	資格ビジネス英語4 1 選択	英語音声学概論 2 選択		6
		Writing in English1 1 選択	Writing in English2 1 選択			
	文化科目群	文化と言語化論 2 選択	文化交流史1 2 選択			4
	国際関係科目群	文化交流史2 2 選択	国際政治経済論 2 選択	民間協力(NGO/NPO)論 2 選択	比較政治学 2 選択	16
		国際平和論 2 選択	宗教と社会 2 選択	現代社会論 2 選択	国際協力論 2 選択	
メディア科目群	グローバル・イシュー 2 選択		広告文化論 2 選択	音楽産業論 2 選択	6	
心理学科目群		被服・化粧品心理学 2 選択	発達心理学 2 選択		4	
総単位数		20	14	12	8	54

履修モデル 国際コミュニケーション学科(メディア科目群)

	3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期			
	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群 人間・文化研究群 歴史・社会研究群 自然・環境研究群 健康・スポーツ研究群 情報とAI・データサイエンス研究群 基盤教育科目群 後期教養教育科目群	正解のない問いの答えを考える 2 選択	後期	教養哲学 2 選択					4	
キャリア教育科目群	応用キャリアデザイン	2 選択							2	
学科科目	学部導入科目	国際学への招待	2 選択						2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー	2 必修						2	
	演習科目	専門演習1a	2 必修	専門演習1b	2 必修	専門演習2a	2 必修	専門演習2b	2 必修	8
	学科語学科目	Kpopとドラマで学ぶ韓国語	1 選択	ネットビジネス中国語	1 選択					2
	文化科目群			文学と宗教文化	2 選択	文化と言語化論	2 選択			4
	国際関係科目群	文化交流史2	2 選択	比較政治学	2 選択					4
	メディア科目群	情報メディア入門 グローバル・イシュー 広告文化論	2 選択 2 選択 2 選択	マスコミュニケーション論 メディア・情報文化史 放送文化論	2 選択 2 選択 2 選択	音楽産業論	2 選択	キャラクター論 メディア表現論 メディア・情報文化史	2 選択 2 選択 2 選択	20
	心理学科目群	心理統計学2	2 選択	産業・組織心理学	2 選択	知覚・認知心理学	2 選択			6
総単位数		21		17		8		8	54	

履修モデル 国際コミュニケーション学科(心理学科目群)

	3年				4年				単位数	
	前期		後期		前期		後期			
	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)		
一般教育科目	言語圏研究群 人間・文化研究群 歴史・社会研究群 自然・環境研究群 健康・スポーツ研究群 情報とAI・データサイエンス研究群 基盤教育科目群 後期教養教育科目群								4	
キャリア教育科目群	応用キャリアデザイン	2 選択							2	
学科科目	学部導入科目	国際学への招待	2 選択						2	
	学科導入科目	グローバル・ディスカバリー	2 必修						2	
	演習科目	専門演習1a	2 必修	専門演習1b	2 必修	専門演習2a	2 必修	専門演習2b	2 必修	8
	学科語学科目	ホスピタリティ英語 1	2 選択	ホスピタリティ英語 2	2 選択					
	文化科目群	日本風俗研究	2 選択	都市文化論1	2 選択				4	
	国際関係科目群	現代社会論	2 選択						4	
	メディア科目群	広告文化論	2 選択	メディア表現論	2 選択				4	
	心理学科目群	知覚・認知心理学 対人コミュニケーション心理学 心理学研究法	2 選択 2 選択 2 選択	文化心理学 心理統計学1 産業・組織心理学	2 選択 2 選択 2 選択	心理統計学2 発達心理学 観光とホスピタリティの心理学	2 選択 2 選択 2 選択	福祉心理学 被服・化粧心理学	2 選択 2 選択	22
総単位数		24		16		8		6	54	

【資料3】

履修モデル 国際観光学科(観光文化群)

		3年				4年				単位数
		前期		後期		前期		後期		
		科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	
一般 教育 科目	言語圏研究群									
	人間・文化研究群									
	歴史・社会研究群									
	自然・環境研究群									
	健康・スポーツ研究群									
	情報とAI・データサイエンス研究群									
	基盤教育科目群 後期教養科目群									
キャリア教育科目群										
学 科 科 目	学部導入科目									
	学科導入科目									
	学科入門科目	国際観光学入門	2 必修	異文化理解入門	2 必修					4
	専門基礎科目									
	演習科目	専門演習1a	2 必修	専門演習1b	2 必修	専門演習2a	2 必修	専門演習2b 卒業研究(通年)	2 必修 4 必修	12
	専門基幹科目	観光人類学 観光政策論 観光開発論	2 選択 2 選択 2 選択	比較文化論 旅の文化史 観光資源論	2 選択 2 選択 2 選択					12
	専門発展科目	観光民俗学 レジャー文化論 世界遺産論 アジアの地域と観光	2 選択 2 選択 2 選択 2 選択	食文化論 文化財論 アメリカの地域と観光 多文化社会論	2 選択 2 選択 2 選択 2 選択	観光と芸術 観光と宗教 観光資源解説方法論	2 選択 2 選択 2 選択			22
	国際教養科目	日本文化史a	2 選択	日本文化史b	2 選択					4
観光コミュニケーション科目										
総単位数		20		20		8		6		54

【資料3】

履修モデル 国際観光学科(観光計画群)

		3年		4年		単位数
		前期	後期	前期	後期	
		科目名 単位 種別(必修・選択の別)	後期 単位 種別(必修・選択の別)	科目名 単位 種別(必修・選択の別)	後期 単位 種別(必修・選択の別)	
一般教育科目	言語圏研究群					
	人間・文化研究群					
	歴史・社会研究群					
	自然・環境研究群					
	健康・スポーツ研究群					
	情報とAI・データサイエンス研究群					
	基盤教育科目群 後期教養科目群					
キャリア教育科目群						
学科科目	学部導入科目					
	学科導入科目					
	学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修			4
	専門基礎科目					
	演習科目	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修	12
	専門基幹科目	観光計画論 2 選択 観光政策論 2 選択 観光開発論 2 選択	旅の文化史 2 選択 観光資源論 2 選択 観光事業論 2 選択			12
	専門発展科目	エコツーリズム論 2 選択 コミュニティツーリズム論 2 選択 アジアの地域と観光 2 選択 プロジェクト型国内実習1a 2 選択	移動の社会学 2 選択 アーバンツーリズム論 2 選択 地域データ分析 2 選択 プロジェクト型国内実習1b 2 選択	レジャー文化論 2 選択 観光資源解説方法論 2 選択		22
	国際教養科目	世界地誌学a 2 選択	世界地誌学b 2 選択			4
観光コミュニケーション科目						
総単位数		20	20	6	6	54

【資料3】

履修モデル 国際観光学科(観光事業群)

	3年				4年		単位数		
	前期		後期		前期			後期	
	科目名	単位 種別(必修・選択の別)	後期	単位 種別(必修・選択の別)	科目名	単位 種別(必修・選択の別)		後期	単位 種別(必修・選択の別)
一般教育科目	言語圏研究群 人間・文化研究群 歴史・社会研究群 自然・環境研究群 健康・スポーツ研究群 情報とAI・データサイエンス研究群 基盤教育科目群 後期教養科目群								
キャリア教育科目群									
学科科目	学部導入科目								
	学科導入科目								
	学科入門科目	国際観光学入門 2 必修	異文化理解入門 2 必修					4	
	専門基礎科目								
	演習科目	専門演習1a 2 必修	専門演習1b 2 必修	専門演習2a 2 必修	専門演習2b 2 必修 卒業研究(通年) 4 必修			12	
	専門基幹科目	観光計画論 2 選択 観光マーケティング論 2 選択 観光開発論 2 選択	旅の文化史 2 選択 観光資源論 2 選択 観光事業論 2 選択					12	
	専門発展科目	旅行ビジネス論 2 選択 航空産業論 2 選択 宿泊産業論 2 選択 集客産業施設運営論 2 選択	観光交通論 2 選択 観光企業論 2 選択 ホスピタリティ産業論 2 選択 観光情報論 2 選択	レジャー文化論 2 選択 国際平和論 2 選択 グローバルガバナンス論 2 選択				22	
	国際教養科目	日本文化史a 2 選択	日本文化史b 2 選択					4	
	観光コミュニケーション科目								
総単位数	20	20	8	6			54		

【資料4】

阪南大学就業規則

この就業規則は、学校法人阪南大学(以下「法人」という。)の設置する阪南大学(以下「本学」という。)に勤務する職員の就業に関する基本的事項を定めたものであって、法人と職員とが相互信頼の上になんて、この規則を遵守し、業務能率の向上を図り、もって本学教学の振興と社会的使命の達成を期するものとする。

第1章 総則

(適用範囲)

第1条 この規則及び付属する規程は、本学職員の就業に関する事項を定める。

(法令及び協約との関係)

第2条 この規則に定めない事項については、労働基準法その他の法令又は労働協約の定めるところによる。

(改廃手続)

第3条 この規則を改廃する場合は、法人から教職員組合に事前にこれを通告する。

(職員の定義)

第4条 この規則で職員とは、本学に職を有する常勤の教育職員及び事務職員をいう。

(管理職の定義)

第5条 管理職とは、次の者をいう。

教員系 学長、副学長、学部長、大学院研究科長、部長等(部長、館長及び所長)

事務系 事務局長、事務局次長、部長、室長、事務部長、次長、課長

(教育職員)

第6条 教育職員とは、教授、准教授、専任講師、助教及び助手をいう。

(事務職員)

第7条 事務職員とは、事務職員及び常勤嘱託をいう。

2 常勤嘱託とは、特定業務について高度な専門知識、技能及び豊富な経験を有する者で、その業務に関わる従事者を教育できる中核的人材として雇用される職員をいう。

第2章 人事

(任免異動)

第8条 職員の任免異動は、理事長がこれを行う。

(提出書類)

第9条 新たに採用された職員は、次の書類を提出しなければならない。ただし、採用前に提出した書類をもって、これに替えることができる。

- (1) 履歴書 1通
- (2) 業績目録(事務職員は除く。) 1通
- (3) 保証人連署の誓約書(本学所定のもの) 1通
- (4) 身上調書(本学所定のもの) 1通

- (5) 身分証明書(本籍地の市区町村役場で発行するもの) 1通
- (6) 健康診断書(国公立病院又は保健所で発行するもの) 1通
- (7) 前歴証明書 1通
- (8) その他必要と認めた書類

2 前項各号の記載事項に異動があったときは、その都度 15 日以内に届け出なければならぬ。

(異動その他)

第 10 条 業務の都合により必要があるときは、異動、長期出張、自宅研修又は職務の変更を命ずることがある。

2 職員は、前項の規定による命令を正当な理由がなければ拒むことはできない。

(休職)

第 11 条 次の各号の一に該当するときは、休職を命ずる。

- (1) 業務外の疾病のため、長期にわたり欠勤し、なお療養を要するとき。
- (2) 公選による議会の議員その他公職に立候補したとき。
- (3) 刑事事件に関連して起訴されたとき。
- (4) その他特別の事情により、休職とすることが適当と認めたとき。

(休職期間)

第 12 条 前条の規定による休職の期間は、次のとおりとする。

(1) 前条第 1 号については、結核性疾患の場合は 3 年、それ以外の傷病は勤続 1 年以上の者に対し、その在職期間に応じ 5 年以内とする。

在職 1 年以上 5 年未満は 1 年以内

在職 5 年以上 10 年未満は 2 年以内

在職 10 年以上 15 年未満は 3 年以内

在職 15 年以上 20 年未満は 4 年以内

在職 20 年以上は 5 年以内

ただし、理事長が特に認めた場合は、上記期間を超えて休職することができる。

- (2) 前条第 2 号については、当該選挙期間中
- (3) 前条第 3 号については、判決の確定するまでの期間
- (4) 前条第 4 号については、その必要期間

2 復職後、再度休職した場合の休職期間は前の休職期間と通算するものとする。3 回目以降の休職についても同様とする。

3 前項の期間中の在職年数の通算は、次のとおりとする。

	在職年数
前条第 1 号	80%

前条第2号から第4号まで	その都度法人において定める
--------------	---------------

4 第1項の期間の給与は、阪南大学給与規則第29条による。

(復職)

第13条 第11条によって休職し、その休職事由が消滅したと認めるときは、復職させる。

ただし、同条第3号に該当し、有罪の判決を受けたときは、この限りではない。

2 休職中の職員が復職を希望する場合は、所定の様式により願出するものとする。

(退職)

第14条 職員は、次の各号の一に該当するときは、退職とする。

- (1) 死亡したとき。
- (2) 定年に達したとき。
- (3) 雇用期間に定めがあって、その期間が満了したとき。
- (4) 休職期間を経過しても、なお休職理由が消滅しないとき。
- (5) 第12条第1項第2号の休職期間が満了し、公職に就任したとき。
- (6) 退職を願出で承認されたとき。

(退職の願出)

第15条 職員が退職しようとする場合は、1か月前までに退職願を提出するものとする。

(解雇)

第16条 職員が次の各号の一に該当するときは、少なくとも30日前に予告するか、又は30日分の平均賃金を支給して解雇することがある。

- (1) 精神又は身体に故障があって、業務に堪えることができないと認められたとき。
- (2) 承認を得ずして他の業務に従事し、廃止の勧告に応じないとき。
- (3) 第50条及び第51条の規定により懲戒解雇を必要とするとき。
- (4) 刑事事件に関連して有罪の判決を受けたとき。
- (5) 前各号に準じる事由その他やむを得ない業務の都合のとき。

2 前項の予告日数は、平均賃金を支払った日数分、短縮することができる。

(定年)

第17条 教育職員は満67歳に達した年度の末日、事務職員は満63歳に達した年度の末日をそれぞれ定年とし、退職するものとする。ただし、事務職員については、本人が希望すれば、満65歳に達する年度の末日まで嘱託職員として再雇用する。なお、再雇用の労働条件については、本人と協議の上、雇用契約書を締結する。

第3章 服務規律

(専念義務)

第18条 職員は、服務に関し、この規則の定めるところに従い、職責の遂行に専念し、法人の教育事業の発展に努力しなければならない。

(服務規律)

第19条 職員としての身分を自覚し、次の各号を守らなければならない。

- (1) 職員は、本学の名誉を重んじ、互いに人格を尊重し、礼節を尚び、和をもって品性の向上に努めなければならない。
- (2) 職員は、職務上の機密又は職務上知り得た秘密を他に洩らしてはならない。
- (3) 職員は、管理職その他上司の職務上の指示に従い、大学の秩序を保たなければならない。
- (4) 職員は、職務上の義務に違反し、職務を怠ってはならない。
- (5) 職員は、職務の内外を問わず、本学の信用を傷つけるような行為をしてはならない。
- (6) 職員は、勤務時間中、承認を得ないで、担当業務以外のことをしてはならない。
- (7) 職員は、本学の財産又は物品を校務以外のために利用することなく、その愛護節約に努めなければならない。
- (8) 職員は、不正不当の金員を集め、又は受理してはならない。
- (9) 職員は、職場においてセクシュアル・ハラスメント等の行為をしてはならない。

(兼業の制限)

第20条 職員は、他の業務に従事し、又は報酬を得て他の業務に服するときは、承認を受けなければならない。

第4章 勤務

(欠勤)

第21条 職員は、傷病その他やむを得ない事情によって欠勤しようとするときは、あらかじめ所定の様式によって届け出なければならない。ただし、やむを得ずあらかじめ届け出ることができない場合は、電話、電報その他の方法により速やかにその旨連絡し、事後直ちに所定の手続きを行うものとする。

2 傷病のため、1週間以上欠勤するときは、治療に必要な期間を記載した医師の診断書を提出しなければならない。

(遅刻、早退又は私用外出)

第22条 やむを得ない理由によって遅刻、早退又は私用外出しようとする場合は、あらかじめ所定の様式により届け出なければならない。ただし、あらかじめ届け出ることができないときは、事後に遅滞なく届け出るものとする。

(休暇の請求)

第23条 第36条に定める特別休暇を受けようとするときは、あらかじめ所定の様式により届け出なければならない。

2 やむを得ない理由により前項の手続きを行うことができない場合は、事後直ちに同項の手続きを行うものとする。

3 前2項の手続きを怠った場合は、その当日の休暇を認めないことがある。

(欠勤等による業務手続)

第24条 職員が欠勤、早退、私用外出等をしようとする場合には、自己の不在により業務に支障をきたさないように申し送り、その他必要な措置を講ずるものとする。

(勤務時間)

第 25 条 職員の正規の勤務時間は、原則として次のとおりとする。

午前 9 時から午後 5 時までとし、土曜日は午後 0 時 30 分までとする。

2 土曜日以外の勤務時間の途中に 60 分の休憩時間を置く。

(拘束時間)

第 26 条 教育職員の拘束時間は、次のとおりとする。

- (1) 講義又は授業を担当する時間
- (2) 学生を指導する時間
- (3) 職務上出席を要する教授会、委員会等に出席する時間
- (4) 参加を要する法人又は本学の行事に出席する時間
- (5) 職務上分掌する学務に従事する時間
- (6) 学長から指示された職務に従事する時間

(授業担当時間)

第 27 条 教育職員の授業担当時間は、別表によるものとする。ただし、非常勤の者は除く。

(出張)

第 28 条 業務の都合により必要ある場合は、出張を命ずることがある。

2 出張中は通常の勤務時間に勤務したものとみなす。

3 出張旅費及び出張手続については、別に定める阪南大学旅費規則及び阪南大学海外出張旅費規則による。

(休日)

第 29 条 休日は、次のとおりとする。ただし、式典、行事等の都合により休日を他に振り替えることがある。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日(日曜日に当たるときは、その翌日を休日とする。)
- (3) 創立記念日(5 月 26 日)
- (4) その他必要と認めた日

(時間外勤務)

第 30 条 業務の都合により必要ある場合は、時間外勤務を命ずることがある。ただし、超過勤務手当は、所定の勤務時間外の労働時間に対し、労働基準法第 37 条の規定による割増賃金を支払う。ただし、早出又は遅出の調整の場合は、この限りではない。

(非常時の勤務)

第 31 条 災害その他本学に緊急事態が生じた場合は、時間外又は休日若しくは休暇中であっても、速やかに出勤し、指示に従い非常勤務につくものとする。

(諸届)

第 32 条 職員は、次の各号の一に該当する場合は、速やかに届け出なければならない。

- (1) 欠勤、遅刻、早退又は私用外出の場合
- (2) 年次有給休暇又は特別休暇の請求の場合

- (3) 本籍地又は現住所に変更のあった場合
- (4) 本人若しくは家族の氏名又は続柄に変更のあった場合
- (5) 免許又は資格等に得喪又は変更のあった場合
- (6) その他特に必要のあった場合

(出退勤)

第 33 条 職員は、始業の定刻までに出勤し、終業時まで勤務しなければならない。

2 教育職員は、出勤した場合直ちに所定の出勤簿に捺印するものとし、事務職員は、所定の方法により、出退勤を明示するものとする。これに違反した場合は、出勤として取り扱わないことがある。

(年次有給休暇)

第 34 条 職員は、4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの期間を休暇年度とし、前年度の所定勤務日数のうち 8 割以上を勤務した場合、当該年度内に 20 日以内の年次有給休暇を請求することができる。なお、前年度の勤務日数が所定の 8 割に満たない場合は、その勤務日数に応じ、有給休暇を請求できるものとする。

2 年次有給休暇は、各所属に応じて、その業務に支障のないように受けるものとする。

3 年次有給休暇を使用しようとする職員は、あらかじめ所定の方法により、3 日以前に届け出て承認を受けるものとする。

4 本学の運営上支障のあるときは、年次有給休暇を他の時期に振り替えさせることがある。

5 年次有給休暇の日数のうち 5 日分については、職員の希望を踏まえ法人が時季を指定することにより取得させるものとする。ただし、第 3 項により本人が取得した日数については 5 日分より除く。

6 年次有給休暇の残余日数は、20 日を限度として翌年度に繰り越すことができる。

(病気療養休暇)

第 35 条 前条第 5 項において、翌年度に持ち越せなかった残余の有給休暇は、過去 5 か年度分に限り、これを病気療養休暇(有給)として取得できる。

2 病気療養休暇は、当年度の年次有給休暇取得後、取得するものとする。

(特別休暇)

第 36 条 職員に対して請求により次の特別休暇を与える。

(1) 結婚休暇 以下に定める日数の範囲内において、職員の請求する日数(継続した日数をいう。)

本人の場合 6 日

子女の場合 3 日

兄弟姉妹孫の場合 1 日

(2) 出産休暇 産前産後各 8 週間(多胎妊娠の場合、産前 14 週間、産後 8 週間)

(3) 生理休暇 2 日以内

(4) 育児時間 勤務時間中 1日について 2回、1回 30分(満1年に達しない乳幼児を持つ女子職員)

(5) 忌引 次の表に定める日数の範囲内において、職員の請求する日数(継続した日数をいう。)

忌引日数表

	死亡した者	日数
	配偶者	10日
血族	1 親等の直系尊属(父母)	7日
	〃 卑属(子)	5日
	2 親等の直系尊属(祖父母)	3日
	〃 卑属(孫)	1日
	2 親等の傍系者(兄弟姉妹)	3日
	3 親等の傍系尊属(伯叔父母)	1日
姻族	1 親等の直系尊属	3日
	〃 卑属(継子)	1日
	2 親等の直系尊属	1日
	〃 傍系者	1日
	3 親等の傍系尊属	1日

(注)

- 1 職員と生計を同じくしている配偶者の父母、子、祖父母又は兄弟姉妹の場合は、これに相当する血族が死亡した場合と同じ日数とする。
- 2 父母が既に死亡しているため、職員が父母に代って祖父母の葬祭を行う場合は、父母の葬祭を行う場合と同じ日数とする。
- 3 葬祭のために遠隔の地に赴く必要があるときは、実際に必要とした往復日数を加算した日数とする。

(6) 本人の父母、配偶者、子女、祖父母、配偶者の父母並びに兄弟姉妹の法要を営むときは当日

(7) 年末年始 5日間(12月29日から同月31日まで並びに翌年1月2日及び同月3日)

(8) 選挙権その他公民としての権利を行使し、又は公の義務を履行するときはその期間

(9) 天災その他自己の責に帰することのできない事故によって就業できない時はその期間

(10) 証人、鑑定人、参考人等として、国会、裁判所、地方公共団体等の議会その他の官公署へ出頭する場合は、その都度必要と認める期間

(11) 伝染病予防法適用区域に居住する者の隔離期間

(12) 前各号に掲げるもののほか、必要と認める場合はその期間

2 職員が前項各号の特別休暇を受けようとするときは、前日までに届け出なければならない。ただし、やむを得ない場合は、事後速やかに届け出なければならない。

(育児休業等)

第37条 育児休業等は、別に定める育児休業等に関する規程による。

(介護休業等)

第38条 介護休業等は、別に定める介護休業等に関する規程による。

第5章 給与

(給与)

第39条 職員の基本給、一時金、諸手当、昇給及び給与の支給日等については、別に定める阪南大学給与規則による。

第6章 慶弔見舞金、退職金

(慶弔金)

第40条 慶弔見舞金については、別に定める阪南大学慶弔見舞金規則による。

(退職金)

第41条 退職金については、別に定める阪南大学退職金規則による。

第7章 安全及び衛生

(遵守義務)

第42条 職員は、安全衛生関係の規則、心得を守るほか、安全衛生管理者、火元責任者、所属長等の指示又はその行う措置に従い、安全及び衛生に努め、その向上に努力するものとする。

(非常災害の措置)

第43条 職員は、災害その他危害を発見し、又は予見した場合は、臨機防止の措置を講ずるとともに、直ちに関係者に報告し、被害を最少限度に止めるよう努めるものとする。

(就業禁止)

第44条 職員が次の各号の一に該当すると認められたときは、業務につくことができない。

(1) 精神に障害のある者

(2) 開放性結核患者

(3) 法定伝染病患者及び疑似者並びに保菌者

(4) その他の疾病にかかっている者で、勤務のため病勢が著しく悪化する恐れのある者

2 健康診断の結果必要ある場合は、就業制限又は職務の変更等健康保持に関する措置を講ずることがある。

(伝染病届出)

第 45 条 職員は、同居又は近隣の者が伝染病にかかり、又はその疑いがある場合は、直ちに届け出るものとする。

2 前項の届出があったときは、所轄保健所の認定により出勤を停止することがある。
(健康診断)

第 46 条 職員に対し、毎年 1 回以上定期的に又は必要に応じて健康診断を行う。
(衛生に関する遵守事項)

第 47 条 職員は、定められた衛生に関する事項を守り、職場の衛生に努めるものとする。
(災害補償)

第 48 条 職員の業務上の災害補償については、労働基準法第 8 章の定めるところによる。

第 8 章 表彰及び懲戒
(表彰)

第 49 条 職員が次の各号の一に該当するときは、常任理事会に諮り理事長が表彰する。

- (1) 本学の発展に特に功績のあった者
- (2) 職務に精励して職員の模範と認められる者
- (3) 災害を未然に防止し、又は非常災害に際して特に功績のあった者
- (4) 教育、研究上特に功績のあった者
- (5) その他特に表彰の価値ありと認められた者

(懲戒)

第 50 条 理事長は、職員が第 3 章に規定する服務規則に関し、非違があると認めるときは、別に定める懲戒委員会に諮り、懲戒処分をすることができる。

(懲戒の種類)

第 51 条 懲戒の種類は、戒告、減給、停職、降格・降任及び懲戒解雇とする。

- (1) 戒告は、文書をもって将来を戒める。
- (2) 減給は、給与を減額する。
- (3) 停職は、職員としての身分を保有するが、その職務に従事させない。停職中の給与は、支給しない。
- (4) 降格・降任は、教育職員においては職位の引き下げ、役職位の解職を行い、事務職員においては職能資格の引き下げ、役職位の解職若しくは引き下げを行う。
- (5) 懲戒解雇は、予告期間を設けずに即時解雇し、退職金は支給しない。行政官庁(労働基準監督署長)の認定を得た場合は、予告手当をも支給しない。

2 前項第 1 号から第 4 号の懲戒処分者に対しては、始末書の提出を命じる。
(賠償義務)

第 52 条 職員が故意又は重大な過失により、本学に損害を与えた場合は、懲戒処分にかかわらず、損害賠償又は不当利得の返還を行わせることがある。

(助教(任期付)に係る規程の適用)

第 53 条 阪南大学任期付教員任用規程に基づく任期付教員のうち、助教(任期付)については、第 11 条(休職)、第 12 条(休職期間)、第 13 条(復職)、第 14 条(退職)第 2

号、第4号及び第5号、第17条（定年）、第34条（年次有給休暇）第5項、第35条（病気療養休暇）の規定は適用しない。

（助教（任期付）の採用又は契約更新時の年齢制限）

第54条 助教(任期付)は、雇用期間の開始の日において満67歳未満でなければ、採用又は契約更新をすることができない。

第9章 その他

（その他）

第55条 この規則に定めるもののほか、職員の就業に関し必要な事項は、別に定める。

（規則の改廃）

第56条 この規則の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則(令和4年5月25日)

この規則は、令和4年5月25日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

別表

専任教員の授業担当時間は、次のとおりとする。ただし、1コマは2時間(90分)とし、1週当たりの持コマとする。

(1) 責任持コマ数は、担当科目に関係なく一律4コマとする。ただし、役職教員の場合3コマとする。

(2) 義務コマ数は、次表のとおりとする。

職名\教科目	語学・ 体育	講義・演習(一 般・専門共)
教授	6コマ	5コマ
准教授・専任講師	5コマ	4コマ
助教	4コマ	4コマ

ただし、表中教授の講義・演習(一般・専門共)の5コマが4コマになる場合も許容する。

(3) 持コマ数の上限は、担当科目に関係なく次のとおりとする。

教授 8コマ

准教授・専任講師 7コマ

助教 6コマ

阪南大学任期付教員任用規程

(目的)

第1条 この規程は、大学の教員等の任期に関する法律（平成9年6月13日法律第82号）（以下「任期法」という。）第5条第2項、第4条第1項第1号及び第2号の規定に基づき、阪南大学（以下「本学」という。）において任期を定めて任用する教員（以下「任期付教員」という。）の任用について定める。

(職種及び組織)

第2条 任期付教員の対象となる職種、組織については、別表のとおりとする。

(任期及び再任の可否)

第3条 任期付教員の任期、再任の可否については、別表のとおりとする。

(勤務条件等)

第4条 任期付教員の給与及び勤務条件は、雇用契約書に明記する。

2 この規程及び雇用契約書に明記していない事項については、助教（任期付）は阪南大学就業規則、非常勤講師は阪南大学非常勤講師就業規則による。

3 任期付教員として雇用するに当たっては、書面により、当該雇用される者の同意を得なければならない。

(規程の公表)

第5条 この規程は、本学Webサイトを通じて公表するものとする。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、常任理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 令和2年3月31日までに非常勤講師として雇用した者については、この規程を適用しない。

別表

職種	組織	任期	再任の可否
助教（任期付）	各学部	1年以内	可（再任4回まで）
非常勤講師	各学部（研究科も含む。）	1年以内	可

Table with columns for 曜日/時間 (Day/Time), 区分 (Division), 前期前半 (First Semester Front), 前期後半 (First Semester Back), 後期前半 (Second Semester Front), 後期後半 (Second Semester Back), and 区分 (Division). It lists various subjects like 英語, 日本語, 経済学, 心理学, etc., with their respective codes and credits.

Table with columns for 曜日/時間, 区分, 前期, 前期名, クラス, 単位数, 区分, 前期, 前期名, クラス, 単位数, 区分, 前期, 前期名, クラス, 単位数. It lists course details for three semesters (1, 2, 3) across various disciplines like general education, international tourism, and business.

